

令和 6 年度

植物防疫事業年報

令和 7 年 (2025 年) 3 月

滋賀県病虫害防除所

目次

第1	病害虫防除所事務分掌表	1
第2	病害虫発生予察事業	
1	事業の目的	3
2	事業の実施概要	3
3	気象概況	6
4	普通作物病害虫発生予察事業	
(1)	イネ	7
(2)	ムギ	3 3
(3)	ばれいしょ	3 6
(4)	ダイズ	3 7
5	野菜（露地）病害虫発生予察事業	4 0
6	果樹等作物病害虫発生予察事業	
(1)	果樹	5 5
(2)	チャ	6 1
(3)	花き（キク）	7 4
7	病害虫防除推進員の設置	7 5
8	滋賀県病害虫防除所ホームページ	8 4
9	本年度新たに発生が確認された病害虫	8 5
10	病害虫の診断および生態調査	8 7
11	発生の目立った病害虫	9 0
第3	侵入調査事業	1 0 2
第4	農薬安全使用等総合推進事業	1 0 3
第5	病害虫発生予察情報発表内容	
1	予報	1 0 4
2	注意報および警報	1 1 4
3	特殊報	1 2 3
4	防除情報	1 2 9
5	事務連絡	1 3 5
6	その他情報・発表・広報・研修会等	1 3 6
第6	試験成績	
1	効率的な防除の推進	1 3 8
2	気候変動に伴う病害虫の防除技術の開発	1 4 7
3	発生予察データの分析	1 5 3

注：本文中の「平年値」とは、特に記載のない限り平成26年から令和5年の平均値を指す。
表中の「－」は、データの欠測または該当なしを示す。

第 1 病害虫防除所事務分掌表

(令和 6 年 4 月 1 日)

所 次 長 蓮 川 博 之
金 子 誠

分 掌 事 務	主 任	副 主 任
1. CO ₂ ネットゼロに向けた事務事業の推進に関する事	全職員	
1. 所事務の総括に関する事 2. 関係機関および団体との連絡調整に関する事 ----- 3. 植物防疫事業に関する事 4. 予察情報作成会議に関する事	金 子 次 長	近 藤 副主幹
		角 主 査
1. 公印の管理に関する事 2. その他庶務に関する事	片 桐 副主幹 伊 藤 主 事	村 田 主任主事 片 桐 副主幹
1. 予算の執行および決算に関する事 2. 文書の收受編さんに関する事 3. 諸給与・その他経理に関する事	伊 藤 主 事 村 田 主任主事	野 田 副主幹 伊 藤 主 事
1. 病害虫防除推進員に関する事 2. 薬剤抵抗性害虫検定および虫害の診断に関する事 3. 総合的病害虫管理 (IPM) の推進に関する事	近 藤 副主幹	角 主 査 北 野 主任技師 山 口 技 師
1. 農薬取締法に関する事 2. 作物の発生予察に関する事	角 主 査	近 藤 副主幹 松 本 主任技師
1. 病害虫発生予察の計画および情報作成に関する事 (病害) 2. ホームページ等による情報提供に関する事	小 幡 主任技師	金 子 次 長 近 藤 副主幹
1. 病害の診断に関する事 2. 薬剤耐性菌検定に関する事 3. いもち病発生予察システムに関する事	松 本 主任技師	角 主 査 小 幡 主任技師
1. 病害虫発生予察の計画および情報作成に関する事 (虫害) 2. 気候変動に伴う病害虫の発生予察・防除対策の開発に 関する事	北 野 主任技師	金 子 次 長 近 藤 副主幹
1. 病害虫発生量の調査報告に関する事 2. 侵入調査、予察灯およびトラップ調査等に関する事	山 口 技 師	小 幡 主任技師 北 野 主任技師
1. 果樹の発生予察事業および防除、侵入調査に関する 事	橋 本 副主幹	北 野 主任技師
1. 茶の発生予察事業および防除、侵入調査に関する事	樋 口 技 師	近 藤 副主幹
1. 県南部地域における発生予察事業に関する事	北 野 主任技師	山 口 技 師
1. 大津・南部地域の病害虫発生情報収集および防除指導 に関する事 ----- 2. 甲賀地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関 する事	北 川 技 師 池 原 技 師	北 野 主任技師 山 口 技 師
1. 県中部地域における発生予察事業に関する事	角 主 査	近 藤 副主幹

1. 東近江地域の病害虫発生情報収集および防除指導に すること	大 角 技 師	角 主 査
2. 湖東地域の病害虫発生情報収集および防除指導に すること	宇 野 副主幹	近 藤 副主幹
1. 県北部地域における発生予察事業に すること	小 幡 主任技師	松 本 主任技師
1. 湖北地域の病害虫発生情報収集および防除指導に すること	近 藤 主 査	小 幡 主任技師
2 高島地域の病害虫発生情報収集および防除指導に すること	中 川 主任技師	松 本 主任技師

第2 病虫害発生予察事業

1 事業の目的

農作物の生産安定と品質の向上を図ると同時に環境に優しい病虫害防除を推進するためには、病虫害の防除を適時かつ効率的に行う必要がある。

このため、発生予察事業は広域に発生し、急激にまん延して農作物に重大な被害を与える病虫害について、その発生動向等を調査し、防除を要する病虫害や防除対策に関する情報を農業者等に提供することにより、病虫害の防除を効果的かつ効率的に適期に行い、その被害を防止して農業生産の安定と助長を図ることを目的とする。

2 事業の実施概要

(1) 事業対象作物および病虫害（指定有害動植物は交付金の対象）

耕種	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
普通作物	イネ	指定	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、もみ枯細菌病（苗腐敗病）、ばか苗病、縞葉枯病、白葉枯病、ごま葉枯病	イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイガ、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ）、コブノメイガ、フタオビコヤガ
		指定外	黄萎病	イチモンジセセリ、コバネイナゴ、イネクロカメムシ
	ムギ	指定	うどんこ病、赤かび病、さび病類	－
		指定外	黒節病、縞萎縮病	－
	ダイズ	指定	－	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、吸蜜性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ）、フタスジヒメハムシ、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※
		指定外	べと病、葉焼病	ハダニ類
野菜	トマト	指定	灰色かび病、疫病、葉かび病、うどんこ病、黄化葉巻病、すすかび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガ※
		指定外	－	タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ナス	指定	うどんこ病、灰色かび病、すすかび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ）、オオタバコガ※
		指定外	－	ニジュウヤホシテントウ類、タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ばれいしょ	指定	疫病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、ハスモンヨトウ※
		指定外	－	ニジュウヤホシテントウ類
	キュウリ	指定	うどんこ病、灰色かび病、べと病、褐斑病、炭疽病、斑点細菌病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、ハダニ類
		指定外	－	－

耕種	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
野菜	キャベツ	指定	黒腐病、菌核病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ）、モンシロチョウ、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、カブラヤガ（ネキリムシ類）、ハイマダラノメイガ
	はくさい	指定	－	－
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、モンシロチョウ
	だいこん	指定	－	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）
		指定外	－	ハイマダラノメイガ
	ブロッコリー	指定	－	ハスモンヨトウ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	黒腐病	－
	ねぎ	指定	さび病、黒斑病、べと病	アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ネギコガ、ネギハモグリバエ、ハスモンヨトウ※、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、シロイチモジヨトウ※
		指定外	－	－
	たまねぎ	指定	べと病、白色疫病	アザミウマ類（ネギアザミウマ）
		指定外	－	－
花き	キク	指定	白さび病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ）、ハダニ類
		指定外	－	－
果樹	ナシ	指定	黒星病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アブラムシ類（ナシアブラムシ、ナシミドリアブラムシ）
		指定外	－	－
	ブドウ	指定	べと病、灰色かび病、晩腐病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）
		指定外	－	－
	カキ	指定	炭疽病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、カキノヘタムシガ、アザミウマ類（カキクダアザミウマ、チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）
		指定外	－	－
茶樹	チャ	指定	炭疽病	ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ）、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（クワシロカイガラムシ）、チャトゲコナジラミ
		指定外	もち病、新梢枯死症、輪斑病	カメムシ類（ツマグロアオカスミカメ）

※ 作物共通の指定有害動植物については、本県での対象作物ごとに示した。

(2) 調査ほ場の設置状況

耕種	対象作物	調査地点数		設置場所
		区分	地点数	
普通作物	イネ	定点	1	近江八幡市
		巡回	35	大津市（2）、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市（3）、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市（6）、彦根市、愛荘町、甲良町、多賀町、米原市（3）、長浜市（5）、高島市（4）
	ムギ	定点	1	近江八幡市
		巡回	38	大津市、草津市、守山市（2）、栗東市、野洲市（2）、湖南市、甲賀市（2）、近江八幡市（5）、日野町、竜王町（2）、東近江市（6）、彦根市（2）、愛荘町、甲良町、多賀町、米原市（3）、長浜市（4）、高島市（2）
	ダイズ	定点	1	近江八幡市
		巡回	22	大津市、草津市、守山市（2）、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市（2）、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、米原市、長浜市（3）、高島市
	野菜類	定点	0	-
		巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
	花き	定点	0	-
		巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
	ナシ	定点	1	栗東市
		巡回	2	東近江市、彦根市
果樹	ブドウ	定点	1	栗東市
		巡回	2	東近江市、長浜市
	カキ	定点	1	栗東市
		巡回	2	東近江市、米原市
茶樹	チャ	定点	1	甲賀市水口町
		巡回	7	甲賀市土山町（3）、信楽町（3）、日野町

(3) 予察灯およびフェロモントラップの設置

設置場所	種類	対象害虫名
大津市 里	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
守山市 矢島町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
栗東市 荒張	乾式日別予察灯 （高圧水銀灯）	果樹カメムシ類、ガ類
	フェロモントラップ	果樹カメムシ類、ナシヒメシンクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ
甲賀市 水口町 水口	予察灯（水盤）	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
	フェロモントラップ	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
近江八幡市 安土町大中	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	スマート害虫モニタ リングシステム	カメムシ類
	フェロモントラップ	ニカメイガ、コナガ、カブラヤガ、タバコガ、オオタバコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	黄色水盤	アブラムシ類
長浜市 難波町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ
高島市 今津町日置前	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ

3 気象概況

(1) 年間の概況〔彦根アメダス観測値〕

- ・平均気温：16.6℃（平年値15.0℃※、R5年16.3℃）
 - ・降水量：平年比116％
 - ・日照時間：平年比107％
 - ・年平均気温は全般に平年よりかなり高く、特に9月は記録的な暑さとなった。また、降水量は全般に平年並または多かったが、日照時間は平年より多いまたはかなり多かった。
- ※平年値は1991年～2020年の平均

(2) 稲作期間(4月～10月)の概況〔彦根アメダス観測値〕 (図)

- ・平均気温：23.0℃（平年値21.0℃※、R5年22.2℃）
- ・降水量：平年比99％
- ・日照時間：平年比109％
- ・水稻の生育に影響を及ぼした特筆すべき気象としては、4～9月までの各月の平均気温が平年より1.0～4.1℃高く、特に期間後半の7～9月は平年よりかなり高かったことが挙げられる。また、7月の降水量が平年より129.1mm多かったことも挙げられる。
- ・梅雨入り：6月17日ごろ（平年値6月6日）、梅雨明け：7月18日ごろ（平年値7月19日）

※平年値は1991年～2020年の平均

2024年気象表(彦根アメダス)

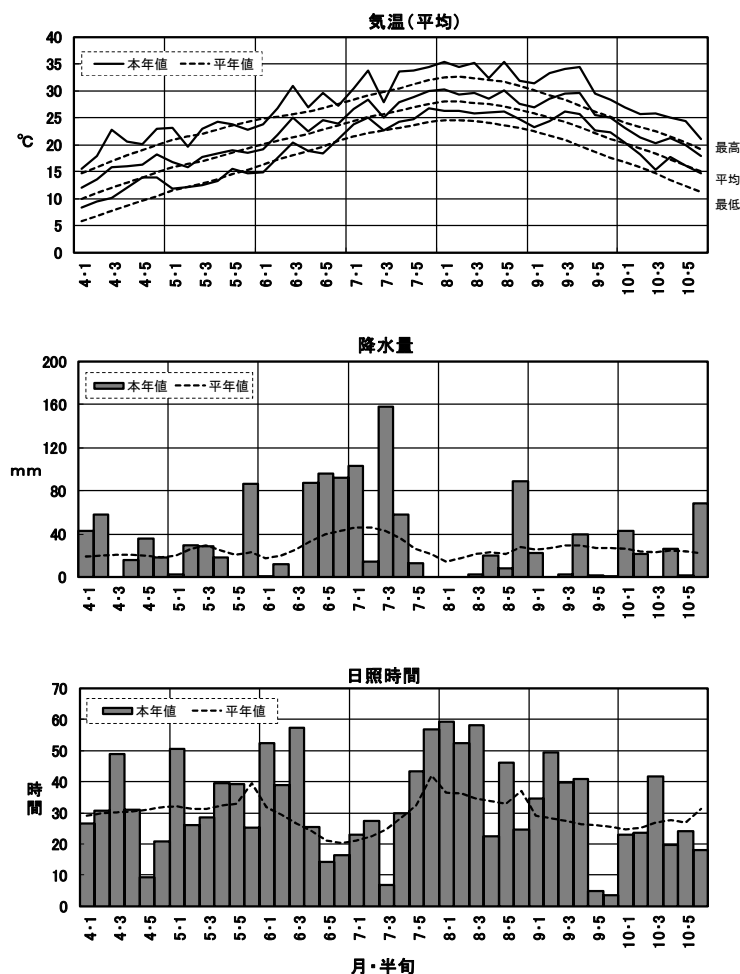


図 2024年4～10月における彦根市の気温、降水量および日照時間

4 普通作物病虫害発生予察事業

イネ、ムギおよびダイズを対象として、主要病虫害を重点的に調査した。その結果に基づき病虫害発生予察情報として、発生予報9回、注意報4回（イネ縞葉枯病、麦類赤かび病、タバコガ類、斑点米カメムシ類）、防除情報4回（麦類赤かび病、タバコガ類、海外飛来性昆虫、イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ））を発表した。

（1）イネ

ア 概況

（ア）生育の概要

- ・ 植え傷みは少なかったものの、5月中旬～6月上旬が低温で推移したため、生育は一時抑制傾向となり、移植の遅いほ場を中心に分けつが抑制された。
- ・ 6月17日の梅雨入り後は、平年と比べて降雨が多く日照時間が少なく、気温は平年並～高い状態が続き、7月以降は最高気温が35℃を超える日もあった。草丈は平年並～やや高く、茎数は平年並～やや少ない傾向で推移した。
- ・ 7月18日の梅雨明け以降は、高温多照傾向で推移し、9月の気温はかなり高かった。そのため幼穂形成期は平年並～やや早く、出穂期、成熟期はやや早くなった。
- ・ 平年と比べていもち病の発生はやや少なかったが、縞葉枯病はやや多く、ごま葉枯病が多くみられた。また、斑点米カメムシ類の発生量も多かった。

（イ）収量および品質

- ・ 滋賀県の作況指数は、100の「平年並」（9月25日現在）であるが、生産者やほ場によるばらつきが大きい。
- ・ 聞き取りによる令和6年産米の単収は、早生品種の「みずかがみ」や「コシヒカリ」では平年並～やや少、「キヌヒカリ」ではやや少であり、中生品種の「日本晴」や「秋の詩」ではやや少であった。
- ・ 玄米外観品質は、例年に比べて白未熟粒やカメムシによる斑点米、胴割粒が多く発生し、1等比率は低かった（県内の1等比率：うるち玄米平均61.1%、みずかがみ82.3%、コシヒカリ56.6%、キヌヒカリ40.4%、日本晴44.6%、きらみずき90.3%、秋の詩59.2%（農林水産省、令和6年9月30日現在））。
- ・ 穂数が平年より少なく、籾数が十分に確保できなかったほ場で収量が減少した。
- ・ 6月中旬～9月の高温の影響によって稲体の窒素代謝が増加したことや、地力や施肥窒素の溶出が早まったことによる登熟後期の栄養凋落により登熟不良となり、白未熟粒が多く発生し玄米品質が低下するとともに減収した。
- ・ 7月から8月にかけて、受粉障害の発生が多くなるとされる35℃を超える日が続いたことでほ場によっては不稔粒が増加し、収量減少の要因となったと考えられる。
- ・ イネカメムシが全県的に発生した。発生量が多く、出穂期の吸汁害による不稔粒が発生したほ場では減収の要因となったと考えられる。
- ・ 一部ほ場では、縞葉枯病やごま葉枯病が多発したほ場が見られ、減収を助長したと考えられる。

イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
葉いもち	並	並	ほ場での初発確認は6月24日で、発生時期は平年並であった。7月上旬までの発生量はやや少なかったが、7月中旬ごろの発生量は平年並となった。	6月下旬～7月上旬にかけて、BLASTAMによる感染好適条件が多く出現していたことから、発生量が増加した。	移植時の育苗箱施薬が普及している。葉いもち多発ほ場では防除が実施された。
穂いもち	並	やや少	ほ場での初発確認は7月29日で、発生時期は平年並であった。発生ほ場率はやや少なかった。	県内の主要な早生品種の出穂期前後である7月下旬～8月上旬の降水量が少なく、気温は高く推移したため、穂いもちの発生は抑制された。一方で、伝染源である葉いもちの多発生ほ場や出穂期に降水量が多かった一部のほ場では、中発生ほ場も見られた。	出穂期前後に、地域一斉防除や無人ヘリなどによる防除の実施。ドリフト対策として、粒剤による防除が普及している。葉いもち多発生ほ場や穂いもち発生ほ場では穂いもち防除が実施された。
紋枯病	やや遅	少	ほ場での初発確認は6月24日で、発生時期はやや遅かった。初発時期から継続して、発生量はやや少～少で推移した。	5月下旬から6月上旬にかけて、低温な時期があり、初期生育はやや抑制気味であった。その後も茎数はやや少なく推移したことから、紋枯病の発病は抑制された。一方で、6月中旬以降は高温で推移したことから、中発生ほ場が見られた。	移植時の箱粒剤による防除及び本田防除が常発地を中心に導入されている。
白葉枯病	早	やや少	ほ場での初発確認は7月29日で、発生時期は早かった。発生は常発地に限られていたため、発生量はやや少なかった。	7月中旬に日降水量が100mmを越える日があり、これが発生の早期化につながったと考えられる。その後は強風雨を伴う台風の接近もなく、前年の発生量が少なく、残存する細菌密度が低かったことから、発生量はやや少なくなった。	本病に効果のある育苗箱施薬剤が導入（他の病害と同時防除）。
ばか苗病	遅	やや少	ほ場での初発確認は6月10日で、発生時期は遅かった。一部の常発地で発生が認められた。	水稻の初期生育がやや抑制気味であったため、発生が遅くなったと考えられる。	種子消毒による防除の実施。
もみ枯細菌病	早	やや多	ほ場での初発確認は8月7日であった。発生量の平年比はやや多かったが、発生ほ場率は1.1%と一部に限られた。	発生年が少なく、平年値が低いため、平年比はやや多となった。	種子消毒と移植時の育苗箱施薬剤による防除の実施。
ごま葉枯病	やや早	多	ほ場での初発確認は8月7日と、発生時期はやや早かった。8月上旬には発生はほとんど認められなかったが、成熟期の発生ほ場率は23.9%と過去10年で2番目に高く、平年（7.9%）の約3倍であった。一部ほ場で穂枯れに至るほ場が確認された。	前年の発生量は多く、伝染源が多いと考えられる。また、出穂期以降の気温が高く推移したことから、生育後期の栄養凋落の影響が強いと考えられる。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
稲こうじ病	遅	やや少	ほ場での初発確認は9月12日で、発生時期は遅かった。発生量はやや少なかった。	前年も発生していた地域で発生が見られた。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
縞葉枯病	早	やや多	ほ場での初発確認は6月10日で、発生時期は早かった。ヒメトビウンカ越冬世代でのイネ縞葉枯病ウイルス（RSV）保毒虫率が高かったことから発生量はやや多くなり、一部ほ場では広範囲に発病が目立った。刈株再生芽での発生は全域で見られ、10月の調査の発生量は多かった。	ヒメトビウンカの越冬世代の発生量はやや少なかったが、RSV保毒虫率が高かったことから、8月上旬以降、立毛中の本病の発生量はやや多くなった。8月以降のヒメトビウンカの発生量は平年並であり、10月の刈株再生芽での発生量が多くなった。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除、秋季の耕起の徹底により、媒介虫のヒメトビウンカの発生が抑制されている。越冬世代での保毒虫率が高かったため4月12日に注意報を、刈り株再生芽での発生量が多かったため10月8日に防除情報を発表した。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ニカメイガ 第1世代	やや遅	少	温量により推定した越冬世代成虫の発ガ最盛期は早かったが、予察灯での誘殺時期は平年並であった。ほ場での発生時期はやや遅く、発生量は少なかった。	前年の第2世代幼虫の発生は平年並であった。越冬世代成虫の予察灯への初飛来は4月第6半旬でやや遅かったため、本田での発生時期がやや遅くなった。育苗箱薬剤の使用の有無によりほ場間差が見られたが、使用によって全体の発生量は少なく抑えられた。	移植時の育苗箱施薬が普及している。
ニカメイガ 第2世代	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は7月31日で、発生時期はやや遅く、発生量はやや少なかった。	第1世代幼虫の発生時期はやや遅く、発ガ最盛期も7月第6半旬とやや遅かった。第1世代成虫の発生量は少なく、第2世代幼虫もやや少なくな推移した。	第1世代幼虫が多発したほ場では、主に粒剤を用いた防除がされている。近年、被害ほ場は減少しており、防除面積も減少している。
セジロウンカ	遅	多	予察灯への初飛来は6月23日で平年より遅かった。ほ場での発生量は7月上旬、8月中下旬ともに多く、多発ほ場では吸汁による枯死がみられた。	予察灯への飛来量が多かった。	育苗箱薬剤の利用や、斑点米カメムシ類と併せた出穂期の薬剤散布により防除されることが多い。多発ほ場では本田防除が実施された。本田内での発生が多かったため、7月23日に防除情報を発表した。
トビイロウンカ	-	少	予察灯では誘殺されなかった。7月～9月にかけ複数回、本田すくい取り・払い落とし調査を実施したが、本種は捕獲されず、本種による坪枯れ症状の発生も確認されなかった。	近隣府県で7月中に飛来が確認されていたことから本県でも警戒していたが、本県へは多数の飛来は無く、ほ場内増殖も起こらなかったと判断された。	出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。近隣府県で誘殺されていたことから、7月23日に防除情報を発表した。
ヒメトビウンカ	やや早	やや多	予察灯への初飛来は4月6日でやや早かった。越冬世代の発生量はやや少なく、ほ場での発生量は7月上旬、8月中下旬ともに平年並であった。	越冬量はやや少なかったが、6月以降高温で推移し、ほ場内での増殖に好適な条件となったため、発生量がやや多くなったと思われる。	育苗箱薬剤の利用により発生が抑制。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
ツマグロヨコバイ	遅	並	予察灯への初飛来は6月16日と遅く、越冬世代の発生量はやや少なかった。ほ場での7月上旬、8月中下旬の発生量は平年並であったが、多発ほ場ではすす症状がみられた。	昨年の発生量はやや少なく、越冬量もやや少なかった。育苗箱薬剤の使用および出穂期防除の有無により、地域・ほ場間差が大きい。	育苗箱薬剤の利用により発生が抑制される。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
コブノメイガ	早	やや多	ほ場での初発確認は7月15日で、発生時期は早く、発生量はやや多かった。	飛来時期が平年より早かった。セジロウンカと同様に飛来量が多いと考えられ、高温により生育が旺盛であったことも加わり、発生量がやや多くなった。	多発した年のみ、本田での防除が実施されている。早期かつ広域に発生が認められた7月23日に防除情報を発表した。
イネミズゾウムシ	遅	やや少	本田への飛び込み時期は遅かった。5月下旬の被害程度はやや少なかったが、ほ場間差が大きく、一部ほ場では被害が大きかった。	育苗箱施薬の使用有無により、被害のほ場間差が顕著である。多発生ほ場では、効果のある育苗箱薬剤が使用されていない。	育苗箱薬剤による防除が実施されている。
イネドロオイムシ	早	並	ほ場での初発確認は5月27日で、発生時期は早かった。6月下旬の被害程度は平年並であり、中発生以上の被害は認められなかった。	前年の発生量はやや多かった。しかし、6月上～中旬は晴れで高温となり、本種の被害を抑制する気象条件となったことから、被害が抑制された。	育苗箱薬剤による防除が実施されている。発生が多いほ場では本田施用の粒剤による防除が実施されている。
イチモンジセセリ	やや早	並	ほ場での初発確認は6月10日で、発生時期はやや早く、発生量は平年並であった。	前年の発生は少なかったが、6月上中旬の降水量が少なく、成虫が多く飛来したため発生量が平年並になったと考えられる。	ニカメイガに効果の高い育苗箱薬剤が使用されているほ場では、同時防除されている。
フタオビコヤガ	遅	少	ほ場での初発確認は7月3日で、発生時期は遅く、発生量は少なかった。	近年、少発生傾向にある。昨年の発生量は少なく、ニカメイガに効果の高い育苗箱薬剤の導入により同時に防除され、発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗箱薬剤が使用されているほ場では、同時防除されている。
斑点米カメムシ類	並	多	越冬世代の発生時期は平年並であった。7月上旬の畦畔のすくい取り調査では、アカスジカスミカメとホソハリカメムシの発生量が多かった。出穂期以降の本田での発生量は平年並であったが、見取り調査ではクモヘリカメムシやイネカメムシの発生が多く認められ、全体の発生量は多かった。	6月の気温が高く、特にアカスジカスミカメの越冬世代が繁殖する6月上旬の降水量が少なかったため、密度増加に好適な条件がそろった。その影響から、年間を通しての発生量は多くなり、出穂期以降の本田への飛び込みが増加した。出穂期の薬剤防除が実施され、その後に飛来する大型カメムシは平年並であったが、一部ほ場では防除前に侵入したクモヘリカメムシやイネカメムシによる被害が発生した。	畦畔のイネ科雑草が出穂しないよう、多くのほ場で適正に除草作業が実施され、本田への侵入抑制が図られている。また、出穂後に一斉防除がされている。使用薬剤は液剤や粉剤が主であるが、ドリフト対策として粒剤が使用されている地域もある。畦畔での発生量が多く、7月17日に注意報を発表した。山間地域を中心とした一部ほ場では、本田内にイネカメムシが多くみられた。
コバネイナゴ	並	やや少	ほ場での初発確認は5月20日で、発生時期は平年並であった。ほ場での発生量はやや少なかった。	前年の発生量は平年並であった。出穂期のカメムシ類対象の薬剤散布で、同時防除されたと考えられる。	斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。

ウ 定点における調査
(ア) いもち病発生予察システム

a 判定結果(JPP-NET版BLASTAMの判定結果)

令和6年(2024年) B L A S T A M 結果										
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	土	-	-	-	○4	-	○3	○4	○3	-
6月2日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	月	-	-	-	○4	-	-	-	○3	-
6月4日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月10日	月	-	-	-	○4	-	○4	-	○4	-
6月11日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月13日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月16日	日	-	-	-	-	-	-	●	-	-
6月17日	月	-	-	-	-	-	●	●	-	-
6月18日	火	○4	○4	-	○4	○4	-	-	-	-
6月19日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月24日	月	●	●	-	●	-	●	○3	-	-
6月25日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月27日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	土	●	●	-	-	-	●	●	-	-
6月30日	日	-	●	●	●	●	-	-	-	-
7月1日	月	●	●	●	○3	-	-	-	●	●
7月2日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月3日	水	●	●	●	-	-	●	●	●	-
7月4日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	金	-	-	-	-	-	-	○3	-	●
7月6日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月7日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月10日	水	-	-	-	-	-	-	○2	-	○2
7月11日	木	○2	○2	-	○3	-	○2	-	○2	○2
7月12日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	○2
7月13日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	月	●	-	-	●	-	●	-	-	-
7月16日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月17日	水	●	-	-	-	-	-	○3	-	-
7月18日	木	●	○2	●	-	-	-	-	-	-
7月19日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月20日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[判定結果の指標]

●＝感染好適条件

湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めた前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある。

○＝準好適条件

- 1：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満。
- 2：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上。
- 3：湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃以外。
- 4：湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い。
- ：好適条件なし。
- ?：判定不能。

b 情報提供

病虫害防除所のホームページ上にて、感染好適条件の出現状況（上記）を随時公開した。

(イ) 予察灯による調査

ニカメイガ発生型一覧

事項 \ 地点		大津市里			守山市矢島町			近江八幡市安土町大中		
		本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	5/6	5/14	-8	5/3	5/4	-1	4/29	4/26	+3
	最盛日 (月日)	5/9	5/20	-11	5/5	5/22	-17	5/15	5/21	-6
	50%誘殺日 (月日)	5/11	5/22	-11	5/7	5/23	-16	5/17	5/20	-3
	終息日 (月日)	5/16	6/10	-25	7/5	6/26	+9	6/30	6/26	+4
	誘殺日数 (日)	4	3	+1	12	28	-16	24	22	+2
	誘殺数 (頭)	6	4	+2	44	177	-133	52	58	-6
	性比 (♂/♀, %)	100	117	-17	144	91	+53	53	66	-13
第1世代	初飛来日 (月日)	7/13	7/20	-7	7/6	7/12	-6	7/9	7/12	-3
	最盛日 (月日)	7/20	8/4	-15	7/26	7/25	+1	7/25	7/27	-2
	50%誘殺日 (月日)	7/22	8/7	-16	7/25	7/29	-4	7/19	8/1	-13
	終息日 (月日)	7/30	8/22	-23	7/31	9/10	-41	7/27	9/11	-46
	誘殺日数 (日)	7	5	+2	22	37	-15	12	29	-17
	誘殺数 (頭)	8	7	+1	579	268	+311	23	74	-51
	性比 (♂/♀, %)	33	64	-31	120	101	+19	109	94	+15
総誘殺日数 (日)		11	9	+2	34	64	-30	36	51	-15
総誘殺数 (頭)		14	10	+4	623	445	+178	75	132	-57
性比 (♂/♀, %)		56	68	-12	122	95	+27	67	77	-10
第1世代/越冬世代 (%)		133	286	-153	1316	809	+507	44	150	-106

事項 \ 地点		長浜市難波町			高島市今津町日置前		
		本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	4/28	5/9	-11	4/24	5/5	-11
	最盛日 (月日)	5/21	5/26	-5	5/6	5/22	-16
	50%誘殺日 (月日)	5/23	5/26	-3	5/15	5/22	-7
	終息日 (月日)	6/15	6/16	-1	6/29	6/20	+9
	誘殺日数 (日)	15	15	±0	17	22	-5
	誘殺数 (頭)	38	43	-5	35	93	-58
	性比 (♂/♀, %)	138	75	+63	150	146	+4
第1世代	初飛来日 (月日)	7/7	7/17	-10	7/14	7/16	-2
	最盛日 (月日)	7/28	7/28	±0	7/25	7/31	-6
	50%誘殺日 (月日)	7/26	7/30	-4	7/23	7/31	-8
	終息日 (月日)	7/30	8/21	-23	7/27	9/10	-45
	誘殺日数 (日)	6	15	-9	4	24	-20
	誘殺数 (頭)	8	40	-32	6	102	-96
	性比 (♂/♀, %)	100	122	-22	20	82	-62
総誘殺日数 (日)		21	30	-9	21	46	-25
総誘殺数 (頭)		46	84	-38	41	195	-154
性比 (♂/♀, %)		130	80	+50	116	97	+19
第1世代/越冬世代 (%)		21	115	-94	17	178	-161

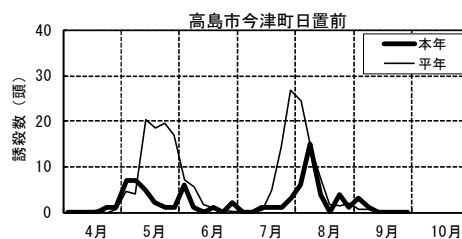
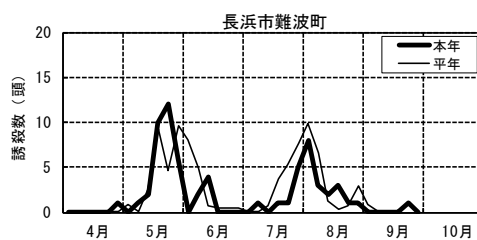
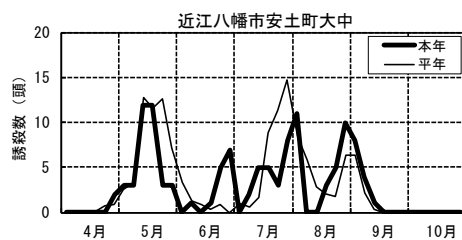
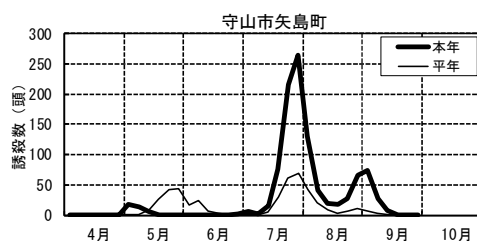
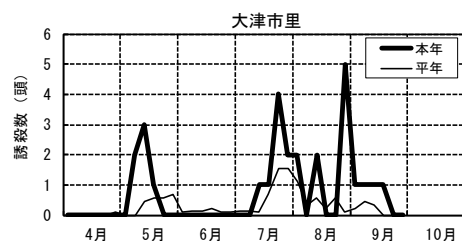
ニカメイガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0.9	0	0	0	0	1	1	0	0
	6	0	0	0.1	0.1	0	0	0.6	0.9	2	2	0.9	1.8	1	1	0	0	1	2	0.8	1.1
5	1	0	0	0	0.1	18	18	1.5	2.4	3	5	2.5	4.3	0	1	0.8	1.0	7	9	4.6	5.7
	2	2	2	0	0.1	13	31	1.9	4.3	3	8	3.4	7.7	1	2	0.1	1.1	7	16	4.1	9.8
	3	3	5	0.4	0.6	5	36	9.2	13.5	12	20	12.8	20.5	2	4	2.6	3.7	5	21	20.3	30.1
	4	1	6	0.6	1.1	-	36	27.1	40.6	12	32	11.6	32.1	10	14	9.3	13.0	2	23	18.4	48.6
	5	0	6	0.6	1.7	-	36	41.5	82.1	3	35	12.6	44.7	12	26	4.7	17.7	1	24	19.4	68.0
	6	0	6	0.7	2.3	-	36	43.4	125.5	3	38	7.2	51.9	6	32	9.7	27.4	1	25	16.9	84.9
6	1	0	6	0.1	2.4	-	36	17.5	143.0	0	38	3.4	55.3	0	32	8.0	35.4	6	31	7.1	92.0
	2	0	6	0.1	2.6	-	36	24.3	167.3	1	39	1.3	56.6	2	34	4.9	40.3	1	32	5.5	97.5
	3	0	6	0.1	2.7	0	36	6.2	173.5	0	39	0.8	57.4	4	38	0.7	41.0	0	32	1.6	99.1
	4	0	6	0.2	2.9	0	36	2.0	175.5	1	40	0.3	57.7	0	38	0.5	41.5	1	33	1.0	100.1
	5	0	6	0.1	3.0	0	36	0.5	176.0	5	45	0.8	58.5	0	38	0.4	41.9	0	33	0.4	100.5
	6	0	6	0.1	3.1	2	38	0.5	176.5	7	52	0	58.5	0	38	0.4	42.3	2	35	0.1	100.6
7	1	0	6	0.1	3.3	6	44	0.4	176.9	0	52	1.0	59.5	0	38	0.1	42.4	0	35	0.2	100.8
	2	0	0	0.1	0.1	2	2	0.8	0.8	2	2	0.6	0.6	1	1	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1
	3	1	1	0	0.2	15	17	4.6	5.4	5	7	1.6	2.2	0	1	0.7	0.8	1	1	0.3	0.4
	4	1	2	0.7	0.9	76	93	30.4	35.8	5	12	8.8	11.0	1	2	3.7	4.5	1	2	4.7	5.1
	5	4	6	1.6	2.5	217	310	60.7	96.5	3	15	11.4	22.4	1	3	5.3	9.8	1	3	14.4	19.5
	6	2	8	1.6	4.0	264	574	69.0	165.5	8	23	14.8	37.2	5	8	7.7	17.5	3	6	26.9	46.4
8	1	2	10	1.1	5.1	130	704	41.4	206.9	11	34	8.4	45.6	8	16	9.9	27.4	6	12	24.6	71.0
	2	0	10	0.3	5.5	41	745	20.3	227.2	0	34	5.8	51.4	3	19	6.6	34.0	15	27	14.5	85.5
	3	2	12	0.6	6.0	20	765	9.5	236.7	0	34	2.8	54.2	2	21	1.2	35.2	4	31	8.0	93.5
	4	0	12	0.2	6.2	18	783	3.8	240.5	3	37	2.1	56.3	3	24	0.3	35.5	0	31	1.8	95.3
	5	0	12	0.6	6.8	28	811	6.1	246.6	5	42	1.8	58.1	1	25	0.7	36.2	4	35	1.5	96.8
	6	5	17	0	6.9	66	877	10.1	256.7	10	52	6.4	64.5	1	26	3.0	39.2	1	36	2.0	98.8
9	1	1	18	0.2	7.1	74	951	7.2	263.9	8	60	6.4	70.9	0	26	0.8	40.0	3	39	0.7	99.5
	2	1	19	0.4	7.6	27	978	2.9	266.8	4	64	2.2	73.1	0	26	0	40.1	1	40	0.7	100.2
	3	1	20	0.3	7.9	7	985	1.4	268.2	1	65	0.3	73.4	0	26	0	40.2	0	40	0.1	100.3
	4	1	21	0	7.9	0	985	0.2	268.5	0	65	0	73.4	0	26	0	40.2	0	40	0.1	100.4
	5	0	21	0.0	7.9	0	985	0	268.5	0	65	0.1	73.5	1	27	0	40.2	0	40	0	100.4
	6	0	21	0.0	7.9	0	985	0.1	268.6	0	65	0	73.6	0	27	0	40.2	0	40	0	100.5
10	1									0	65	0	73.6								
	2									0	65	0	73.6								
	3									0	65	0	73.6								
	4									0	65	0	73.6								
	5									0	65	0	73.6								
	6									0	65	0	73.6								

越冬世代

第1世代



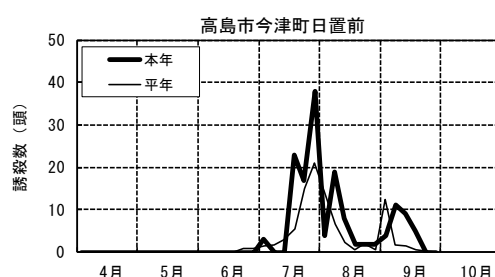
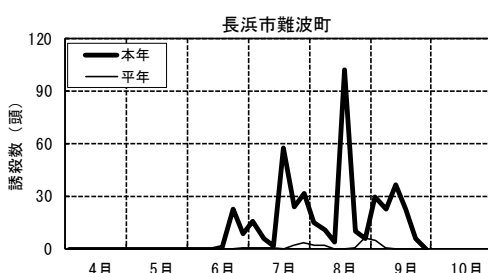
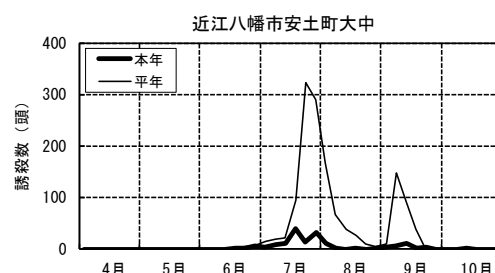
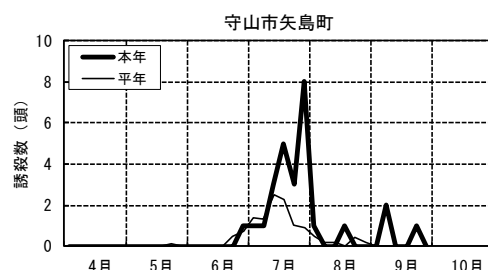
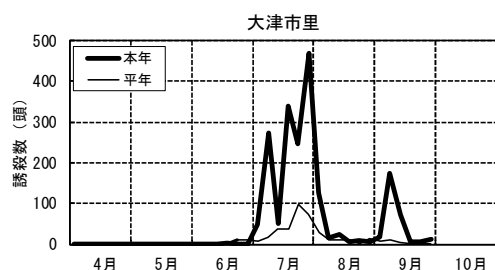
○表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。

○平年値は過去10年間(H26～R5)の平均値である。
ただし、R6の4月1日、23～30日、
5月8～10日、5月13日～6月12日は欠測値(守山市矢島町)。
半旬すべて欠測の場合「-」で表記した。

ツマグロコバイ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
	2	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0.1	0	0	0	0
	3	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0	0	0	0
	4	0	0	0	0.2	—	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0	0	0	0
	5	0	0	0.0	0.2	—	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0	0	0	0
	6	0	0	0	0.2	—	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0.2	—	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0	0	0.1	0.1
	2	0	0	0	0.5	—	0	0	0	0	0	0	0.1	0.4	0	0	0.1	0	0	0	0.1
	3	0	0	0	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.7	0	0	0.2	0.1	0	0	0.1
	4	3	3	0.3	0.9	0	0	0	0	1	1	1	1.7	2.4	1	1	0.2	0.5	0	0	0.2
	5	3	3	10.8	11.7	0	0	0.5	0.6	1	2	4.8	7.2	23	24	0.0	0.5	0	0	0.8	1.0
	6	0	3	10.6	22.3	1	1	0.7	1.3	5	7	6.9	14.1	9	33	0.9	1.4	0	0	0.8	1.8
7	1	49	52	6.9	29.1	1	2	1.4	2.7	3	10	14.9	29.0	16	49	0.5	1.9	3	3	1.4	3.2
	2	273	325	17.0	46.1	1	3	1.3	4.0	9	19	19.6	48.6	6	55	0.6	2.5	0	3	1.7	4.9
	3	51	376	38.3	84.5	3	6	2.5	6.5	10	29	21.2	69.8	2	57	0.6	3.1	0	3	2.9	7.8
	4	341	717	38.7	123.1	5	11	2.3	8.8	39	68	96.3	166.1	58	115	0.4	3.5	23	26	5.6	13.4
	5	246	963	97.6	220.7	3	14	1.0	9.8	14	82	324.0	490.1	24	139	2.0	5.5	17	43	15.1	28.5
	6	468	1431	72.7	293.4	8	22	0.9	10.7	32	114	290.6	780.7	32	171	3.9	9.4	38	81	21.2	49.7
8	1	126	1557	27.4	320.8	1	23	0.5	11.2	12	126	166.5	947.2	15	186	2.3	11.7	4	85	14.3	64.0
	2	15	1572	10.8	331.6	0	23	0	11.4	1	127	65.6	1012.8	11	197	2.3	14.0	19	104	6.6	70.6
	3	23	1595	11.3	342.9	0	23	0	11.6	0	127	37.1	1049.9	4	201	0.1	14.1	8	112	2.2	72.8
	4	6	1601	9.3	352.3	1	24	0.0	11.6	2	129	25.2	1075.1	102	303	0.4	14.5	2	114	0.6	73.4
	5	10	1611	2.2	354.5	0	24	0.4	12.0	0	129	9.0	1084.1	10	313	1.0	15.5	2	116	1.9	75.3
	6	6	1617	12.4	366.9	0	24	0.2	12.2	1	130	4.3	1088.4	6	319	6.5	22.0	2	118	0.7	76.0
9	1	18	1635	9.2	376.1	0	24	0	12.2	4	134	9.9	1098.3	30	349	5.1	27.1	4	122	12.5	88.5
	2	175	1810	9.4	385.6	2	26	0	12.2	7	141	146.9	1245.2	23	372	1.1	28.2	11	133	1.8	90.3
	3	73	1883	3.4	389.0	0	26	0	12.2	10	151	92.2	1337.4	37	409	0.3	28.5	9	142	1.5	91.8
	4	6	1889	2.4	391.5	0	26	0	12.2	2	153	37.7	1375.1	23	432	0.0	28.5	5	147	0.6	92.4
	5	6	1895	1.1	392.6	1	27	0	12.2	4	157	0.7	1375.8	6	438	0	28.5	0	147	0.4	92.8
	6	11	1906	2.2	394.8	0	27	0	12.2	0	157	0.7	1376.5	0	438	0.1	28.6	0	147	0.1	92.9
10	1									0	157	0.3	1376.8								
	2									0	157	0.5	1377.3								
	3									1	158	0	1377.3								
	4									0	158	0	1377.3								
	5									0	158	0.1	1377.4								
	6									0	158	0	1377.4								

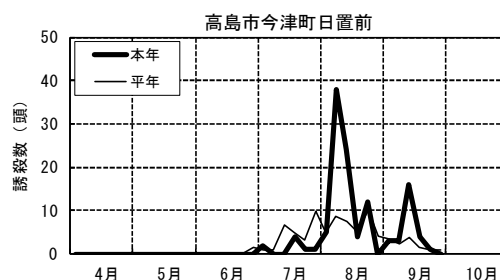
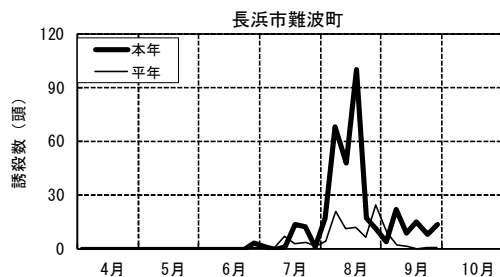
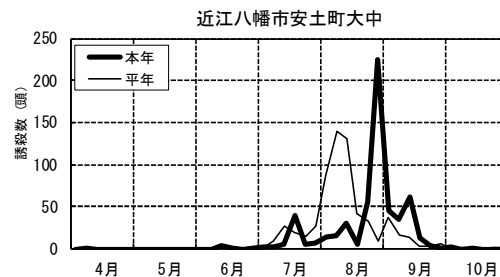
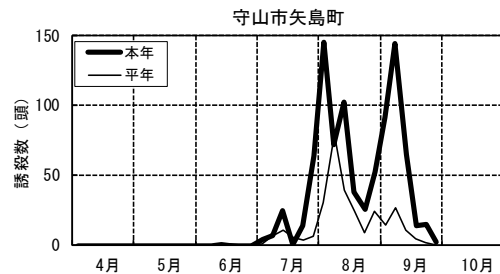
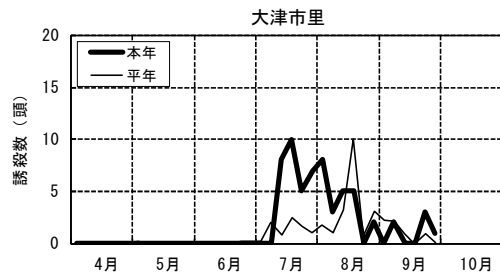


○平年値は過去10年間 (H26～R5) の平均値である。
ただし、R6の4月1日、23～30日、
5月8～10日、5月13日～6月12日は欠測値 (守山市矢島町)。
半月すべて欠測の場合「—」で表記した。

ヒメトビウナ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.7	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4	1.4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	1	0	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0	0	1	0.2	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	1	0.1	1.9	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	1	0	1.9	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0.3	-	0	0	0	0	1	0	1.9	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
5	0	0	0	0.3	-	0	0	0	0	1	0	1.9	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6	0	0	0	0.3	-	0	0.1	0.1	0	1	0	1.9	0	0	0	0.3	0	0	0	0
6 1	0	0	0	0.3	-	0	0	0.1	0	1	0.2	2.1	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0
2	0	0	0	0.3	-	0	0.4	0.5	0	1	0.1	2.2	0	0	0	0.5	0	0	0	0
3	0	0	0	0.3	1	1	0.2	0.7	4	5	1.4	3.6	0	0	0.4	0.9	0	0	0	0
4	0	0	0.0	0.3	0	1	0.6	1.3	1	6	0.7	4.3	0	0	0.4	1.3	0	0	0.0	0.2
5	0	0	0.2	0.5	0	1	0.2	1.5	0	6	0.5	4.8	0	0	0.0	1.3	0	0	0.1	0.3
6	0	0	0.2	0.7	0	1	0.4	1.9	1	7	0.9	5.7	3	3	0.7	2.0	0	0	1.6	1.9
7 1	0	0	0.2	1.0	4	5	0.6	2.5	2	9	1.4	7.1	1	4	0.6	2.6	2	2	1.0	2.9
2	0	0	2	3.0	7	12	6.6	9.1	2	11	8.4	15.5	0	4	1.0	3.6	0	2	0.8	3.7
3	8	8	0.8	3.7	25	37	10.5	19.6	5	16	27.5	43.0	1	5	6.9	10.5	0	2	6.7	10.4
4	10	18	2.4	6.2	1	38	5.5	25.1	39	55	18.9	61.9	14	19	3.2	13.7	4	6	4.8	15.2
5	5	23	1.7	7.9	14	52	3.5	28.6	6	61	14.5	76.4	12	31	3.3	17.0	1	7	3.1	18.3
6	7	30	1.0	8.9	64	116	6.1	34.7	7	68	27.3	103.7	1	32	1.5	18.5	1	8	9.8	28.1
8 1	8	38	1.8	10.6	145	261	30.8	65.5	14	82	87.1	190.8	17	49	4.1	22.6	5	13	4.8	32.9
2	3	41	1.0	11.6	72	333	79.3	144.8	16	98	138.9	329.7	68	117	20.7	43.3	38	51	8.6	41.5
3	5	46	3.2	14.9	102	435	39.2	184.0	30	128	130.7	460.4	48	165	11.2	54.5	24	75	7.5	49.0
4	5	51	10.0	24.9	38	473	24.3	208.3	6	134	41.5	501.9	100	265	11.8	66.3	4	79	5.3	54.3
5	0	51	0.7	25.5	26	499	9.0	217.3	56	190	33.4	535.3	17	282	6.5	72.8	12	91	10.0	64.3
6	2	53	3.1	28.6	52	551	24.0	241.3	225	415	9.7	545.0	11	293	24.4	97.2	0	91	4.0	68.3
9 1	0	53	2.2	30.9	92	643	14.4	255.7	46	461	36.9	581.9	4	297	9.0	106.2	3	94	3.6	71.9
2	2	55	2.1	33.0	144	787	27.3	283.0	35	496	15.9	597.8	22	319	2.4	108.6	3	97	2.3	74.2
3	0	55	0.9	33.9	65	852	10.8	293.8	61	557	14.0	611.8	9	328	1.3	109.9	16	113	3.7	77.9
4	0	55	0.0	33.9	14	866	4.6	298.3	13	570	3.5	615.3	15	343	0.3	110.2	4	117	1.4	79.3
5	3	58	0.9	34.7	15	881	1.7	300.0	4	574	2.8	618.1	8	351	0.5	110.7	1	118	0.9	80.2
6	1	59	0.1	34.9	2	883	0.4	300.4	1	575	5.4	623.5	14	365	0.6	111.3	0	118	1.0	81.2
10 1									3	578	0.7	624.2								
2									0	578	1.1	625.3								
3									1	579	0.3	625.6								
4									0	579	0.2	625.8								
5									0	579	1.0	626.8								
6									0	579	1.4	628.2								

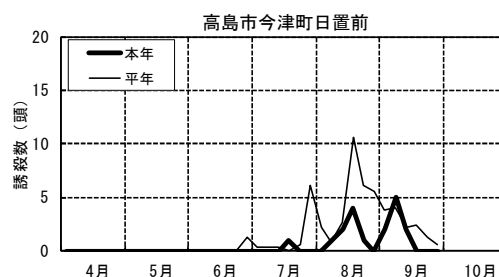
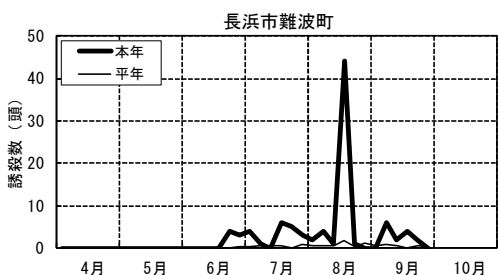
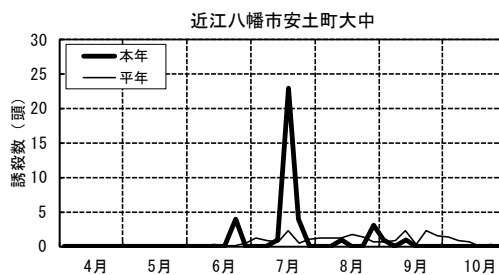
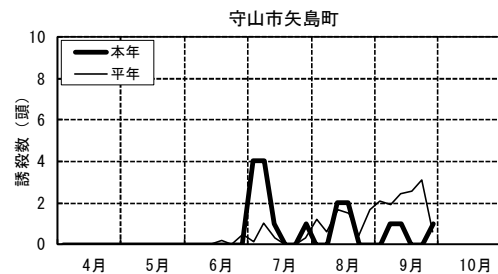
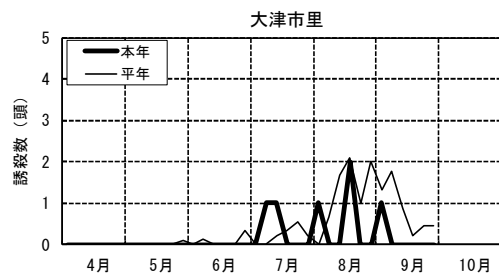


○平年値は過去10年間(H26～R5)の平均値である。
ただし、R6の4月1日、23～30日、
5月8～10日、5月13日～6月12日は欠測値(守山市矢島町)。
半旬すべて欠測の場合「-」で表記した。

セジロウナカ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.2	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0.2	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0.2	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0.2	0.4	0.1	0.5	0.4	0.5	4	4	0	0.2	0	0	0	0
6	0	0	0.3	0.6	0	0.5	0.7	0.7	0.4	0.9	3	7	0.2	0.4	0	0	1.3	1.3	0	0
7 1	0	0	0	0.6	4	4	0.1	0.8	0	4	1.2	2.1	4	11	0.2	0.6	0	0	0.4	1.7
2	1	1	0.0	0.6	4	8	1.0	1.8	0	4	0.8	2.9	1	12	0.5	1.1	0	0	0.4	2.1
3	1	2	0.2	0.8	1	9	0.3	2.1	1	5	0.7	3.6	0	12	0.6	1.7	0	0	0.4	2.5
4	0	2	0.3	1.1	0	9	0	2.1	23	28	2.2	5.8	6	18	0.6	2.3	1	1	0.0	2.5
5	0	2	0.6	1.7	0	9	0.0	2.1	4	32	0.4	6.2	5	23	0	2.3	0	1	0.6	3.1
6	0	2	0.2	1.9	1	10	0.3	2.4	0	32	1.0	7.2	3	26	0.9	3.2	0	1	6.1	9.2
8 1	1	3	0	1.9	0	10	1.2	3.6	0	32	1.1	8.3	2	28	0.5	3.7	0	1	2.2	11.4
2	0	3	0.7	2.6	0	10	0.6	4.2	0	32	1.2	9.5	4	32	0.5	4.2	1	2	0.8	12.2
3	0	3	1.7	4.2	2	12	1.7	5.9	1	33	1.2	10.7	1	33	0.7	4.9	2	4	2.7	14.9
4	2	5	2.1	6.3	2	14	1.5	7.4	0	33	1.8	12.5	44	77	1.9	6.8	4	8	10.6	25.5
5	0	5	1.0	7.3	0	14	0.4	7.8	0	33	1.3	13.8	1	78	0.3	7.1	1	9	6.1	31.6
6	0	5	2.0	9.3	0	14	1.7	9.5	3	36	0.7	14.5	0	78	1.3	8.4	0	9	5.5	37.1
9 1	1	6	1.3	10.7	0	14	2.1	11.6	1	37	0.7	15.2	0	78	0.7	9.1	2	11	3.8	40.9
2	0	6	1.8	12.5	1	15	1.9	13.5	0	37	0.8	16.0	6	84	0.8	9.9	5	16	4.1	45.0
3	0	6	0.9	13.3	1	16	2.4	15.9	1	38	2.2	18.2	2	86	0.7	10.6	2	18	2.2	47.2
4	0	6	0.2	13.6	0	16	2.6	18.5	0	38	0.3	18.5	4	90	0.1	10.7	0	18	2.4	49.6
5	0	6	0.4	14.0	0	16	3.1	21.6	0	38	2.3	20.8	2	92	0.6	11.2	0	18	1.3	50.9
6	0	6	0.4	14.5	1	17	0.6	22.2	0	38	1.6	22.4	0	92	0.2	11.5	0	18	0.6	51.5
10 1									0	38	1.4	23.8								
2									0	38	0.8	24.6								
3									0	38	0.6	25.2								
4									0	38	0	25.2								
5									0	38	0.3	25.5								
6									0	38	0	25.5								

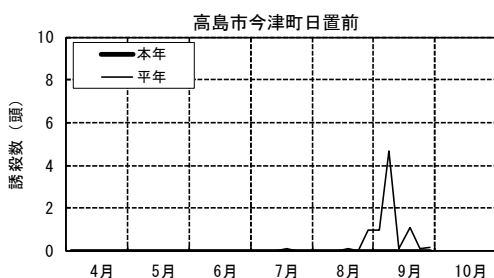
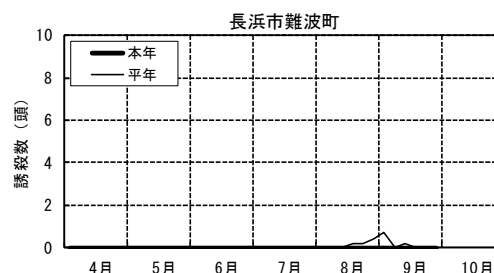
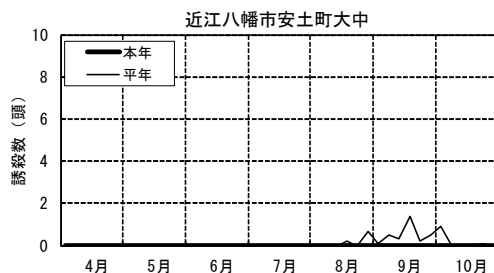
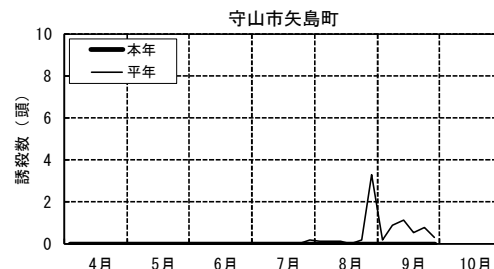
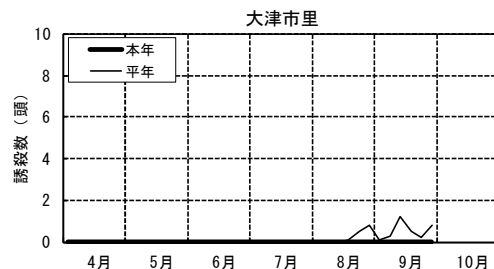


○平年値は過去10年間（H26～R5）の平均値である。
ただし、R6の4月1日、23～30日、
5月8～10日、5月13日～6月12日は欠測値（守山市矢島町）。
半旬すべて欠測の場合「-」で表記した。

トビイロウナカ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 1	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.5	0	0	0.2	0.2	0	0	0.2	0.2	0	0	0.1	0.2
5	0	0	0.5	0.6	0	0	0.2	0.7	0	0	0.2	0.2	0	0	0.2	0.4	0	0	0.0	0.2
6	0	0	0.8	1.4	0	0	3.3	4.0	0	0	0.7	0.9	0	0	0.4	0.8	0	0	1.0	1.2
9 1	0	0	0.1	1.5	0	0	0.2	4.2	0	0	0.1	1.0	0	0	0.7	1.5	0	0	1.0	2.2
2	0	0	0.3	1.8	0	0	0.9	5.1	0	0	0.5	1.5	0	0	0	1.5	0	0	4.7	6.9
3	0	0	1.2	3.0	0	0	1.1	6.2	0	0	0.3	1.8	0	0	0.2	1.7	0	0	0.1	7.0
4	0	0	0.5	3.5	0	0	0.6	6.8	0	0	1.4	3.2	0	0	0	1.7	0	0	1.1	8.1
5	0	0	0.2	3.7	0	0	0.8	7.5	0	0	0.2	3.4	0	0	0	1.7	0	0	0.1	8.2
6	0	0	0.8	4.5	0	0	0.3	7.8	0	0	0.5	3.9	0	0	0	1.7	0	0	0.2	8.4
10 1									0	0	0.9	4.8								
2									0	0	0.0	4.8								
3									0	0	0.0	4.8								
4									0	0	0	4.8								
5									0	0	0.1	4.9								
6									0	0	0	4.9								

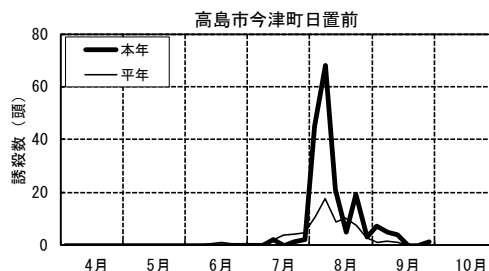
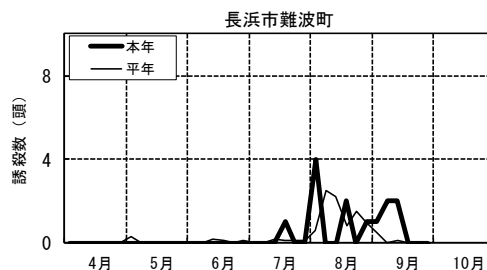
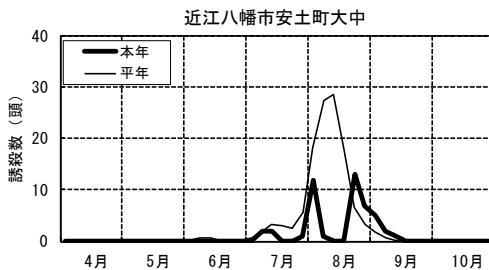
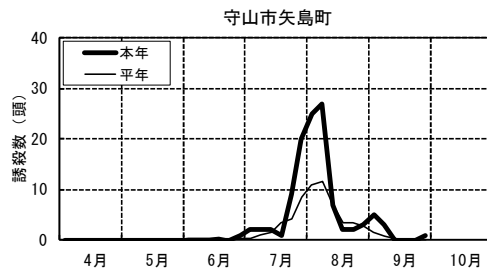
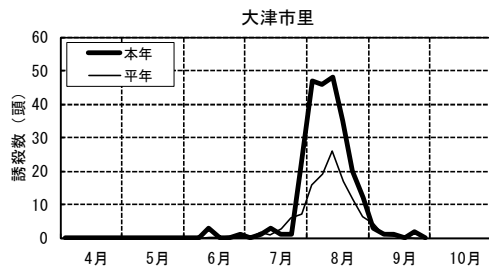


○平年値は過去10年間 (H26～R5) の平均値である。
 ただし、R6の4月1日、23～30日、
 5月8～10日、5月13日～6月12日は欠測値 (守山市矢島町)。
 半旬すべて欠測の場合「-」で表記した。

フタオビコヤガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0.0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0.1
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1
	4	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1
	5	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0.0	0.1
	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0.2
6	1	0	0	0	0.1	0	0	0.3	0.3	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0.3	0	0	0	0.2
	2	0	0	0	0.1	0	0	0.4	0.7	0	0	0.5	0.8	0	0	0	0.3	0	0	0	0.2
	3	3	3	0.4	0.5	0	0	0.2	0.9	0	0	0.7	1.5	0	0	0.2	0.5	0	0	0.3	0.5
	4	0	3	0.1	0.6	0	0	0.5	1.4	0	0	0.2	1.7	0	0	0	0.6	0	0	0.8	1.3
	5	0	3	0.4	1.0	0	0	0	1.4	0	0	0.1	1.8	0	0	0	0.6	0	0	0.3	1.6
	6	1	4	0.1	1.2	1	1	0.3	1.7	0	0	0.1	1.9	0	0	0.1	0.7	0	0	0.4	2.0
7	1	0	4	0.3	1.4	2	3	0.3	2.0	0	0	0.7	2.6	0	0	0	0.7	0	0	0.7	2.7
	2	1	5	1.8	3.2	2	5	1.1	3.1	2	2	1.9	4.5	0	0	0	0.7	0	0	0.7	3.4
	3	3	8	0.8	3.9	2	7	1.5	4.6	2	4	3.2	7.7	0	0	0.2	0.9	2	2	1.9	5.3
	4	1	9	2.8	6.7	1	8	3.3	7.9	0	4	3.0	10.7	1	1	0.1	1.0	0	2	3.9	9.2
	5	1	10	5.9	12.6	9	17	4.1	12.0	0	4	2.6	13.3	0	1	0.1	1.1	1	3	4.1	13.3
	6	22	32	7.0	19.6	20	37	8.4	20.4	1	5	5.7	19.0	0	1	0.1	1.2	2	5	4.8	18.1
8	1	47	79	15.9	35.5	25	62	11.0	31.4	12	17	18.2	37.2	4	5	0.6	1.8	45	50	10.8	28.9
	2	46	125	19.1	54.6	27	89	11.7	43.1	1	18	27.5	64.7	0	5	2.5	4.3	68	118	17.6	46.5
	3	48	173	26.2	80.8	7	96	7.2	50.3	0	18	28.6	93.3	0	5	2.2	6.5	21	139	8.7	55.2
	4	35	208	17.0	97.8	2	98	3.3	53.6	0	18	17.4	110.7	2	7	0.8	7.3	5	144	10.0	65.2
	5	20	228	11.7	109.5	2	100	3.3	56.9	13	31	6.6	117.3	0	7	1.5	8.8	19	163	7.2	72.4
	6	12	240	6.3	115.8	3	103	2.8	59.7	7	38	3.2	120.5	1	8	1.0	9.8	3	166	2.9	75.3
9	1	3	243	4.2	120.0	5	108	1.5	61.2	5	43	1.9	122.4	1	9	0.5	10.3	7	173	1.1	76.4
	2	1	244	0.9	120.9	3	111	0.8	62.0	2	45	0.6	123.0	2	11	0	10.3	5	178	1.5	77.9
	3	1	245	0.6	121.5	0	111	0	62.3	1	46	0.1	123.1	2	13	0	10.4	4	182	0.8	78.7
	4	0	245	0	121.6	0	111	0	62.4	0	46	0.1	123.2	0	13	0	10.4	0	182	0.1	78.8
	5	2	247	0.0	121.6	0	111	0	62.4	0	46	0	123.2	0	13	0	10.4	0	182	0	78.9
	6	0	247	0	121.6	1	112	0	62.4	0	46	0	123.2	0	13	0	10.4	1	183	0.2	79.1
10	1									0	46	0	123.2								
	2									0	46	0	123.2								
	3									0	46	0	123.2								
	4									0	46	0	123.2								
	5									0	46	0	123.2								
	6									0	46	0	123.2								

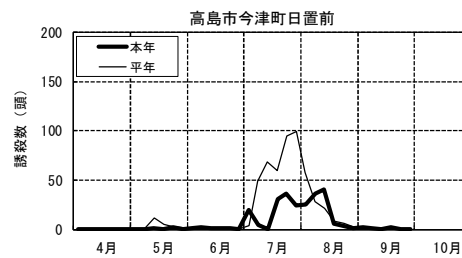
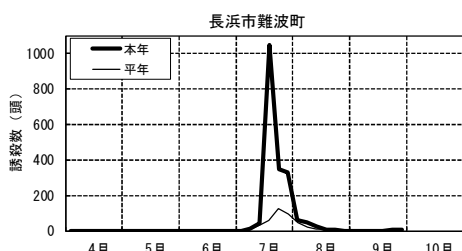
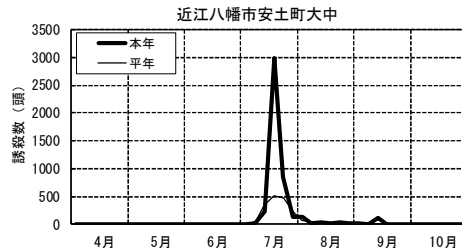
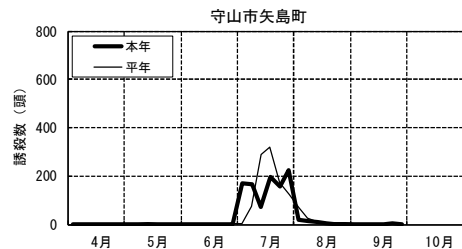
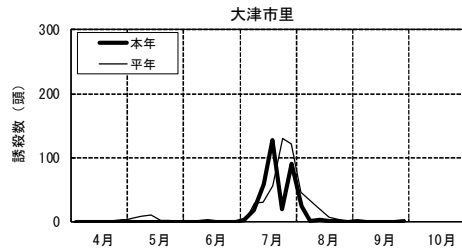


○平年値は過去10年間(H26～R5)の平均値である。
ただし、R6の4月1日、23～30日は欠測値(守山市矢島町)。

イネミズソウムシ半旬別勝殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0.1	1	1	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0.1	0	1	0	0	0	0	0.2	0.6
	6	1	1	1.6	1.9	0	0	0	0	4	9	0.1	0.2	2	3	0	0	0	0	0.3	0.9
5	1	0	1	6.0	7.9	0	0	0	0	0	9	2.6	2.8	0	3	1.1	1.1	0	0	0.2	1.1
	2	0	1	8.4	16.3	0	0	0.1	0.4	0	9	0.5	3.3	0	3	0.3	1.4	0	0	0.3	1.4
	3	0	1	11.4	27.8	0	0	5.0	5.4	1	10	14.5	17.8	0	3	2.3	3.7	1	1	12.0	13.4
	4	0	1	2.4	30.2	-	0	0.7	6.1	5	15	4.4	22.2	3	6	4.2	7.9	0	1	5.1	18.6
	5	0	1	2.1	32.3	-	0	0.2	6.3	5	20	6.8	29.0	0	6	0.4	8.3	2	3	2.9	21.4
	6	0	1	1.0	33.3	-	0	0.0	6.3	3	23	4.9	33.9	3	9	0.5	8.8	0	3	1.9	23.3
6	1	0	1	0.8	34.1	-	0	0	6.3	0	23	3.1	37.0	0	9	0.5	9.3	1	4	0.6	23.9
	2	0	1	0.5	34.6	-	0	0.2	6.5	0	23	0.2	37.2	0	9	0.6	9.9	2	6	1.0	24.9
	3	1	2	0.1	34.7	0	0	0	6.5	3	26	0.8	38.0	0	9	0.1	10.0	1	7	0.9	25.8
	4	0	2	0.3	35.1	0	0	0.1	6.6	0	26	0.2	38.2	0	9	0	10.2	1	8	0.7	26.5
	5	0	2	0.3	35.4	0	0	0	6.6	0	26	0.6	38.8	0	9	0.2	10.4	1	9	0.6	27.1
	6	0	2	0.3	35.7	0	0	0.3	6.9	1	27	0.7	39.5	0	9	0.7	11.1	0	9	0.9	28.0
7	1	3	5	0.8	36.5	169	169	4.0	10.9	0	27	2.9	42.4	2	11	0.4	11.5	20	29	4.0	32.0
	2	18	23	29.9	66.4	164	333	72.2	83.1	15	42	52.8	95.2	12	23	6.9	18.4	5	34	49.5	81.5
	3	58	81	30.3	96.7	73	406	287.3	370.4	232	274	333.6	428.8	42	65	34.4	52.8	0	34	68.7	150.2
	4	127	208	56.1	152.8	197	603	320.6	691.0	2979	3253	518.3	947.1	1047	1112	60.6	113.4	31	65	60.0	210.2
	5	20	228	130.7	283.5	157	760	172.8	863.8	861	4114	478.6	1425.7	347	1459	123.3	236.7	36	101	94.9	305.1
	6	90	318	122.2	405.7	226	986	124.0	987.8	138	4252	228.2	1653.9	330	1789	97.0	333.7	24	125	99.1	404.2
8	1	25	343	46.3	452.0	16	1002	70.4	1058.2	131	4383	59.2	1713.1	60	1849	47.4	381.1	25	150	58.1	462.3
	2	1	344	32.1	484.1	14	1016	24.5	1082.7	17	4400	39.4	1752.5	51	1900	23.1	404.2	36	186	27.9	490.2
	3	4	348	21.1	505.3	10	1026	12.6	1095.3	39	4439	23.1	1775.6	24	1924	9.3	413.5	41	227	21.1	511.3
	4	1	349	6.9	512.1	4	1030	7.9	1103.2	17	4456	13.7	1789.3	9	1933	7.6	421.1	6	233	8.3	519.6
	5	1	350	3.4	515.6	2	1032	5.1	1108.3	32	4488	15.4	1804.7	6	1939	5.8	426.9	3	236	6.7	526.3
	6	0	350	1.0	516.6	2	1034	5.3	1113.6	9	4497	3.2	1807.9	1	1940	1.0	427.9	1	237	3.5	529.8
9	1	1	351	0.6	517.1	2	1036	0.8	1114.4	12	4509	1.7	1809.6	1	1941	4.6	432.5	2	239	1.8	531.6
	2	0	351	0.1	517.3	1	1037	0.4	1114.8	3	4512	1.7	1811.3	3	1944	1.4	433.9	1	240	0.8	532.4
	3	0	351	0.8	518.0	2	1039	0.0	1114.8	118	4630	1.5	1812.8	3	1947	0.4	434.3	0	240	0.5	532.9
	4	0	351	0.0	518.0	1	1040	1.0	1115.8	1	4631	0.8	1813.6	3	1950	0.3	434.6	2	242	0.3	533.2
	5	0	351	0.3	518.4	4	1044	0	1116.0	0	4631	0.8	1814.4	6	1956	0.4	435.0	0	242	0.4	533.6
	6	1	352	0.3	518.7	2	1046	0	1116.0	1	4632	1.0	1815.4	6	1962	0	435.3	0	242	0.6	534.2
10	1									0	4632	0.2	1815.6								
	2									0	4632	7.2	1822.8								
	3									0	4632	0	1822.8								
	4									0	4632	0	1822.8								
	5									0	4632	0.5	1823.3								
	6									0	4632	0	1823.3								



○平年値は過去10年間 (H26～R5) の平均値である。
ただし、R6の4月1日、23～30日、
5月8～10日、5月13日～6月12日は欠測値 (守山市矢島町)。
半旬すべて欠測の場合「-」で表記した。

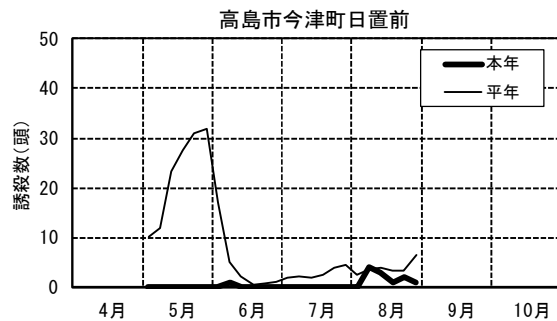
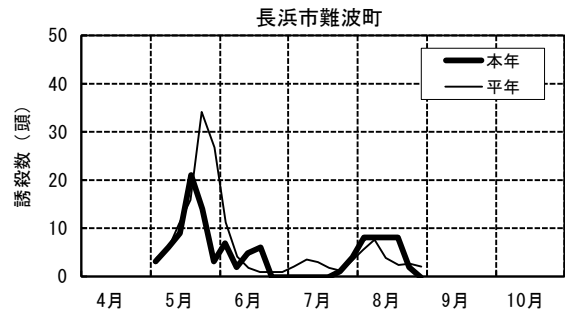
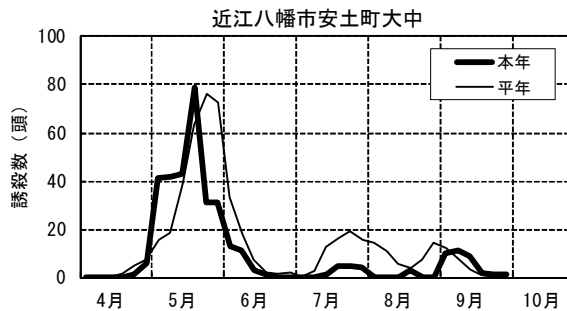
(ウ) フェロモントラップによる調査

ニカメイガ半旬別誘殺数(フェロモントラップ)

月 半旬		近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
	2	0	0	0	0.2								
	3	0	0	0.3	0.5								
	4	0	0	1.8	2.3								
	5	1	1	5.1	7.4								
	6	6	7	7.4	14.8								
5	1	41	48	15.6	30.4	3	3	3.8	3.8	0	0	10.1	10.1
	2	42	90	18.4	48.8	6	9	5.7	9.4	0	0	12.0	22.1
	3	43	133	39.2	88.0	9	18	10.9	20.3	0	0	23.2	45.3
	4	79	212	63.2	151.2	21	39	15.9	36.2	0	0	27.6	72.9
	5	31	243	75.9	227.1	14	53	34.1	70.3	0	0	31.0	103.9
	6	31	274	72.5	299.6	3	56	26.9	97.2	0	0	32.0	135.9
6	1	13	287	33.3	332.9	7	63	11.2	108.4	0	0	17.1	153.0
	2	11	298	18.2	351.1	2	65	4.2	112.6	1	1	5.1	158.1
	3	3	301	7.7	358.8	5	70	1.8	114.4	0	1	2.3	160.4
	4	1	302	2.2	361.0	6	76	0.9	115.3	0	1	0.6	161.0
	5	0	302	1.6	362.6	0	76	0.8	116.1	0	1	0.9	161.9
	6	0	302	2.3	364.9	0	76	0.9	117.0	0	1	1.0	162.9
7	1	0	302	0.6	365.5	0	76	2.0	119.0	0	1	2.1	165.0
	2	0	0	2.9	2.9	0	0	3.6	3.6	0	0	2.2	2.2
	3	1	1	12.9	15.8	0	0	2.9	6.5	0	0	2.1	4.3
	4	5	6	16.3	32.1	0	0	1.9	8.4	0	0	2.6	6.9
	5	5	11	19.0	51.1	1	1	1.3	9.7	0	0	4.0	10.9
	6	4	15	15.5	66.6	4	5	3.4	13.1	0	0	4.5	15.4
8	1	0	15	14.2	80.8	8	13	5.7	18.8	0	0	2.6	18.0
	2	0	15	10.7	91.5	8	21	7.8	26.6	4	4	3.6	21.6
	3	0	15	5.5	97.0	8	29	3.8	30.4	3	7	4.1	25.7
	4	3	18	3.9	100.9	8	37	2.4	32.8	1	8	3.3	29.0
	5	0	18	7.5	108.4	2	39	2.6	35.4	2	10	3.5	32.5
	6	0	18	14.7	123.1	0	39	2.2	37.6	1	11	6.5	39.0
9	1	10	28	12.2	135.3								
	2	11	39	8.0	143.3								
	3	9	48	3.6	146.9								
	4	2	50	0.9	147.8								
	5	1	51	0.5	148.3								
	6	1	52	0.2	148.5								

越冬世代

第1世代



・表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。

・平年値はH26～R5の10年間の平均値。

エ 一般ほ場における調査

(ア) すくい取りおよび払い落とし調査

a ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ（越冬量調査）

(頭)

		害虫名 月日	ツマグロヨコバイ			ヒメトビウンカ		
			成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
調 査 地 点 名			3/27～4/2					
大 津 市	関 津	0	0	0	0	3	3	
	和 邇 今 宿	0	0	0	0	0	0	
草 津 市	下 笠 町	0	0	0	0	0	0	
守 山 市	笠 原 町	0	0	0	0	0	0	
栗 東 市	下 砥 山	0	0	0	0	0	0	
野 洲 市	西 河 原	0	2	2	0	0	0	
湖 南 市	岩 根	0	0	0	4	1	5	
甲 賀 市	水 口 町 山	0	0	0	1	0	1	
	甲 賀 町 滝	0	0	0	1	0	1	
	信 楽 町 黄 瀬	0	0	0	0	0	0	
近 江 八 幡 市	水 荃 町	2	0	2	3	0	3	
	安 土 町 大 中	0	2	2	0	0	0	
日 野 町	十 禅 師	0	0	0	0	0	0	
竜 王 町	小 口	1	0	1	6	1	7	
東 近 江 市	林 田 町	0	1	1	0	0	0	
	川 合 町	0	3	3	2	1	3	
	石 谷 町	0	0	0	0	0	0	
	五 個 荘 平 阪 町	0	3	3	0	0	0	
	栗 見 新 田 町	0	0	0	0	0	0	
	鯰 江 町	0	0	0	0	0	0	
彦 根 市	新 海 町	0	0	0	3	3	6	
愛 荘 町	東 円 堂	0	0	0	1	0	1	
甲 良 町	法 養 寺	0	0	0	11	1	12	
多 賀 町	土 田	0	0	0	0	0	0	
米 原 市	入 江	0	0	0	0	0	0	
	上 多 良	0	0	0	0	0	0	
	本 市 場	0	0	0	1	1	2	
長 浜 市	永 久 寺 町	0	1	1	0	0	0	
	湯 次 町	0	2	2	0	0	0	
	早 崎 町	1	6	7	0	0	0	
	高 月 町 柳 野 中	0	0	0	0	0	0	
	余 呉 町 坂 口	0	3	3	1	0	1	
高 島 市	マ キ ノ 町 知 内	0	0	0	0	0	0	
	今 津 町 上 弘 部	0	0	0	0	3	3	
	新 旭 町 北 畑	0	0	0	0	0	0	
	安 曇 川 町 北 船 木	0	1	1	0	0	0	

すくい取り：1地点 50回振 合計虫数

b セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

調査地点名		害虫名	セジロウンカ			トビイロウンカ			ヒメトビウンカ		ツマグロヨコバイ		(頭)
			すくい取り		払落	すくい取り		払落	すくい取り		すくい取り		払落
			7/8	8/7~8	8/7~8	7/8	8/7~8	8/7~8	7/8	8/7~8	7/8	8/7~8	6/24
			調査方法	調査月日									
大津市	関津		2	7	0	0	0	0	8	86	1	9	0
	和邇今宿		0	1	0	0	0	0	1	103	0	115	0
草津市	下笠町		2	0	0	0	0	0	20	1119	4	1018	0
守山市	赤野井町		12	0	0	0	0	0	47	503	0	4	0
栗東市	上砥山		1	6	0	0	0	0	8	1885	0	1	0
野洲市	上屋		0	19	0	0	0	0	2	1019	0	26	0
湖南市	岩根		1	50	0	0	0	0	59	1528	0	0	0
甲賀市	水口町山		3	0	1	0	0	0	2	136	0	0	0
	甲賀町滝		5	0	1	0	0	0	2	75	0	0	0
	信楽町黄瀬		1	12	1	0	0	0	18	569	0	0	0
近江八幡市	野村町		0	1	0	0	0	0	5	189	0	0	0
	安土町大中		4	8	1	0	0	0	48	36	14	20	0
日野町	十禅師		0	16	3	0	0	0	1	711	6	308	0
竜王町	小口		2	0	0	0	0	0	12	82	0	0	0
東近江市	林田町		4	113	0	0	0	0	33	751	3	0	0
	川合町		4	5	2	0	0	0	7	467	0	0	0
	石谷町		6	5	0	0	0	0	30	144	4	4	0
	五個荘平阪町		1	46	25	0	0	0	25	272	4	18	0
	栗見新田町		13	1	1	0	0	0	337	226	0	0	0
	鯉江町		1	0	0	0	0	0	45	311	3	0	0
彦根市	新海町		18	11	7	0	0	0	64	311	0	2	0
愛荘町	東円堂		0	6	0	0	0	0	32	527	1	37	0
甲良町	法養寺		0	5	0	0	0	0	17	112	0	0	0
多賀町	土田		4	4	0	0	0	0	39	172	0	0	0
米原市	本市場		0	0	0	0	0	0	8	197	0	0	0
	入江		0	20	1	0	0	0	5	23	0	5	0
	西円寺		0	0	0	0	0	0	5	34	0	4	0
長浜市	永久寺町		0	0	0	0	0	0	9	10	0	11	0
	湯次町		0	0	0	0	0	0	4	47	0	140	0
	早崎町		2	10	15	0	0	0	14	84	0	31	0
	高月町柳野中		3	7	8	0	0	0	24	31	0	9	0
	余呉町坂口		0	9	2	0	0	0	14	84	0	15	0
高島市	マキノ町知内		0	3	0	0	0	0	3	56	0	0	0
	今津町上弘部		2	9	1	0	0	0	1	24	0	1	0
	安曇川町北船木		3	0	0	0	0	0	1	41	0	0	0
	新旭町北畑		0	3	0	0	0	0	3	19	0	6	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

払い落とし：1地点 1筆5株 5筆25株 合計虫数（成幼合計）

c 斑点米カメムシ類（7月11日基準調査）

(頭)

調査地点名		調査月日 調査場所 害虫名	7/8										
			本田					畦畔					
			ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ
大津市	関津	0	0	0	0	0	0	3	1	0	7	0	1
	和邇今宿	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	5	0	1	89	3	9
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	1	0	0	4	0	0	19	0	22
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0	1	0	3	3	0	6
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0	41	0	4	73	3	5
甲賀市	水口町山	0	0	0	1	0	3	2	4	0	1	0	0
	甲賀町滝	0	0	1	0	0	0	0	4	0	7	0	3
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	1
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0	13	0	0	63	0	1
	安土町大中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	20	7
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2159	0	4
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	7	0	0	1	0	0
	川合町	0	0	0	0	0	0	2	0	0	617	5	6
	石谷町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0	20	1	2	184	15	1
	栗見新田町	0	0	0	1	0	0	0	0	3	104	0	9
	鯉江町	0	0	0	0	0	1	11	0	0	170	2	8
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	2	1	0	0	15	0	1	3	0	1
甲良町	法養寺	0	0	3	0	0	0	61	0	3	1144	13	11
多賀町	土田	0	1	0	0	0	0	10	30	1	89	37	197
米原市	本市場	0	0	1	0	0	0	8	1	0	69	13	1
	入江	0	0	0	0	0	0	10	0	1	0	0	3
	西円寺	0	0	0	0	0	0	0	1	0	11	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	1	0	0	0	2	0	1	183	21	1
	湯次町	0	0	0	0	0	0	6	4	3	12	0	5
	早崎町	0	0	0	0	0	0	11	0	0	121	0	5
	高月町柳野中	0	0	0	1	0	1	3	0	0	67	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	9	4	182	0	0
高島市	マキノ町知内	1	0	1	0	0	0	12	0	0	131	28	4
	今津町上弘部	1	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	4
	安曇川町北船木	1	0	0	0	0	0	5	0	1	5	0	5
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	2	0	0	21	0	2

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

d 斑点米カメムシ類（糊熟期調査）

(頭)

調査月日 イネの生育ステージ 調査地点名		8/7～8					
		糊熟期					
		ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
大津市	関津	0	0	0	11	0	0
	和邇今宿	1	2	0	1	0	2
草津市	下笠町	1	1	4	0	0	7
守山市	赤野井町	0	0	1	0	0	1
栗東市	上砥山	1	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	2	0	11	1	0	1
湖南市	岩根	1	1	0	2	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	0	1	0	0	0	3
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	4
近江八幡市	野村町	10	0	0	0	0	9
	安土町大中	0	0	0	0	0	0
日野町	十禅師	1	0	3	1	0	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	0	0	1	0	0	1
	川合町	0	0	0	0	0	0
	石谷町	0	0	2	4	0	0
	五個荘平阪町	1	0	0	2	1	0
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	1	0	2	0	0	1
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	21	0	1
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	3
多賀町	土田	0	0	0	0	0	1
米原市	本市場	0	0	0	4	0	1
	入江	0	0	0	2	0	0
	西円寺	0	1	0	1	0	2
長浜市	永久寺町	1	1	0	16	0	1
	湯次町	0	0	0	4	0	1
	早崎町	0	0	0	1	0	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	1	0	7	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	1	1	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	1	0	0	1	0	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

e コバネイナゴ、クサキリ、ササキリ

調査月日 調査場所 調査地点名		7/8						(頭)
		本田			畦畔			8/7~8
		コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	本田
害虫名		コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ
大 津 市	関 津	0	0	33	0	0	5	0
	和 邇 今 宿	0	0	0	1	0	0	0
草 津 市	下 笠 町	1	0	1	0	2	0	0
守 山 市	赤 野 井 町	0	0	0	0	0	0	0
栗 東 市	上 砥 山	0	0	1	0	1	0	1
野 洲 市	上 屋	6	0	0	2	0	8	3
湖 南 市	岩 根	10	0	0	0	0	0	2
甲 賀 市	水 口 町 山	0	0	2	1	0	0	1
	甲 賀 町 滝	27	0	1	2	1	1	2
	信 楽 町 黄 瀬	9	0	1	0	0	1	4
近 江 八 幡 市	野 村 町	0	0	0	0	1	2	0
	安 土 町 大 中	5	0	0	0	0	0	0
日 野 町	十 禅 師	5	0	0	0	0	0	26
竜 王 町	小 口	0	0	1	0	0	0	0
東 近 江 市	林 田 町	2	0	1	0	1	6	0
	川 合 町	2	0	1	2	0	1	1
	石 谷 町	43	0	2	1	0	3	9
	五 個 荘 平 阪 町	15	0	2	31	0	1	6
	栗 見 新 田 町	1	0	0	5	0	0	0
	鯉 江 町	0	0	0	0	0	2	1
彦 根 市	新 海 町	1	0	0	0	0	3	0
愛 荘 町	東 円 堂	10	0	0	6	0	7	0
甲 良 町	法 養 寺	0	0	1	1	0	0	0
多 賀 町	土 田	0	1	0	1	0	2	0
米 原 市	本 市 場	0	0	0	0	0	0	0
	入 江	0	0	0	0	0	0	0
	西 円 寺	1	0	0	0	0	0	0
長 浜 市	永 久 寺 町	0	0	0	0	0	0	0
	湯 次 町	7	0	5	0	0	1	0
	早 崎 町	2	0	0	0	0	0	0
	高 月 町 柳 野 中	2	0	3	0	0	1	0
	余 呉 町 坂 口	1	0	0	0	0	0	2
高 島 市	マ キ ノ 町 知 内	2	0	0	1	0	0	0
	今 津 町 上 弘 部	1	0	0	0	0	0	0
	安 曇 川 町 北 船 木	2	0	0	0	0	0	0
	新 旭 町 北 畑	2	0	0	0	0	1	0

1 地点 1 筆10回 5 筆50回振 合計虫数 (成幼合計)

(イ) 発生量調査

a 地点別調査結果

病害虫名 調査地点名		葉いもち		穂いもち		紋 枯 病		もみ枯細菌病		白葉枯病	
		発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病穂率	発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病株率	発 生 ほ場率	平 均 発病度
大 津 市	関 津	0	0	20	0.04	20	0.2	0	0	0	0
	和 邇 今 宿	100	5.8	100	7.07	60	13.8	0	0	0	0
草 津 市	下 笠 町	20	0.2	40	0.08	80	0.8	0	0	0	0
守 山 市	赤 野 井 町	20	0.2	40	0.08	60	0.8	0	0	0	0
栗 東 市	上 砥 山	20	0.2	40	0.08	40	0.6	0	0	0	0
野 洲 市	上 屋	80	3.0	100	0.38	100	1.8	0	0	0	0
湖 南 市	岩 根	20	0.2	20	0.04	100	4.8	0	0	0	0
甲 賀 市	水 口 町 山	40	0	60	0.12	20	0.2	0	0	0	0
	甲 賀 町 滝	80	1.6	60	0.16	20	0.2	0	0	0	0
	信 楽 町 黄 瀬	20	0	40	0.09	100	2.2	0	0	0	0
近江八幡市	野 村 町	0	0	40	0.08	60	0.6	0	0	0	0
	安 土 町 大 中	40	0.6	60	0.13	80	4.0	0	0	0	0
日 野 町	十 禅 師	100	3.0	40	0.14	60	13.4	0	0	0	0
竜 王 町	小 口	100	1.0	100	0.21	100	4.4	0	0	0	0
東 近 江 市	林 田 町	0	0	60	0.23	60	5.0	0	0	0	0
	川 合 町	100	1.2	100	0.30	80	2.8	20	0.2	0	0
	石 谷 町	0	0	20	0.04	40	1.8	0	0	0	0
	五 個 荘 平 阪 町	0	0	20	0.04	100	15.4	0	0	0	0
	栗 見 新 田 町	60	0.8	20	0.04	20	4.6	0	0	0	0
	鯉 江 町	40	0.4	60	0.14	40	0.6	0	0	0	0
彦 根 市	新 海 町	0	0	0	0	80	4.4	0	0	0	0
愛 荘 町	東 円 堂	60	0.6	60	0.16	40	1.6	20	0.2	0	0
甲 良 町	法 養 寺	0	0	20	0.04	100	12.8	0	0	0	0
多 賀 町	土 田	0	0	20	0.04	60	4.0	0	0	0	0
米 原 市	本 市 場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入 江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	西 円 寺	0	0	0	0	60	1.2	0	0	0	0
長 浜 市	永 久 寺 町	0	0	40	0.18	20	0.6	0	0	0	0
	湯 次 町	0	0	40	0.30	60	1.0	0	0	0	0
	早 崎 町	0	0	40	0.14	100	5.6	0	0	0	0
	高 月 町 柳 野 中	0	0	20	0.04	80	4.4	0	0	0	0
	余 呉 町 坂 口	0	0	20	0.04	100	10.0	0	0	0	0
高 島 市	マ キ ノ 町 知 内	0	0	20	0.03	40	0.6	0	0	0	0
	今 津 町 上 弘 部	20	0.2	100	0.80	100	3.2	0	0	0	0
	安 曇 川 町 北 船 木	40	0.4	40	0.10	40	0.6	0	0	0	0
	新 旭 町 北 畑	20	0.2	40	0.10	40	1.4	0	0	0	0

1 地点 5 筆調査。発生ほ場率 (%) は、5 筆中に対象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1 筆あたり25株の発病度を調査し、5 筆の平均を算出したもの。

平均発病穂 (株) 率 (%) は、1 筆あたり25株を調査して発病穂 (株) 率を求め、5 筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準 (令和5年農林水産省消費・安全局植物防疫課) に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名	病害虫名	ごま葉枯病		稲こうじ病		ばか苗病		黄萎病（立毛中）		黄萎病（再生芽）	
		発生 ほ場率	平均 発病度	発生 ほ場率	平均発 病株率	発生 ほ場率	平均発 病株率	発生 ほ場率	平均発 病株率	発生 ほ場率	平均発 病株率
大津市	関津	80	9.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	和邇今宿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	60	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	40	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	信楽町黄瀬	40	6.2	0	0	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	80	13.8	0	0	0	0	0	0	0	0
日野町	十禅師	60	6.0	0	0	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	80	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	40	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	川合町	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	石谷町	100	13.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	100	6.4	60	3.2	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	80	13.6	0	0	0	0	0	0	0	0
彦根市	新海町	20	4.0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高月町柳野中	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1 地点 5 筆調査。発生ほ場率（％）は、5 筆中に対象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1 筆あたり 25 株の発病度を調査し、5 筆の平均を算出したもの。

平均発病株率（％）は、1 筆あたり稲こうじ病で 50 株、ばか苗病で 100 株、黄萎病（立毛中）で 25 株、黄萎病（再生芽）で 400 株を調査して発病株率を求め、5 筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（令和 5 年農林水産省消費・安全局植物防疫課）に従った。

地点別調査結果（つづき）

調 査 地 点 名		病害虫名	縞葉枯病(立毛中)		縞葉枯病(再生芽)		イネミズゾウムシ		イネドロオイムシ	
			発 生 ほ場率	平均発 病株率	発 生 ほ場率	平均発 病株率	発 生 ほ場率	平 均 被害度	発 生 ほ場率	平 均 被害度
大 津 市	関 津	60	2.4	80	3.8	80	2.6	0	0	
	和 邇 今 宿	0	0	80	0.2	100	9.4	100	1.8	
草 津 市	下 笠 町	80	4.0	100	4.0	60	0.6	0	0	
守 山 市	赤 野 井 町	60	2.4	100	10.9	100	2.6	0	0	
栗 東 市	上 砥 山	100	4.8	100	11.0	80	2.8	80	3.2	
野 洲 市	上 屋	60	2.4	100	3.4	60	0.8	0	0	
湖 南 市	岩 根	100	8.0	100	58.0	0	0	0	0	
甲 賀 市	水 口 町 山	0	0	100	2.6	80	0.8	100	1.4	
	甲 賀 町 滝	40	1.6	80	1.3	100	10.4	80	1.4	
	信 楽 町 黄 瀬	20	0.8	100	5.5	60	1.0	80	1.2	
近江八幡市	野 村 町	0	0	100	2.9	100	3.0	0	0	
	安 土 町 大 中	40	1.6	100	19.2	20	2.0	0	0	
日 野 町	十 禅 師	20	0.8	40	0.3	60	16.0	0	0	
竜 王 町	小 口	80	4.0	100	44.9	20	0.2	0	0	
東 近 江 市	林 田 町	40	1.6	100	1.7	60	2.6	0	0	
	川 合 町	40	1.6	100	12.7	60	1.0	0	0	
	石 谷 町	0	0	40	0.4	40	0.6	0	0	
	五 個 荘 平 阪 町	100	4.0	100	1.4	80	22.8	0	0	
	栗 見 新 田 町	100	4.0	100	11.6	60	0.8	0	0	
	鯉 江 町	100	4.0	100	1.4	80	23.6	0	0	
彦 根 市	新 海 町	100	4.0	100	9.1	60	0.8	0	0	
愛 荘 町	東 円 堂	100	4.0	100	33.7	100	1.4	0	0	
甲 良 町	法 養 寺	40	1.6	100	11.1	100	9.2	0	0	
多 賀 町	土 田	80	3.2	100	7.3	60	2.0	0	0	
米 原 市	本 市 場	80	3.2	60	0.5	40	1.4	0	0	
	入 江	0	0	100	1.0	40	1.0	0	0	
	西 円 寺	0	0	60	0.6	80	9.8	0	0	
長 浜 市	永 久 寺 町	20	0.8	40	0.3	20	0.2	0	0	
	湯 次 町	0	0	60	0.4	100	9.2	0	0	
	早 崎 町	0	0	80	0.6	80	0.8	0	0	
	高月町柳野中	20	0.8	80	0.4	80	2.2	0	0	
	余 呉 町 坂 口	0	0	0	0	40	0.6	0	0	
高 島 市	マキノ町知内	0	0	20	0.1	100	14.8	0	0	
	今津町上弘部	0	0	80	0.2	80	16.6	0	0	
	安曇川町北船木	60	2.4	100	2.0	40	2.8	20	0.2	
	新旭町北畑	0	0	60	0.3	80	16.6	0	0	

1 地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中に対象病害虫が発生した筆数より算出。

平均発病株率（％）は、1筆あたり縞葉枯病（立毛中）で25株、縞葉枯病（再生芽）で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

平均被害度は、1筆あたり25株の被害度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

被害度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（令和5年農林水産省消費・安全局植物防疫課）に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名		ニカメイガ(Ⅰ)		ニカメイガ(Ⅱ)		イチモンジセセリ	コブノメイガ		イネクロカメムシ
				発生 ほ場率	平均被害 株率	発生 ほ場率	平均被害 株率	発生 ほ場率	発生 ほ場率	平均被害 株率	発生 ほ場率
大津市	関津			20	0.8	0	0	0	0	0	0
	和邇今宿			20	0.8	20	0.8	0	20	0.8	0
草津市	下笠町			100	10.4	60	4.8	0	0	0	0
守山市	赤野井町			100	11.2	60	4.8	0	20	0.8	0
栗東市	上砥山			80	3.2	40	1.6	0	0	0	0
野洲市	上屋			80	3.2	100	4.8	0	40	1.6	0
湖南市	岩根			60	2.4	80	3.2	0	40	1.6	0
甲賀市	水口町山			60	2.4	0	0	100	0	0	0
	甲賀町滝			40	1.6	80	4.0	100	0	0	0
	信楽町黄瀬			20	0.8	40	1.6	0	0	0	0
近江八幡市	野村町			80	3.2	40	1.6	0	40	1.6	0
	安土町大中			20	2.4	100	4.0	0	0	0	0
日野町	十禅師			0	0	80	7.2	0	0	0	0
竜王町	小口			20	0.8	60	2.4	0	60	2.4	0
東近江市	林田町			40	1.6	80	3.2	0	0	0	0
	川合町			20	1.6	60	2.4	0	40	1.6	0
	石谷町			0	0	40	1.6	0	0	0	0
	五個荘平阪町			40	1.6	60	2.4	0	0	0	0
	栗見新田町			40	1.6	60	2.4	0	0	0	0
	鯉江町			100	13.6	80	4.8	20	0	0	0
彦根市	新海町			0	0	20	1.6	0	80	3.2	0
愛荘町	東円堂			80	3.2	20	0.8	0	0	0	0
甲良町	法養寺			0	0	80	4.8	0	20	0.8	0
多賀町	土田			0	0	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場			20	0.8	0	0	0	0	0	0
	入江			0	0	60	2.4	20	100	5.6	0
	西円寺			80	3.2	40	1.6	0	0	0	0
長浜市	永久寺町			0	0	20	0.8	0	0	0	0
	湯次町			80	3.2	20	0.8	0	0	0	0
	早崎町			0	0	40	1.6	0	0	0	0
	高月町柳野中			0	0	40	1.6	0	40	1.6	0
	余呉町坂口			20	0.8	20	0.8	0	20	1.6	0
高島市	マキノ町知内			40	1.6	20	0.8	20	20	0.8	0
	今津町上弘部			0	0	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木			60	2.4	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑			40	1.6	0	0	0	0	0	0

1 地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中に対象害虫が発生した筆数より算出。

平均被害株率（％）は、1筆あたり25株を調査して被害株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

b 地域別集計表

病害虫名	葉 い も ち				穂 い も ち				紋 枯 病			
	発 病 度		ほ 場 率(%)		発病穂率(%)		ほ 場 率(%)		発 病 度		ほ 場 率(%)	
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年
大 津 南 部	1.6		1.6		40.0		36.5		1.3		0.4	
甲 賀	0.6		1.3		40.0		29.3		0.1		1.0	
東 近 江	0.7		1.8		44.0		26.0		0.1		0.8	
湖 東	0.2		0.7		15.0		15.7		0.1		0.2	
湖 北	0		0.4		0		14.7		0.1		0.4	
高 島	0.2		0.6		20.0		34.5		0.3		0.6	
全 県	0.6		1.1		27.2		25.4		0.3		0.6	

病害虫名	もみ枯細菌病				白 葉 枯 病				ご ま 葉 枯 病			
	発病株率(%)		ほ 場 率(%)		発 病 度		ほ 場 率(%)		発 病 度		ほ 場 率(%)	
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年
大 津 南 部	0		—		0		0.0		0		2.4	
甲 賀	0		—		0		1.3		0		8.2	
東 近 江	0.1		—		2.0		—		0		4.2	
湖 東	0.2		—		5.0		—		0		0	
湖 北	0		—		0		0.0		0		0.5	
高 島	0		—		0		0		0		0	
全 県	0.0		—		1.1		—		0		0.4	

病害虫名	稲こうじ病				ばか苗病				黄 萎 病 (立毛中)			
	発病株率(%)		ほ 場 率(%)		発病株率(%)		ほ 場 率(%)		発病株率(%)		ほ 場 率(%)	
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年
大 津 南 部	0		0.0		0		—		0		0	
甲 賀	0		0.1		0		—		0		0	
東 近 江	0.3		0.4		6.0		6.0		0		0	
湖 東	0		0		0		—		0		0	
湖 北	0		0.3		0		—		0		0	
高 島	0		0.0		0		—		0		0	
全 県	0.1		0.2		1.7		3.0		0		0	

病害虫名	黄 萎 病 (再生芽)				縞葉枯病 (立毛中)				縞葉枯病 (再生芽)			
	発病株率(%)		ほ 場 率(%)		発病株率(%)		ほ 場 率(%)		発病株率(%)		ほ 場 率(%)	
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年
大 津 南 部	0		0		0		0.3		2.7		—	
甲 賀	0		0.0		0		1.2		2.6		—	
東 近 江	0		0.0		0		0.4		2.2		—	
湖 東	0		0		0		0		3.2		—	
湖 北	0		0.0		0		0.9		0.6		—	
高 島	0		0.0		0		0.5		0.6		—	
全 県	0		0.0		0		0.5		1.9		—	

病害虫名	イネミズゾウムシ				イネドロオイムシ				ニカメイガ第1世代			
	被 害 度		ほ 場 率(%)		被 害 度		ほ 場 率(%)		被害株率(%)		ほ 場 率(%)	
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年
大 津 南 部	3.1		9.7		80.0		83.9		0.8		0.4	
甲 賀	3.1		6.1		60.0		68.7		1.0		1.3	
東 近 江	7.3		8.7		58.0		73.4		0		0.1	
湖 東	3.4		6.3		80.0		81.3		0		0.0	
湖 北	3.2		9.3		60.0		69.8		0		0.2	
高 島	12.7		21.1		75.0		96.0		0.1		0.1	
全 県	5.4		9.7		66.7		77.2		0.3		0.3	

病害虫名	ニカメイガ第2世代				イチモンジセセリ				コブノメイガ			
	被害株率(%)		ほ 場 率(%)		ほ 場 率(%)		被害株率(%)		ほ 場 率(%)		ほ 場 率(%)	
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年
大 津 南 部	2.8		2.9		46.7		54.5		0		8.3	
甲 賀	2.2		1.8		50.0		44.3		50.0		6.4	
東 近 江	3.2		3.2		66.0		65.0		2.0		8.4	
湖 東	1.8		2.9		30.0		64.7		0		6.8	
湖 北	1.2		3.2		30.0		74.7		2.5		8.5	
高 島	0.2		2.6		5.0		63.5		5.0		7.0	
全 県	2.1		2.9		42.2		62.8		7.2		7.8	

発病度および被害度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（令和5年農林水産省消費・安全局植物防疫課）に従った。
もみ枯細菌病、ばか苗病、縞葉枯病（立毛中）は平成28年度から調査開始のため平年値なし。

c 精密調査ほ調査結果

調査地点名		害虫名	斑点米カメムシ類(頭)		斑点米被害率(%)				
			畦畔発生量	本田発生量	標準斑点米	黒触粒	尻黒粒	基部加害型	合計
		時期	7月8日	8月7～8日	収穫後				
大津市	関津		12	11	0.49	0.62	0.09	0.13	1.33
	和邇今宿		12	6	0.07	0.01	0	0	0.08
草津市	下笠町		107	13	0.34	0.17	0.01	0.01	0.54
守山市	赤野井町		1	2	0.13	0.05	0	0	0.18
栗東市	上砥山		45	1	0.04	0.03	0	0.01	0.08
野洲市	上屋		13	15	0.04	0.03	0.04	0.01	0.12
湖南市	岩根		126	4	0	0.13	0.01	0	0.14
甲賀市	水口町山		7	0	0.01	0	0	0.05	0.07
	甲賀町滝		14	4	0.76	0.49	0.07	1.37	2.68
	信楽町黄瀬		8	4	0.04	0.04	0.07	0.09	0.24
近江八幡市	野村町		77	19	0.32	0.26	0.07	0	0.64
	安土町大中		61	0	0.13	0.33	0.05	0	0.51
日野町	十禅師		2165	5	0.04	0.42	0.03	0	0.49
竜王町	小口		4	0	0.04	0.01	0	0	0.05
東近江市	林田町		8	2	0.08	0.04	0.01	0	0.13
	川合町		630	0	0.01	0.05	0	0	0.07
	石谷町		7	6	0.11	0.01	0.07	0.09	0.28
	五個荘平阪町		223	4	0.05	0.28	0	0	0.33
	栗見新田町		116	0	0	0	0.01	0	0.01
	鯉江町		191	4	0.04	0.05	0.04	0.03	0.16
彦根市	新海町		0	0	0.01	0.03	0	0	0.04
愛荘町	東円堂		20	22	1.48	2.86	0.46	0	4.81
甲良町	法養寺		1232	3	0	0.08	0.03	0	0.11
多賀町	土田		364	1	0	0.28	0.11	0	0.38
米原市	本市場		92	5	0.12	0.17	0.01	0	0.30
	入江		14	2	0.04	0.01	0.04	0.01	0.11
	西円寺		12	4	0.03	0.04	0	0	0.07
長浜市	永久寺町		208	19	0	0.05	0.01	0	0.07
	湯次町		30	5	0.01	0.24	0.01	0	0.26
	早崎町		137	1	0.03	0.04	0	0	0.07
	高月町柳野中		70	0	0.03	0	0	0	0.03
	余呉町坂口		195	8	0.07	0.25	0.08	0	0.39
高島市	マキノ町知内		175	0	0.01	0.01	0.01	0	0.04
	今津町上弘部		8	2	0.08	0.11	0.05	0.04	0.28
	安曇川町北船木		16	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑		25	2	0	0.11	0.01	0	0.12

調査は捕虫網50回振り、本田発生量の－は出穂していなかったことを示す。
 斑点米被害率は畦畔沿いにサンプリングした100穂の全粒から求めた値。なお各斑点米被害率の値は四捨五入をしているため、それらの合計が、合計欄の値と合致しない場合がある。

d 水稲病害虫発生量調査地点配置図（36か所）



オ 初発見月日と初発見場所

病 害 名	初発見 月 日	初 発 見 場 所	害 虫 名	初発見 月 日	初 発 見 場 所
葉いもち(置苗)	5/15	東近江市きぬがさ町	ニ カ メ イ ガ	6/10	草津市下笠町 (L)
葉 い も ち	6/24	東近江市きぬがさ町		7/31	守山市赤野井町 (L)
穂 い も ち	7/29	大津市和邇今宿	セ ジ ロ ウ ン カ	6/23	近江八幡市安土町大中 (A)
紋 枯 病	6/24	甲良町法養寺	ト ビ イ ロ ウ ン カ	—	—
白 葉 枯 病	7/29	東近江市石谷町	ヒ メ ト ビ ウ ン カ	4/6	近江八幡市安土町大中 (A)
ば か 苗 病	6/10	長浜市落合町	ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ	4/6	大津市里 (A)
もみ枯細菌病	8/7	愛荘町東円堂	イ ネ ド ロ オ イ ム シ	5/27	甲賀市水口町山 (A)
ごま葉枯病	8/6	日野町十禅師	イ ネ ク ロ カ メ ム シ	6/10	近江八幡市下豊浦 (A)
縞 葉 枯 病	6/10	草津市下笠町	ホ ソ ハ リ カ メ ム シ	5/12	大津市里 (A)
黄 萎 病	—	—	ク モ ヘ リ カ メ ム シ	6/24	近江八幡市野村町
稲 こう じ 病	9/12	東近江市五個荘平阪町	ト ゲ シ ラ ホ シ カ メ ム シ	7/10	甲賀市滝 (A)
注：「—」は発生が認められなかった。			ア カ ス ジ カ ス ミ カ メ	5/14	大津市里 (A)
			アカヒゲホソミドリカスミカメ	5/26	守山市矢島 (A)
			イ ネ カ メ ム シ	6/12	大津市里 (A)
			イ チ モ ン ジ セ セ リ	6/10	草津市下笠町 (L)
			フ タ オ ビ コ ヤ ガ	7/3	湖南市岩根 (L)
			コ ブ ノ メ イ ガ	7/15	大津市関津 (L)
			イ ネ ミ ズ ゾ ウ ム シ	5/8	近江八幡市野村町 (A)
			コ バ ネ イ ナ ゴ	5/20	高島市今津町上弘部 (L)
			ス ク ミ リ ン ゴ ガ イ	5/2	近江八幡市野村町
注：初発見場所（ ）内 A：成虫、L：幼虫					
注：「—」は発生が認められなかった。					

カ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培 面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生 面積率 (%)	被害 面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
イ ネ	30,600	葉 い も ち	0	0	100	8200	8300	27.4	0.3	14000	14000
		穂 い も ち	0	0	200	12500	12700	41.5	0.7	8000	8000
		紋 枯 病	0	0	1400	17000	18400	60.1	4.6	5000	5000
		白 葉 枯 病	0	0	0	50	50	0.2	0	6000	6000
		ば か 苗 病	0	0	0	200	200	0.7	0.0	9000	9000
		もみ枯細菌病	0	0	0	300	300	1.0	0	5000	5000
		ごま葉枯病	0	0	1000	6300	7300	23.9	3.3	4000	4000
		縞 葉 枯 病	0	0	1000	12000	13000	42.5	3.3	—	—
		黄 萎 病	0	0	0	0	0	0	0	—	—
		稲 こう じ 病	0	0	100	400	500	1.6	0.3	1000	1000
		ニカメイガⅠ	0	0	50	11550	11600	37.9	0.2	12700	12700
		ニカメイガⅡ	0	0	0	12900	12900	42.2	0	5300	5300
		セジロウンカ	0	0	200	21000	21200	69.3	1	30000	31000
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0	0	0	30000	30000
		ヒメトビウンカ	0	1500	5300	23000	29800	97.4	22.2	30000	32000
		ツマグロヨコバイ	0	100	1000	14500	15600	51.0	3.6	30000	30000
		イネドロオイムシ	0	0	0	4000	4000	13.1	0	12000	12000
		イネクロカメムシ	0	0	0	200	200	0.7	0.0	650	650
		斑点米カメムシ類	10	1000	5700	16000	22710	74.2	22	30000	31000
		イチモンジセセリ	0	0	0	2000	2000	6.5	0	5500	5500
		フタオビコヤガ	0	0	0	300	300	1.0	0	12700	12700
		コブノメイガ	0	0	100	4500	4600	15.0	0.3	0	0
		イネミズゾウムシ	0	300	1500	18500	20300	66.3	5.9	15400	15400
		コバネイナゴ	0	10	1500	18000	19510	63.8	4.9	9150	9150
		スクミリンゴガイ	0	0	5	77	82	0.3	0.0	37	38

注：ニカメイガⅠ、Ⅱは第1世代、第2世代を指す

注：被害面積率＝(程度別発生面積の甚～中の和)／(栽培面積)×100

(2) ムギ（令和5年秋播き）

ア 生育概況

10月中下旬は降水量が少なく、ほ場準備は順調に進んだが、11月上旬中は降雨がやや多く、播種作業はやや遅れ気味となった。11月中下旬は気温が低く、出芽や初期成育は全体的に抑制された。1月から2月は気温が高い傾向が続き、年末までの生育抑制傾向は一転して、生育が旺盛となった。3月は低温となり生育は停滞気味となったが、4月の気温は平年より高く、生育が早まった。11月上旬播種の小麦では、出穂期は1日程度早まった。また、11月上旬播種の大麦では、出穂期は2日程度早まった。

その後、5月は気温が平年並～やや低く推移し、11月上旬播種の小麦の成熟期は1～4日程度早まった。11月上旬播種の大麦では1日早まった。5月に定期的に強雨があり、例年に比べて倒伏が目立った。また、県東部の一部では降雹があり、収穫皆無となる被害が見られた。

イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ムギ	さび病類	遅	少	コムギほ場での初発確認は5月8日と、発生時期はやや遅かった。オオムギでは発生が認められなかった。発生量は少なかった。	コムギでは、さび病類の耐病性が強い品種の作付面積が拡大したことから、全県の発生量が少なかった。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	うどんこ病	やや早	やや多	コムギほ場での初発確認は4月10日、オオムギほ場での初発確認は5月9日でコムギでは発生時期は早く、オオムギでは発生時期は遅かった。また、発生量はやや多かった。	暖冬により春先の生育が旺盛であったため、発生時期が早まった。また、3月以降、降水量は多く、感染に好適であった。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	早	多	コムギおよびオオムギほ場での初発確認は4月26日で、発生時期は早かった。全県的に発生が見られ（小麦赤かび病の発生ほ場率99%）、発生量は多かった。	前年の発生量は多く、伝染源が多かったと考えられる。また、コムギの開花期ごろである4月中旬以降、断続的に降雨があり、感染のタイミングが複数回あったと考えられる。さらに、新しく導入された品種の赤かび病抵抗性が弱く、全体の発生量が多くなった。	コムギでは、開花期頃から1～2回の薬剤防除。抵抗性弱品種については、2～3回の薬剤防除。オオムギでは、開花期ごろから2回の薬剤防除。麦類の開花時期が赤かび病の感染に好適な気象予報だったことから、4月23日に注意報を発表した。開花期に曇雨天が続いたほ場では、追加防除が実施された。
	黒節病	やや早	平年並	コムギおよびオオムギほ場での初発確認はいずれも3月11日で、発生時期はやや早かった。発生ほ場率は平年並であった。	暖冬により、3月ごろ時点での生育は旺盛であり、断続的に降雨が認められたことから、発生時期はやや早まった。常発地では、多～甚発生のは場も認められた。一方で、前年の麦類黒節病の発生量はやや少なかったことから、全県の発生量は平年並となった。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種的防除。

ウ 発生量調査

(ア) オオムギ

病害虫名 調査地点名		小さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
		発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
守山市	矢島町	0	0	0	0	100	1.1	100	1.6	0
近江八幡市	長田町	0	0	0	0	20	0.1	100	6.0	0
竜王町	岡屋	0	0	0	0	100	1.6	20	0.2	0
東近江市	建部北町	0	0	0	0	100	0.7	0	0	0
長浜市	高月町柳野中	0	0	20	0.6	100	0.8	0	0	0
長浜市	湖北町山本	0	0	40	0.2	80	0.5	0	0	0
長浜市	口分田町	0	0	0	0	100	0.8	40	0.6	0
高島市	今津町下弘部	0	0	0	0	100	0.7	0	0	0
高島市	新旭町蘆園	0	0	0	0	100	5.6	0	0	0
全 県 平 均		0	0	6.7	0.1	88.9	1.3	28.9	0.9	0

注：調査品種 近江八幡市長田町は「ニューサチホゴールデン」、守山市矢島町は「ダイシモチ」、
その他の地点は「ファイバースノウ」

(イ) コムギ

病害虫名 調査地点名		赤さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
		発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
大津市	関津	0	0	100	1.5	100	5.0	60	0.8	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	100	4.8	20	0.2	1
守山市	矢島町	0	0	80	0.2	100	2.0	40	0.4	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	100	3.8	60	0.6	0
野洲市	上屋	0	0	0	0	100	8.7	0	0	0
野洲市	野田	0	0	0	0	100	2.8	0	0	10
湖南市	菩提寺	0	0	0	0	100	6.0	60	1.0	0
甲賀市	水口町酒人	0	0	0	0	100	7.5	80	1.0	1
甲賀市	甲南町杉谷	0	0	0	0	100	8.7	20	0.2	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	80	1.1	60	1.2	0
近江八幡市	安土町上豊浦	0	0	40	0.1	100	7.2	0	0	0
近江八幡市	御所内町	0	0	0	0	100	11.7	20	1.0	2
近江八幡市	多賀町	0	0	0	0	100	7.6	40	0.6	0
近江八幡市	島町	0	0	0	0	100	9.6	80	7.0	0
日野町	十禅師	0	0	0	0	100	0.7	100	30.0	10
竜王町	小口	0	0	0	0	100	7.9	60	1.0	1
東近江市	横山町	0	0	0	0	100	1.2	40	1.6	0
東近江市	上羽田町	0	0	0	0	100	3.5	20	0.2	0
東近江市	福堂町	0	0	0	0	100	8.3	40	4.0	0
東近江市	高木町	20	0.1	0	0	100	7.9	40	0.6	0
東近江市	長町	0	0	0	0	100	3.8	20	0.2	0
彦根市	甘呂町	0	0	0	0	100	1.5	0	0	0
彦根市	普光寺町	0	0	0	0	100	2.8	80	4.2	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	100	1.3	60	8.4	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	100	0.7	60	4.0	0
多賀町	敏満寺	0	0	0	0	100	0.9	80	1.2	0
米原市	新庄	0	0	0	0	80	1.2	0	0	0
米原市	本市場	100	3.4	0	0	100	3.1	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0	100	0.7	60	0.6	0
長浜市	本庄町	0	0	0	0	100	2.1	80	2.2	0
全 県 平 均		4.0	0.1	7.3	0.1	98.7	4.5	42.7	2.4	0.8

注：調査品種

「びわほなみ」 大津市関津、栗東市上砥山、野洲市上屋、湖南市菩提寺、甲賀市水口町酒人、甲南町杉谷、
近江八幡市安土町上豊浦、御所内町、多賀町、島町、日野町十禅師、竜王町小口、東近江市上羽田町、福堂町、高木町、長町、
米原市新庄、本市場、世継、長浜市本庄町
「農林61号」 草津市下笠町
「ふくさやか」 東近江市横山、愛荘町東円堂、甲良町法養寺、多賀町敏満寺、彦根市普光寺町、甘呂町
「シロガネコムギ」 守山市矢島町
「ミナミノカオリ」 野洲市野田、近江八幡市野村町

エ 初発見日と初発見場所

病害虫名	オオムギ		コムギ	
	初発見月日	初発見場所	初発見月日	初発見場所
さび病類	—	—	5/8	守山市矢島町
うどんこ病	5/9	長浜市湖北町山本	4/10	彦根市普光寺町
赤かび病	4/26	近江八幡市長田町	4/26	近江八幡市長田町
黒節病	3/11	高島市今津町北脇	3/11	守山市赤野井町
株腐病	5/8	守山市矢島町	3/11	野洲市野田
縞萎縮病	—	—	2/19	東近江市新宮町
アブラムシ類	2/19	東近江市建部北町	2/19	東近江市新宮町
ハモグリバエ類	—	—	—	—
ムギダニ	—	—	—	—

注：「—」は発生を認めなかった。

オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ムギ	8495	さび病類	0	0	0	300	300	3.5	0	1500	2000
		うどんこ病	0	0	0	600	600	7.1	0	1700	2400
		赤かび病	0	50	2600	5500	8150	95.9	31	8495	18930
		黒節病	50	200	350	2750	3350	39.4	7.1	0	0

注：被害面積率＝（程度別発生面積の甚～中の和）／（栽培面積）×100

(3) ばれいしょ

ア 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ばれいしょ	疫病	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期、発生量はともに平年並であった。	黄色水盤での誘殺数は平年並で推移した。5月の気温・降水量は平年並で推移し、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	ニジュウヤホシテントウ類	平年並	やや少	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期は平年並であり、発生量はやや少なかった。	昨年の発生量は平年並であった。越冬期間の気温は高かったが、12月の一時的な低温により越冬量がやや抑制された。	食害が顕著になった場合のみ防除されている。

イ 発生量

	病害虫名		疫病	アブラムシ類
			発病度	寄生度
	調査地点		6月16日	6月16日
ばれいしょ	草津市	下笠町	0	0
	野洲市	小南	0	0
	湖南市	菩提寺	0	2
	近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
	彦根市	松原町	0	0
	甲良町	下之郷	0	0
	米原市	世継	0	2
	高島市今津町	深清水	0	0

ウ 初発見日と初発見場所

	病害虫名	初発見月日	初発見場所
ばれいしょ	疫病	-	-
	アブラムシ類	5月8日	草津市下笠町
	ニジュウヤホシテントウ類	5月8日	草津市下笠町

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ばれいしょ	30	疫病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	6	6	20.0	0	0	0
		ニジュウヤホシテントウ類	0	0	0	8	8	26.7	0	0	0

※被害面積率＝(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積) × 100

(4) ダイズ

ア 生育概況

6月17日の梅雨入り後、断続的に降雨があったため、は種作業は雨の合間での播種となり、播種作業の遅延や出芽不良が確認された。7月18日の梅雨明け以降は一転して降雨が少なく、8月上旬にかけて播種作業が進んだが、干ばつによる発芽不良が散見され、播種時期による生育の差が大きくなった。

7月下旬～10月は概ね高温少雨で推移し、干ばつ傾向が続いたため、一部ほ場では株枯れなどの干ばつ害が発生した。10月中旬頃から葉の黄化が始まったが、7月下旬～10月は気温が平年より高いことから、落葉が平年より遅れた。

作柄は、発芽不良や干ばつ等の影響により、一部のほ場では生育が不良であったことから、平成30年産と同様に収量・品質ともに低い見込みとなった。

病害虫は、8月下旬以降、ハスモンヨトウやタバコガ類等のチョウ目害虫およびミナミアオカメムシ等の吸実性カメムシ類の発生が多く見られた。

イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ダイズ	べと病	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は8月8日と、発生時期はやや遅く、発生量はやや少なかった。	7月以降、気温が高く推移し、7月下旬～8月中旬にかけては降水量も少なかったことから、本病の発生に抑制的だった。	本病への薬剤防除は未実施。
	葉焼病	遅	少	ほ場での初発確認は8月21日で、発生時期は遅く、発生量は過去10年で最も少なかった。	強風雨を伴う台風の接近がなかったため、本病の感染があまり起きなかった。	本病への薬剤防除は未実施。
	ハスモンヨトウ	遅	やや多	7月上中旬のフェロモントラップへの飛来量はやや少なく、下旬から飛来が増加した。ほ場での初発確認は8月7日と遅かった。ほ場での発生量は8月中旬は平年並であったが、9月中～下旬に増加しやや多くなった。	7月中旬までの降水量が多く、また、8月下旬に降水量が多くなり、発生が一時的に抑制された。9月の降水量は少なく、高温で推移し飛来が増加したため、発生量がやや多くなった。	8月下旬以降、1～2回の薬剤防除が実施されている。鱗翅目害虫の常発地では3～4回防除されることもある。
	タバコガ類	並	やや多	フェロモントラップへのオオタバコガの誘殺数は6月以降、タバコガは5月以降から多く推移した。ほ場でのタバコガ類の初発確認は7月29日で、発生時期は早く、発生量はやや多かった。	栽培期間を通して飛来量が多かった。播種時期の7月以降、9月まで高温が続き、本種の飛来および増殖に好適な条件となったと考えられる。	ハスモンヨトウと同時防除されることが多い。誘殺数が6月時点で多く、露地野菜で早期から被害果も確認されたことから、7月2日にタバコガ類を対象とした注意報を発出した。
	フタスジヒメハムシ	やや早	やや多	ほ場での初発確認は6月24日で、発生時期はやや早かった。一部で多発生・中発生ほ場も確認され、全体の発生量はやや多かった。	種子塗抹処理剤の利用が進んでおり、移植直後の発生は抑制されている。7月下旬から8月中旬まで高温寡雨の条件が続き、一部ほ場では結莢期の発生が増加した。	種子塗抹処理剤により初期防除されている。近年、この剤の残効が切れてからの被害が一部地域で発生している。このため、多発ほ場では結莢期にも一部防除が実施されている。
	カメムシ類	遅	多	ほ場での初発確認は8月17日で、発生時期は遅かった。9月の調査において、全体の発生量は多く、県南部～中部ではホンヘリカメムシが中発生、ミナミアオカメムシが多発生していたほ場があり、一部ほ場での発生量は多かった。	9月の気温は高く、降水量が少なかったため、活動や発生に好適な条件となった。また、個体数も多く、ほ場内で集中的に分布する傾向のあるミナミアオカメムシの発生地点が増加したことも、発生量が多くなった要因の一つである。	通常、開花期以降に薬剤散布により防除される。近年、ハスモンヨトウの発生量が多く、鱗翅目害虫に対する防除を実施した場合、カメムシの防除が省略される場合がある。
	アブラムシ類	－	少	ほ場での発生は認められなかった。	黄色水盤での誘殺数は平年並で推移した。有翅虫が飛来する7月中旬に強い降雨が複数回あったことから、飛来と増殖が少なく抑えられた。	種子塗抹処理剤による初期防除が行われている。
	ハダニ類	遅	多	ほ場での初発確認は7月31日と遅かったが、8月中旬～9月にかけての発生量は多かった。	7月下旬から8月中旬までの降水量が著しく少なく、さらに高温であったことから増殖に好適な条件となった。	甚発生した場合のみ防除が実施される。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。

ウ 発生量調査

(8月21～22日調査、開花期)

病害虫名 調査地点		べと病	葉焼病	カメムシ類	フタスジヒメハムシ	ハダニ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	発生ほ場率 (%)	虫 数 (頭/a)	虫 数 (頭/株)	発生株率 (%)	発生ほ場率 (%)
大津市	関津	0	0	0.5	0	5	100
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	100
守山市	木浜町	100	0	0	0.4	15	0
守山市	赤野井町	50	0	0	0.3	10	50
栗東市	上砥山	100	0	2.0	1.2	0	100
野洲市	野田	100	0	0	0	10	100
湖南市	菩提寺	0	0	0	0.5	5	0
甲賀市	水口町酒人	0	0	0	0	20	50
近江八幡市	野村町	0	0	0.5	0.0	20	50
近江八幡市	安土町大中	100	0	0.5	0.1	5	50
日野町	十禅師	100	0	0.5	0.3	0	0
竜王町	岡屋	100	0	3.0	0.2	10	100
東近江市	市原野町	0	0	0	0.0	10	50
東近江市	福堂町	0	0	0	0	0	0
彦根市	新海町	0	0	0	0	5	0
愛荘町	東円堂	100	0	0.5	0.5	10	0
豊郷町	八町	0	0	0.5	0.1	5	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0.0	10	50
米原市	船崎	0	0	0	0.1	0	0
長浜市	口分田町	50	0	0	0.2	0	0
長浜市	高月町東阿閉	50	100	0	3.0	0	0
長浜市	湖北町山本	0	0	0	0.0	0	0
高島市	マキノ町知内	100	0	1	4.1	10	0

(9月17～19日調査、若莢期)

病害虫名 調査地点		べと病		葉焼病		カメムシ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	平均 発病度	発生ほ場率 (%)	平均 発病度	虫 数 (頭/a)	白変か所数 (か所/a)
大津市	関津	0	0.0	0	0	10.0	0
草津市	下笠町	100	10.0	0	0	7.0	0.5
守山市	木浜町	100	15.0	0	0	1.0	0.5
守山市	赤野井町	100	8.5	0	0	19.0	1.5
栗東市	上砥山	100	7.0	0	0	5.5	0
野洲市	野田	100	22.5	0	0	1.0	0
湖南市	菩提寺	100	7.5	0	0	3.0	1.5
甲賀市	水口町酒人	100	3.5	0	0	22.5	1.5
近江八幡市	野村町	0	0.0	100	1.0	19.5	0
近江八幡市	安土町大中	100	6.5	0	0	0	1.5
日野町	十禅師	100	25.0	50	0.5	0	1.0
竜王町	岡屋	0	0	100	12.5	1.5	0.5
東近江市	市原野町	100	7.0	50	0.5	0	2.0
東近江市	福堂町	100	11.0	0	0	1.5	0
彦根市	新海町	100	4.5	50	1.0	1.5	1.5
愛荘町	東円堂	50	12.5	0	0	1.5	0.5
豊郷町	八町	100	8.0	0	0	0	2.0
甲良町	法養寺	100	7	0	0	0	0.5
米原市	船崎	100	5.5	0	0	0	0.5
長浜市	口分田町	100	2.0	50	1.0	0	4.0
長浜市	高月町東阿閉	50	0.5	100	28.0	1.0	0
長浜市	湖北町山本	0	0.0	100	21.0	1.0	0
高島市	マキノ町知内	50	0.5	50	2.5	3.5	0

エ 初発見日と初発見場所

病害虫名	初発見月日	初発見場所
べと病	8月8日	高島市マキノ町知内
葉焼病	8月21日	長浜市高月町東阿閉
茎疫病	8月27日	近江八幡市日吉野町
白絹病	8月7日	湖南省市岩根

病害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	－	－
ハダニ類	7月31日	近江八幡市野村町
ハスモンヨトウ	8月7日	大津市関津
タバコガ類	7月29日	日野町
カメムシ類	8月17日	近江八幡市安土町大中
フタスジヒメハムシ	6月24日	草津市下笠町
コガネムシ類	8月22日	竜王町岡屋
サヤムシガ類	7月29日	東近江市石谷町

注：「－」は発生を認めなかった。

オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生 面積率 (%)	被害 面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ダイズ	7280	べと病	0	0	0	5500	5500	75.5	0	0	0
		葉焼病	0	0	100	1900	2000	27.5	1.4	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	35	35	0.5	0	3400	3400
		ハスモンヨトウ	50	150	1000	2900	4100	56.3	16.5	3400	3400
		食葉性鱗翅目幼虫	0	150	430	3000	3580	49.2	8.0	3400	3400
		ハダニ類	0	0	0	3800	3800	52.2	0	50	50
		カメムシ類	150	800	500	2350	3800	52.2	19.9	1700	3400
		フタスジヒメハムシ	0	600	1400	2200	4200	57.7	27.5	2000	2000

被害面積率 = (程度別発生面積・甚～中の和) / (栽培面積) × 100

5 野菜（露地）病害虫発生予察事業

ナス科、ウリ科およびアブラナ科を中心として、露地野菜全般における主要病害虫を調査した。その結果に基づく病害虫発生予察情報として、発生予報 10 回、防除情報 2 回（タバコガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ）、注意報 3 回（タバコガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ）および特殊報 2 回（メロン退緑黄化病、Cucurbit aphid-borne yellows virus）を発表した。

（1）野菜

ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
野菜全般	うどんこ病 （夏秋ナス、夏秋トマト、夏秋キュウリ）	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月24日で、発生時期は平年並であった。発生量は平年並であった。	7月以降の気温が高かったが、降水量も多く、発生量は平年並となった。	発生初期に防除の実施。
	灰色かび病 （夏秋ナス、夏秋トマト、夏秋キュウリ）	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	ハスモンヨトウ	遅	やや多	7月上中旬のフェロモントラップへの飛来量はやや少なく、下旬から飛来が増加した。ほ場での初発確認は8月20日で、発生時期は遅かった。8月中の発生量はやや少なかったが、9月からの飛来の増加に伴って発生量も増え、やや多となった。サトイモやアブラナ科野菜で発生がみられた。	7月中旬までの降水量が多く、また、8月下旬に降水量が多くなり、発生が一時的に抑制された。9月の降水量は少なく、高温で推移し飛来が増加したため、発生量がやや多くなった。	主産地では定期的な薬剤防除がされている。アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用が実施されている。ほ場での発生が多く、10月8日に防除情報を発表した。その後、アブラナ科野菜での被害が目立ち、フェロモントラップでの誘殺数も急増したことから、10月22日に注意報を発表した。
	オオタバコガ	早	やや多	フェロモントラップへのオオタバコガの誘殺数は6月以降、タバコガは5月以降に多く推移した。ほ場でのタバコガ類の初発確認は6月24日で、発生時期は早く、発生量はやや多かった。ナス科野菜やキャベツ・ブロッコリーで発生がみられた。	栽培期間を通して飛来量が多かった。7月以降、9月まで高温が続き、本種の飛来および増殖に好適な条件となったと考えられる。	ハスモンヨトウと同時防除されることが多い。6月下旬までの誘殺数が多く、同時期にトマトで被害果も確認されたことから、7月2日にタバコガ類を対象とした注意報を発出した。秋冬野菜での発生も多く、10月8日に防除情報を発表した。
	ヨトウガ	平年並	少	フェロモントラップへの誘殺数は少なく推移した。ほ場での初発確認は9/20で、発生時期は平年並であり、発生量は少なかった。キャベツ・ブロッコリーで発生がみられた。	近年、フェロモントラップでの誘殺数が少ない傾向にある。アブラナ科野菜ではほ場ではハイマダラノメイガとの同時防除によって発生量が抑えられた。	主産地では定期的な薬剤防除が実施されている。また、アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用による防除が実施されている。
	アザミウマ類	遅	平年並	ほ場での初発確認は6月10日であり、発生量は平年並であった。	発生時期は遅く、発生初期は降雨により密度が抑制されたが、7月下旬から8月中旬まで高温寡雨が続き、増殖が助長された。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じることがある。
	コナジラミ類 （夏秋トマト、夏秋キュウリ）	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	通常、露地野菜では、問題になることが少ない。施設果菜類や、廃棄場所のトマト等からの飛来により発生する。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。
	アブラムシ類	早	平年並	ほ場での初発確認は5月8日であり、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	4月が高温で推移し、ほ場への飛来が早かった。6月以降は降雨による密度抑制と高温寡雨による密度増加がいずれもあり、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	ハダニ類	早	やや多	ほ場での初発確認は7月31日で、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	アブラムシ類がやや多く、同時防除によって発生が抑制され、発生時期が遅くなった。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
ナス科野菜	疫病 （夏秋トマト）	-	少	ほ場での発生は見られなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	葉かび病 （夏秋トマト）	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	すすかび病 （夏秋トマト、夏秋ナス）	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	黄化葉巻病 （夏秋トマト）	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	媒介虫であるコナジラミ類の防除。
	ニジュウヤホシテントウ類	早	平年並	ほ場での初発確認は5月9日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	昨年の発生量は平年並であった。越冬期間の気温は高かったが、12月の一時的な低温により越冬量がやや抑制された。しかし、移植早期からほ場に侵入したため、その後の密度が高まった。	被害が顕著になった場合のみ防除されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
アブラナ科 野菜	軟腐病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	強風雨を伴う台風などの襲来がなかったことから、発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	黒腐病 (冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	強風雨を伴う台風などの襲来がなかったことから、発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	菌核病 (冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生が少なかったことから、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	ネキリムシ類	-	少	フェロモントラップでの誘殺時期は平年並であったが、8月以降の誘殺数は少なく推移した。ほ場での発生を認めなかった。	成虫の飛来が少なかったことに加え、ハイマダラノメイガの防除が平年より多く実施されたことから同時防除され、発生量が抑えられた。	播種または定植時の粒剤等の防除が実施されている。
	ハイマダラノメイガ	早	多	ほ場での初発確認は8月16日で、発生時期は早く、発生量は多かった。	移植直後から成虫の飛来が多く、発生時期が早く量が多くなった。防除したほ場と、無防除のほ場との被害の差が顕著となった。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用が実施されている。指標植物(クレオス)での発生量が多く、8月20日に注意報を発表した。
	コナガ	早	平年並	ほ場での初発確認は8月16日で、発生時期は早く、発生量は平年並だった。フェロモントラップでの誘殺数は、期間を通じてやや少なくて推移したが、8月には予察灯での誘殺数が一時的に増加した。	7月下旬以降に高温寡雨となり、移植直後から成虫の飛来が多かった。ハイマダラノメイガとの同時防除によって、発生量は平年並に抑えられた。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
	モンシロチョウ	平年並	やや少	ほ場での初発確認は9月18日で、発生時期は平年並、発生量はやや少なかった。	ハイマダラノメイガの発生が多く、防除が平年より多く実施されたことから同時防除され、発生量が抑えられた。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除が実施されている。
キュウリ	べと病	やや早	平年並	ほ場での初発確認は5月9日で、発生時期はやや早く、発生量は平年並であった。	7月以降の気温が高く、発生は抑制された。	発生初期に防除の実施。
	褐斑病	-	-	ほ場での初発確認は7月31日であった。	-	発生初期に防除の実施。
	炭疽病	-	-	ほ場での初発確認は5月24日であった。	-	発生初期に防除の実施。
	斑点細菌病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
タマネギ	べと病	やや早	やや多	ほ場での初発確認は2月19日とやや早く、発生量はやや多かった。	暖冬によりタマネギの初期生育は旺盛で、2月の気温が高かったことから、発生時期が早まった。また、3月以降降水量が多く、感染に好適であったため、発生量が増加した。	2月の予防防除と発生初期から定期的な薬剤防除が実施されている。3月中旬の発生量がやや多く、その後の気象予報が本病の感染に好適であったことから、3/26付けで注意報を発表した。発生が認められたほ場では、薬剤防除が実施された。
	白色疫病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
ネギ	さび病	やや早	平年並	ほ場での初発確認は4月8日とやや早く、一部ほ場で発生が認められた。	-	発生初期に防除の実施。
	黒斑病	-	並	ほ場での初発確認は8月27日で、一部ほ場で発生が認められた。	-	発生初期に防除の実施。
	べと病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	ネギコガ	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	育苗時もしくは定植時の防除の有無によって発生量の差が大きい。	育苗時の灌注処理や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は、ネギアザミウマと同時防除されている。
	ネギハモグリバエ	平年並	平年並	ほ場での初発確認は9月17日であり、発生量は平年並であった。	育苗時もしくは定植時の防除の有無によって発生量の差が大きく、無防除ほ場で発生がみられた。バイオタイプBが発生しているほ場では、局所的に被害が大きくなる場合がある。	育苗時の灌注処理や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は、ネギアザミウマと同時防除されている。
	シロイチモジヨトウ	やや早	少	ほ場での初発確認は9月20日で、発生時期はやや早く、発生量は少なかった。	フェロモントラップには誘殺されるが、ほ場での発生は通常ほとんど見られない。さらに、ハスモンヨトウなど他害虫と同時防除されている。	発生時に薬剤散布が実施されている。

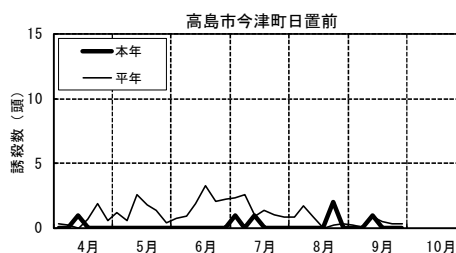
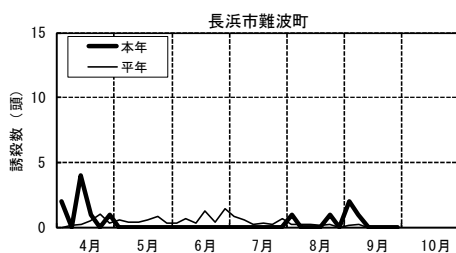
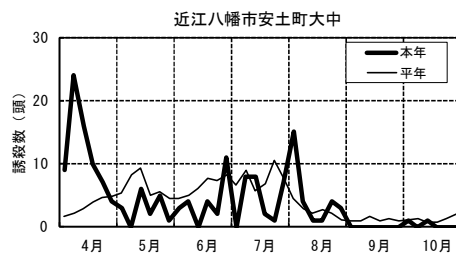
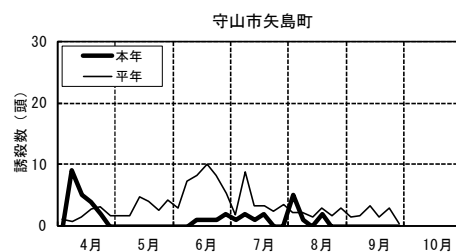
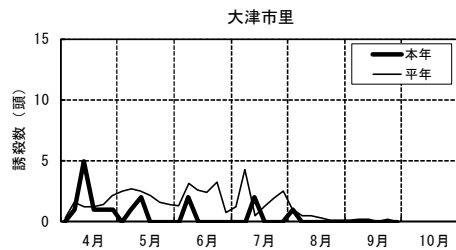
イ 予察灯、フェロモントラップ、黄色水盤による調査

(ア) 予察灯による調査

コナガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0.3	0.3	0	0	1.2	1.2	9	9	1.7	1.7	2	2	0	0	0	0	0	0
2	1	1	1.6	1.9	9	9	0.7	1.9	24	33	2.2	3.9	0	2	0.1	0.1	0	0	0.2	0.6
3	5	6	1.2	3.1	5	14	1.5	3.4	16	49	2.8	6.7	4	6	0.2	0.3	1	1	0.0	0.6
4	1	7	1.2	4.3	4	18	2.8	6.2	10	59	4.0	10.7	1	7	0.5	0.8	0	1	0.7	1.2
5	1	8	1.4	5.8	2	20	3.2	9.4	7	66	4.7	15.4	0	7	1.0	1.8	0	1	1.9	3.1
6	1	9	2.1	7.9	0	20	1.7	11.1	4	70	4.8	20.2	1	8	0.3	2.1	0	1	0.6	3.7
5 1	0	9	2.6	10.4	0	20	1.7	12.8	3	73	5.3	25.5	0	8	0.6	2.7	0	1	1.2	4.9
2	1	10	2.7	13.1	0	20	1.6	14.4	0	73	8.2	33.7	0	8	0.4	3.1	0	1	0.6	5.4
3	2	12	2.6	15.7	0	20	4.7	19.1	6	79	9.3	43.0	0	8	0.4	3.5	0	1	2.6	8.0
4	0	12	2.1	17.8	0	20	4.0	23.1	2	81	5.1	48.1	0	8	0.6	4.1	0	1	1.8	9.8
5	0	12	1.6	19.3	0	20	2.5	25.6	5	86	5.5	53.6	0	8	0.8	4.9	0	1	1.3	11.1
6	0	12	1.4	20.8	0	20	4.2	29.8	1	87	4.4	58.0	0	8	0.3	5.2	0	1	0.4	11.6
6 1	0	12	1.3	22.1	0	20	3.0	32.8	3	90	4.5	62.5	0	8	0.3	5.5	0	1	0.8	12.3
2	2	14	3.1	25.2	0	20	7.4	40.2	4	94	5.1	67.6	0	8	0.7	6.2	0	1	0.9	13.2
3	0	14	2.6	27.9	1	21	8.3	48.5	0	94	6.0	73.6	0	8	0.3	6.5	0	1	1.9	15.1
4	0	14	2.4	30.3	1	22	10.0	58.5	4	98	7.7	81.3	0	8	1.3	7.8	0	1	3.3	18.4
5	0	14	3.2	33.5	1	23	8.3	66.8	2	100	7.3	88.6	0	8	0.4	8.2	0	1	2.1	20.5
6	0	14	0.8	34.3	2	25	5.4	72.2	11	111	8.3	96.9	0	8	1.4	9.6	0	1	2.2	22.7
7 1	0	14	1.3	35.6	1	26	1.8	74.0	0	111	6.6	103.5	0	8	0.8	10.4	1	2	2.3	25.0
2	0	14	4.3	39.8	2	28	8.8	82.8	8	119	8.9	112.4	0	8	0.6	11.0	0	2	2.6	27.6
3	2	16	0.4	40.3	1	29	3.4	86.2	8	127	5.7	118.1	0	8	0.2	11.2	1	3	0.9	28.5
4	0	16	1.2	41.5	2	31	3.4	89.6	2	129	6.8	124.9	0	8	0.3	11.5	0	3	1.4	29.9
5	0	16	2.0	43.5	0	31	2.4	92.0	1	130	10.5	135.4	0	8	0.2	11.7	0	3	1.0	30.9
6	0	16	2.6	46.0	0	31	3.5	95.5	7	137	7.5	142.9	0	8	0.7	12.4	0	3	0.8	31.7
8 1	1	17	1.0	47.0	5	36	2.2	97.7	15	152	4.5	147.4	1	9	0.2	12.6	0	3	0.8	32.5
2	0	17	0.4	47.5	1	37	2.3	100.0	4	156	2.9	150.3	0	9	0.2	12.8	0	3	1.7	34.2
3	0	17	0.4	47.9	0	37	1.5	101.5	1	157	2.2	152.5	0	9	0.2	13.0	0	3	0.8	35.0
4	0	17	0.3	48.3	2	39	2.9	104.4	1	158	2.7	155.2	0	9	0.1	13.1	0	3	0.0	35.0
5	0	17	0.1	48.4	0	39	1.6	106.0	4	162	2.2	157.4	1	10	0.2	13.3	2	5	0.2	35.2
6	0	17	0.1	48.5	0	39	2.9	108.9	3	165	1.1	158.5	0	10	0.0	13.3	0	5	0.3	35.5
9 1	0	17	0.1	48.6	0	39	1.5	110.4	0	165	1.0	159.5	2	12	0.1	13.4	0	5	0.2	35.7
2	0	17	0.2	48.8	0	39	1.7	112.1	0	165	1.0	160.5	1	13	0.2	13.6	0	5	0.1	35.8
3	0	17	0.2	49.0	0	39	3.3	115.4	0	165	1.7	162.2	0	13	0	13.6	1	6	0.8	36.6
4	0	17	0	49.0	0	39	1.4	116.9	0	165	1.0	163.2	0	13	0	13.6	0	6	0.5	37.1
5	0	17	0.2	49.3	0	39	3.0	119.9	0	165	1.3	164.5	0	13	0	13.6	0	6	0.3	37.4
6	0	17	0.0	49.3	0	39	0.4	120.3	0	165	1.0	165.5	0	13	0	13.6	0	6	0.3	37.7
10 1									1	166	1.1	166.6								
2									0	166	1.3	167.9								
3									1	167	0.7	168.6								
4									0	167	0.7	169.3								
5									0	167	1.2	170.5								
6									0	167	2.0	172.5								

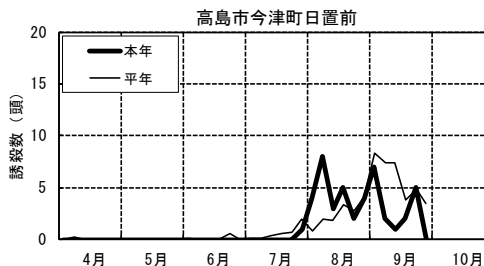
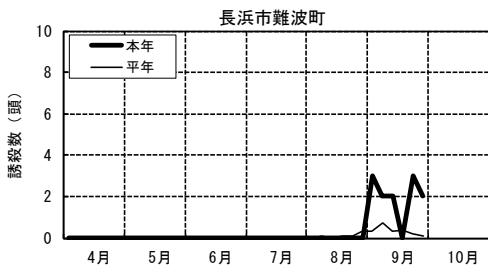
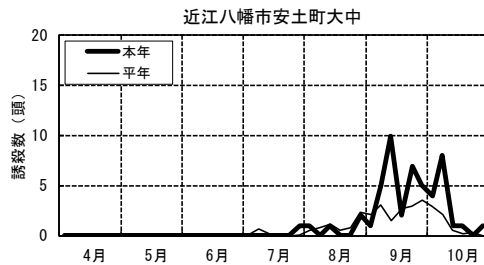
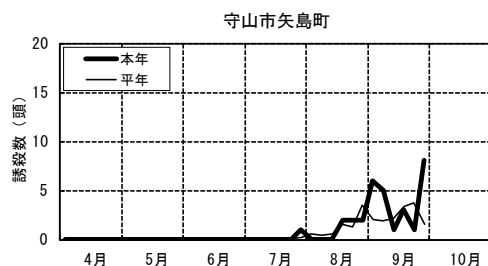
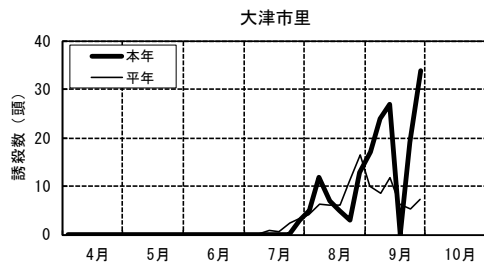


○平年値は過去10年間 (H26～R5) の平均値である。
ただし、R6の4月1日、23～30日、
5月8～10日、13～6月12日は欠測値 (守山市矢島町)。

シロオビノメイガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

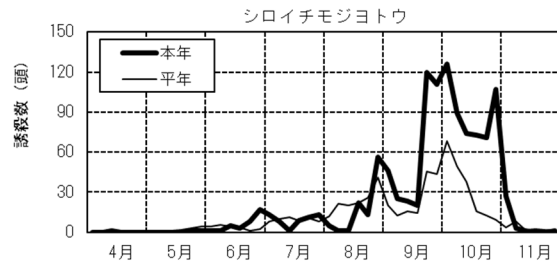
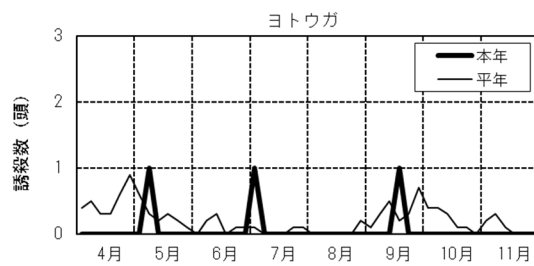
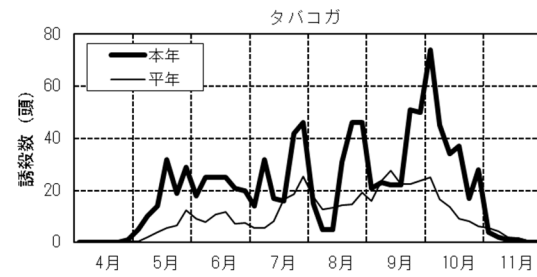
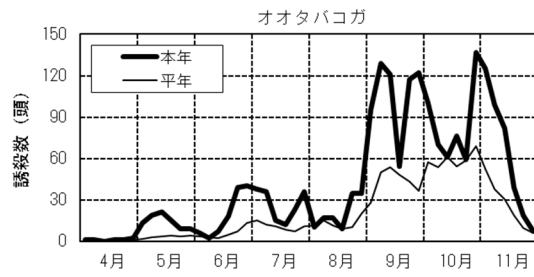
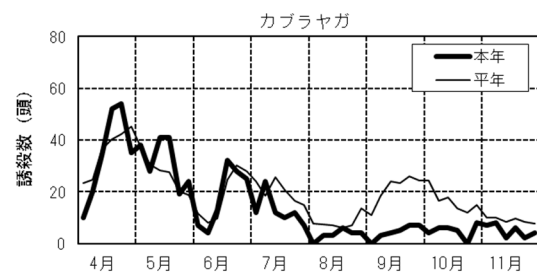
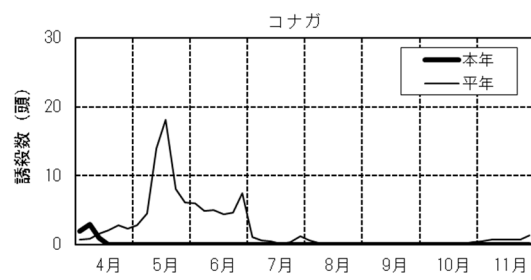
月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
	3	0	0	0.1	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
	4	0	0	0.1	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
	5	0	0	0.2	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0.9
	6	0	0	0	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0.9
7	1	0	0	0.0	0.9	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	1.0
	2	0	0	0	1.0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.7	1.0	0	0	0	0	0	0	0	1.1
	3	0	0	0.8	1.8	0	0	0	0.1	0	0	0.2	1.2	0	0	0	0	0	0	0	1.5
	4	0	0	0.7	2.5	0	0	0	0.1	0	0	0.0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	2.1
	5	0	0	2.3	4.8	0	0	0.1	0.2	0	0	0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	2.8
	6	3	3	3.3	8.1	1	1	0.2	0.4	1	1	0.1	1.3	0	0	0	0	1	1	2.0	4.8
8	1	5	8	4.2	12.4	0	1	0.6	1.0	1	2	0.5	1.8	0	0	0.0	0.0	4	5	0.8	5.6
	2	12	20	6.4	18.8	0	1	0.4	1.4	0	2	0.8	2.6	0	0	0.1	0.1	8	13	2.0	7.6
	3	7	27	6.0	24.8	0	1	0.6	2.0	1	3	1.1	3.7	0	0	0.0	0.1	3	16	1.9	9.5
	4	5	32	6.1	30.9	2	3	1.5	3.5	0	3	0.6	4.3	0	0	0.1	0.2	5	21	3.3	12.8
	5	3	35	11.1	42.0	2	5	1.3	4.8	0	3	0.8	5.1	0	0	0.1	0.3	2	23	2.8	15.6
	6	13	48	16.6	58.6	2	7	3.5	8.3	2	5	2.4	7.5	0	0	0.3	0.6	4	27	4.0	19.6
9	1	17	65	10.1	68.7	6	13	2.0	10.3	1	6	2.1	9.6	3	3	0.3	0.9	7	34	8.3	27.9
	2	24	89	8.6	77.3	5	18	1.9	12.2	5	11	3.1	12.7	2	5	0.7	1.6	2	36	7.4	35.3
	3	27	116	11.9	89.1	1	19	2.1	14.3	10	21	1.5	14.2	2	7	0.3	1.9	1	37	7.4	42.7
	4	0	116	6.2	95.4	3	22	3.3	17.6	2	23	2.7	16.9	0	7	0.4	2.3	2	39	3.8	46.5
	5	19	135	5.3	100.7	1	23	3.7	21.3	7	30	3.0	19.9	3	10	0.2	2.5	5	44	4.9	51.4
	6	34	169	7.3	108.0	8	31	1.5	22.8	5	35	3.5	23.4	2	12	0.1	2.6	0	44	3.5	54.9
10	1									4	39	3.0	26.4								
	2									8	47	2.1	28.5								
	3									1	48	0.5	29.0								
	4									1	49	0.2	29.2								
	5									0	49	0.3	29.5								
	6									1	50	0	29.5								



○平年値は過去10年間(H26～R5)の平均値である。
ただし、R6の4月1日、23～30日、
5月8～10日、13～6月12日は欠測値(守山市矢島町)。

(イ) フェロモントラップによる調査
野菜主要害虫のフェロモントラップ半旬別誘殺状況（近江八幡市安土町大中）

月 半旬		コナガ		カブラヤガ		タバコガ		オオタバコガ		ヨトウガ		シロイチモジヨトウ	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	2	0.8	10	23.4	0	0	1	0.1	0	0.4	0	0.3
	2	3	0.9	20	24.5	0	0	1	0.2	0	0.5	0	0
	3	1	1.6	34	36.5	0	0.1	0	0.4	0	0.3	1	0
	4	0	2.1	52	40.4	0	0.1	1	0.5	0	0.3	0	0.5
	5	0	2.8	54	42.1	0	0.3	1	0.2	0	0.6	0	0.8
	6	0	2.3	35	45.3	1	0.3	2	0.8	0	0.9	0	0.8
5	1	0	2.8	38	37.3	5	0.3	13	1.9	0	0.6	0	1.0
	2	0	4.5	28	30.6	10	1.9	19	2.7	1	0.3	0	1.0
	3	0	14.0	41	28.2	14	4.0	21	3.6	0	0.2	0	1.3
	4	0	18.1	41	27.4	32	5.7	15	3.9	0	0.3	0	2.0
	5	0	8.1	19	20.0	19	6.5	9	3.7	0	0.2	1	3.0
	6	0	6.2	24	18.8	29	12.5	9	4.1	0	0.1	1	4.0
6	1	0	6.0	7	11.7	18	9.3	6	3.4	0	0.0	1	4.3
	2	0	4.9	4	8.0	25	8.0	2	3.1	0	0.2	1	5.8
	3	0	5.0	13	9.7	25	10.8	7	2.1	0	0.3	5	4.0
	4	0	4.4	32	24.7	25	11.9	18	4.6	0	0	3	3.5
	5	0	4.7	28	30.1	21	7.3	39	7.1	0	0.1	8	1.3
	6	0	7.5	25	28.0	20	7.7	40	13.4	0	0.1	17	2.5
7	1	0	1.1	12	24.1	14	5.6	38	14.9	1	0.1	13	7.8
	2	0	0.6	24	18.5	32	5.6	36	11.9	0	0	8	9.8
	3	0	0.5	12	25.7	17	8.2	15	10.9	0	0	1	11.5
	4	0	0.1	10	20.8	16	16.5	12	8.4	0	0	9	8.8
	5	0	0.4	12	16.6	42	18.7	23	7.3	0	0.1	11	10.5
	6	0	1.2	7	14.7	46	25.4	36	10.6	0	0.1	13	8.3
8	1	0	0.6	0	7.8	15	17.5	10	11.7	0	0.0	5	11.8
	2	0	0.3	3	7.2	5	12.8	17	15.0	0	0	1	21.3
	3	0	0.2	3	7.0	5	13.3	17	11.3	0	0	1	20.0
	4	0	0.1	6	6.2	31	14.3	9	8.8	0	0	22	21.8
	5	0	0.1	4	7.0	46	14.8	35	10.1	0	0	13	26.0
	6	0	0.2	4	13.7	46	19.1	35	20.0	0	0.2	56	41.0
9	1	0	0.1	0	11.0	21	16.0	95	28.2	0	0.1	46	20.3
	2	0	0.1	3	18.5	23	23.6	129	49.8	0	0.3	25	12.5
	3	0	0.1	4	24.1	22	27.8	121	53.7	0	0.5	23	15.8
	4	0	0.2	5	23.5	22	22.6	54	48.2	1	0.2	20	14.2
	5	0	0.2	7	25.8	51	22.4	117	43.0	0	0.3	120	45.2
	6	0	0.2	7	24.4	50	23.8	122	36.6	0	0.7	111	43.4
10	1	0	0.1	4	24.3	74	25.2	100	57.2	0	0.4	126	68.0
	2	0	0.1	6	16.5	45	16.5	70	53.7	0	0.4	89	49.6
	3	0	0.1	6	17.8	34	13.7	61	60.7	0	0.3	74	37.8
	4	0	0.2	5	13.5	37	9.3	76	54.3	0	0.1	73	15.4
	5	0	0	0	11.8	17	8.2	59	58.5	0	0.1	71	12.4
	6	0	0.4	8	15.0	28	6.3	137	68.9	0	0.0	107	9.6
11	1	0	0.5	7	9.9	4	5.6	125	52.5	0	0.2	27	3.8
	2	0	0.7	8	10.1	2	4.4	99	37.8	0	0.3	3	8.0
	3	0	0.8	2	8.3	1	1.9	82	30.7	0	0	1	1.8
	4	0	0.8	6	9.7	1	1.6	39	18.8	0	0	0	2.6
	5	0	0.8	2	8.4	0	0.6	19	9.5	0	0	0	1.8
	6	0	1.4	4	7.7	0	0.3	7	5.7	0	0	1	1.6

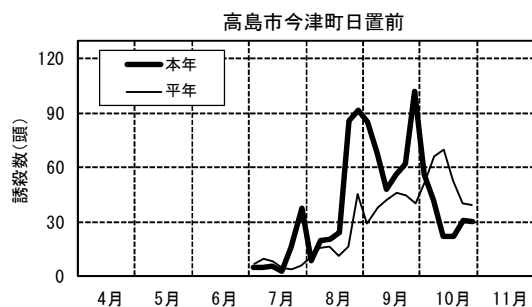
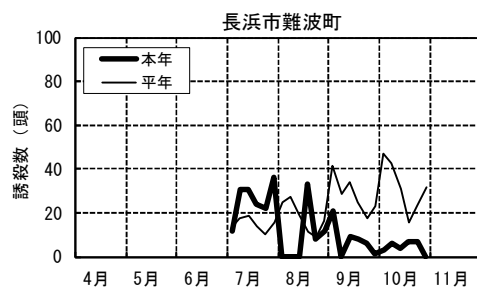
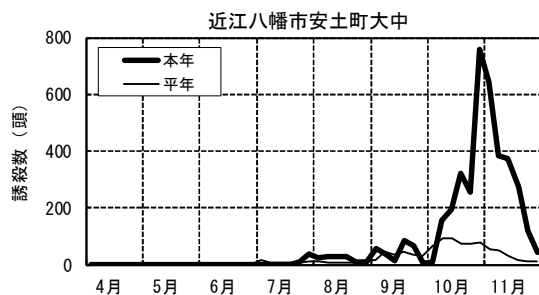


平年値は過去 10 年間（H26～R5）の平均値。ただし、シロイチモジヨトウのフェロモントラップは R1 年度から設置したため、平年値は R1～R5 の平均値である。

ハスモンヨトウ半旬別誘殺数（フェロモントラップ）

（頭）

月 半旬		近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	4.1	0	0	0.1	0.1							
	2	4.2	0	0	0.1	0.2							
	3	4.3	0	0	0	0.2							
	4	4.4	0	0	0	0.2							
	5	4.5	0	0	0.1	0.3							
	6	4.6	0	0	0.1	0.4							
5	1	5.1	0	0	0.3	0.7							
	2	5.2	0	0	0.6	1.3							
	3	5.3	0	0	0.4	1.7							
	4	5.4	0	0	0.5	2.2							
	5	5.5	0	0	0.6	2.8							
	6	5.6	0	0	0.6	3.4							
6	1	6.1	0	0	1.5	4.9							
	2	6.2	0	0	3.3	8.2							
	3	6.3	0	0	5.0	13.2							
	4	6.4	0	0	3.7	16.9							
	5	6.5	0	0	2.6	19.5							
	6	6.6	0	0	3.5	23.0							
7	1	7.1	1	1	15.9	38.9	12	12	13.2	5	5	7.0	7.0
	2	7.2	0	1	8.3	47.2	31	43	17.4	5	10	10.2	17.2
	3	7.3	1	2	9.0	56.2	31	74	18.8	6	16	8.5	25.7
	4	7.4	0	2	7.7	63.9	24	98	14.0	3	19	4.8	30.5
	5	7.5	12	14	9.7	73.6	22	120	10.2	16	35	3.9	34.4
	6	7.6	41	55	10.8	84.4	36	156	15.4	38	73	6.2	40.6
8	1	8.1	23	78	11.9	96.3	0	156	24.9	9	82	10.9	51.5
	2	8.2	31	109	9.0	105.3	0	156	27.4	20	102	15.8	67.3
	3	8.3	31	140	8.7	114.0	0	156	19.2	21	123	16.9	84.2
	4	8.4	29	169	9.5	123.5	33	189	11.3	24	147	11.3	95.5
	5	8.5	12	181	6.4	129.9	8	197	8.7	86	233	16.3	111.8
	6	8.6	12	193	15.5	145.4	12	209	16.1	92	325	45.7	157.5
9	1	9.1	57	250	19.1	164.5	21	230	41.4	85	410	29	186.4
	2	9.2	37	287	46.8	211.3	0	230	28.6	68	478	38.0	224.4
	3	9.3	16	303	38.8	250.1	9	239	33.9	48	526	42.6	267.0
	4	9.4	88	391	47.3	297.4	8	247	25.0	56	582	46.1	313.1
	5	9.5	68	459	37.2	334.6	6	253	17.4	62	644	44.4	357.5
	6	9.6	8	467	33.1	367.7	1	254	23.3	102	746	40.6	398.1
10	1	10.1	10	477	65.4	433.1	3	257	47.2	56	802	51.8	449.9
	2	10.2	158	635	91.7	524.8	6	263	42.5	42	844	66.0	515.9
	3	10.3	194	829	93.8	618.6	4	267	31.1	22	866	69.9	585.8
	4	10.4	325	1154	75.6	694.2	7	274	16.0	22	888	53.0	638.8
	5	10.5	255	1409	72.8	767.0	7	281	22.8	31	919	40.2	679.0
	6	10.6	759	2168	77.2	844.2	0	281	31.8	30	949	39.5	718.5
11	1	11.1	647	2815	57.7	901.9							
	2	11.2	386	3201	50.2	952.1							
	3	11.3	373	3574	32.6	984.7							
	4	11.4	277	3851	19.8	1004.5							
	5	11.5	118	3969	15.1	1019.6							
	6	11.6	44	4013	13.4	1033.0							

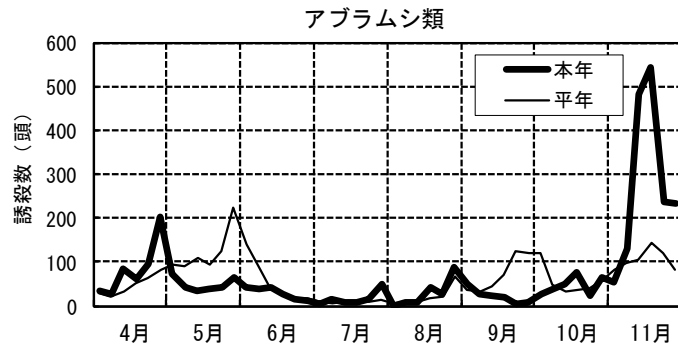


・ 平年値はH26～R5の10年間の平均値。

(ウ) 黄色水盤による調査

アブラムシ類半旬別誘殺数
(近江八幡市安土町大中：黄色水盤)
(頭)

月	半旬	本年		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
4	1	34	34	29.1	29.1
	2	26	60	19.6	48.7
	3	85	145	31.6	80.3
	4	60	205	51.8	132.1
	5	95	300	64.4	196.5
	6	203	503	82.5	279.0
5	1	71	574	94.2	373.2
	2	42	616	88.0	461.2
	3	36	652	109.8	571.0
	4	37	689	94.1	665.1
	5	43	732	123.3	788.4
	6	65	797	224.9	1013.3
6	1	43	840	141.3	1154.6
	2	37	877	90.7	1245.3
	3	43	920	41.6	1286.9
	4	26	946	25.3	1312.2
	5	15	961	19.0	1331.2
	6	13	974	16.3	1347.5
7	1	3	977	8.4	1355.9
	2	16	993	6.0	1361.9
	3	9	1002	9.7	1371.6
	4	8	1010	9.6	1381.2
	5	15	1025	10.3	1391.5
	6	50	1075	14.4	1405.9
8	1	0	1075	7.2	1413.1
	2	7	1082	8.4	1421.5
	3	7	1089	10.1	1431.6
	4	41	1130	16.9	1448.5
	5	28	1158	21.9	1470.4
	6	86	1244	67.6	1538.0
9	1	49	1293	36.2	1574.2
	2	27	1320	33.7	1607.9
	3	23	1343	42.5	1650.4
	4	19	1362	70.7	1721.1
	5	5	1367	125.3	1846.4
	6	8	1375	120.7	1967.1
10	1	25	1400	118.6	2085.7
	2	38	1438	49.2	2134.9
	3	48	1486	33.1	2168.0
	4	76	1562	37.3	2205.3
	5	24	1586	39.3	2244.6
	6	66	1652	59.0	2303.6
11	1	53	1705	80.4	2384.0
	2	131	1836	96.5	2480.5
	3	483	2319	104.6	2585.1
	4	542	2861	142.8	2727.9
	5	236	3097	120.6	2848.5
	6	233	3330	83.7	2932.2

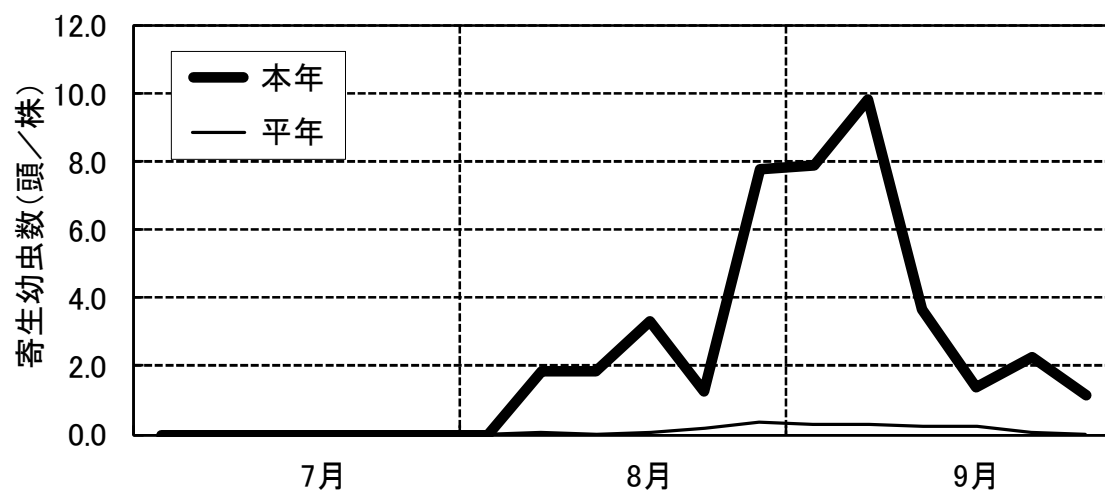


・平年値はH26～R5の10年間の平均値。

(エ) クレオメによる調査

クレオメ 1 株当たりのハイマダラノメイガ寄生幼虫数（近江八幡市安土町大中）

		(頭)			
月	半旬	本年		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
7	1	0	0	0	0
	2	0	0	0	0
	3	0	0	0	0
	4	0	0	0	0
	5	0	0	0	0
	6	0	0	0	0
8	1	0	0	0.0	0.0
	2	2.0	2.0	0.1	0.1
	3	2.0	4.0	0.0	0.1
	4	3.0	7.0	0.1	0.1
	5	1.0	8.0	0.1	0.3
	6	8.0	16.0	0.3	0.6
9	1	8.0	24.0	0.3	0.9
	2	10.0	34.0	0.3	1.2
	3	4.0	38.0	0.2	1.4
	4	1.0	39.0	0.2	1.7
	5	2.0	41.0	0.0	1.7
	6	1.0	42.0	0.0	1.7



・平年値は10年間(H26～R5)の平均値

ウ 発生量調査（最終調査結果のみを記載）

（ア） トマト

調査地点	病害虫名	灰色かび病	疫病	葉かび病	うどんこ病
		発病度	発病度	発病度	発病度
		6/24	6/24	6/24	6/24
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市	安土町	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市	今津町	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	すすかび病	黄化葉巻病	アブラムシ類	コナジラミ類
		発病度	発病株率 (%)	寄生株率 (%)	寄生葉率 (%)
		6/24	6/24	7/29～7/31	7/29～7/31
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市	安土町	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市	今津町	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ	アザミウマ類
		寄生株率 (%)	寄生花率 (%)
		7/29～7/31	6/24
草津市	下笠町	0	2.0
野洲市	小南	0	0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市	安土町	0	5.0
彦根市	松原町	0	10.0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	20.0
高島市	今津町	0	2.0

（イ） ナス

調査地点	病害虫名	うどんこ病	灰色かび病	すすかび病	アブラムシ類
		発病度	発病株率 (%)	発病葉率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)
		6/24	6/24	6/26	7/29～7/31
草津市	下笠町	0	0	0	0.01
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0.1
近江八幡市	安土町	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0.05
米原市	世継	0	0	0	0
高島市	今津町	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	アザミウマ類	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハダニ類
		寄生葉率 (%)	被害果率 (%)	被害面積率 (%)	寄生葉率 (%)
		7/29～7/31	7/29～7/31	8/16～8/21	8/16～8/21
草津市	下笠町	0	0	0	1.0
野洲市	小南	0	0	0	15.0
湖南市	菩提寺	0	0	0	15.0
近江八幡市	安土町	0	0	0	30.0
彦根市	松原町	0	0	0	30.0
甲良町	下之郷	0	0	0	30.0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市	今津町	0	0	0	0

(ウ) キュウリ

調査地点	病害虫名	べと病	うどんこ病	灰色かび病	褐斑病
		発病葉率 (%)	発病葉率 (%)	発病株率 (%)	発病葉率 (%)
		7/29～7/31	6/24	6/24	6/24
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	10.0	0	0
湖南市	菩提寺	20.0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	5.0	0	0
彦根市	松原町	5.0	10.0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	20.0	12.5	0	0

調査地点	病害虫名	炭疽病	斑点細菌病	アブラムシ類	コナジラミ類
		全病葉率 (%)	発病葉率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		6/24	6/24	7/29～7/31	7/29～7/31
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	1.0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	5.0	0	0.01	0.5
彦根市	松原町	0	0	0.5	0
甲良町	下之郷	0	0	0.1	0
米原市	世継	0	0	10.0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0.3	0

調査地点	病害虫名	アザミウマ類	ハダニ類
		1葉あたり寄生頭数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		7/29～7/31	7/29～7/31
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0.2	0
湖南市	菩提寺	0	10.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0.1	0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	0

(エ) ダイコン

調査地点	病害虫名	アブラムシ類
		発生程度指数
		10/28～10/31
草津市	下笠町	0
野洲市	小南	0
湖南市	菩提寺	15.0
近江八幡市安土町	上豊浦	10.0
彦根市	松原町	0
甲良町	下之郷	3.0
米原市	世継	0
高島市今津町	深清水	0

(オ) 春キャベツ

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
		5/24～5/27	5/24～5/27
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0	10.0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	0

(カ) 冬キャベツ

調査地点	病害虫名	黒腐病	菌核病	アブラムシ類	ハスモンヨトウ
		発病度	発病株率 (%)	寄生株率 (%)	寄生株率 (%)
		10/28～10/31	10/28～10/31	10/28～10/31	10/28～10/31
草津市	下笠町	0	0	0	5.0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	5.0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	5.0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ	モンシロチョウ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)	10株あたり幼虫数 (頭/10株)
		10/28～10/31	10/28～10/31	10/28～10/31
草津市	下笠町	0	0	1.0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	2.0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	5.0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	4.0

(キ) タマネギ

調査地点	病害虫名	白色疫病	べと病	アザミウマ類
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
		4/8～4/9	4/8～4/9	5/9～5/10
草津市	下笠町	0	12.0	15.0
野洲市	小南	0	4.0	5.0
湖南市	菩提寺	0	6.0	10.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	4.0	0.2
彦根市	松原町	0	10.0	30.0
甲良町	下之郷	0	10.0	10.0
米原市	世継	0	2.0	15.0
高島市今津町	深清水	0	10.0	12.5

(ク) ネギ

病害虫名		黒斑病	べと病	さび病
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
調査地点		9/19～9/20	9/19～9/20	9/19～9/20
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

病害虫名		アブラムシ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害株率 (%)
調査地点		10/28～10/31	9/19～9/20	10/28～10/31
草津市	下笠町	0	10.0	4.0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	6.7	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

病害虫名		シロイチモジヨトウ	ネギコガ	ネギハモグリバエ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害葉率 (%)
調査地点		10/28～10/31	9/19～9/20	9/19～9/20
草津市	下笠町	0	0	1.0
野洲市	小南	4.0	0	0
湖南市	菩提寺	4.0	0	5.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	5.0
彦根市	松原町	0	0	6.0
甲良町	下之郷	0	0	1.0
米原市	世継	0	0	10.0
高島市今津町	深清水	0	0	0

(ケ) サトイモ

病害虫名		ハスモンヨトウ	アブラムシ類
		食害面積率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
調査地点		9/19～9/20	7/24～7/25
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	1.0	1.0
湖南市	菩提寺	0	10.0
近江八幡市安土町	上豊浦	1.0	0.1
彦根市	松原町	1.0	0
甲良町	下之郷	0	0.2
米原市	世継	1.0	0
高島市今津町	深清水	1.0	30.0

発生量は、最終調査結果のみを記載

エ 初発見月日と初発見場所

(ア) ほ場

作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所	作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所
トマト	灰色かび病	-		キャベツ	菌核病	-	
	疫病	-			黒腐病	-	
	葉かび病	-			軟腐病	-	
	うどんこ病	-			アブラムシ類	10/28	大津市関津
	黄化葉巻病	-			ハスモンヨトウ	10/28	草津市下笠町
	すすかび病	-			オオタバコガ	10/28	大津市関津
	モモアカアブラムシ	5/8	草津市下笠町		ヨトウガ	10/28	湖南市菩提寺
	コナジラミ類	-			コナガ	5/8	草津市下笠町
	オオタバコガ	6/24	草津市下笠町		モンシロチョウ	5/8	草津市下笠町
	アザミウマ類	6/10	野洲市小南		ハイマダラノメイガ	8/16	湖南市菩提寺
ナス	ハスモンヨトウ	-		ブロッコリー	カブラヤガ	-	
	うどんこ病	-			黒腐病	-	
	灰色かび病	-			ハスモンヨトウ	10/28	野洲市小南
	すすかび病	-			ヨトウガ	10/28	野洲市小南
	アブラムシ類	5/8	草津市下笠町	タマネギ	コナガ	-	
	ハダニ類	5/8	草津市下笠町		べと病	2/19	草津市下笠町
	ミナミキイロアザミウマ	5/8	草津市下笠町		白色疫病	-	
	ハスモンヨトウ	-			ネギアザミウマ	3/11	野洲市小南
	オオタバコガ	6/10	草津市下笠町	ネギ	さび病	4/8	野洲市小南
	ニジュウヤホシテントウ類	5/9	彦根市松原町		黒斑病	8/27	甲賀市(地点不明)
キュウリ	べと病	5/9	高島市今津町深清水		べと病	-	
	うどんこ病	5/24	甲良町下之郷		ネギアブラムシ	4/8	野洲市小南
	灰色かび病	-			ネギアザミウマ	9/19	草津市下笠町
	褐斑病	7/31	湖南市菩提寺		ハスモンヨトウ	10/28	草津市下笠町
	炭疽病	5/24	近江八幡市安土町上豊浦		ネギコガ	-	
	斑点細菌病	-			ネギハモグリバエ	9/17	甲良町下之郷
	アブラムシ類	5/9	野洲市小南		シロイチモジヨトウ	10/28	草津市下笠町
	アザミウマ類	5/8	草津市下笠町	サトイモ	ハスモンヨトウ	8/20	近江八幡市安土町上豊浦
	コナジラミ類	6/21	野洲市小南		アブラムシ類	6/10	草津市下笠町
	ハスモンヨトウ	-			ハダニ類	6/10	甲良町下之郷
ダイコン	オオタバコガ	-					
	ハダニ類	7/31	湖南市菩提寺				
ダイコン	アブラムシ類	9/19	草津市下笠町				

注：巡回調査において、複数種を調査対象としているものや種同定が困難なものは「～類」とした。なお、指定有害動植物は網掛けで示した。
注：「-」は発生が認められなかった。

(イ) 予察灯、フェロモントラップおよび黄色水盤

害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	4/8	近江八幡市安土町大中（黄色水盤）
ヨトウガ	5/13	近江八幡市安土町大中（P T）
ハスモンヨトウ	7/4	長浜市難波町（P T）
シロイチモジヨトウ	4/16	近江八幡市安土町大中（P T）
タバコガ	5/1	近江八幡市安土町大中（P T）
オオタバコガ	4/8	近江八幡市安土町大中（P T）
カブラヤガ	4/8	近江八幡市安土町大中（P T）
シロオビノメイガ	6/8	大津市里（予察灯）
コナガ	4/2	近江八幡市安土町大中（予察灯）

初発見場所（ ）内記号P T：フェロモントラップ

オ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生 面積率 (%)	被害 面積率 (%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
トマト	9	疫病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		葉かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		すすかび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		黄化葉巻病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	0	0	0	2	2	22.2	0	1	1
		オオタバコガ	0	0	1	5	6	66.7	11.1	2	4
		コナジラミ類	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	44.4	0	1	1
ナス	22	ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		すすかび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アザミウマ類	0	0	2	10	12	54.5	9.1	14	28
		オオタバコガ	0	0	2	8	10	45.5	9.1	7	14
		ヨトウガ	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		アブラムシ類	0	0	0	7	7	31.8	0	6	12
		ハダニ類	0	0	1	10	11	50.0	4.5	12	24
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	9.1	0	5	5
キュウリ	8	ニジュウヤホシテントウ類	0	0	1	10	11	50.0	4.5	7	7
		べと病	0	0	0	3	3	37.5	0	2	2
		炭そ病	0	0	0	1	1	12.5	0	1	1
		うどんこ病	0	0	0	4	4	50.0	0	2	2
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		褐斑病	0	0	0	1	1	12.5	0	1	1
		アザミウマ類	0	0	0	3	3	37.5	0	5	5
		ハダニ類	0	0	0	2	2	25.0	0	2	2
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	50.0	0	5	10
ダイコン	36	コナジラミ類	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	6	6	16.7	0	13	23
ハクサイ	89	ハイマダラノメイガ	0	1	4	18	23	63.9	13.9	20	35
		軟腐病	0	0	0	0	0	0	0	10	10
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	0	0	40	80
春キャベツ	26	モンシロチョウ	0	0	0	0	0	0	0	60	120
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	19.2	0	10	10
		モンシロチョウ	0	0	0	10	10	38.5	0	10	20
		コナガ	0	0	0	9	9	34.6	0	10	20
冬キャベツ	253	ヨトウガ	0	0	0	2	2	7.7	0	10	20
		黒腐病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		菌核病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		軟腐病	0	0	0	0	0	0	0	20	20
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	0	0	120	120
		モンシロチョウ	0	0	0	50	50	19.8	0	180	270
		コナガ	0	0	0	50	50	19.8	0	180	270
		ヨトウガ	0	0	0	10	10	4.0	0	180	270
		オオタバコガ	0	1	15	120	136	53.8	6.3	180	270
		ハスモンヨトウ	0	0	5	80	85	33.6	2.0	180	270
ブロッコリー	95	ハイマダラノメイガ	0	5	20	120	145	49.4	9.9	180	270
		黒腐病	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		コナガ	0	0	0	15	15	15.8	0	50	100
タマネギ	97	ハスモンヨトウ	0	0	0	30	30	31.6	0	50	100
		白色疫病	0	0	0	0	0	0	0	48	144
		べと病	0	0	5	60	65	67.0	5	97	291
ネギ	108	アザミウマ類	0	0	2	60	62	63.9	2	60	60
		さび病	0	0	0	2	2	1.9	0	40	60
		黒斑病	0	0	0	2	2	1.9	0	40	60
		べと病	0	0	0	0	0	0	0	40	60
		シロイチモジヨトウ	0	0	0	1	1	0.9	0	20	20
		ハスモンヨトウ	0	0	0	11	11	10.2	0	20	20
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	2.8	0	30	40
		ネギハモグリバエ	0	0	0	60	60	55.6	0	70	140
		ネギアザミウマ	0	0	0	33	33	30.6	0	70	140
		ネギコガ	0	0	0	0	0	0	0	70	140
サトイモ	22	アブラムシ類	0	0	1	10	11	50.0	4.5	4	4
		ハスモンヨトウ	0	0	0	14	14	63.6	0	7	7
		ハダニ類	0	0	1	6	7	31.8	4.5	3	3

※被害面積率＝(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積) ×100
指定有害動植物は網掛けで示した。

6 果樹等作物病虫害発生予察事業

ナシなどの主要果樹、チャおよび花き（キク）について、主要病虫害を対象とした重点調査の結果などに基づき、病虫害発生予報を10回、発生予察情報として注意報5回（果樹カメムシ類：果樹2回、タバコガ類：花き類1回、ハスモンヨトウ：花き類1回、ハイマダラノメイガ：花き類1回）、防除情報2回（タバコガ類：花き類1回、タバコガ類、ハスモンヨトウ：花き類1回）、特殊報1回（オリーブ立枯病：オリーブ1回）を発表した。

（1）果樹

ア 生育概況

（ア）ナシ

3月の気温が平年より低く推移したが、4月が高く推移したことから、展葉期および開花盛期は平年並であった。

開花期は、降雨が少なく温暖な日が続いたため、受精・結実は良好であった。

6～7月の降水量が多かったことから果実肥大は平年並であった。8月以降は高温の影響から水浸果、日焼け果等の高温障害の発生がみられた。収穫時期はおおむね平年並であった。9月の降水量が少なかったことから、晩生品種で果実の萎凋がみられた。

果樹カメムシ類の被害果が防虫防蛾ネット被覆園ではわずかに確認されたが、ネット被覆のない園では多発となった。

（イ）ブドウ

3月の気温が平年より低く推移したことから、展葉期はやや遅かった。4月の気温が平年より高く推移したことから開花盛期は平年並となった。

6月中旬から8月上旬にかけて気温が高く推移したことから、日焼け果等の高温障害がみられた。また、7月中旬以降気温が高く推移したことから、着色不良がみられた。収穫期はおおむね平年並であったが、一部の品種では着色不良のため収穫終期が遅れた。

果樹カメムシ類による袋の上からの果粒の吸汁被害が多い園もみられた。

（ウ）カキ

3月の気温が平年より低く推移したが、4月が高く推移したことから、展葉期および開花盛期は平年並であった。

8月以降気温が高く推移したことから、日焼け果等の高温障害がみられた。

9月の降水量が少なかったことから小玉傾向であった。

10月の気温が平年より高かったことから、着色が遅れ、収穫期が平年よりやや遅くなった。

果樹カメムシ類の被害果が多く、被害果率が9割を超える園もあった。

イ 発生状況

(ア) ナシ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ナシ	黒星病	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少なかった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。6月中旬～下旬に降水量が多かったが、晴れ間が定期的にあり適切に防除できたこと、7月下旬から降雨日数が少なく、高温に推移したことから発生量はやや少となった。	開花期から梅雨明けまでの薬剤防除。秋季防除の徹底、落葉、被害果の園外処分。
	ナシヒメシンクイ	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。適期防除の実施により、被害果率は平年並となった。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
	チャバネアオカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	越冬成虫量が多かったことから、フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。スギ、ヒノキ毬果が少なかったことから、誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	ツヤアオカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。スギ、ヒノキ毬果が少なかったことから、誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	クサギカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	アブラムシ類	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少なかった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。適期防除の実施により寄生新梢率はやや低く推移した。	展葉期、新梢新梢期に発生に応じて薬剤防除。
	ハダニ類	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	発生時期は平年並で、7月中旬以降気温が高く推移したが、適期防除により発生量は平年並となった。	発生初期の薬剤防除。薬剤のローテーション散布。

(イ) ブドウ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ブドウ	べと病	早	多	発生時期が早かったことから発生量も多かった。	6月中旬～下旬に降水量が多かったことから発生時期は早かった。発生時期が早かったことと7月第5半旬まで降水量が多かったことから病勢が進展し発生量が多くなった。	雨除け被覆。初発時の薬剤防除。落葉の園外処分。
	灰色かび病	やや早	並	発生時期はやや早く、発生量は平年並であった。	ブドウの生育がやや早かったことから発生時期はやや早かった。5月下旬の降雨日数が少なかったことから、開花前の発生花穂率は平年並となった。	花かす落としの励行。開花前と落花直後の薬剤防除。発病果の摘粒。新梢管理による過繁茂防止。
	晚腐病	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	7月以降ブドウの生育が平年並みとなったことから発生時期は平年並となった。8月前半の降水量が少なかったことから発生量は平年並となった。	巻きひげ除去。発芽前、幼果期の薬剤防除。雨よけ被覆。袋かけの実施。発病果の摘粒。
	チャバネアオカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	越冬成虫量が多かったことから、フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。スギ、ヒノキ毬果が少なかったことから、誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	ツヤアオカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。スギ、ヒノキ毬果が少なかったことから、誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	クサギカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	チャノキイロアザミウマ	やや早	並	発生時期はやや早く、発生量は平年並であった。	ブドウの生育がやや早かったことから発生時期はやや早かった。幼果期における適期防除の実施により発生量は平年並となった。	幼果期の薬剤防除。粗皮削り。袋かけ。

(ウ) カキ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カキ	炭疽病	並	並	新梢での発生量は平年並、9月以降果実での発生量は平年並に推移した。	6月中旬～下旬に降水量が多かったが、適期防除の実施により新梢での発生量は平年並で、9月以降の果実での発生量も平年並となった。	新梢の過繁茂防止。発病枝や発病果の除去。薬剤防除。
	カキクダアザミウマ	並	やや多	発生時期は平年並、発生量はやや多かった。	カキの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。5月下旬に被害葉がやや多かったが、その後は防除の実施により発生量の増加は抑制された。	軽微な被害葉が見え始めた頃の薬剤による防除。被害葉の処分。粗皮削り。
	カキノヘタムシガ	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	カキの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。成虫の発生量は平年並で、適期防除の実施により被害果率は平年並となった。	満開10日後および成虫発生盛期の薬剤防除。粗皮削り。
	フジコナカイガラムシ	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	カキの生育が平年並であったことから発生時期は平年並みとなった。適期防除の実施により発生量は平年並となった。	薬剤防除。粗皮削り。
	チャバネアオカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	越冬成虫量が多かったことから、フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。スギ、ヒノキ毬果が少なかったことから、誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	ツヤアオカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。スギ、ヒノキ毬果が少なかったことから、誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	クサギカメムシ	早	多	発生時期は早く、発生量は多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、予察灯での誘殺数は5月から多で推移した。誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに7月第6半旬に急増し、調査終了までフェロモントラップではやや多で、予察灯では多で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。

ウ 予察灯、フェロモントラップおよびほ場における調査

(ア) 予察灯による調査

カメムシ類半旬別誘殺状況 (栗東市荒張、100W高圧水銀灯) (頭)

月	半 旬	チャバネアオカメムシ				ツヤアオカメムシ				クサギカメムシ			
		本 年	累 積	平 年	累 積	本 年	累 積	平 年	累 積	本 年	累 積	平 年	累 積
4	1	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	2	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	3	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	4	1	1	0.0	0	1	1	0.0	0	0	0	0.0	0
	5	3	4	0.1	0	2	3	0.0	0	3	3	0.0	0
	6	12	16	0.1	0	23	26	0.0	0	2	5	0.0	0
5	1	7	23	3.1	3	26	52	2.0	2	1	6	0.0	0
	2	6	29	2.9	6	70	122	1.9	4	0	6	0.1	0
	3	74	103	10.1	16	139	261	4.7	9	1	7	0.0	0
	4	95	198	48.3	65	144	405	7.3	16	2	9	0.8	1
	5	164	362	33.6	98	448	853	18.3	34	5	14	0.4	1
	6	184	546	15.7	114	223	1076	12.7	47	4	18	1.0	2
6	1	90	636	27.6	142	14	1090	27.5	74	0	18	1.4	4
	2	220	856	13.5	155	136	1226	46.2	121	1	19	2.5	6
	3	357	1213	12.5	168	824	2050	31.9	153	11	30	1.0	7
	4	144	1357	25.6	193	747	2797	131.2	284	5	35	3.4	11
	5	336	1693	57.7	251	1098	3895	126.5	410	46	81	5.9	17
	6	338	2031	122.1	373	693	4588	158.0	568	63	144	13.1	30
7	1	481	2512	186.8	560	513	5101	109.6	678	50	194	14.7	44
	2	903	3415	157.3	717	362	5463	70.4	748	186	380	13.8	58
	3	919	4334	135.1	852	264	5727	44.3	793	124	504	16.4	75
	4	1166	5500	224.0	1076	429	6156	70.7	863	65	569	27.6	102
	5	1236	6736	137.9	1214	719	6875	59.7	923	468	1037	23.5	126
	6	1321	8057	192.6	1407	1246	8121	54.7	978	542	1579	50.1	176
8	1	692	8749	210.5	1617	621	8742	65.9	1044	223	1802	50.6	226
	2	1341	10090	194.8	1812	764	9506	115.2	1159	315	2117	39.9	266
	3	948	11038	157.9	1970	794	10300	227.1	1386	176	2293	35.1	301
	4	573	11611	96.1	2066	254	10554	103.6	1489	107	2400	39.2	341
	5	337	11948	117.6	2184	70	10624	37.8	1527	34	2434	24.8	365
	6	264	12212	169.5	2353	91	10715	72.4	1600	22	2456	25.3	391
9	1	288	12500	134.0	2487	75	10790	52.9	1653	4	2460	7.6	398
	2	368	12868	147.3	2634	77	10867	65.7	1718	2	2462	4.7	403
	3	438	13306	96.1	2730	58	10925	83.3	1802	8	2470	2.9	406
	4	352	13658	145.3	2876	45	10970	117.8	1919	3	2473	1.3	407
	5	252	13910	83.3	2959	38	11008	113.5	2033	3	2476	1.9	409
	6	283	14193	260.0	3219	124	11132	385.7	2419	2	2478	2.8	412
10	1	115	14308	92.0	3311	124	11256	246.3	2665	0	2478	1.9	414
	2	97	14405	42.3	3353	103	11359	184.5	2849	0	2478	2.1	416
	3	62	14467	38.6	3392	56	11415	195.7	3045	0	2478	1.1	417
	4	106	14573	20.2	3412	132	11547	102.5	3148	0	2478	0.3	417
	5	64	14637	3.8	3416	77	11624	32.6	3180	0	2478	0.0	417
	6	13	14650	1.0	3417	27	11651	10.9	3191	2	2480	0.1	417

※平年値はH26～R5の10年間の平均値。

(イ) フェロモントラップによる調査

フェロモントラップ半旬別誘殺状況 (栗東市荒張)

(頭)

月	半 旬	果樹カメムシ類						ナシヒメ シンクイ	
		チャバネアオ カメムシ		ツヤアオ カメムシ		クサギ カメムシ			
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	2	0.4
	2	1	0.7	0	0.0	0	0.2	7	1.1
	3	0	0.7	0	0.0	0	0.0	1	0.5
	4	0	0.8	0	0.0	0	0.0	1	1.0
	5	1	3.9	1	0.2	0	0.1	1	1.2
	6	3	3.3	0	0.2	0	0.1	0	1.3
5	1	0	26.2	3	1.5	0	0.4	1	1.0
	2	0	13.3	0	3.5	0	0.0	0	0.6
	3	13	42.9	4	8.2	0	0.4	0	0.2
	4	110	73.3	9	5.3	0	1.4	0	0.0
	5	8	37.3	2	13.6	0	1.3	0	0.0
	6	16	58.8	0	22.5	0	3.0	0	0.1
6	1	0	97.5	4	28.2	0	4.3	0	0.2
	2	1	29.3	0	6.6	1	1.3	4	0.1
	3	127	29.9	15	0.2	5	0.6	1	0.1
	4	88	52.1	5	1.4	0	0.4	0	0.3
	5	292	171.1	12	1.5	3	1.0	2	0.2
	6	379	402.2	5	2.2	2	1.7	1	0.3
7	1	382	424.9	1	3.1	1	1.3	4	0.1
	2	337	335.4	2	2.1	12	2.2	2	0.0
	3	696	617.8	4	1.6	6	3.1	1	0.5
	4	1,189	433.9	10	1.5	11	1.8	3	0.9
	5	726	397.4	42	1.1	26	1.1	0	0.9
	6	2,857	444.5	185	0.2	30	0.8	0	0.5
8	1	1,078	425.2	89	2.5	4	0.5	0	0.8
	2	301	208.0	14	4.7	1	0.2	0	0.7
	3	362	185.0	29	6.4	0	0.5	0	0.7
	4	13	146.2	0	2.4	0	0.6	0	0.6
	5	362	65.3	88	1.8	2	0.0	1	0.2
	6	196	64.1	41	2.8	0	0.1	0	0.4
9	1	93	41.0	16	4.2	0	0.0	0	0.6
	2	37	32.2	5	8.8	0	0.0	0	0.9
	3	31	8.7	7	2.1	0	0.0	0	0.6
	4	31	8.3	8	4.4	0	0.0	0	0.3
	5	5	18.9	1	17.5	0	0.1	0	0.2
	6	2	17.6	2	26.9	0	0.3	0	0.1
10	1	53	17.3	33	20.3	0	0.4	-	-
	2	49	9.3	32	42.7	0	0.3	-	-
	3	11	22.5	2	54.6	0	0.6	-	-
	4	25	8.2	14	50.0	0	0.3	-	-
	5	13	2.7	3	33.8	0	0.4	-	-
	6	2	1.6	2	8.4	0	0.3	-	-

※平年値はH26～R5の10年間の平均値。ナシヒメシンクイの調査期間は4月～9月。

(ウ) 現地ほ場における発生調査

a ナシ

月	黒星病 (発病果率%)				アブラムシ類 (寄生新梢率%)				ハダニ類 (寄生葉率%)			
	東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	0	1.6	0	0	0	4.8	0	4.8	0	0	0	0.2
6	0	1.2	0	0	0	1.1	0	1.4	0	1.9	0	0.8
7	0	2.3	0	0	0	0	0	0.1	0.7	1.7	2.7	2.9
8	0	8.2	0	0.2	-	-	-	-	0	1.3	0	0.6

※平年値：H26～R5の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

b ブドウ

月	べと病 (葉の発病度)				灰色かび病 (発病房率%)				晩腐病 (発病房率%)				チャノキイロアザミウマ (果房の被害度)			
	東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	0	0.2	0	0.2	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0.0
7	13.0	1.7	12.3	5.0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	0.1	0	0.2
8	24.0	4.8	21.1	11.1	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H26～R5の10年間の平均値。

※本年の「-」は調査期間外または未調査。平年の「-」はデータ数が少ないため未記入とした。

c カキ

月	炭疽病 (発病果率%)				カキクダアザミウマ (被害度)				カキノヘタムシガ (100葉あたり成虫数)				フジコナカイガラムシ (寄生新梢率%)			
	東近江市 鯉江町		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	0.5	0.1	0	0	0	0	0	0.0	-	-	-	-
6	-	-	-	-	0.5	0.2	0	0.4	0	0.2	0	0	0	0	0	0.1
7	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1.3	0	0
8	0	0.5	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.3	0	0.0
9	0	1.9	0	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H26～R5の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					発生面積 率(%)	被害面積 率(%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ナ シ	46	黒星病	0	0	3	10	13	28.3	6.5	* 46	* 414
		ナシヒメシンクイ	0	0	3	3	6	13.0	6.5	* 46	* 276
		ナミハダニ	0	0	5	9	14	30.4	10.9	* 46	* 115
		カンザワハダニ	0	0	5	8	13	28.3	10.9	* 46	* 115
		クサギカメムシ	0	0	8	6	14	30.4	17.4	* 46	* 46
		チャバネアオカメムシ	0	3	7	7	17	37.0	21.7	* 46	* 46
		ツヤアオカメムシ	0	1	7	9	17	37.0	17.4	* 46	* 46
		アブラムシ類	0	0	2	13	15	32.6	4.3	* 46	* 138
ブドウ	52	晩腐病	0	0	1	8	9	17.3	1.9	* 52	* 104
		べと病	0	3	7	15	25	48.1	19.2	* 52	* 156
		灰色かび病	0	0	1	7	8	15.4	1.9	* 52	* 104
		チャノキイロアザミウマ	0	0	2	7	9	17.3	3.8	* 52	* 104
カ キ	153	炭そ病	0	0	3	20	23	15.0	2.0	* 34	* 68
		カキノヘタムシガ	0	0	3	17	20	13.1	2.0	* 34	* 136
		フジコナカイガラムシ	0	0	0	4	4	2.6	0.0	* 34	* 68
		クサギカメムシ	0	6	16	27	49	32.0	14.4	* 34	* 51
		チャバネアオカメムシ	1	11	13	35	60	39.2	16.3	* 34	* 51
		ツヤアオカメムシ	1	10	13	29	53	34.6	15.7	* 34	* 51
		カキクダアザミウマ	0	0	1	2	3	2.0	0.7	* 34	* 34

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)×100

※防除面積の「*」は同時防除含む。

(2) チャ

ア 生育状況

1月から2月にかけて暖冬傾向であったが、茶の主産地である甲賀地域の3月の平均気温は平年並となり、一番茶萌芽期は前年より6日遅く、前5か年平均より1日遅い4月6日となった。

その後、4月の平均気温が平年より高く、降水量が4月上旬および下旬で多かったため新芽の生育は早まった。

その後、二番茶芽生育期間中の平均気温は平年並～やや高く推移したため、二番茶摘採日は前5か年平均より5日早い6月24日となった。また、一番茶摘採日から二番茶摘採日までの日数は、前5か年平均と同じ51日であった。

二番茶摘採後の平均気温は平年より高く推移した。降水量は8月、9月および12月で平年より少なくなったが、その他は平年並～多く推移し、三番茶および秋芽の生育は順調であった。

イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
炭疽病	平年並	やや少	6月上旬から発生が認められ、その後の発生量は8月上旬にかけてやや多～多く推移したが、8月中旬以降はやや少～平年並で推移した。	感染源となる前年の発生量はやや少なかったが、6月下旬の降水量が多かったことから7月～8月にかけての発生量が増加した。8月、9月の降水量が少なかったことからその後の発生量はやや少なかった。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
もち病	平年並	平年並	8月上旬の発生量は多かったが、その他の時期は平年並であった。	感染源となる前年の発生量は平年並で、7月中旬の降水量が多かったことから8月上旬の発生量が多くなった。期間を通して気温が高かったことから、発生量は平年並となった。	常発地では薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
輪斑病	平年並	やや多	期間を通じて発生量は平年並～多で推移した。	感染源となる前年の新梢枯死症の発生量はやや少なかったが、感染が増加する7月の気温が高かったことから、7月～8月上旬の発生量は増加した。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
新梢枯死症	平年並	平年並	8月中旬に発生が確認され、期間を通じて発生量は平年並であった。	感染源の輪斑病の発生量はやや多かったが、8月の降雨が少なかったことから発生が抑えられた。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
チャノコカクモンハマキ	やや早	やや少	発生時期は第2世代で早く、第3世代で遅く、その他の世代でやや早かった。	期間を通じて気温が高かったことから、発生時期はやや早かった。前年最終世代の発生量がやや少なかったことから、越冬世代の発生量はやや少なく、その後も期間を通じて発生量はやや少なかった。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
チャハマキ	やや早	少	期間を通じて発生量は少なかった。	チャノコカクモンハマキの発生によって防除が適宜行われたことから、発生量は少なく推移した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除が実施された。
チャノホソガ	やや遅	やや少	発生時期は、第1世代で平年並、第2世代でやや早く、第3世代でやや遅く、その他の世代で遅かった。	前年度最終世代の発生量がやや少なかったことから、年間を通じて発生量はやや少なかった。	二番茶、秋番茶の摘採前を中心に薬剤による防除が実施された。
チャノミドリヒメヨコバイ	やや早	やや少	発生量は6月まではやや少～多で推移したが、7月以降はやや少～平年並で推移した。	6月の降水量が多かったことから、発生量が抑えられた。	発生に応じて適宜防除が実施された。
カンザワハダニ	平年並	平年並	8月上旬の発生量は多く、9月はやや多くなったが、その他の時期はやや少～平年並で推移した。	越冬ダニの発生量は平年並であったが、4月上旬、6月下旬の降水量が多かったことから、4月、7月上旬の発生量は減少した。7月下旬～8月の降水量が少なく、8月上旬および9月の発生量は増加した。	発生に応じて薬剤防除が実施された。
チャノキイロアザミウマ	平年並	やや少	期間を通じて発生量はやや少～平年並で推移した。	6月下旬～7月の降水量が平年並～多で推移したことから、発生量はやや少～平年並で推移した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
ツマグロアオカスミカメ	早	平年並	発生時期はやや早く、発生量は平年並であった。	一番茶の萌芽期が早かったことから、発生時期は早かった。	一番茶の萌芽期～開葉期に薬剤防除が実施された。
クワシロカイガラムシ	早	やや少	発生量は越冬世代、第1世代でやや少、第2世代以降は少～平年並で推移した。	5月下旬の降水量が多かったため、第1世代の発生量はやや少～平年並で推移した。第2世代以降の発生量は、通期防除の実施により、少～平年並で推移した。	発生園では主に第2世代幼虫ふ化期に薬剤防除が実施された。
チャトゲコナジラミ	平年並	やや少	発生時期は越冬世代で平年並、第1世代でやや遅く、第2世代で平年並であった。期間を通じ発生量はやや少なかった。	前年の発生量が、少なかったことから、本年も期間を通じて発生量がやや少なかった。	発生園では、防除適期である若齢幼虫期に薬剤防除が実施された。また、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種防除が実施された。

ウ 予察灯・フェロモントラップ・ほ場における調査

(ア) 予察灯（水盤）・フェロモントラップにおける調査

チャノコカクモンハマキ・チャハマキ・チャノホソガ 半旬別誘殺状況（甲賀市水口町）
（頭）

月	半旬	チャノコカクモンハマキ						チャハマキ						チャノホソガ			
		予察灯				フェロモン トラップ		予察灯				フェロモン トラップ		予察灯		フェロモン トラップ	
		本年			平年	本年	平年	本年			平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
		♀	♂	計				♀	♂	計							
4	1	0	0	0	0	2	10	0	0	0	0	1	0	0	3	44	217
	2	0	0	0	0	1	44	0	0	0	0	0	1	0	4	113	300
	3	1	1	2	3	10	89	0	0	0	1	9	3	1	28	128	330
	4	0	2	2	32	53	320	0	0	0	1	8	7	4	10	30	127
	5	0	2	2	10	58	317	0	1	1	1	2	9	0	6	9	91
	6	1	3	4	69	136	556	0	0	0	0	4	10	1	5	1	43
5	1	1	5	6	156	197	426	0	0	0	1	4	8	0	3	2	27
	2	1	4	5	67	199	405	0	0	0	0	13	9	0	1	2	14
	3	0	3	3	24	163	194	0	0	0	1	13	6	0	0	0	8
	4	0	2	2	11	88	86	0	0	0	1	9	8	0	0	0	3
	5	0	1	1	4	14	37	0	0	0	1	2	10	0	1	51	43
	6	2	0	2	1	2	9	1	3	4	1	5	11	2	58	662	1042
6	1	0	0	0	1	0	1	0	2	2	1	4	7	2	71	549	1757
	2	0	1	1	2	1	19	0	0	0	0	6	2	8	77	2134	3071
	3	3	17	20	81	35	176	0	5	5	0	8	4	15	30	857	2096
	4	2	16	18	50	129	279	0	0	0	0	3	4	0	6	436	914
	5	6	29	35	76	202	394	0	4	4	0	10	5	0	2	138	428
	6	2	20	22	65	127	286	0	0	0	1	0	5	0	3	116	208
7	1	2	10	12	30	36	160	0	0	0	0	4	5	1	11	424	457
	2	0	0	0	29	18	53	0	0	0	0	4	4	0	18	886	1148
	3	1	0	1	5	0	17	0	0	0	1	1	5	0	16	368	1336
	4	0	3	3	3	1	15	0	0	0	1	0	9	1	14	584	1020
	5	0	4	4	4	23	36	0	0	0	1	1	4	0	4	227	590
	6	1	27	28	26	14	47	0	0	0	1	3	5	1	2	129	377
8	1	2	17	19	29	14	63	0	0	0	0	1	2	0	2	123	281
	2	3	12	15	20	9	35	0	0	0	0	0	2	0	8	91	684
	3	1	3	4	14	5	25	0	1	1	0	0	1	2	11	81	794
	4	2	11	13	20	6	14	0	0	0	0	0	2	0	5	80	812
	5	2	8	10	10	5	9	0	0	0	0	0	1	0	5	133	413
	6	1	6	7	5	2	22	0	1	1	0	0	2	0	1	241	318
9	1	1	2	3	3	5	45	0	0	0	0	0	2	0	1	132	263
	2	0	0	0	16	8	56	0	0	0	0	0	3	0	2	58	538
	3	0	4	4	34	20	90	0	0	0	0	0	3	1	12	97	508
	4	2	7	9	36	33	121	0	1	1	0	1	3	0	3	235	455
	5	4	8	12	71	21	140	0	0	0	0	1	3	0	4	330	398
	6	3	13	16	96	17	91	0	0	0	0	4	4	0	3	203	359
10	1	0	5	5	8	11	43	0	0	0	1	0	4	0	1	112	283
	2	0	2	2	4	17	40	0	0	0	1	1	6	0	2	80	248
	3	1	0	1	1	10	22	0	0	0	1	1	9	0	2	68	145
	4	1	5	6	5	40	24	0	0	0	1	16	12	0	4	90	153
	5	0	4	4	1	50	18	0	0	0	1	22	9	0	1	170	154
	6	0	3	3	0	126	16	0	0	0	0	12	9	0	4	56	158
11	1	0	0	4	0	47	11	0	0	0	1	0	6	0	2	9	195
	2	0	1	1	1	52	15	0	0	0	0	1	7	0	1	18	137
	3	0	0	2	0	31	22	0	0	0	0	1	3	0	0	39	148
	4	0	5	1	1	17	20	0	0	0	0	0	2	0	1	12	114
	5	0	1	0	0	0	14	0	0	0	0	0	1	0	1	0	104
	6	0	8	0	1	0	11	0	0	0	0	0	1	0	2	0	125

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

チャノコカクモンハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初 飛 来 日（月 日）	4月12日	4月15日	6月9日	6月12日	7月15日	7月22日	8月27日	9月6日
最 盛 日（月 日）	5月3日	5月4日	6月19日	6月23日	7月29日	8月6日	9月27日	9月24日
最 盛 半 旬（月－半旬）	5－1	5－1	6－5	6－6	7－6	8－2	9－6	9－5
50% 誘 殺 日（月 日）	5月4日	5月4日	6月24日	6月25日	8月4日	8月5日	9月22日	9月24日
終 息 日（月 日）	5月29日	5月26日	7月5日	7月11日	8月22日	8月24日	10月5日	11月4日
誘 殺 日 数（日）	20	24	25	21	29	24	21	23
誘 殺 数（頭）	29	378	108	338	97	131	56	300
性 比（♂ / ♀）	3.83	11.35	6.20	16.20	6.46	10.83	6.00	8.97

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

チャハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初 飛 来 日（月 日）	4月24日	4月21日	6月11日	7月4日	8月15日	8月19日	－	10月2日
最 盛 日（月 日）	5月31日	5月6日	6月13日	7月13日	8月15日	8月24日	－	10月15日
最 盛 半 旬（月－半旬）	5－6	5－2	6－3	7－3	8－4	8－5	－	10－5
50% 誘 殺 日（月 日）	5月31日	5月8日	6月13日	7月14日	8月15日	8月24日	－	10月15日
終 息 日（月 日）	6月2日	5月27日	8月15日	7月23日	9月20日	8月25日	－	10月28日
誘 殺 日 数（日）	4	9	7	4	2	2	－	7
誘 殺 数（頭）	7	11	10	5	2	2	－	9
性 比（♂ / ♀）	6.00	12.75	－	2.50	－	2.00	－	3.83

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

※ 「－」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

チャノホソガ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫		第4世代成虫		第5世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初 飛 来 日（月 日）	4月12日	4月6日	5月28日	5月28日	7月1日	7月4日	8月11日	8月7日	9月13日	9月5日	－	10月12日
最 盛 日（月 日）	4月17日	4月21日	6月11日	6月6日	7月19日	7月12日	8月11日	8月15日	9月13日	9月13日	－	10月17日
最 盛 半 旬（月－半旬）	4－4	4－5	6－3	6－2	7－4	7－3	8－3	8－3	9－3	9－3	－	10－4
50% 誘 殺 日（月 日）	4月17日	4月19日	6月11日	6月6日	7月19日	7月12日	8月11日	8月15日	9月13日	9月9日	－	10月19日
終 息 日（月 日）	4月17日	5月6日	6月15日	6月20日	7月30日	7月22日	8月12日	8月22日	9月13日	9月23日	－	11月4日
誘 殺 日 数（日）	6	12	14	17	3	11	2	8	1	9	－	9
誘 殺 数（頭）	6	71	27	243	3	66	2	37	1	31	－	25

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

※ 「－」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

(イ) ほ場における調査

a チャノミドリヒメヨコバイ 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

たたき落とし虫数（頭/4カ所合計）

月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0
2	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3 上 中 下	0	0.3	0	0	—	—	—	—	0	0	—	—	—	—	—	—
	1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	1	0	0	0
	1	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4 上 中 下	0	0.1	0	0	—	—	—	—	0	0.2	—	—	—	—	—	—
	0	0.1	0	0	0	0.2	1	0	0	0.1	0	0.1	0	0	0	0
	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5 上 中 下	0	0	0	0	—	—	—	—	0	0.1	—	—	—	—	—	—
	0	0.1	0	0	0	0.2	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 上 中 下	0	0.2	0	0	—	—	—	—	0	0.1	—	—	—	—	—	—
	0	1.2	0	0.1	0	0.1	0	0.4	0	0.2	0	0.1	0	0	0	0.1
	0	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 上 中 下	0	1.2	2	0.1	—	—	—	—	0	0.4	—	—	—	—	—	—
	0	1.7	2	1.1	1	0.9	0	0.8	2	1.0	2	0.3	0	0.1	0	0.7
	0	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8 上 中 下	0	0.9	0	0.8	—	—	—	—	0	0.7	—	—	—	—	—	—
	0	0.3	0	0.6	0	0.4	0	0	0	0.6	0	0.9	1	0.8	0	0.6
	0	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9 上 中 下	0	0.4	0	0.3	—	—	—	—	0	0.8	—	—	—	—	—	—
	0	0	0	0.3	0	0.6	0	0.4	0	1.0	0	0.2	0	0.2	1	0.7
	0	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	0	0	0	0	0	0.5	0	0.5	0	0.5	0	0.2	0	0.1	0	0.6
11	0	0	4	0	0	0.1	0	0.2	0	0.5	0	0.3	1	0.2	0	0.8
12	0	0.4	0	0	0	0.2	0	0.2	0	0.3	0	0.1	0	0	0	0.3

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

ｂ カンザワハダニ 基準ほ場における発生調査（甲賀市水口町）

月 旬	本年					平年	
	寄生数（頭／葉）				寄生葉率 （％）	寄生数 （頭／葉）	寄生葉率 （％）
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0	0	0	0	0	0.00	0.2
2	0	0	0	0	0	0.01	0.4
3	上	0	0	0	0	0.01	1.0
	中	0	0	0	0	0.04	0.8
	下	0	0	0	0	0.56	2.0
4	上	0	0	0	0	0.10	0.4
	中	0	0	0	0	0.51	1.8
	下	0	0	0	0	0.46	2.2
5	上	0	0	0	0	0.48	3.6
	中	0	0	0	0	0.51	1.2
	下	0	0	0	0	0.14	2.2
6	上	0	0	0	0	0.21	3.0
	中	0	0	0	0	0.11	1.0
	下	0	0	0	0	0	0
7	上	0	0	0	0	0.02	0.6
	中	0	0	0	0	0.01	0.6
	下	0	0	0	0	0	0
8	上	0	0	0	0	0.03	0.8
	中	0.10	0.30	0.56	0.96	4.0	5.6
	下	0.20	0.56	1.38	2.14	16.0	4.4
9	上	0.48	0.62	1.90	3.00	30.0	0.6
	中	0.04	0.36	0.08	0.48	6.0	0.6
	下	0	0	0	0	0.0	3.0
10		0	0	0	0	0.26	2.4
11		0	0	0	0	0.13	1.8
12		0	0	0	0	0.04	1.2

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

※ 寄生葉率は成虫、幼虫、または卵が1頭（卵）以上寄生している葉の割合。

c カンザワハダニ 予察ほにおける発生調査

(a) 甲賀市土山町 市場

月 旬	本年					平年	
	寄生数（頭／葉）				寄生葉率 （％）	寄生数 （頭／葉）	寄生葉率 （％）
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0.00	0.4
3 上	0	0	0	0	0	0.01	0.8
	0.02	0	0.02	0.04	2.0	0.62	1.4
4 上	0	0	0	0	0	1.68	3.4
	0	0	0	0	0	1.22	3.4
5 上	0	0	0	0	0	0.22	2.0
	0.04	0	0.54	0.58	8.0	0.77	5.0
6 上	0.06	0.08	1.14	1.28	10.0	2.26	16.2
	0.24	0.36	3.54	4.14	24.0	2.41	15.0
7 上	0	0	0	0	0	2.10	13.4
	0	0	0	0	0	0.02	0.6
8 上	0	0	0	0	0	0.07	1.2
	0	0	0.18	0.18	2.0	0.29	2.4
9 上	1.36	1.90	7.04	10.30	42.0	2.99	12.6
	0.32	0.92	0.64	1.88	16.0	1.63	4.2
10	0	0	0	0	0	0.02	0.2
11	0	0	0	0	0	0.00	0.2
12	0	0	0	0	0	0.00	0.2

※ 平年値はH26～R 5年の10年間の平均値。

(b) 甲賀市信楽町 奥山

月 旬	本年					平年	
	寄生数（頭／葉）				寄生葉率 （％）	寄生数 （頭／葉）	寄生葉率 （％）
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0	0	0	0	0	0.02	0.6
2	0	0	0	0	0	0.01	0.2
3 上 中	0	0	0	0	0	0.00	0.2
	0	0	0	0	0	0	0
4 上 中	0	0	0	0	0	0.45	1.0
	0	0	0	0	0	1.35	2.2
5 上 中	0	0	0	0	0	0.63	2.8
	0	0	0	0	0	0.48	1.8
6 上 中	0.02	0	0.04	0.06	2.0	0.53	2.6
	0.02	0.02	0	0.04	2.0	0.08	1.4
7 上 中	0	0	0	0	0	0.00	0.2
	0	0	0	0	0	0.03	1.0
8 上 中	0.18	0.34	0.38	0.90	10.0	0.09	1.4
	0.46	0.14	0.84	1.44	20.0	0.09	2.0
9 上 中	0	0	0	0	0	0.46	2.4
	0	0	0	0	0	0.07	0.8
10	0	0	0	0	0	0.51	2.4
11	0	0	0	0	0	0.26	1.8
12	0	0	0	0	0	0.23	1.6

※ 平年値はH26～R 5年の10年間の平均値。

d カンザワハダニ 現地ほ場における発生調査

(a) 甲賀市土山町 頓宮

月	本年				
	寄生数（頭／葉）				寄生葉率 （％）
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0.02	0	0	0.02	2.0
4	0	0	0	0	0
5	0	0.04	0.12	0.16	4.0
6	0.16	0.50	1.68	2.34	14.0
7	0	0	0	0	0
8	0	0.02	0	0.02	2.0
9	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(b) 甲賀市土山町 布引

月	本年				
	寄生数（頭／葉）				寄生葉率 （％）
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0.02	0	0.24	0.26	4.0
6	0	0	0	0	0
7	0.08	0.26	0.06	0.40	4.0
8	0	0	0.02	0.02	2.0
9	0.02	0	0.06	0.08	2.0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(c) 甲賀市信楽町 向山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭／葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0	0.22	0.36	0.58	2.0
6	0.18	0.38	2.00	2.56	16.0
7	0	0	0	0	0
8	0.18	0.72	1.38	2.28	14.0
9	0.14	0.08	0.20	0.42	4.0
10	0.02	0.06	0.30	0.38	4.0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(d) 甲賀市信楽町 寺谷

月	本年				
	寄生数（頭／葉）				寄生葉率 （％）
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.02	0	0	0.02	2.0
2	0	0	0	0	0
3	0.02	0	0	0.02	2.0
4	0	0	0	0	0
5	0.04	0	0.12	0.16	2.0
6	0.04	0.20	0.78	1.02	6.0
7	0	0	0	0	0
8	0.08	0.22	0.80	1.10	14.0
9	0.86	1.82	0.10	2.78	26.0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(e) 日野町 北山

月	本年				
	寄生数（頭／葉）				寄生葉率 （％）
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0
6	0.02	0.20	0.22	0.44	4.0
7	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0
10	0	0	0.16	0.16	2.0
11	0.10	0.08	0	0.18	4.0
12	0	0	0	0	0

e チャノキイロアザミウマ 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

たたき落とし虫数（頭/4カ所合計）																
月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	上	0	0.1	0	0	—	—	—	—	0	0	—	—	—	—	—
	中	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	下	0	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	上	0	0.2	0	0	—	—	—	—	0	0.1	—	—	—	—	—
	中	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.6	0	0.2	0	0.3	0
	下	0	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	上	0	0.2	0	0	—	—	—	—	0	0	—	—	—	—	—
	中	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	1.4	0	0.6	0	0.8	0	0.1	0
	下	0	7.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	上	3	2.9	0	1.8	—	—	—	—	0	2.6	—	—	—	—	—
	中	0	4.7	0	0.5	0	0.8	1	0.7	0	0.8	0	3.5	3	2.7	0
	下	2	8.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	上	0	5.5	0	4.4	—	—	—	—	0	2.5	—	—	—	—	—
	中	0	5.3	1	12.2	0	8.2	0	5.3	0	1.0	0	10.5	0	6.1	0
	下	0	2.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	上	0	2.3	0	16.0	—	—	—	—	0	2.4	—	—	—	—	—
	中	0	4.8	0	6.6	0	5.4	0	2.0	0	3.2	2	4.3	0	4.8	1
	下	0	2.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	上	0	3.6	0	1.7	—	—	—	—	0	4.5	—	—	—	—	—
	中	0	2.0	0	0.2	1	0.6	0	2.8	0	1.7	4	2.4	0	0.5	0
	下	1	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	0	0.3	0	0	0	0	0	1.2	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.1
11	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.2
12	0	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

※ 「—」は未調査。

f クワシロカイガラムシ 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

		寄生葉株 (%)														
月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	45.0	27.0	0	10.0	0	10.5	0.0	16.5	0	8.0	0.0	19.0	0	10.5	0	27.0
2	0	29.0	0	11.5	0	9.5	0.0	21.5	0	10.5	0.0	18.5	0	13.5	0	21.0
3 上	0	26.5	0	9.5	—	—	—	—	0	8.0	—	—	—	—	—	—
	15.0	32.0	0	8.0	0	13.5	0	17.5	0	10.5	0	14.5	10.0	5.5	0	16.0
	30.0	25.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4 上	20.0	16.0	0	7.0	—	—	—	—	0	6.5	—	—	—	—	—	—
	25.0	16.0	0	9.0	0	9.5	0	5.5	5.0	10.0	0	11.5	5.0	8.0	0	19.5
	0	25.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5 上	20.0	18.0	0	6.0	—	—	—	—	0	7.0	—	—	—	—	—	—
	5.0	19.0	0	7.0	0	9.0	0	6.5	0	5.5	0	10.0	0	4.5	0	12.0
	5.0	23.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 上	25.0	19.5	0	7.0	—	—	—	—	0	9.0	—	—	—	—	—	—
	50.0	31.0	0	9.0	0	4.5	0	8.0	0	6.5	0	9.5	15.0	2.0	0	10.0
	60.0	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 上	40.0	13.5	0	18.0	—	—	—	—	20.0	13.0	—	—	—	—	—	—
	20.0	22.0	5.0	16.0	0	22.5	0	28.0	0	27.0	0	24.0	0	26.0	0	29.3
	10.0	5.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8 上	20.0	11.0	0	8.9	—	—	—	—	10.0	20.0	—	—	—	—	—	—
	15.0	33.9	0	5.6	0	11.7	0	21.1	0	3.9	0	3.9	0	11.1	0	16.1
	0	25.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9 上	5.0	16.6	20.0	14.5	—	—	—	—	0	14.5	—	—	—	—	—	—
	5.0	11.0	10.0	13.0	0	24.5	0	29.5	0	23.5	0	34.6	15.0	33.0	0	33.5
	30.0	29.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	0	41.1	10.0	11.1	0	16.7	5	24.4	45.0	13.9	0	26.7	5.0	22.8	0	27.2
11	0	40.6	5.0	7.8	0	15.6	0	17.2	30.0	12.2	0	15.0	0	12.2	0	16.7
12	0	38.9	0	8.3	0	14.4	0	8.9	35.0	11.7	0	18.9	0	21.7	0	26.3

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

g チャトゲコナジラミ 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

		寄生葉率 (%)															
月 旬	甲賀市水口町	甲賀市土山町								甲賀市信楽町						日野町	
		市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山			
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1		32.0	39.4	2.0	52.2	0	22.8	4.0	27.4	2.0	15.4	4.0	20.4	14.0	30.8	26.0	15.4
2		14.0	34.4	0	47.0	10.0	24.0	2.0	32.8	2.0	16.8	12.0	19.3	12.0	29.0	38.0	16.2
3	上	20.0	36.4	0	39.6	—	—	—	—	6.0	15.0	—	—	—	—	—	—
	中	14.0	34.1	0	37.6	18.0	18.4	0	28.2	8.0	9.4	0	20.8	18.0	23.6	24.0	11.2
	下	18.0	33.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	上	18.0	32.2	0	36.8	—	—	—	—	14.0	13.6	—	—	—	—	—	—
	中	16.0	24.8	0	31.0	14.0	15.6	0	19.6	12.0	11.4	10.0	15.4	4.0	18.6	26.0	8.4
	下	12.0	22.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	上	6.0	16.2	0	29.0	—	—	—	—	10.0	12.2	—	—	—	—	—	—
	中	4.0	7.6	6.0	9.2	8.0	3.4	6.0	7.4	2.0	7.4	4.0	9.6	18.0	11.0	54.0	2.4
	下	14.0	6.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	上	10.0	14.2	4.0	44.0	—	—	—	—	16.0	6.8	—	—	—	—	—	—
	中	24.0	34.8	22.0	60.2	2.0	51.8	6.0	52.0	0	20.8	10.0	37.1	34.0	31.6	48.0	35.0
	下	16.0	37.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	上	24.0	29.0	0	29.0	—	—	—	—	2.0	23.0	—	—	—	—	—	—
	中	24.0	20.6	2.0	35.2	26.0	38.4	6.0	22.8	0	52.2	12.0	42.4	38.0	52.0	50.0	54.4
	下	16.0	21.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	上	22.0	27.4	8.0	53.8	—	—	—	—	0	36.2	—	—	—	—	—	—
	中	0	21.0	0	28.0	4.0	18.2	4.0	21.2	0	16.8	2.0	22.8	10.0	18.7	12.0	22.8
	下	4.0	24.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	上	0	18.2	0	19.8	—	—	—	—	2.0	6.4	—	—	—	—	—	—
	中	12.0	20.4	8.0	28.0	20.0	21.2	4.0	9.6	0	7.8	0	12.0	10.0	12.8	16.0	4.8
	下	0	24.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10		2.0	32.2	8.0	43.0	2.0	21.8	0	20.4	2.0	11.4	8.0	20.0	2.0	24.2	20.0	8.2
11		0	40.6	2.0	46.2	12.0	28.4	0	26.8	2.0	20.6	8.0	26.4	0	30.0	8.0	17.6
12		0	33.2	0	38.8	2.0	30.4	0	27.4	0	15.8	0	25.8	0	33.0	2.0	12.4

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

h 炭疽病 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

		病葉数 (枚/m ²)															
月 旬	甲賀市水口町	甲賀市土山町								甲賀市信楽町						日野町	
		市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山			
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1		6.4	5.4	0	1.1	0	1.9	0	4.6	0	15.4	0	3.5	6.4	5.4	0	0
2		0	5.4	0	1.3	0	0.2	0	4.5	0	2.6	0	0.8	0	1.6	0	0.2
上		0	7.8	0	2.1	-	-	-	-	0	1.3	-	-	-	-	-	-
3 中		0	7.8	0	0	0	0.2	0	2.9	0	1.1	0	1.6	0	4.8	0	0
下		0	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上		0	0.5	0	0.2	-	-	-	-	0	1.3	-	-	-	-	-	-
4 中		0	7.5	0	0.3	0	2.7	0	2.5	0	1.0	0	0.5	0	2.0	0	0.2
下		0	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上		0	1.4	0	0.6	-	-	-	-	0	1.9	-	-	-	-	-	-
5 中		0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0
下		0	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上		4.8	1.8	1.6	0	-	-	-	-	0	0.3	-	-	-	-	-	-
6 中		4.8	0	0	0	0	0	0	0.3	4.8	1.1	1.6	0.3	4.8	1.6	1.6	0.2
下		1.6	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上		0	7.0	0	0.6	-	-	-	-	0	3.5	-	-	-	-	-	-
7 中		22.4	19.8	4.8	1.0	3.2	0.6	8.0	1.4	14.4	1.1	0	2.2	6.4	1.6	0	0
下		16.0	14.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上		17.6	9.0	4.8	1.1	-	-	-	-	11.2	1.4	-	-	-	-	-	-
8 中		9.6	20.6	1.6	0.6	0	0.3	1.6	4.6	22.4	1.1	0	1.4	0	7.5	0	0.8
下		6.4	25.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上		0	29.1	0	3.4	-	-	-	-	9.6	4.8	-	-	-	-	-	-
9 中		0	37.6	0	2.4	0	2.4	1.6	13.0	16.0	12.5	0	6.6	0	24.0	0	0.6
下		0	49.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10		0	35.5	0	1.4	0	7.0	0	6.1	3.2	16.7	0	3.2	0	11.5	0	0.3
11		6.4	27.2	0	1.4	0	2.4	0	7.0	0	10.9	0	2.1	0	6.9	0	0.2
12		0	16.5	0	2.5	0	0.2	0	8.9	12.8	6.9	0	1.6	0	6.2	0	0

※ 平年値はH26～R5年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)		
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除	備考
チャ	545	炭 疽 病	0	15	40	220	275	50.5	10.1	275	550	*
		も ち 病	0	5	15	45	65	11.9	3.7	65	130	*
		輪 斑 病	0	5	25	105	135	24.8	5.5	135	170	*
		新 梢 枯 死 症	0	5	65	165	235	43.1	12.8	235	235	
		チャノコカクモンハマキ	0	5	100	235	340	62.4	19.3	340	680	*
		チャ ハ マ キ	0	0	15	105	120	22.0	2.8	120	240	*
		チャ ノ ホ ソ ガ	0	10	90	255	355	65.1	18.3	355	860	
		チャノミドリヒメヨコバイ	0	10	100	215	325	59.6	20.2	325	650	*
		カ ン ザ ワ ハ ダ ニ	0	15	110	255	380	69.7	22.9	380	760	
		チャノキイロアザミウマ	0	5	100	255	360	66.1	19.3	360	720	*
		ツマグロアオカスミカメ	0	0	20	55	75	13.8	3.7	75	75	
		クワシロカイガラムシ	0	15	90	225	330	60.6	19.3	330	660	
チャトゲコナジラミ	5	10	40	215	270	49.5	10.1	270	540	*		

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)／(栽培面積)×100

※防除面積の備考欄「*」は同時防除を含む

(3) 花き（キク）

ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キク	白さび病	並	並	ほ場での初発確認は6月18日で、一部ほ場で発生が認められた。	夏期の高温によって発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	遅	やや少	ほ場での初発確認は8月16日で、発生時期は遅く、発生量はやや少なかった。	6月中旬から7月中旬までの降水量が多く、侵入が抑制された。発生初期に適切に防除がされたため、発生量はやや少なかった。	発生初期に薬剤散布が実施されている。
	アザミウマ類	遅	やや少	ほ場での初発確認は8月5日で、発生時期は遅く、発生量はやや少なかった。	6月中旬から7月中旬までの降水量が多く、侵入が抑制された。発生初期に適切に防除がされたため、発生量はやや少なかった。	発生初期に薬剤散布が実施されている。

イ 発生量調査

調査地点		病害虫名	白さび病 発病葉率 (%) 7/29～31	アブラムシ類 1茎あたり寄生虫数 (頭) 7/29～31	アザミウマ類 被害葉率 (%) 7/29～31
草津市	下笠町		0	0	0
野洲市	小南		0	0	0
湖南市	菩提寺		0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦		0	0	0
彦根市	松原町		0	0	0
甲良町	下之郷		0	0	0
米原市	世継		0	0	0
高島市今津町	深清水		0	0	0

ウ 初発見日と初発見場所

病害虫名	初発見月日	初発見場所
白さび病	6月18日	東近江地域
アブラムシ類	8月16日	東近江地域
アザミウマ類	8月5日	甲賀市

エ 発生および被害面積

対象作物名	栽培面積 (ha)	対象病害虫	程度別発生面積(ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
キク	14	白さび病	0	0	0	1	1	7.1	0	2	4
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	14.3	0	10	20
		アザミウマ類	0	0	0	1	1	7.1	0	10	10

被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積) ×100

7 病虫害防除推進員の設置

県内における病虫害発生予察精度の確保を図るため、平成 31 年 4 月に「病虫害防除推進員」を新たに設置した。

令和 6 年度は、9 農業協同組合より 55 名が選出され、地域における病虫害発生状況の把握に努めるとともに、病虫害防除および農薬安全使用の指導等を行っている。

(1) 病虫害防除推進員研修会

ア 第 1 回

- 日 時 令和 6 年 5 月 22 日(水) 13 時 30 分～16 時 00 分
場 所 滋賀県農業技術振興センター大会議室
研修内容 (講師 病虫害防除所職員)
(1) 病虫害防除推進員の業務について
(2) 主要病虫害の生態と調査のポイント
①病害について
②虫害について
③侵入が警戒される病虫害について
(3) 農薬の適正使用について
(4) 病虫害防除所ホームページ・しらがメールの活用について

イ 第 2 回

- 日 時 令和 7 年 2 月 12 日(水) 13 時 30 分～16 時 00 分
場 所 滋賀県農業技術振興センター大会議室
研修内容
(1) ヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病について
講師 龍谷大学 柴 卓也 准教授
(2) 滋賀県におけるイネ縞葉枯病の防除対策について
講師 滋賀県病虫害防除所 北野 大輔
(3) 近年問題となっている病虫害
講師 滋賀県病虫害防除所 角 大樹

(2) 病虫害防除推進員に向けた情報の提供

病虫害防除推進員の活動の支援のため、新たに病虫害防除推進員向けの情報を提供した。画像を組み合わせ、病虫害の発生動向、特に注意すべき病虫害や水稻の生育のポイントなどの情報を簡潔にとりまとめ、5～10 月に 5 回、電子メールにて発信した。

令和6年度 防除推進員情報 No.1

令和6年5月1日
情報作成 滋賀県病虫害防除所
近江八幡市安土町大中 516
TEL 0748-46-4926

○今春の麦作

- ・麦類赤かび病の注意報を4月23日に発表しています。
- ・4月中旬以降、赤かび病が発生しやすい気象条件となっており、今後の気象予報でも降雨が見込まれます。
- ・作付けの多い「びわほなみ」では発病が観察され始めています。
- ・このため、さらなる注意を呼び掛けるため防除情報も発表しました。
- ・降雨の合間を見て防除を実施してください。



赤かび病の発生状況



矢印の部分に赤色のかびが見られる

赤かび病の胞子が飛びやすい気象の出現状況

月/日	子のう胞子 ¹⁾ 飛散好適日	日降水量 ²⁾ (mm)
4/16	○	15.5
4/17	○	0
4/18	-	0
4/19	-	0
4/20	-	0
4/21	○	16.5
4/22	○	0
4/23	○	5.5
4/24	○	13.5
4/25	○	0
4/26	-	0
4/27	-	0
4/28	-	0
4/29	○	2.5
4/30	○	16.0

○令和5年度年報を発行しました

- ・病虫害防除所では例年、年報を作成し、ホームページへ掲載しています。令和5年度の年報から一部を紹介します。
- ①新たに発生が確認された病虫害 (P. 82)
トマトキバガ、シタバニハゴロモの発生を確認したので特殊報を発表しました。
- ②発生の目立った病虫害 (P. 87～)
 - ・いもち病の発生推移やBLASTAMの分析結果などを解説しています。
 - ・ごま葉枯病の発生状況を解説しています。
 - ・麦赤かび病の発生状況を解析しています。
 - ・イネ縞葉枯病の発生状況や発生要因を分析しています。
- ③試験成績 (P. 135～)
紋枯病の要防除水準の検討、イネカメムシのトラップの検討、麦赤かび病 (DON 対策) の防除などを掲載しています。

○病虫害防除所、農技センターからの情報 ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病虫害防除所



<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

農業技術振興センター



<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>

令和6年度 防除推進員情報 No.2

令和6年6月7日

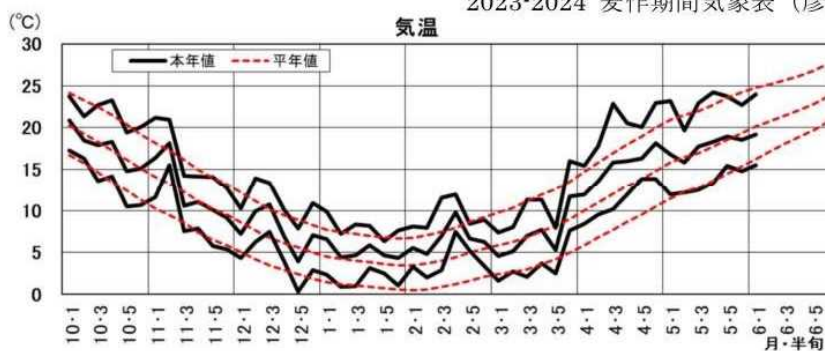
情報作成 滋賀県病虫害防除所
近江八幡市安土町大中 516
TEL 0748-46-4926

○今春の麦作

- ・麦類赤かび病は4月26日に発生が確認されました。(過去10年の平均は5月9日頃)
- ・病虫害防除所の調査では、小麦の発生ほ場率は98.7%(平年値:38.9%)、発病穂率は9.7%(平年値:2.3%)でした。(過去10年で最も高かった)
- ・これは4~5月の気象が大きな要因と考えています。

麦の開花期である4月中旬ごろから断続的に降雨が続き、特に4月下旬は気温が高く、降水量が多く、日照時間が少なかったことから、発生が早期化し、5月以降も断続的に降雨があり、発病穂率などが高まったと考えています。

2023-2024 麦作期間気象表(彦根アメダス)



- ・今後、赤かび病が産生する毒素「DON」による影響が懸念されるところです。農林水産省でも、麦の生産に携わる農業者を指導する立場の方に向けて、生産現場で実施する取組を「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針」などをホームページに掲載しています。https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/

○病虫害の発生予報

- ・6月4日に病虫害発生予報第4号を発表しました。

作物名	病虫害名	時期	発生量	作物名	病虫害名	時期	発生量
イネ	葉いもち	やや早	平年並	チャ	炭疽病	—	やや多
	ニカメイガ(I)	やや早	平年並		もち病	—	平年並
	イネドロオイムシ	平年並	やや多		チャノホソガ(II)	平年並	平年並
	コバネイナゴ	平年並	平年並		カンザワハダニ	—	平年並
野菜全般	灰色かび病	平年並	平年並		チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや少
	うどんこ病	平年並	やや少		チャノキイロアザミウマ	—	やや少
キュウリ	べと病	平年並	平年並		クワシロカイガラムシ(I)	早	平年並
ナス科野菜	疫病	平年並	平年並		チャトゲコナジラミ(I)	平年並	やや少
	ニジュウヤホシテントウ類	やや早	やや少				

- ・水稲ではイネドロオイムシが「やや多」を予想しています。イネドロオイムシは中山間地で発生が多く、今後、降水量がやや多くなるようですので、発生が増えるのではないかと考えています。
- ・果樹では5月20日に「果樹カメムシ類」の注意報を発表しています。ご注意ください。

○今年の水稲は？

- ・いもち病は、置き苗での発生を確認していますが、気温が比較的低く、本田での発生は認めていません。今後、夜温が上昇し、曇雨天になると本田での発生が増加します。前年の穂いもちは「平年並」の発生でしたので、発生に注意が必要です。



置き苗で発生したいもち病

- ・昨年、発生が多かった縞葉枯病は、4月12日に注意報を発表しています。これは、縞葉枯病ウイルスを伝染するヒメトビウンカの保毒虫率（ウイルスを持っているヒメトビウンカの割合）が20.8%と過去10年で最も高く、注意が必要なためです。



縞葉枯病罹病株

- ・縞葉枯病は6月下旬頃から、本田での発病が確認できるようになります。発病株率1%が防除の目安になります。前年発生が多かった地域で、箱粒剤（殺虫剤）を入れていないほ場では一度調査をすると良いでしょう。



本田の縞葉枯病

縞葉枯病の見分け方や調査方法は病虫害防除所のホームページに掲載しています。

- ・先日、イネミズゾウムシの幼虫に関する問い合わせがありました。幼虫を見る機会は少ないかもしれませんが、参考までに掲載します。

イネミズゾウムシの幼虫は水稲の根に着きます。

株をゆっくりと引き抜き、水で泥を落とすと写真のような幼虫が浮いてきます。

この幼虫が根を食害し、生育を抑制するので被害につながります。



○病虫害防除所、農技センターからの情報

ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病虫害防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>



滋賀県農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>



令和6年度 防除推進員情報 No.3

令和6年7月2日

情報作成 滋賀県病虫害防除所
近江八幡市安土町大中 516
TEL 0748-46-4926

○病虫害の発生予報

- ・7月2日に病虫害発生予報第6号を発表しました。
- ・5月20日に果樹カメムシ類の注意報、6月12日にタバコガ類の防除情報、7月2日にタバコガ類の注意報を発表しています。

作物名	病虫害名	時期	発生量	作物名	病虫害名	時期	発生量
イネ	葉いもち	平年並	平年並	野菜全般	ハダニ類	-	やや少
	穂いもち	平年並	平年並		アザミウマ類	-	やや多
	紋枯病	平年並	やや少		タバコガ類	-	多
	白葉枯病	平年並	やや少	キク	アブラムシ類	-	やや少
	ニカメイガ(Ⅱ)	早	平年並	果樹全般	カメムシ類	-	多
	セジロウンカ	やや早	平年並	ナシ	黒星病	-	平年並
	ヒメトビウンカ	やや早	平年並		ナシヒメシンクイ	-	やや多
	ツマグロヨコバイ	やや遅	平年並	ブドウ	べと病	やや早	やや少
	斑点米カメムシ類	平年並	やや多	チャ	輪斑病	-	やや多
	イチモンジセセリ	平年並	平年並		カンザワハダニ	-	平年並
野菜全般	うどんこ病	-	平年並		チャノミドリヒメヨコバイ	-	やや少
	アブラムシ類	-	平年並		チャノキイロアザミウマ	-	平年並

- ・水稻の葉いもちは時期、発生量とも平年並、斑点米カメムシ類はやや多と予想しています。
- ・水稻のトビイロウンカは他府県ではすでに飛来していますが、滋賀県では現在のところ飛来を認めていません。
- ・野菜はタバコガ類が多、アザミウマ類がやや多を予想しています。
- ・果樹ではカメムシ類が多く発生しています。茶では輪斑病がやや多と予想しています。

○水稻の生育状況

- ・6月26日に水稻生育診断情報 No.2 を発表しています。5月中旬～6月上旬の低温によりで抑制傾向であった生育は、6月中旬以降の高温多照の影響で平年並に近くなっています。
- ・草丈は、「みずかがみ」は平年よりやや短く、「コシヒカリ」は平年並、茎数は、「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」はやや少ない、葉色は、「みずかがみ」は平年よりやや薄く、「コシヒカリ」は平年並、幼穂形成期は「みずかがみ」「コシヒカリ」とも平年並～やや早い見込み。
- ・ただし、病虫害防除所で現地を巡回調査していると、生育のほ場間差が大きく、「生育に応じた栽培管理」がより一層重要になっていると感じています。
- ・管理のポイント
 - ◎目標穂数の8割の茎数が確保できたほ場では、速やかに溝切り・中干しを実施する。
 - ◎気象予報（3か月予報）では、今年の夏も高温になる確率が高い予想となっていることから、適切な施肥と水管理を徹底する。
 - ◎穂肥の施用にあたっては、必ず幼穂を確認して、適期に適量を施用する。
 - ◎全量基肥（一発肥料）でも、穂肥が必要な場合があり、生育状況に応じて追肥の要否を検討する。
 - ◎幼穂形成期以降はイネの要水量が多くなることや、カドミウム吸収抑制のため出穂前後各3週間は常時湛水を行う。常に深水にならないように、また、水を切らさないように、水深3cmから5cmの浅水で管理する。

○水稻の夏の防除は？

【 病 害 】

- ・ いもち病は5～6月が比較的低温であったことから、苗いもちが本田へ侵入する時期が遅くなっているように感じています。今後、夜温が上昇してきますので、本田での広がりには注意が必要です。
- ・ 紋枯病もスタートが遅く、やっと本田で発病が確認されたところですが、生育のボリュームはほ場間に大きな差があるため、紋枯病もほ場間差が大きくなると思われます。
- ・ 昨年発生が目立った縞葉枯病は、発病がポツポツと観察されています。今後、第一世代が伝搬した発病が観察されてくると思いますので、増加するか注意が必要です。



6月下旬の縞葉枯病

【 虫 害 】

- ・ ニカメイガは第1世代の幼虫が加害しており、葉鞘がオレンジ色に変色しています。現在観察することで発生量の多少が判ります。これから第2世代が発生し、出穂期に被害が見られることから今、ほ場をよく観察してください。
(防除の目安は6月中旬に被害株率10%です)
- ・ 九州の方ではトビイロウンカの飛来が見られています。現在のところ滋賀県内で発生を認めていませんが、梅雨前線に沿って飛来することがあり、注意が必要です。飛来が多くなった場合、早急に防除が必要になる可能性があります。



ニカメイガの発生状況

○タバコガ類に注意！

- ・ 野菜やダイズの鱗翅目害虫であるタバコガおよびオオタバコガの発生に注意が必要です。フェロモントラップのオオタバコガ成虫の誘殺数は平年の約3.9倍、タバコガ成虫では約2.8倍であり、いずれも過去10年間で最も多い。また、露地ほ場のトマトなどで幼虫による食害が観察されています。
- ・ このため、7月2日付けで注意報を発表しました。



病虫害防除所 <http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>、農技センター <http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>
ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

令和6年度 防除推進員情報 No.4

令和6年7月17日

情報作成 滋賀県病害虫防除所
近江八幡市安土町大中 516
TEL 0748-46-4926

○斑点米カメムシ類に注意！

【7月17日に病虫害発生予察注意報第5号を発表しました】

- ・7月8日に県内36地点の畦畔雑草で実施したすくい取り調査では小型種のアカスジカスミカメの平均生息数は155.2頭と平年(39.1頭)の約4.0倍と多い(過去10年間で最も多い)。
- ・大型種のホソハリカメムシは7.3頭と平年(4.8頭)の約1.5倍とやや多い。
- ・これらに加えて、局所的ではあるが、既に出穂している水稻にイネカメムシが発生している。
- ・向こう1か月の気象予報(大阪管区気象台7月11日発表)では、気温は高いと予想されており、カメムシの活動に好適な状況が続くため、被害の多発が懸念される。

【防除対策】

- ・出穂の遅い品種などは畦畔草刈りを徹底しましょう。
- ・ほ場周辺の畦畔や雑草地に小型種(アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ)が多く生息しているほ場では、乳熟期頃(出穂7~10日後)に防除する。大型種(ホソハリカメムシやクモヘリカメムシなど)が多く発生しているほ場では、糊熟期頃(出穂16日後を中心に出穂10~20日後)に防除する。また、イネカメムシが多く生息しているほ場では、防除時期を繰り上げ、出穂期に防除する(図2)。出穂期に防除する。



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



イネカメムシ

○水稻の生育状況

- ・7月12日に水稻生育診断情報 No. 3が発表されています。

【現在の生育状況】

- ◎作況調査(5月10日移植)の「みずかがみ」、「コシヒカリ」では、草丈は平年並~やや長く、茎数は平年よりやや少なく、葉色は平年並~濃い。幼穂形成期は、両品種とも平年より1日早く「みずかがみ」では6月29日、「コシヒカリ」では7月2日。出穂期は「みずかがみ」では7月22日頃、「コシヒカリ」では7月26日頃に迎える見込み。
- ◎県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね平年並~やや早く幼穂形成期を迎えている。

【管理のポイント】

- ◎生育状況はほ場により異なるので、穂肥施用にあたっては、必ず幼穂を確認するとともに、生育(葉色・茎数)に応じて、適期に適量を施用する！
- ◎全量基肥(一発肥料)栽培においても、生育に応じて追肥を施用する！
- ◎出穂前後各3週間は常時湛水を行う！深水にせず水深3cmから5cmの浅水で管理する！中干し後は水もちが悪いほ場が多く、こまめな水管理を行う！
- ◎ほ場周辺のヒエ等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底し、斑点米被害の軽減を図る！

○水稻の夏の防除は？

【 病 害 】

- ・いもち病は7月中旬頃に本田でも発生が確認され始めました。今後、梅雨明けまではその広がりには注意が必要です。
- ・昨年発生が目立った縞葉枯病は、媒介するヒメトビウンカの保毒虫率が高かったことから注意報を発表しています。本田では発病がポツポツと観察されています。今後、ヒメトビウンカは増殖してきますので発生状況を注視しています。



6月下旬の縞葉枯病

【 虫 害 】

- ・カメムシ以外では、ニカメイガの第2世代が発生します。出穂期～収穫期にかけて被害が発生します。第1世代が多かった地域では注意が必要です。（防除の目安は6月中旬に被害株率10%です）
- ・トビイロウンカについては、現在のところ滋賀県内で発生を認めていませんが、梅雨前線に沿って飛来することがあり、注意が必要です。飛来が多くなった場合、早急に防除が必要になる可能性があります。
- ・また、病虫害防除推進員の方から、直は栽培の水稻にミナミアオカメムシが群生しているとの情報をいただきました。現地付近のほ場では縞葉枯病にそっくりの被害が発生しており、ミナミアオカメムシが群生しているのを確認しました。ミナミアオカメムシは増加傾向にあるので引き続き注意をお願いします。



ニカメイガの発生状況

○クビアカツヤカミキリに注意！

- ・桜などを加害する外来のカミキリムシである「クビアカツヤカミキリ」が7月6日に京都府で確認されました。
- ・兵庫県や大阪府、三重県などで発生していましたが、京都府でも発生が確認されたことから滋賀県での発生が懸念されます。
- ・滋賀県でも農作物への被害が懸念されます。もも、梅などの果樹はもちろん、街路樹の桜などで発生した場合は県へ連絡をお願いします。県のホームページに関連情報を掲載しています。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/shizen/14005.html>

<https://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/315695/>

病虫害防除所 <http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>、農技センター <http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>
ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

令和6年度 防除推進員情報 No.5

令和6年10月8日

情報作成 滋賀県病虫害防除所
近江八幡市安土町大中 516
TEL 0748-46-4926

○タバコガ類、ハスモンヨトウに注意！

【10月8日に防除情報を発表しました】

- ・フェロモントラップの誘殺数が多かったことから、7月2日にタバコガ類の注意報を発表しています。9月に入り、各地の大豆でタバコガ類の被害が目立ってきました。
- ・併せて9月下旬ごろからハスモンヨトウの発生が目立ってきました。フェロモントラップの誘殺数はそれほど増加していませんが、白変葉が多くなっています。
- ・大豆の莢も大きくなってきてますが、タバコガなどは莢なども食害しますので注意が必要です。
- ・また、露地のキャベツなどの葉菜類も被害が多くなると予想されますので防除対策を十分をお願いします。潜りこんで加害する中齢以降の幼虫は、薬剤がかかりにくく、防除効果も著しく低下します。ほ場をよく見回り、早期に幼虫の捕殺や薬剤散布等の防除を実施しましょう。



↑東近江市（旧永源寺町）

↓長浜市加田町



タバコガ類



ハスモンヨトウ

○新しく発生した病虫害

特殊報を発表しました。詳しくは病虫害防除所ホームページでご確認ください。

①メロン退緑黄化病（7月23日発表）

ウリ類退緑黄化ウイルス(Cucurbit chlorotic yellows virus: CCYV)による病害です。このウイルスはタバココナジラミにより感染します。県南部のメロンで確認されました。メロンのほかキュウリやスイカなどにも感染します。

病徴としては、発生初期は葉に退緑小斑点を生じます。症状が進むと次第に斑点が拡大しながら癒合し、徐々に黄化し、進展すると、葉脈部分を残して黄化します。

発病すると果実の肥大が不良となり、糖度の低下や収量の減少といった被害が発生します。

②Cucurbit aphid-borne yellows virus: CABYV（病名は学会で報告されてから命名されます）

（9月30日発表）

ウイルスによる病害です。症状としては、葉全体もしくは一部に葉脈間の黄化や白化症状を示します。症状が進むと、株全体の葉が黄化するが、新葉や脇芽等の若い葉には症状が見られないか、時間が経ってから黄化します。このウイルスは海外ではワタアブラムシやモモアカアブラムシ等のアブラムシ類により媒介されると報告されています。感染すると落花が多くなり、1株当たりの果実数が減少することで、メロンでは40%、キュウリでは51%減収した事例が海外で報告されています。

病虫害防除所 <http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>、農技センター <http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>
ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

8 滋賀県病害虫防除所ホームページ

予察情報等を広く早く伝達し、画像によるわかりやすい情報を提供するため、平成15年度より開始したインターネットによる情報提供サービスである。

令和6年1月から12月までの利用実績の内訳は以下のとおりであった（表）。月別では7月の閲覧回数が、ページ名別では表紙の閲覧回数が最も多く、次いで病害虫判定シートが多かった。令和5年と比較すると、農薬扱いと注目の病害虫の閲覧回数がそれぞれ3倍以上、総閲覧数は3175回増加した（図）。

表 提供情報別閲覧数（回）

ページ名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
表紙	495	359	643	1169	1606	1378	1712	1285	732	1051	650	605	11684
病害虫判定シート	160	126	151	335	737	1100	1699	1871	1328	671	319	223	8720
発生予報	10	20	189	489	686	663	687	468	231	288	162	67	3961
IPM							35	16		18	16	4	89
警報・注意報・特殊報	67	8	206	554	338	85	400	212	87	522	195	65	2739
防除情報	126	164	233	262	171	186	218	164	37	490	55	37	2142
農薬扱い				9		49			7				65
田んぼの生きもの	31		19	49	39	113	127	26	12	5	33	1	456
発生量データ				62	236	128	216	143	114	130	87	51	1168
BLASTAM					28	312	312	29					682
注目の病害虫					10	9	39	15		10			83
診断結果											8		8
防除所の概要												1	1
総計	889	677	1441	2929	3852	4021	5444	4230	2548	3185	1526	1055	31797

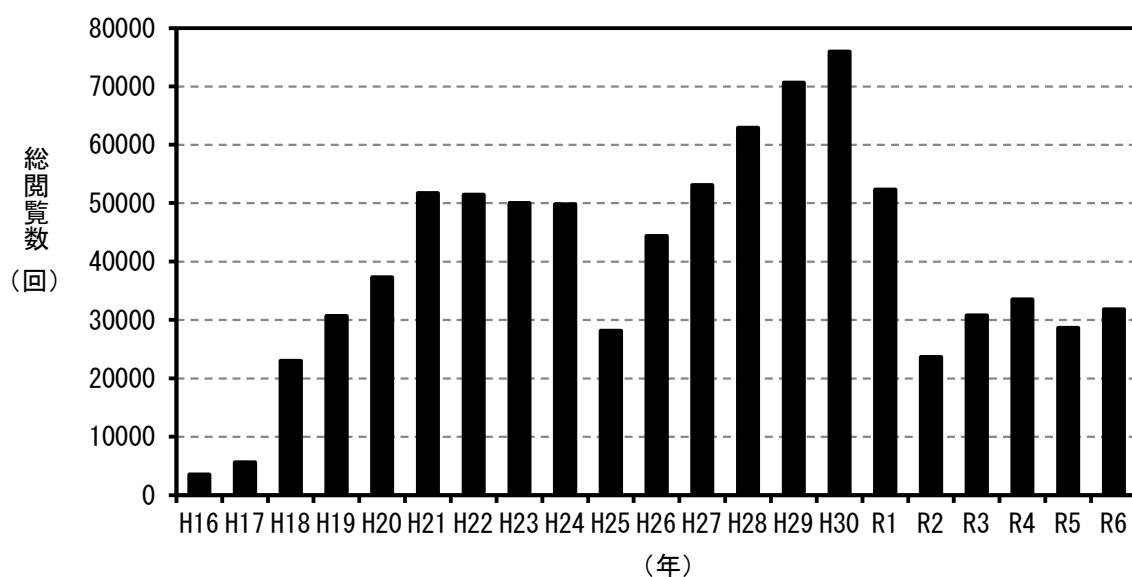


図 滋賀県病害虫防除所のホームページ総閲覧数の年次推移

9 本年度新たに発生が確認された病害虫

病害虫名および発生経過は以下のとおりである。

(1) メロン退緑黄化病

令和6年7月、滋賀県南部の施設メロンほ場において、葉に退緑および黄化症状を示す株が認められた(写真1、2)。滋賀県病害虫防除所において検定した結果、本県では未発生のCCYVによる「メロン退緑黄化病」であることを確認した。詳細については、令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号(p.123)を参照。



写真1 発病株の症状



写真2 葉の症状

(2) メロン、キュウリのCABYV

令和6年6月、滋賀県南部の施設メロンほ場において、葉の葉脈間の黄化や白化症状を示す株が認められた(写真3、4)。滋賀県病害虫防除所および神戸植物防疫所において検定した結果、本県では未発生のCABYVの感染が確認された。なお、近隣ほ場の施設キュウリほ場においても同ウイルスが検出された。詳細については、令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号(p.125)を参照。



写真3 発病株の症状



写真4 葉脈間の白化症状

（３）オリーブ立枯病

令和６年８月、滋賀県北部のオリーブほ場において、葉が褐変し、萎凋・枯死する株が認められた（写真５、６）。滋賀県病虫害防除所において検定した結果、本県では未発生 of 「オリーブ立枯病」であることを確認した。詳細については、令和６年度病虫害発生予察特殊報第３号（p. 127）を参照。



写真５ 発病樹の枯死



写真６ 幹内部の変色

10 病害虫の診断および生態調査

(1) 薬剤耐性検定（病害）

県内ほ場で採集したいもち病について薬剤感受性検定を実施した。詳細については、「第6 試験成績」の項を参照。

(2) 薬剤耐性検定（虫害）

県内ほ場で採集したイネカメムシについて薬剤感受性検定を実施した。詳細については、「第6 試験成績」の項を参照。

(3) 病害虫診断業務実績

令和6年1月から12月までに実施した病害虫の診断の合計件数は65件で、その内訳は普通作物が3件、野菜が51件、果樹が5件、花き（花木）が6件であった（今期、茶はなかった）。診断の結果、原因は病害32件、虫害3件、原因不明10件および、その他20件であった。

作物別の診断件数および結果

作目		診断件数				
		病害	虫害	不明	その他	計
普通作物	イネ			1	2	3
	コムギ					0
	オオムギ					0
	ダイズ					0
	小計	0	0	1	2	3
野菜	イチゴ	8	1	1	8	18
	キャベツ	1				1
	サツマイモ	2		1		3
	サンショウ	1				1
	ショウガ				1	1
	スイカ			1		1
	タマネギ	1			2	3
	トマト	11		1	2	14
	ナス	1		1		2
	ニンジン			2		2
	ネギ	1			1	2
	ハクサイ	1				1
	パプリカ				1	1
	メロン	1				1
	小計	28	1	7	15	51
果樹	イチジク	1				1
	オリーブ		1			1
	ナシ	2				2
	ブドウ	1				1
	小計	4	1	0	0	5
花き	カーネーション			1	1	2
	キク			1	1	2
	バラ		1		1	2
	小計	0	1	2	3	6
茶	チャ					0
	小計	0	0	0	0	0
合計		32 (49%)	3 (5%)	10 (15%)	20 (31%)	65 (100%)

※（ ）内は合計診断件数に対する割合を示す。

(4) ヒメトビウンカ越冬個体のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査

ア 目的

県内でのイネ縞葉枯病の発生は、昭和 60 年代以降ほとんど見られなかったが、平成 21 年の発生予察調査において、立毛中に本病の発生が確認された。平成 23 年には再び立毛中に一部地域で、また県全域の刈り株再生芽（ひこばえ）で本病が確認された。近年では、令和 4 年の刈り株再生芽での発病調査以降、刈り株再生芽および本田立毛中での発病が高い傾向が続いている。本病の発生は、イネ縞葉枯病ウイルス（RSV）を保毒したヒメトビウンカに大きく影響されることから、ヒメトビウンカの RSV 保毒虫率を把握するため、平成 23 年以降、継続した調査を実施している。

イ 方法

3 月 27 日～4 月 2 日に、前年の刈り株再生芽が残る水田ほ場 33 地点において、1 地点当たり 50 回のすくい取りによりヒメトビウンカ越冬個体を採集した。RSV 保毒の有無は、簡易 ELISA 法（柴ら、2013）により検定した。判定は 405nm の吸光度の値により行った。

ウ 結果の概要

調査を実施した 33 地点のうち 13 地点で越冬個体を採集した。すくい取り虫数（供試虫数）は県全域で 48 頭（成虫 34 頭：幼虫 14 頭）であった（表 1）。簡易 ELISA 法で検定した結果、RSV 保毒虫は 7 地域で計 10 頭検出され、県全域での保毒虫率は 20.8%であった。RSV 保毒虫率は過去 10 年と比較して最も高かったことから、4 月 12 日付けで令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 1 号を発表した。

表 1. 各地域におけるヒメトビウンカ越冬個体群のすくい取り虫数と RSV 保毒虫率

地域	平成31年（4/2～4）			令和2年（4/2～4）			令和3年（4/5～8）		
	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）
大津・南部	20	0	0	5	0	0	3	0	0
甲賀	6	0	0	4	0	0	0	0	0
東近江	42	2	4.8	7	0	0	15	0	0
湖東	143	3	2.1	16	1	6.3	3	0	0
湖北	50	0	0	2	1	50.0	0	0	0
高島	4	0	0	2	0	0	1	0	0
県全域	265	5	1.9	36	2	5.6	22	0	0

地域	令和4年（4/6）			令和5年（3/31～4/5）			令和6年（3/27～4/2）		
	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）
大津・南部	9	2	22.2	11	0	0	3	1	33.3
甲賀	1	0	0	3	0	0	7	3	42.9
東近江	122	4	3.3	61	9	14.8	13	1	7.7
湖東	19	1	5.3	6	0	0	19	3	15.8
湖北	29	1	3.4	5	1	20.0	3	1	33.3
高島	3	0	0	19	0	0	3	1	33.3
県全域	183	8	4.4	105	10	9.5	48	10	20.8

(5) 平成 21 年～令和 6 年のトマト黄化葉巻病 (TYLCV) 診断状況

トマト黄化葉巻病 (TYLCV) は、平成 21 (2009) 年 10 月に守山市内の施設栽培のトマトにおいて県内で初めて発生が確認され、特殊報を発表した (平成 21 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号)。以降、これまでの持込み診断により、令和 5 年までに 85 件、同 6 年に 5 件の計 90 件の発生を確認している (下図)。

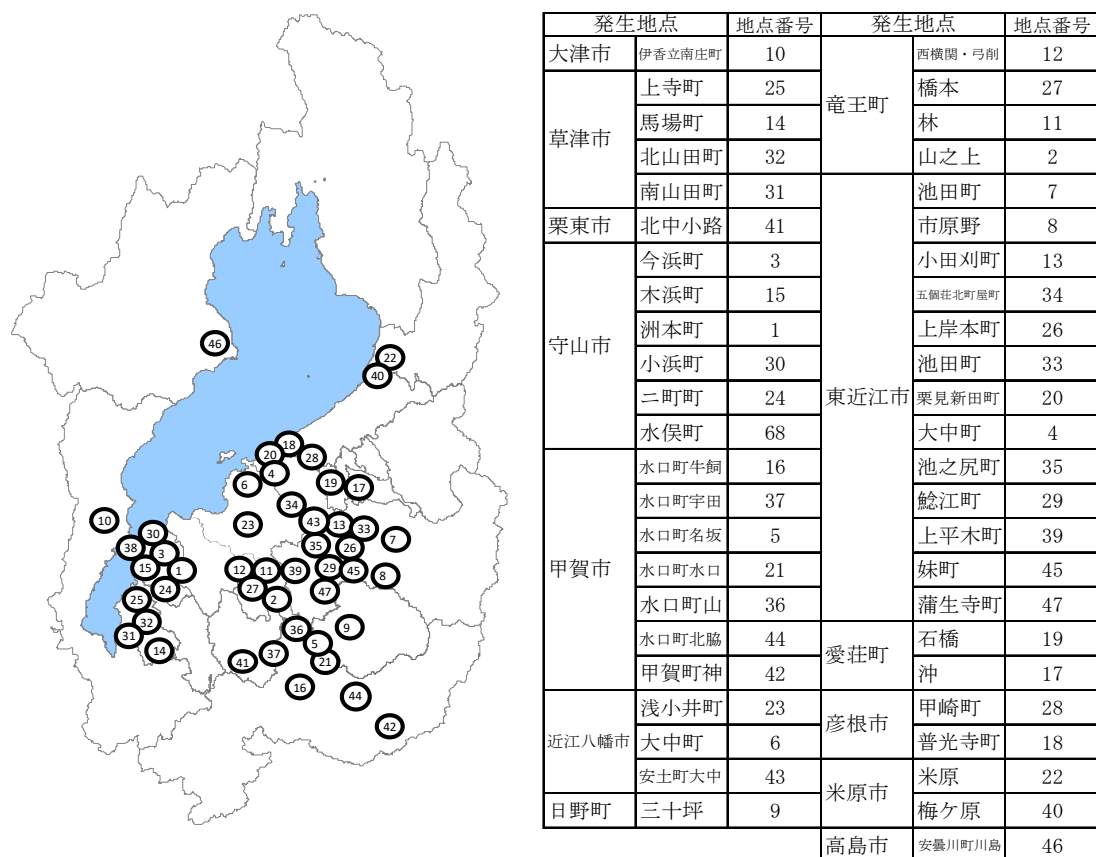


図 平成 21 年 (2009 年) ～令和 6 年 (2024 年) のトマト黄化葉巻病 (TYLCV) 発生地点

1 1 発生が目立った病害虫について

(1) 令和6年度(2024年度)のムギ類赤かび病の発生状況について

ア 発生状況について

コムギ赤かび病、オオムギ赤かび病ともに県内初発見日(4/26)は、過去10年の平年値(5/9)と比較して、10日以上早かった。

コムギでは、赤かび病の発生ほ場率が98.7%(平年値:38.9%)、発病度は4.5(平年値:0.6)と、過去10年の値と比較して最も高かった(表1)。オオムギでは、赤かび病の発生ほ場率が88.9%(平年値:38.6%)、発病度は1.3(平年値:0.3)と、過去10年の値と比較して最も高かった(表2)。

表1 コムギ赤かび病の発生量データ

地域名	年産	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	平年	R6
大津・南部	発病度	0.1	0	0.3	0.0	0.6	0.2	0.0	1.5	1.5	2.8	0.7	4.5
	発生ほ場率	10.0	0	37.1	6.7	71.4	25.7	5.7	73.3	80.0	82.9	39.3	100
甲賀	発病度	0	0	0.2	0.0	0.7	0	0.1	1.3	2.6	1.8	0.7	7.4
	発生ほ場率	0	0	26.7	6.7	86.7	0	20.0	100	80	90.0	41.0	100
東近江	発病度	0.0	0	0.1	0.1	0.6	0	0.1	1.4	2.3	2.2	0.7	5.9
	発生ほ場率	2.0	0	12.0	10.0	76.0	0	18	85.0	80.0	93.3	37.6	98.3
湖東	発病度	0.0	0	0.1	0.1	0.6	0.2	0.2	0.7	0.6	0.6	0.3	1.4
	発生ほ場率	4.0	0	16.0	12.0	88.0	36.0	36.0	72.0	48.0	60.0	37.2	100
湖北	発病度	0	0.0	0.2	0.1	0.5	0.1	0	0.6	0.5	1.2	0.3	1.8
	発生ほ場率	0	4.0	36.0	20.0	80.0	20.0	0	85.0	80.0	100	42.5	95.0
全県	発病度	0.0	0.0	0.2	0.1	0.6	0.1	0.1	1.2	1.6	1.9	0.6	4.5
	発生ほ場率	3.3	0.7	24.0	9.0	76.1	16.1	16.7	82.0	74.7	86.0	38.9	98.7

※R6の調査は5/15～5/21に実施した。平年値はH26～R5の平均値を示す。大津・南部6地点、甲賀3地点、東近江12地点、湖東5地点、湖北4地点で1地点につき5筆を調査し、発病度および発生ほ場率を算出した。全県の発生ほ場率:30地点150ほ場あたりの発生ほ場の割合を示す。

※発病度 = $(6A + 3B + C) / (6 \times \text{調査株数}) \times 100$ 、A:穂の2/3以上の小穂又は粒が発病しているもの。B:穂の1/3～2/3

以上の小穂又は粒が発病しているもの。C:穂の1/3以下の小穂又は粒が発病しているもの。

表2 オオムギ赤かび病の発生量推移

地域名	年産	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	平年	R6
大津・南部	発病度	0.1	0	0	0	0.1	0	0.3	0.5	0.1	—	0.1	1.1
	発生ほ場率	20.0	0	0	0	20.0	0	40.0	80.0	20.0	—	20.0	100
東近江	発病度	0.1	0.1	0.1	0.4	0.4	0.1	0.2	0.4	0.0	0.2	0.2	0.8
	発生ほ場率	10.0	20.0	6.7	40.0	53.3	13.3	26.7	53.3	6.7	26.7	25.7	73.3
湖北	発病度	0	0	0.8	0	0.2	0.5	0.1	0.4	0.8	0.6	0.3	0.7
	発生ほ場率	0	0	100	0	30.0	70.0	13.3	60.0	73.3	86.7	43.3	93.3
高島	発病度	0	0	0.7	0.3	0.5	0.4	0.3	2.5	0.8	0.7	0.6	3.1
	発生ほ場率	0	0	90.0	50.0	80.0	60.0	50.0	70.0	90.0	100	59.0	100
全県	発病度	0.1	0.1	0.4	0.2	0.3	0.3	0.2	0.9	0.5	0.5	0.3	1.3
	発生ほ場率	7.5	7.5	44.4	27.5	50.0	37.5	28.9	62.2	48.9	71.1	38.6	88.9

※R6の調査は4/26～5/15に実施した。平年値はH26～R5の平均値を示す。大津・南部1地点、東近江3地点、湖北3地点、高島2地点で1地点につき5筆を調査し、発病度および発生ほ場率を算出した。

イ 発生を助長した気象要因について

主要なコムギ品種およびオオムギ品種の開花期である 4 月中旬ごろから断続的に降雨が続き、赤かび病の子のう胞子飛散好適日が連続して出現していた（表 3）。特に、4 月下旬は気温が高く、降水量が多く、日照時間が少なかったことから、発生が早期化したと考えられる（図）。また、5 月以降も断続的に降雨があったことから、発病穂率や発病度などの発病程度も高まったと考えられる（図）。

表 3 赤かび病の主要な一次伝染源である子のう胞子の飛散好適日

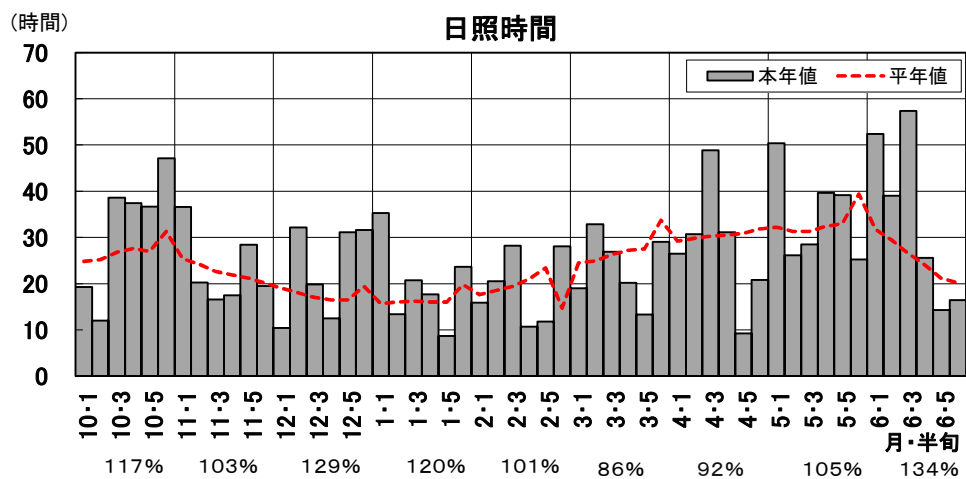
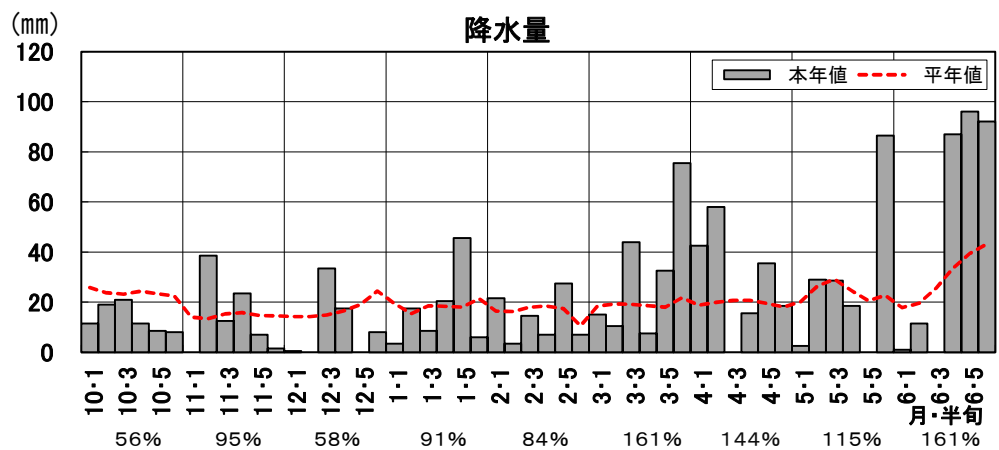
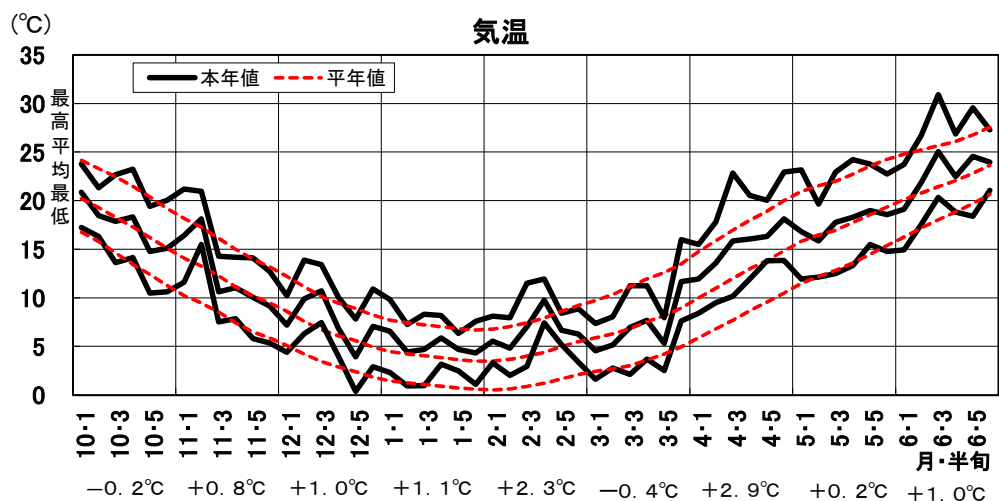
月/日	子のう胞子 飛散好適日 ¹⁾	日降水量 ²⁾ (mm)	開花期 ³⁾
4/11	-	0	
4/12	-	0	
4/13	-	0	
4/14	-	0	
4/15	-	0	
4/16	○	15.5	
4/17	○	0	びわほなみ
4/18	-	0	ファイバースノウ
4/19	-	0	ふくさやか
4/20	-	0	
4/21	○	16.5	農林61号
4/22	○	0	
4/23	○	5.5	
4/24	○	13.5	
4/25	○	0	
4/26	-	0	
4/27	-	0	
4/28	-	0	
4/29	○	2.5	
4/30	○	16.0	
5/1	○	2.5	
5/2	○	0	
5/3	-	0	
5/4	-	0	
5/5	-	0	
5/6	○	7.5	
5/7	○	21.5	
5/8	○	0	
5/9	-	0	
5/10	-	0	
5/11	-	0	
5/12	○	5.0	
5/13	○	23.0	
5/14	-	0	
5/15	○	0.5	
5/16	○	2.5	
5/17	○	0	
5/18	-	0	
5/19	○	7.0	
5/20	○	9.0	

気象データとして彦根アメダスの実測値を用いた。

¹⁾ 日最高気温が 15℃以上、日最低気温が 10℃以上で、前日もしくは当日に降雨があった日を○で示した。

²⁾ 0.5mm 以上の値を示した。

³⁾ 農業技術振興センターにおける生育時期（基準播種日：11/5）（参照：令和 6 年産麦生育情報 No.6）。



平年値は、1991～2020年の30年間の平均値である。

図 令和6年度麦作期間の気象推移（彦根アメダス）

各図下の数値は月ごとの平年比を示す。

(2) 令和6年度(2024年度)のイネごま葉枯病の発生状況について

ア 発生状況および発生助長要因について

ごま葉枯病の初発時期は8月7日とやや早く、成熟期における発生ほ場率は令和5年と同程度に高く、平年の約3倍であった(表)。一部ほ場でごま葉枯病による穂枯れ症状も認められた。

本病の発生が助長された要因として、出穂期(7月下旬)以降、降水量は少なく推移したが、気温が高く推移したことから(図)、生育後期の栄養凋落の影響が挙げられる。また、前年の発生量は多く(表)、伝染源が多いと考えられた。

表 ごま葉枯病の発生ほ場率推移(成熟期調査)

地域名		H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	平年	R6
大津・南部	発病度	0.1	0.2	0	0	0.0	0	0.1	0.9	0	0.7	0.2	1.7
	発生ほ場率	5.7	11.4	0	0	3.3	0	10.0	16.7	0	16.7	6.4	16.7
甲賀	発病度	0.1	0	0	0.1	0	0.1	0.7	0	1.4	1.9	0.4	1.9
	発生ほ場率	8.0	0	0	8.0	0	5.0	30.0	0	30.0	30.0	11.1	35.0
東近江	発病度	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	3.4	5.2	1.0	5.6
	発生ほ場率	6.0	2.0	2.0	4.0	4.0	16.0	32.0	12.0	48.0	46.0	17.2	56.0
湖東	発病度	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0.1	1.2	0.1	1.1
	発生ほ場率	4.0	0	0	0	0	0	0	0	10.0	20.0	3.4	10.0
湖北	発病度	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	1.0	0.1	0.0
	発生ほ場率	2.2	0	2.2	0	0	0	0	0	0	12.5	1.7	2.5
高島	発病度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0.1	0
	発生ほ場率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.0	0.5	0
全 県	発病度	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	1.1	2.2	0.4	2.2
	発生ほ場率	4.5	2.5	1.0	2.0	1.7	5.0	13.9	6.1	17.8	24.4	7.9	23.9

大津・南部6地点、甲賀4地点、東近江10地点、湖東4地点、湖北8地点、高島4地点で1地点につき5筆を調査し、発病度および発生ほ場率を算出した。全県の発生ほ場率：36地点180ほ場あたりの発生ほ場の割合を示す。平年値はH26～R5の平均値を示す。

発病度 = $(4A + 3B + 2C + D) \div (4 \times \text{調査株数}) \times 100$

(葉身の基準) A: 1株の上葉に非常に多くの病斑が認められ、上位3葉での枯死葉も認められる。B: 1株の上葉にかなり多くの病斑が認められ、上位3葉の一部に枯死葉が認められる。C: 1株の上葉に病斑がかなり認められる。D: 1株中病斑がわずかに認められる。

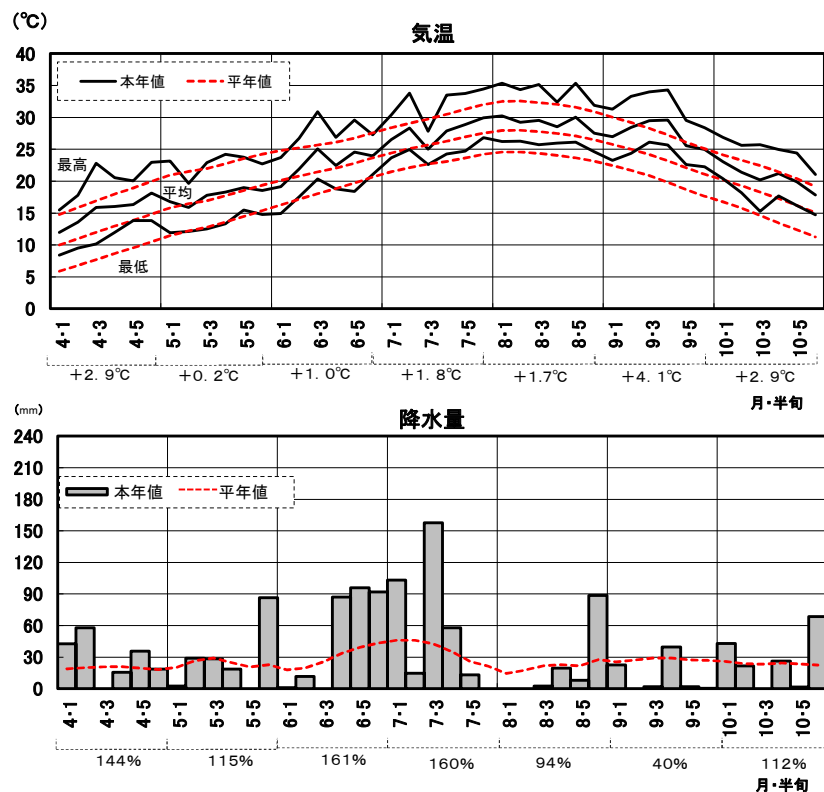


図 令和6年度稲作期間の気象推移(彦根アメダス)

平年値は、1991～2020年の30年間の平均値である。

(3) イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

ア 発生状況

6月16日基準調査（立毛中）における発病株率は0.01%、発生ほ場率は1.1%とともに「平年並」であり、大津・南部地域の2ほ場のみでわずかに発病が認められた（表1a）。同じ時期に、各地域の農産普及課においても本病の調査を実施したが、発病が認められなかったほ場が多く、全県での発病株率は0.01%、発生ほ場率は3.0%であった（表2）。

8月16日基準調査（立毛中）では全県的に発病が認められ、発病株率は1.89%（各ほ場0～8%）、発生ほ場率は42.8%と、いずれも昨年よりも高く、「やや多」であった（表1b）。全県的に広く発生したため発病株率やほ場率は高くなったものの、発病株率が5%を超えたのは36地点中2地点のみであった。なお、本病では発病株率5%で0～1%減収、発病株率50%で5%程度減収すると推定されている（茨城県農業総合センター 2021）。

表1 立毛中のイネ縞葉枯病の発生量

県内36地点180ほ場における調査結果。平年値はH28～R5の平均値。(a) および (b) の発病株率は発生調査マニュアルに基づき25株中の発病に換算した。(c) は200株以上調査した場合の発病株率データ。

(a) 6/16基準調査											
地域名	発病株率 (%)										R06
	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	平年		
大津・南部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.03
甲賀	0	0	0	0	0	0	0.05	0.4	0.06		0
東近江	0	0	0	0	0	2.00	0.02	0.08	0.26		0
湖東	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
湖北	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
高島	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
全県	0	0	0	0	0	0.56	0.01	0.07	0.08		0.01

発生ほ場率 (%)											
地域名	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	平年		R06
大津・南部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6.7
甲賀	0	0	0	0	0	0	5.0	10.0	1.9		0
東近江	0	0	0	0	0	10.0	2.0	2.0	1.8		0
湖東	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
湖北	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
高島	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
全県	0	0	0	0	0	2.8	1.1	1.7	0.7		1.1

(b) 8/16基準調査											
地域名	発病株率 (%)										R06
	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	平年		
大津・南部	0	1.94	3.07	2.27	1.33	0	2.00	1.20	1.48		2.67
甲賀	0	1.44	4.20	2.00	0.50	0	2.00	2.60	1.59		2.60
東近江	0.02	1.92	5.52	2.16	0.40	0.40	2.32	2.40	1.89		2.16
湖東	0	0	1.40	1.00	0.60	0.20	1.00	4.80	1.13		3.20
湖北	0	0.09	0.30	0.10	0.90	0	0	0.20	0.20		0.60
高島	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0.60
全県	0.01	1.02	2.73	1.33	0.66	0.13	1.31	1.73	1.12		1.89

発生ほ場率 (%)											
地域名	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	平年		R06
大津・南部	0	34.3	66.7	50.0	30.0	0	33.3	30.0	30.5		60.0
甲賀	0	20.0	75.0	50.0	10.0	0	50.0	35.0	30.0		40.0
東近江	2.0	42.0	96.0	52.0	10.0	10.0	42.0	44.0	37.3		52.0
湖東	0	0	35.0	25.0	15.0	5.0	20.0	80.0	22.5		80.0
湖北	0	2.2	7.5	2.5	22.5	0	0	5.0	5.0		15.0
高島	0	0	0	0	0	0	0	0	0		15.0
全県	0.5	19.5	51.7	31.7	15.6	3.3	25.0	31.1	22.3		42.8

(c) 調査株数を増やして詳細に記録した発病株率データ											
地域名	発病株率 (%)										
	6/10	6/24	7/8	7/29~31	8/7~16						
大津・南部	0.01	0.02	0.15	0.28	0.62						
甲賀	0	0.03	0.08	0.20	1.30						
東近江	0	0.03	0.09	0.75	1.05						
湖東	0	0	0.18	1.83	2.55						
湖北	0	0	0.00	0.05	0.10						
高島	0	0	0	0.05	0.18						
全県	0.01	0.01	0.08	0.50	0.86						

10月1日基準調査において、刈り株再生芽での本病の発病株率は7.3%、発生ほ場率は82.2%でいずれも「やや多」であり（表3）、発病株率は令和4年以降高い状況が続いている。しかし、発病株率が特に高かった（30%以上）3地点が全体の発病株率を引き上げており、全県的に発病株率が高かった昨年と比較すると、発病は減少傾向にある（図1）。

表2 農産普及課調査によるイネ縞葉枯病の発生量 6月下旬に、各ほ場200株以上で調査した。

地域名	発生 (%)		備考 (調査筆数および品種)
大津・南部	発病株率	0	・計7筆（きらみずき）
	発生ほ場率	0	
甲賀	発病株率	0.02	・計22筆（きぬむすめ） ・発病ほ場1筆：5/1移植、箱施用剤なし、麦畑隣接なし
	発生ほ場率	4.5	
東近江	発病株率	0.03	・計17筆（みずかがみ、秋の詩、にこまる、山田錦、日本晴） ・発病ほ場1筆：みずかがみ、5/8移植、箱剤施用不明、麦畑に隣接
	発生ほ場率	5.9	
湖東	発病株率	0	・計7筆（きらみずき・ゆめおうみ・日本晴）
	発生ほ場率	0	
湖北	発病株率	0	・計10筆（コシヒカリ・きらみずき・きぬむすめ）
	発生ほ場率	0	
高島	発病株率	0	・計4筆（きらみずき・みずかがみ・コシヒカリ）
	発生ほ場率	0	
全県	発病株率	0.01	
	発生ほ場率	3.0	

表3 10/1 基準調査における刈り株再生芽でのイネ縞葉枯病の発生量

地域名	発病株率 (%)										地域名	発生ほ場率 (%)									
	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	平年	R06		H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	平年	R06
大津・南部	2.0	9.3	8.9	8.1	2.2	1.4	6.4	7.7	4.7	5.5	大津・南部	91.4	94.3	86.7	73.3	60.0	93.3	93.0	90.0	78.8	93.3
甲賀	0.8	3.2	1.6	1.5	0.6	0.5	12.8	8.9	3.0	16.8	甲賀	76.0	72.0	85.0	100	65.0	85.0	100	95.0	71.0	95.0
東近江	2.2	2.7	5.7	2.4	0.9	1.4	16.0	23.6	5.5	9.6	東近江	86.0	82.0	86.0	90.0	62.0	70.0	96.0	98.0	75.0	88.0
湖東	2.6	0.2	0.3	0.3	0.3	1.2	9.1	28.3	4.3	15.3	湖東	100	76.0	85.0	80.0	100	90.0	100	100	82.7	100
湖北	3.5	0.3	0.1	0.0	0.2	0.2	0.6	0.9	0.6	0.4	湖北	97.8	71.1	30.0	17.5	60.0	52.5	62.5	75.0	55.1	60.0
高島	0.3	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	1.5	0.2	0.2	0.6	高島	90.0	10.0	40.0	15.0	25.0	20.0	85.0	50.0	33.5	65.0
全県	2.2	2.8	3.3	2.2	0.8	0.9	8.2	12.2	3.3	7.3	全県	90.5	72.5	68.3	62.8	61.7	68.3	87.8	86.1	67.2	82.2

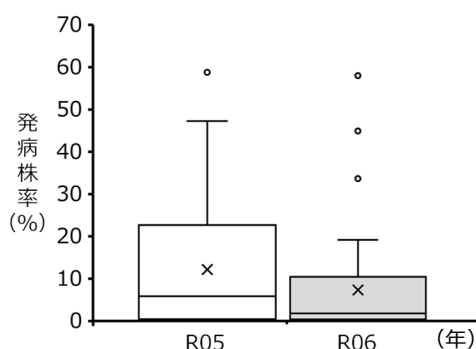


図 36 地点の刈り株再生芽におけるイネ縞葉枯病の発病株率の箱ひげ図 箱中央の線：中央値、箱上下：各四分位点、バー：四分位点から1.5倍以内の最大値、丸：バーの範囲外の外れ値、×：平均値。

イ 発生要因

本病は、ヒメトビウンカによって媒介されるイネ縞葉枯病ウイルス（RSV）が原因で発病する。令和6年3月27日～4月2日にかけて県内33地点で採集した計48個体のヒメトビウンカ越冬世代成虫において、RSV保毒虫率は20.8%であり、過去10年間で最も高かった。これは、昨年の刈り株再生芽での本病の発病株率が過去10年で最も高かったことに起因すると考えられた。

本田でのヒメトビウンカの発生量は、7月11日基準すくい取り調査で「多」であったが、8月

16日基準のすくい取り・払い落とし調査ではいずれも「平年並」であった。8月中旬までにヒメトビウンカの増殖が抑制された要因は不明であるが、ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生量が平年並であったことが、減収を生じるほどまでは立毛中の発病程度が高くならず、刈り株再生芽での発病も昨年より低くなった要因と考えられる。

ウ 防除対策

縞葉枯病の発生が多かった地域では、引き続き育苗箱施用により本田に飛来するヒメトビウンカ第1世代成虫を防除する。複数年連続して同系統の薬剤を施用している場合、異なる系統の薬剤を組み合わせることが望ましい。また、ほ場周辺でのヒメトビウンカの越冬を抑制するため、収穫後は速やかに耕起して刈り株再生芽をすき込むほか、ほ場周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。

引用文献

茨城県農業総合センター農業研究所（2021）イネ縞葉枯病防除マニュアル（茨城県版）。URL：
https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/documents/r3_shimahagare_manual_syosai.pdf.（2024年12月17日参照）

(4) 斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）

ア 発生状況

7月11日基準のすくい取り調査において、畦畔雑草でのアカスジカスミカメおよびホソハリカメムシの発生量が多かった（図）。特に、アカスジカスミカメの発生量（155.2頭／地点）は平年（39.1頭）の約4倍と多かった。8月16日基準のすくい取り調査において、出穂期防除後（主に乳熟期から糊熟期）の本田内での斑点米カメムシ類の発生量（4.8頭／地点）は平年並（平年4.4頭）であった。これらの調査時には発生が少なかったが、一部ほ場では出穂期にクモヘリカメムシが多発していた。

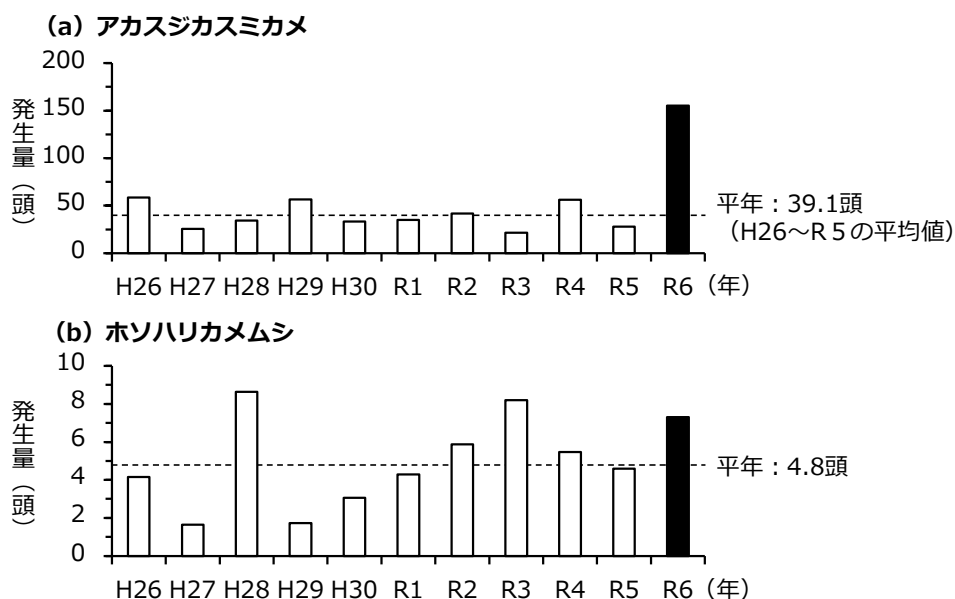


図 畦畔雑草における (a) アカスジカスミカメおよび (b) ホソハリカメムシの発生量（地点あたりの頭数）。50回すくい取り調査での頭数。

また、一部地域ではミナミアオカメムシの発生が目立った。出穂期以降に稲を加害するほか、彦根市や近江八幡市では出穂前のほ場で多発生し、イネの葉を吸汁する様子が観察された。吸汁された葉は、葉先の一部が枯死する場合もあり（写真）、被害はスポット状に発生していた。なお、出穂前のイネの加害による収量や品質への影響は不明である。



写真 ミナミアオカメムシの吸汁により葉先が枯死した（ちぎれた）イネ。

イ 発生要因

6月は気温が高く、発生や活動に好適な条件が続いたことが一因と考えられる。また、アカスジカスミカメの越冬世代の繁殖期である6月上旬の降水量が少なかったため、第1世代の発生量が増加した可能性がある。

ミナミアオカメムシの発生増加については、冬季が高温で推移したことが要因の一つに挙げられる。本種は南方系の種であり寒さに弱い、令和5年12月から令和6年2月の平均気温は平年よりも約1.4℃高かった（大津アメダス参照）ことから、越冬成功率が高かったと考えられる。

(5) イネカメムシ

ア 発生状況

令和5年までの発生地は、大津市、甲賀市、湖南市の山間地や山地に近いほ場が主であり、他の地域ではわずかに発生がみられる程度であった。しかし、令和6年は発生地が県全域に拡大し、高島市や長浜市の圃場でも不稔稲が散見される程度に本虫の発生がみられた(図1)。山間部や山地に隣接した地域では発生量が多く、被害程度も高くなる場合が多い。琵琶湖周辺の平坦部でも発生しているが、山地に隣接していない場合は被害が認められないことが多い。大津市里に設置している予察灯での誘殺数は、令和4年以降高く推移している(図2a)。長浜市難波町(図2d)と高島市今津町日置前(図2e)では令和6年から誘殺数が急激に増加し、特に長浜市での増加が著しい。誘殺数は少ないものの、守山市矢島町(図2b)や近江八幡市安土町大中(図2c)での誘殺数も近年増加傾向にある。

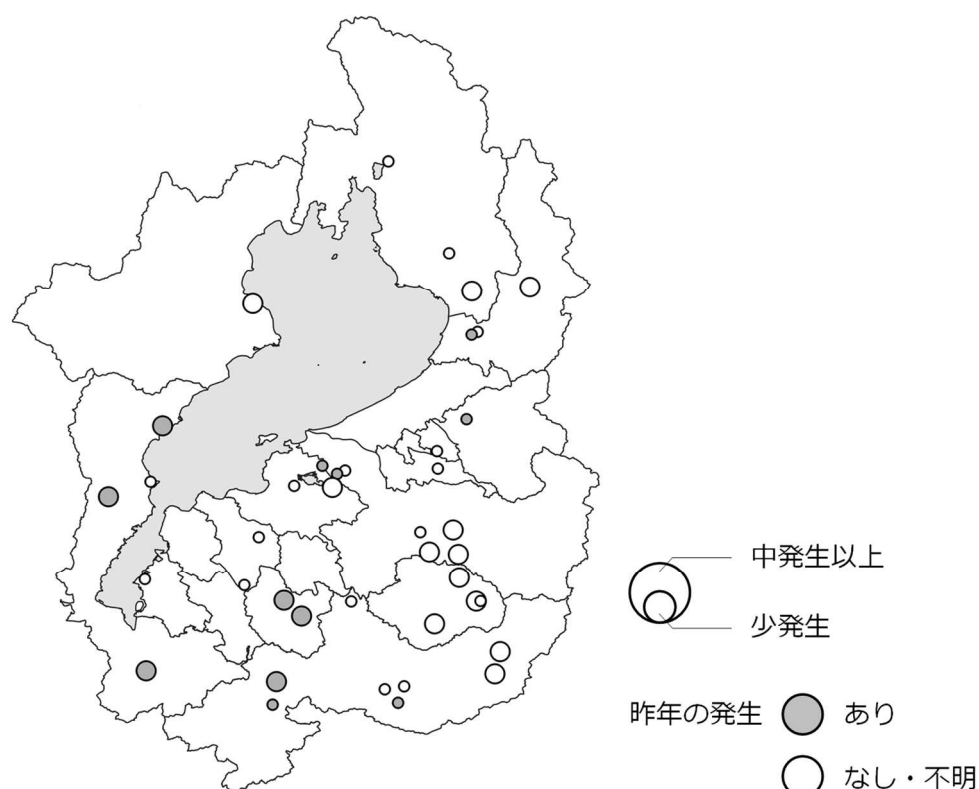


図1 2024年度水稻作におけるイネカメムシ発生状況。本虫が発生したが不稔稲はみられなかった場合を「少発生」、本虫が原因とみられる不稔稲が発生した場合を「中発生以上」とした。

不稔被害の発生件数をイネの熟期別を示した(表1)。出穂期の早い極早生品種および早生品種の‘みずかがみ’では不稔被害の報告数が多い。その後に出穂期を迎える‘コシヒカリ’では虫の発生はみられたが、不稔被害の発生は‘みずかがみ’より少なかった。県内で‘コシヒカリ’の次に栽培面積が多い‘キヌヒカリ’では発生報告がなかった。発生件数は少ないものの、中生以降に出穂期を迎える品種では、不稔被害の発生割合が高かった。中生品種では幼虫の発生が目立ったという報告があり、斑点米の多発に注意が必要である。

イ 発生要因と対策

本種の主な越冬場所は山際のイネ科雑草地とされており、本県でも山地周辺や中山間地で発生量が多くなる傾向があり、不稔被害の報告も多い。大津市里の予察灯の誘殺数の年次変動につい

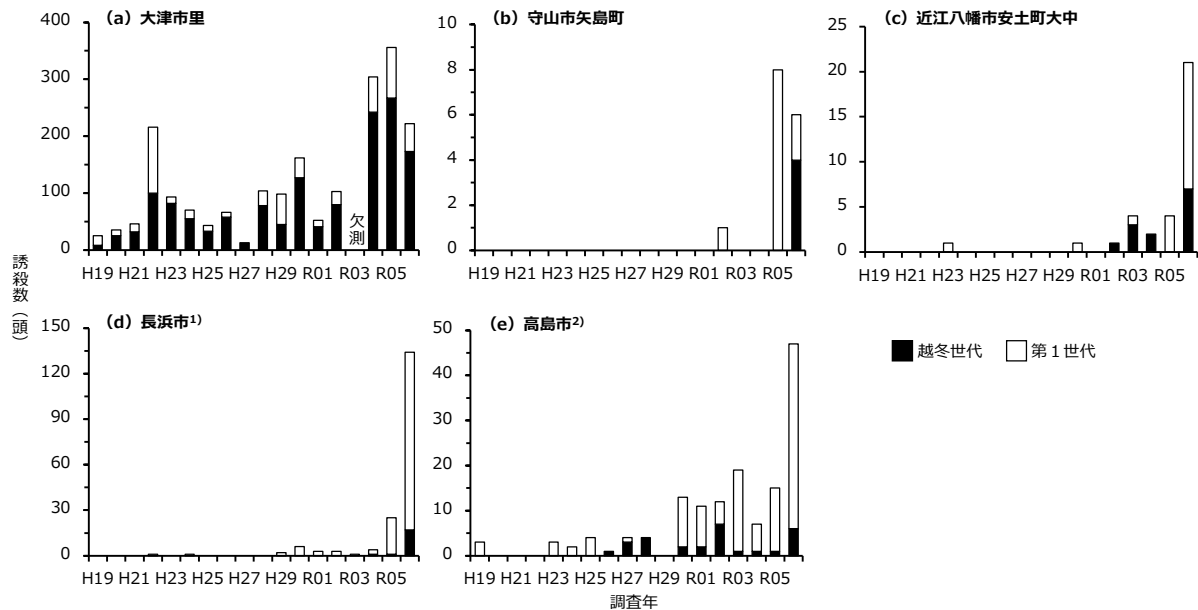


図2 県内5地点の予察灯におけるイネカメムシ成虫の誘殺数。北野・増田（2024）の記載から、8/20までの誘殺個体を越冬世代、それ以降を第1世代と表記した。(a) 大津市里のR03年以外にグラフが無いデータは「誘殺なし」。

1) 2008年までは長浜市木之本町に、2009年以降は長浜市難波町に設置。

2) 2011年までは高島市安曇川町横江に、2012年以降は高島市今津町日置前に設置。

表1 イネの熟期（品種）別のイネカメムシ被害発生状況。病虫害防除所の調査および各地域の農産普及課からの報告により作成。

熟期	品種	程度別の発生件数			被害発生割合 ¹⁾ (%)
		多	中	少	
極早生	極早生 ²⁾	0	2	0	100
早生	みずかがみ	1	9	7	58.8
	コシヒカリ	0	2	8	20.0
中生	日本晴	0	2	0	100.0
	きらみずき	0	1	3	25
	秋の詩	0	1	1	50.0
晩生	滋賀羽二重糯	0	1	1	50.0
	酒米 ³⁾	0	1	1	50.0

¹⁾ 発生件数のうち中発生（本種が原因とみられる不稔稲が散見）程度以上の割合。

²⁾ あきたこまち、ZR-1

³⁾ 吟おうみ、吟吹雪

て、前年度冬期の平均気温、当年夏期の平均気温や作期分散状況（イネの品種別面積から計算したシンプソンの多様度指数）との関係を解析したが、越冬世代および第1世代の誘殺数はいずれの要因とも関連性がみられず、近年の多発、ひいては年次変動の要因については明らかにならなかった（データ略）。

本種の発生予察手法はまだ確立されていないため、栽培品種と発生パターンとの関係を把握し、多発しうるほ場で出穂期に防除する準備が必要である。本種は出穂期の早いほ場に成虫が多く集まり、吸汁によって不稔被害を多く生じさせることが知られている（北野・増田 2024）。令和6

年度も、被害発生の報告は‘みずかがみ’で多く、極早生品種を栽培している地域では極早生品種で被害が発生した。そのため、‘みずかがみ’もしくはより早い作期の品種において不稔被害の発生に注意すべきであり、今年度多発した地域では、これらの品種で出穂期に防除ができるよう準備が必要である。中生以降の品種では出穂期から乳熟期にかけて幼虫が多く発生する傾向があることから、乳熟期の防除が必要になると考えられる。

引用文献

北野大輔・増田倫士郎（2024）出穂期が異なる 3 品種のイネにおけるイネカメムシの発生パターンと不稔被害量. 環動昆 35: 67-74.

（６）チョウ目害虫

ア 発生状況（トラップ類のデータは「野菜（露地）病虫害発生予察事業」を参照）

タバコガ類（オオタバコガ・タバコガ）のフェロモントラップでの誘殺数は５月以降高く推移した（図１）。１０月以降も高温で推移したため多発生が続き、ダイズ、野菜類など多種の作物で発生がみられた。

ハスモンヨトウのフェロモントラップでの誘殺数は、９月までは平年並であったが、１０月以降、防除所内に設置しているトラップの誘殺数が急増した。ダイズほ場での発生は、８月２５日基準および９月２５日基準調査のいずれでも「平年並」であったが、９月２５日基準の調査以降、ほ場での発生が急増した。その後、アブラナ科野菜でも発生し、１１月１日基準調査における露地ほ場のキャベツでの発生ほ場率は「やや多」となった。

ハイマダラノメイガの指標植物（クレオメ）において、８月第２半旬に初めて幼虫の寄生が認められ、平年（８月第６半旬）よりも発生が早かった。また、調査期間を通して発生は高く推移し、累積の寄生幼虫数は平年の２１倍となった。露地ほ場のアブラナ科野菜でも発生が多く認められ、初発見は８月１６日であり、平年（９月１３日）よりもおよそ１か月早かった。

イ 発生要因

タバコガ類は、昨年度から発生が多い状況が続いている。寡雨条件で発生が多くなるといわれており、５月の総降水量は平年並であったが、まとまった降雨が多く、雨が降らなかった日が多かったことが、５月の飛来を助長した可能性がある。６月後半からは降雨が増えたが、およそ半数の日は成虫が活動する夜間に雨が降っておらず、夜温も高かったため、飛来が続いたと考えられる。

ハスモンヨトウは、極端な高温が続いた９月第４半旬までの発生は少なかったが、９月第５半旬からはほ場での発生が急増した。その後、気温は平年よりも高く推移したことから、成虫の飛来およびほ場での幼虫の発育にとって好適な条件が続き、１０月になってより多くの成虫が発生するようになったと考えられる。

ハイマダラノメイガは、７月下旬の梅雨明け以降、高温で降水が少ない状況が８月中旬まで続き、成虫の飛来に好適な条件となった。早期から飛来が多かったことに加え、高温条件が続いたため、９月以降の発生が助長されたと考えられる。

前述したとおり、いずれの種も、高温条件が多発に関係していると考えられ、夏期の寡雨条件も発生を助長した可能性がある。近年、夏～秋期は高温で推移する傾向が続いており、次年度以降も発生に注意する必要がある。また、チョウ目害虫、特にヨトウ類の発生は、例年は１０月中旬から減少することが多いが、令和６年度は１１月まで高温で推移した。このことが要因となり、いずれの種も発生時期が長引き、かつ発生量が多くなったと考えられ、現場での防除回数が平年よりも増えた。

第3 侵入調査事業

令和5年度から植物防疫法に基づき、重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施することを目的として全国で斉一的に重要病害虫の調査を行う「侵入調査事業」が行われることとなった。本県では表1の病害虫について、農林水産省作成の「侵入調査マニュアル」に基づき調査した。

「トマトキバガ」は令和5年度に県内で初めてフェロモントラップで誘殺され、令和5年10月27日付で令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表した。令和6年度はフェロモントラップで9月26日に初誘殺され、11月までに計36頭誘殺された（表1）。その他の調査対象病害虫の発生はなかった。

表1 侵入警戒病害虫の調査結果

対象病害虫	調査方法	設置地点数	調査期間	発生地点数	発生頭数
ミカンコミバエ種群	トラップ(ユーゲルア)	2	4月～11月 (月2回)	0	-
ウリミバエ					
クインスランドミバエ					
トマトキバガ	フェロモントラップ	1	4月～11月 (月4回)	1	初誘殺： 9/26 9月：3頭 10月：14頭 11月：19頭
イネミイラ穂病菌	目視(イネ)	3	8/7～8/21	0	-
インゲンマメ萎ちよう細菌病菌	目視(ダイズ)	23	9/17～9/19	0	-
ウメ輪紋ウイルス	目視(もも、うめ)	2	5/28～5/29	0	-

第4 農薬安全使用等総合推進事業

農薬取締法に基づく農薬販売者の届出受理事務を行った。また、農薬取扱者（農薬販売者および農薬使用者）への巡回点検・指導を実施した。さらに、農薬取扱者、農業者および農業団体等に対し、研修会等を通じて農薬の安全使用について周知徹底を図った。これらのことで農薬の販売および使用の適正化と農薬による危害防止の啓発に努めた。

1 農薬安全使用対策

農薬の安全使用は、農薬取扱者が農薬の特性を十分理解し、適正に使用することが重要である。このため、病虫害防除推進員、県、市町、農業協同組合などの関係職員や農薬取扱者を対象とした植物防疫研修会や農薬アドバイザー講習会等において、農薬の適正使用等について指導した。また、発生予察情報発信時に啓発資料を添付した。

2 農薬販売者の届出状況

(1) 令和6年度の届出件数は下表のとおりであった。

表 届出件数（令和6年4月1日～令和7年1月31日）

区分	新規届出数	変更届出数	廃止届出数	計
農薬販売者（営業所）	23	43	23	89

(2) 届出者(営業所)数

令和7年1月31日現在の届出者数は745件で、前年度と増減なしであった。

3 農薬取扱者への巡回点検・指導の結果

農薬取扱者への巡回点検・指導を実施し、結果は下表のとおりであった。農薬取扱者のうち、農薬販売者の違反内容は、届出や帳簿に関する事項であった。

巡回点検・指導の結果（令和6年4月1日～令和7年2月28日）

対象 農薬 取扱 者数	違反の内容								
	農薬販売者					農薬使用者			
	届出 の不備	無登録農 薬の 販売	虚偽 の 宣伝	帳簿 の不備	点検 拒否	無登録農 薬の 使用	農薬 使用 基準 違反	点検 拒否	ゴルフ場農薬 使用計画に関 する変更
96	3	0	0	9	0	0	0	0	1

第5 病虫害発生予察情報発表内容

1 予報

作物名	病虫害名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	いもち病	5月14日 (葉いもち)	やや早	平年並	(1) 余剰苗での発生を認めていない。 (2) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
		6月4日 (葉いもち)	やや早	平年並	(1) 余剰苗での発生時期はやや早い。 (2) 本田での発生を認めていない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
		6月18日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) 余剰苗での発病時期はやや早い。 (2) 本田での発生を認めていない(平年値: 6/22)。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) イネいもち病発生予測システム(BLASTAM)によると、5月以降、いもち病感染好適条件はほとんど出現していない(準好適条件は出現している)。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
		7月2日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 6月下旬にBLASTAMによる感染好適条件が県内各地で出現している。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並、日照時間は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月2日 (穂いもち、 極早生・早 生品種)	平年並	平年並	(1) 葉いもちの発生時期は平年並。 (2) 水稻の生育時期は平年並～やや早い。 (3) 現在の葉いもちの発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並、日照時間は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日 (穂いもち)	平年並	平年並	(1) 葉いもちの発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		8月6日 (穂いもち、 中生・晩生 品種)	平年並	平年並	(1) 出穂期はやや早い見込み。 (2) 早生品種での穂いもちの発生時期は平年並。 (3) 葉いもちの発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並、日照時間は県北部で多く、県南部で平年並の見込み。
	紋枯病	6月18日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない(平年値: 6/20) (2) 前年の発生量はやや少ない。 (3) 水稻の茎数は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
		7月2日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は少ない。 (3) 前年の発生量はやや少ない。 (4) 水稻の茎数はやや少ない。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並、日照時間は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生時期はやや遅い。 (2) 水稻の茎数はやや少ない。 (3) ほ場での発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		8月6日 (中生・晩生 品種)	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並、日照時間は県北部で多く、県南部で平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	白葉枯病	7月2日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量はやや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並、日照時間は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日	平年並	やや少	(1) 前年の発生量はやや少ない。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		8月6日	—	平年並	(1) 前年の発生量はやや少ない。 (2) ほ場での発生時期は早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並、日照時間は県北部で多く、県南部で平年並の見込み。
	黄萎病(ツマグロヨコバイ)	4月16日	—	やや少	(1) 前年の刈株再生芽の発病は認められなかった。 (2) ツマグロヨコバイの越冬量はやや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
	イネドロオイムシ(イネクビホソハムシ)	4月16日	やや早	やや多	(1) 前年の発生量はやや多かった。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または少ない見込み。
		5月14日	やや早	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量はやや多かった。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。
		6月4日	平年並	やや多	(1) ほ場で成虫の発生を認めた。 (2) 前年の発生量はやや多かった。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
	イネミズゾウムシ	4月16日	早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は早い。 (2) 前年の発生量はやや少なかった。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		5月14日	やや早	やや少	(1) 本田への飛び込み時期は平年並。 (2) 前年の発生量はやや少なかった。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
ニカメイガ	第1世代	5月14日	やや早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期はやや遅い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (3) 越冬世代成虫の発ガ最盛期は5月16日ごろと予想され、早い(気象データ：彦根アメダス)。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月4日	やや早	平年並	(1) 予察灯での誘殺時期はやや早い。 (2) 予察灯での誘殺数は平年並。 (3) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月2日	早	平年並	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は平年並。 (2) 第1世代成虫発ガ最盛期は早いと推定される。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		7月23日	早	やや少	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の発ガ最盛期の予測日は早い。 (3) ほ場での発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	第2世代	7月23日	早	やや少	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の発ガ最盛期の予測日は早い。 (3) ほ場での発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
トビイロウンカ		7月2日	—	—	(1) 本県では、現在までに予察灯での誘殺およびほ場での発生を認めていない。
		7月23日	—	—	(1) 本県では、7月10日頃までに飛来が認められた場合は多発する危険性が高いが、7月10日までに予察灯への飛来および本田での発生を認めていない。 (2) これまでに、九州～東海地方の各県で予察灯への飛来が確認されている。また、九州地方では本田での発生も確認されている。
		8月6日	平年並	平年並	(1) 予察灯への飛来を認めていない。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	平年並	(1) 予察灯への飛来を認めていない。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	セジロウンカ	7月2日	やや早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期はやや早い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		7月23日	やや早	やや多	(1) 予察灯への飛来時期はやや早い。 (2) ほ場での発生量が多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ヒメトビウンカ	7月2日	やや早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期はやや早い。 (2) 前年の発生量はやや多く、越冬量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		7月23日	—	やや多	(1) 予察灯への飛来数は平年並。 (2) ほ場での発生量が多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ツマグロヨコバイ	7月2日	やや遅	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は遅い。 (2) 前年の発生量はやや少なく、越冬量はやや少なかった。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		7月23日	—	やや多	(1) 予察灯への飛来数はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	—	やや多	(1) 予察灯への飛来量はやや多い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	斑点米カメムシ類	7月2日	平年並	やや多	(1) 水稻の生育時期は平年並～やや早い。 (2) 予察灯でのアサジカスミカメの誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		7月23日	やや早	多	(1) 水稻の生育時期はやや早い。 (2) 畦畔での発生量が多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	—	多	(1) 畦畔での発生量が多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	コブノメイガ	7月23日	早	やや多	(1) ほ場での発生は早い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	イチモンジセセリ(イネツトムシ)	7月2日	平年並	平年並	(1) 第1世代幼虫の発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
	コバネイナゴ	6月4日	平年並	平年並	(1) 幼虫の発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。
		6月18日	平年並	平年並	(1) 幼虫の発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。
	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	7月2日	やや遅	少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
ムギ	赤かび病	3月19日	やや早	平年並	(1) 現在のところ、ムギの生育は早く、出穂時期はやや早いと予想される。 (2) 3か月予報(2月20日発表)では、向こう3か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
		4月16日	平年並	やや多	(1) コムギの生育は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または少ない見込み。
ダイズ	べと病	8月6日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並、日照時間は県北部で多く、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	葉焼病	8月27日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 8月6半旬に台風が接近し、風雨が強まる見込み。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	アブラムシ類	7月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
ダイズ	吸実性カメムシ類	8月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 水稻や露地野菜ほ場で、加害能力の高いミナミアオカメムシの発生を認めた。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 水稻や露地野菜ほ場で、加害能力の高いミナミアオカメムシの発生を認めた。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	ハスモンヨトウ	8月6日	やや遅	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺時期はやや遅い。 (3) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	フタスジヒメハムシ	8月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	ハダニ類	7月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	うどんこ病	6月4日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
		7月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並、日照時間は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
野菜全般	灰色かび病	6月4日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
	アブラムシ類	4月16日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めた時期は早い。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		5月14日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月18日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		8月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
		9月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		5月14日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	ハダニ類	6月18日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月2日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		8月6日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
野菜全般	アザミウマ類	5月14日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月18日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月2日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
	ヨトウガ (ヨトウムシ)	5月14日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	ハスモンヨトウ	8月6日	やや遅	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺時期はやや遅い。 (3) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
		9月25日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
	タバコガ類	7月2日	—	多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、タバコガ、オオタバコガともに多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		8月6日	—	多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガ、タバコガともに多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	—	多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガ、タバコガともに多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
		9月25日	—	多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はオオタバコガ、タバコガともに多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
	ネキリムシ類 (カブラヤガ)	8月27日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
キュウリ	べと病	6月4日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
タマネギ	べと病	3月19日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。
ナス科野菜	疫病	5月14日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は少なかった。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
		6月4日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
	ニジュウヤホシテントウ類	5月14日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月4日	やや早	やや少	(1) ほ場での発生時期は早い。 (2) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
アブラナ科野菜	軟腐病	9月25日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。
	黒腐病	9月25日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。
	菌核病	9月25日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
アブラナ科野菜	モンシロチョウ(アオムシ)	5月14日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月27日	－	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	コナガ	5月14日	早	やや多	(1) ほ場での発生時期は早い。 (2) ほ場での発生量はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月6日	－	やや少	(1) 予察灯への飛来量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	－	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 予察灯への飛来量は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
		9月25日	－	やや少	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 予察灯での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
	ヨトウガ(ヨトウムシ)	8月6日	－	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	－	少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
		9月25日	－	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
	ハイマダラノメイガ	8月6日	平年並	平年並	(1) 指標植物であるクレオメでの発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	－	多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 指標植物であるクレオメでの寄生幼虫数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
		9月25日	－	多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 指標植物であるクレオメへの寄生幼虫数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
果樹全般	カメムシ類	4月16日	早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は早く、誘殺数は平年並。 (2) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		5月14日	早	多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は早い。 (2) チャバネアオカメムシ越冬成虫数は多い。 (3) フェロモントラップでの誘殺数は平年並、予察灯での誘殺数は多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月18日	－	多	(1) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並、予察灯での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月2日	－	多	(1) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並、予察灯での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		7月23日	－	多	(1) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並、予察灯での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	－	多	(1) フェロモントラップでの誘殺数はやや多く、予察灯での誘殺数は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少ない、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	－	多	(1) フェロモントラップでの誘殺数はやや多く、予察灯での誘殺数は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
		9月25日	－	多	(1) フェロモントラップでの誘殺数はやや多く、予察灯での誘殺数は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
ナシ	黒星病	4月16日	平年並	平年並	(1) ナシの生育は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月18日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月2日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		8月6日	－	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少ない、県南部で平年並の見込み。
	ナシヒメシクイ	5月14日	やや早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期はやや早く、誘殺数はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月2日	－	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (2) ほ場での被害果を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	－	平年並	(1) ほ場での被害果数は平年並。 (2) フェロモントラップでの7月以降の累積誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	アブラムシ類	5月14日	－	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	ハダニ類	6月18日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月23日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
ブドウ	べと病	7月2日	やや早	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
	晩腐病	7月23日	平年並	平年並	(1) 前年の発生量は平年並。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	灰色かび病	5月14日	やや早	平年並	(1) ブドウの生育はやや早い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	チャノキイロアザミウマ	6月18日	－	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
カキ	炭疽病	6月18日	－	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月27日	－	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	カキノヘタムシガ	5月14日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月23日	－	平年並	(1) 第一世代成虫のほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	カキクダアザミウマ	5月14日	平年並	やや多	(1) ほ場での発生量は多い。 (2) カキの生育は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	カイガラムシ類	6月18日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
チャ	炭疽病	6月4日	－	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 前年の発生量はやや少なかった。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日	－	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	－	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月27日	－	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	もち病	6月4日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	－	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
チャ	新梢枯死症	7月23日	－	やや多	(1) 感染源となる輪斑病葉の発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	－	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 感染源となる輪斑病葉の発生量はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	輪斑病	7月2日	－	やや多	(1) 前年の秋芽における新梢枯死症の発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
	チャノコカクモンハマキ	4月16日 (第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日はやや早い。 (2) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの累積誘殺数は平年並。 (3) 前年の最終世代の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月18日 (第2世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 第1世代成虫の予察灯での誘殺時期はやや早い。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯、フェロモントラップでやや少ない。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月6日 (第3世代幼虫)	早	平年並	(1) 第2世代成虫の初飛来日は早い。 (2) 第2世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	チャハマキ	4月16日 (第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は早い。 (2) 前年の最終世代の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月18日 (第2世代幼虫)	平年並	平年並	(1) 越冬世代成虫の予察灯での誘殺時期はやや遅い。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯、フェロモントラップで平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	チャノホソガ	4月16日 (第1世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日はやや遅い。 (2) 越冬世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。 (3) 前年の最終世代の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月4日 (第2世代幼虫)	平年並	平年並	(1) 第1世代成虫の予察灯での誘殺時期は平年並。 (2) 第1世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日 (第3世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 第2世代成虫の予察灯での誘殺時期はやや早い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月27日 (第4世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第3世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 第3世代成虫の累積誘殺数は予察灯でやや少なく、フェロモントラップで少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。
	チャノミドリヒメヨコバイ	6月4日	－	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月2日	－	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		7月23日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	－	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	チャノキイロアザミウマ	6月4日	－	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月2日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		7月23日	－	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月6日	－	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠	
			発生時期	発生量		
チャ	カンザワハダニ	3月19日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		4月16日	－	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		5月14日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		6月4日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。	
		6月18日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		7月2日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。	
		7月23日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月6日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。	
		8月27日	－	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。	
		9月25日	－	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
ツマグロアオカスミカメ	4月16日	やや早	平年並	(1) 一番茶の生育は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。		
クワシロカイガラムシ	(第1世代幼虫)	5月14日	早	やや少	(1) 幼虫ふ化最盛期の有効積算温度（287日度、起算日1月1日、発育零点10.5℃）による予測日は早い。 (2) 越冬世代成虫の寄生株率はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		6月4日	早	平年並	(1) 甲賀市水口町水口（茶業指導所）におけるふ化最盛期（50％ふ化卵塊が過半数に達した時期）は早い。 (2) 調査茶園における寄生株率は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。	
		7月23日 (年2回発生地域・第1世代幼虫)	やや早	少	(1) 第1世代成虫の発生時期は早い。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度（688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃）による予測日はやや早い。 (3) 第1世代成虫（雄繭）の寄生株率は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月6日 (年2回発生地域・第2世代幼虫)	早	平年並	(1) 第1世代成虫の発生時期は早い。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度（688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃、高温補正30℃）による予測日は早い。 (3) 第1世代成虫の寄生株率（雄繭）は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。	
		8月27日 (年3回発生地域・第3世代幼虫)	早	やや少	(1) 第2世代幼虫の発生時期はやや早い。 (2) 第2世代成虫（雄繭）の寄生株率は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。	
		チャトゲコナジラミ	5月14日 (第1世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 越冬世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月4日 (第1世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 越冬世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。	
7月23日 (第2世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。			
8月6日 (第2世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第1世代成虫の発生ピークは平年並。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は少ない。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。			
9月25日 (第3世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 第2世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 第2世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。			

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
キク	アブラムシ類	7月2日	－	やや少	(1) ほ場での発生はやや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
		8月6日	－	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。

2 注意報および警報

本年度、注意報は8回発表した。なお、警報の発表はなかった。

令和6年度病害虫発生予察注意報第1号

イネ縞葉枯病の多発のおそれ

令和6年(2024年)4月12日
滋 賀 県

1. 病害虫名：イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）
2. 対象作物：イネ
3. 発生地域：県内全域
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
 - (1) 3月27日～4月2日に県内33地点の本田の刈り株再生芽（ひこばえ）で採集したヒメトビウンカ越冬虫において、イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は20.8%であり（表）、過去10年間で最も高い。保毒虫は、全県的に検出されている。
 - (2) 向こう3か月の気象予報（大阪管区気象台3月19日発表）では、気温は高いと予想されている。ヒメトビウンカの発生に好適であり、本病が多発する可能性がある。
6. 防除対策

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病である。発病後の防除はできないため、ヒメトビウンカの防除を実施し、本病のまん延を防止する。

 - (1) 畦畔や、ほ場周辺の雑草地の除草を行う。
 - (2) 窒素質肥料の多施用を避ける。
 - (3) 例年発生が多いほ場では、育苗箱施薬する。
 - (4) 発病株は、早期に抜き取る。
 - (5) 6月下旬に発病が多い場合は、7月上旬までに薬剤を散布する。
 - (6) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、

表 ヒメトビウンカ越冬虫における
イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率

調査年	地点数	ヒメトビウンカ		
		採集数(頭)	保毒数(頭)	保毒虫率(%)
平成26年	40	47	3	6.4
平成27年	40	52	2	3.8
平成28年	40	113	1	0.9
平成29年	40	164	3	1.8
平成30年	36	27	0	0
平成31年	36	265	5	1.9
令和2年	36	36	2	5.6
令和3年	36	22	0	0
令和4年	36	183	8	4.4
令和5年	36	105	10	9.5
令和6年	33	48	10	20.8

※平成26年はラテックス法、平成27年以降は簡易ELISA法により検定

ラベルを確認し、農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守する。

令和6年度病害虫発生予察注意報第2号

麦類赤かび病多発のおそれ

令和6年(2024年)4月23日
滋 賀 県

1. 病害虫名：赤かび病
2. 対象作物：麦類（小麦、大麦）
3. 発生地域：県内全域
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
 - (1) 向こう1か月の気象予報（大阪管区気象台4月18日発表）では、気温は高く、降水量は県南部で多く、県北部で平年並、日照時間は県南部で少なく、県北部で平年並または少ない見込みで、赤かび病菌の感染に好適な気象条件となると予想される。
 - (2) 小麦および大麦の生育は平年並で、4月中旬以降、県内全域において農薬散布適期である開花が始まっている。
 - (3) 小麦「びわほなみ」は赤かび病に弱く、好適な気象条件により本病が多発する可能性がある。
6. 防除対策
 - (1) 小麦「びわほなみ」は、赤かび病に弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を合計2回散布する防除体系を基本とするが、本年は本病が多発する可能性があるため、散布2回目の7～10日後頃に3回目の農薬散布を実施する。
 - (2) 「びわほなみ」以外の小麦品種は、開花始め～開花期に農薬を1回散布する防除体系を基本とする。また、六条大麦は、赤かび病にやや弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を合計2回散布する防除体系を基本とする。なお、農薬散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は、最終散布の7～10日後頃に追加散布（「びわほなみ」以外の小麦品種では2回目、六条大麦では3回目）を実施する。
 - (3) 薬剤は[県農作物病害虫雑草防除基準](#)を参照のこと。農薬の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守する。
 - (4) 小麦については、食品衛生法においてデオキシニバレノールを1.0mg/kgを超えて含有するものであってはならない旨の成分規格が設定され、令和4年4月から適用されている。基準値を超過すると、流通できず、生産者が廃棄処分する必要がある。



写真1 小麦赤かび病
穂の一部が褐変している



写真2 小麦赤かび病（拡大）
穎（えい）の合わせ目や小穂と軸の間に、
サーモンピンク色のかびが見られる。

令和6年度病虫害発生予察注意報第3号
果樹カメムシ類による被害多発のおそれ

令和6年(2024年)5月20日
滋 賀 県

1. 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：果樹（ナシ、ブドウ、カキ等）
4. 発生程度： 多
5. 注意報発表の根拠
 - (1) 5月第3半旬に果樹カメムシ類の予察灯での誘殺数が急増し、チャバネアオカメムシの誘殺数が平年の7.3倍、ツヤアオカメムシが29.6倍となった(図)。
 - (2) 果樹カメムシ類の予察灯での4月からの累積誘殺数は過去10年で最も多い。
 - (3) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は、過去10年間で2番目に多い(表)。
 - (4) 大阪管区気象台の気象予報では、向こう1か月の気温は高いと予想されている。果樹カメムシ類の活動がさらに活発になり、果樹園への飛来が増加するため、被害の発生が懸念される。
6. 防除対策
 - (1) 気温が高く、風の弱い夜に飛来する習性がある。園内で発生を確認したら早朝か夕方に防除を行うが、必要以上の薬剤散布は、天敵を減少させ、ハダニ類やカイガラムシ類の増加につながるので注意する。
 - (2) 防虫ネット（6mm以下）を備える果樹園では、ネットの裾をペグや土嚢等で固定するとともに、ネットの破損がないか点検する。
 - (3) 局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、各園地で見回りをを行う。
 - (4) 山林隣接園や過去に被害を受けた園では特に注意する。



写真 チャバネアオカメムシ（左）とツヤアオカメムシ（右）

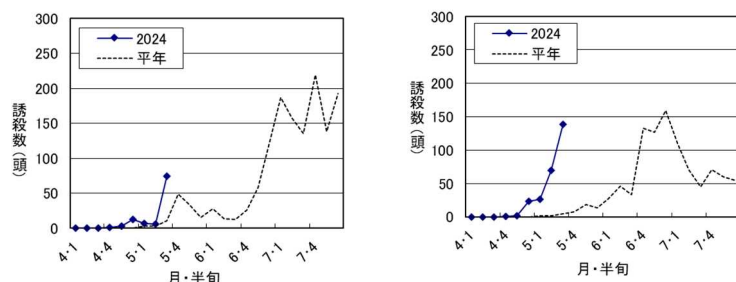


図 チャバネアオカメムシ（左）とツヤアオカメムシ（右）の予察灯での誘殺数の推移（栗東市荒張）

表 チャバネアオカメムシ越冬成虫数の推移

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	平年
越冬成虫数(頭)	2.0	1.1	0.4	0.0	1.6	0.1	3.8	0.1	1.3	0.0	3.0	1.0

※県内8地点の落葉50L当たりの平均越冬成虫数

令和6年度病害虫発生予察注意報第4号

タバコガ類による被害多発のおそれ

令和6年(2024年)7月2日
滋 賀 県

1. 病害虫名: タバコガ類 (オオタバコガ・タバコガ)

2. 発生地域: 県内全域

3. 対象作物: 野菜類、花き類、ダイズ

4. 発生程度: 多

5. 注意報発表の根拠

- (1) 近江八幡市安土町大中に設置したフェロモントラップにおいて、6月第5半旬までのオオタバコガ成虫の誘殺数は平年の約3.9倍、タバコガ成虫では約2.8倍であり、いずれも過去10年間で最も多い(図)。
- (2) 露地ほ場のトマト(写真a)およびミニトマトで幼虫による食害が観察されており、平年よりも発生が早い。
- (3) 向こう1か月の気象予報(大阪管区気象台6月27日発表)では、気温は高いと予想されており、今後も発生に好適な状況が続くため、被害の増加が懸念される。

6. 防除対策

- (1) 中齢以降の幼虫はトマトなどの果実、ブロッコリーや花き類の花蕾、キャベツなどの結球部(写真b)に潜って食害するため、薬剤がかかりにくくなる。また、中齢以降の幼虫は薬剤に対する感受性も著しく低下するので、ほ場をよく見回り、幼虫の捕殺や薬剤散布などの防除を早期に実施する。
- (2) 施設栽培では、開口部を防虫ネットで覆い、成虫の侵入を防ぐ。
- (3) 防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯は、成虫の飛来を抑制し防除効果が高い。

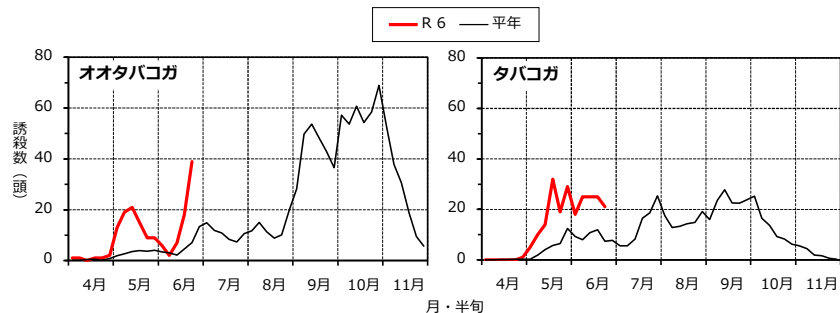


図 フェロモントラップによるタバコガ類成虫の誘殺状況 (近江八幡市安土町大中)



写真 タバコガ類幼虫による食害

- (a) トマト果実
- (b) キャベツ結球部
- (c) ダイズ葉

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号
斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ

令和6年(2024年)7月17日
滋 賀 県

1. 病害虫名：斑点米カメムシ類
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：水稻
4. 発生時期：7月下旬以降（加害時期）
5. 発生程度：多
6. 注意報発表の根拠
 - (1) 7月8日に県内36地点の畦畔雑草で実施したすくい取り調査において、小型種のアカスジカスミカメの平均生息数は155.2頭であり（図1a）、平年（39.1頭）の約4.0倍と多く、過去10年間で最も多い。大型種のホソハリカメムシは7.3頭であり（図1b）、平年（4.8頭）の約1.5倍とやや多い。今後、水稻が出穂すると畦畔や雑草地の斑点米カメムシ類が水田内に侵入し、加害することが懸念される。
 - (2) 既に出穂している本田において、イネカメムシが局所的に生息している。
 - (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台7月11日発表）では、気温は高いと予想されており、今後も発生に好適な状況が続くため、被害の多発が懸念される。
7. 防除対策
 - (1) 出穂した畦畔のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類がほ場周辺に誘引される要因となる。そのため、イネ出穂期の2～3週間前と出穂期頃に除草する。
 - (2) 雑草管理が不十分で畦畔や雑草地にイネ科雑草の出穂が多く認められる場合、本田の出穂後に除草すると斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草する場合は、本田での薬剤防除前日に実施する。
 - (3) 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので、早急に抜き取る。
 - (4) ほ場周辺の畦畔や雑草地に小型種（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ）が多く生息しているほ場では、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。大型種（ホソハリカメムシやクモヘリカメムシなど）が多く発生しているほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に出穂10～20日後）に防除する（図2）。
 - (5) イネカメムシが多く生息しているほ場では、防除時期を繰り上げ、出穂期に防除する（図2）。
 - (6) 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。
 - (7) 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類が多く生息している場合は、追加防除を行う。
 - (8) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守する。

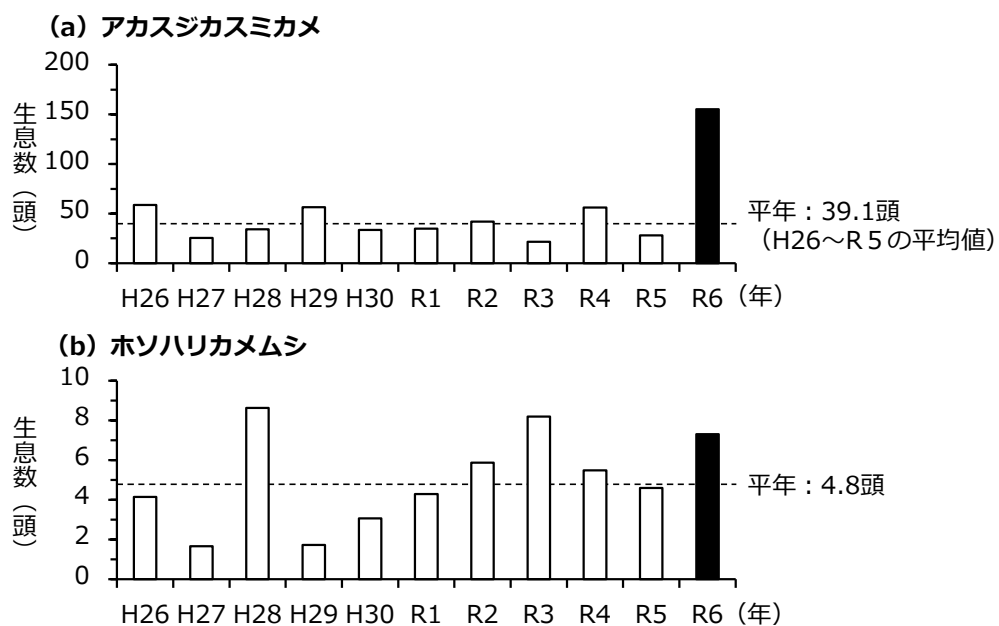


図1 畦畔雑草における
(a) アカスジカスミカメおよび
(b) ホソハリカメムシの生息数
(50回すくい取り調査)

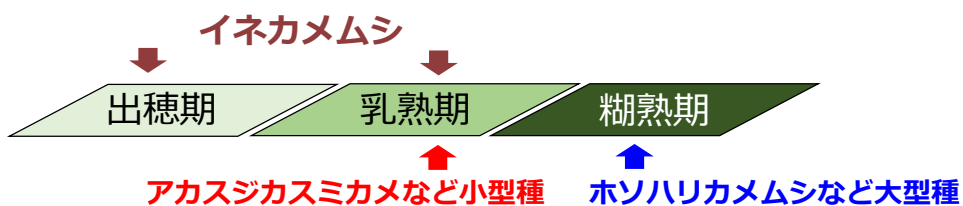


図2 斑点米カメムシ類の防除時期

写真 斑点米カメムシ類の成虫と斑点米



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



イネカメムシ



斑点米 (着色しているもの)

令和6年度病害虫発生予察注意報第6号
果樹カメムシ類急増による被害多発のおそれ

令和6年(2024年)8月8日
滋 賀 県

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：果樹（カキ、ナシ、ブドウ等）
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
 - (1) 7月第6半旬に果樹カメムシ類の予察灯、フェロモントラップでの誘殺数が急増し、7月の累積誘殺数は予察灯で平年の6.9倍（本年値10,994頭、平年値1,588頭）、フェロモントラップで2.4倍（本年値6,517頭、平年値2,674頭）となった(図)。
 - (2) すでにカキの果実で果樹カメムシ類による吸汁被害が確認されている（写真）。
 - (3) 大阪管区気象台の気象予報では、向こう1か月の気温は高いと予想されており、果樹カメムシ類の活動の活発な状況が続くため、さらに果樹園への飛来が増加し、被害の多発が懸念される。
6. 防除対策
 - (1) 気温が高く、風の弱い夜に飛来する習性がある。園内で発生を確認したら早朝か夕方に防除を行うが、必要以上の薬剤散布は、天敵を減少させることになり、ハダニ類、カイガラムシ類の増加につながるので注意する。
 - (2) 局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、各園地で見回りを行う。
 - (3) 山林に隣接する果樹園や過去に被害を受けた果樹園では、特に注意する。

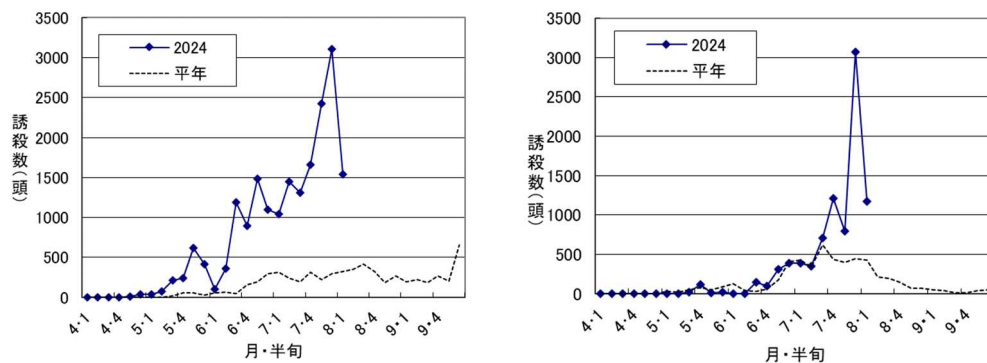
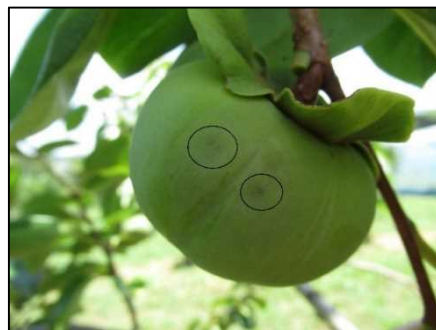


図 果樹カメムシ類の（左）予察灯と（右）フェロモントラップでの誘殺数の推移（栗東市荒張）



写真 チャバネアオカメムシ



カキ果実での吸汁痕（黒丸）

令和6年度病害虫発生予察注意報第7号
ハイマダラノメイガによる被害多発のおそれ

令和6年(2024年)8月20日
滋賀県

1. 病害虫名：ハイマダラノメイガ
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：アブラナ科野菜（キャベツ、ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー等）
花き類（ストック、葉ボタン）
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
 - (1) 近江八幡市安土町大中で調査している指標植物のクレオメ※において、8月第3半旬時点での寄生幼虫数の累積値は3.7頭であり、平年（0.08頭）よりも顕著に多い（図）。
※：フウチョウソウ科の花き。ハイマダラノメイガが好んで食害する。
 - (2) 露地ほ場のキャベツ（写真）で幼虫による食害が観察されており、平年よりも発生が早い。
 - (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台8月15日発表）では、気温は高いと予想されており、今後も発生に好適な状況が続くため、被害の増加が懸念される。
6. 防除対策
本虫は生育初期に成長点付近を食害するため、予防防除に努める。
 - (1) は種前や定植時に薬剤を処理する。
 - (2) ほ場をよく観察し、幼虫を捕殺する。また、幼虫による被害を確認したら、発生初期に薬剤を散布する。
 - (3) 施設栽培では、開口部をネットで覆い、成虫の侵入を防ぐ。

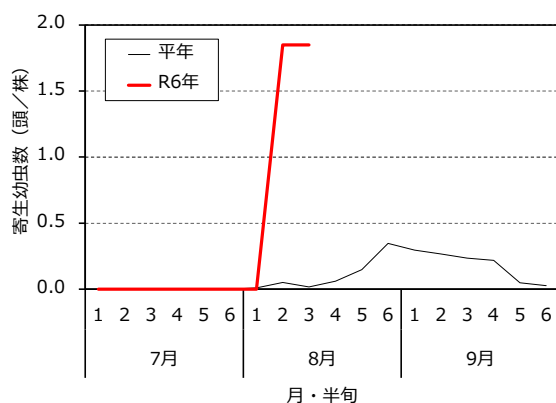


図 指標植物であるクレオメでのハイマダラノメイガの寄生状況（近江八幡市安土町大中）



写真 食害を受け成長点が消失したキャベツ

令和6年度病害虫発生予察注意報第8号

ハスモンヨトウによる被害多発のおそれ

令和6年(2024年)10月22日
滋 賀 県

1. 病害虫名：ハスモンヨトウ

2. 発生地域：県内全域

3. 対象作物：野菜類、花き類

4. 発生程度：多

5. 注意報発表の根拠

(1) 県内3カ所に設置しているフェロモントラップでのハスモンヨトウの誘殺数が増加している。近江八幡市安土町大中での9月以降の累積誘殺数は平年の約1.9倍であり、10月第2半旬以降、誘殺数が急増している(図a)。高島市今津町日置前での9月以降の累積誘殺数は平年の約1.6倍であり、8月第5半旬以降、平年より多い状況が続いている(図c)。

(2) 露地ほ場のアブラナ科野菜で、幼虫による食害が多数確認されている。

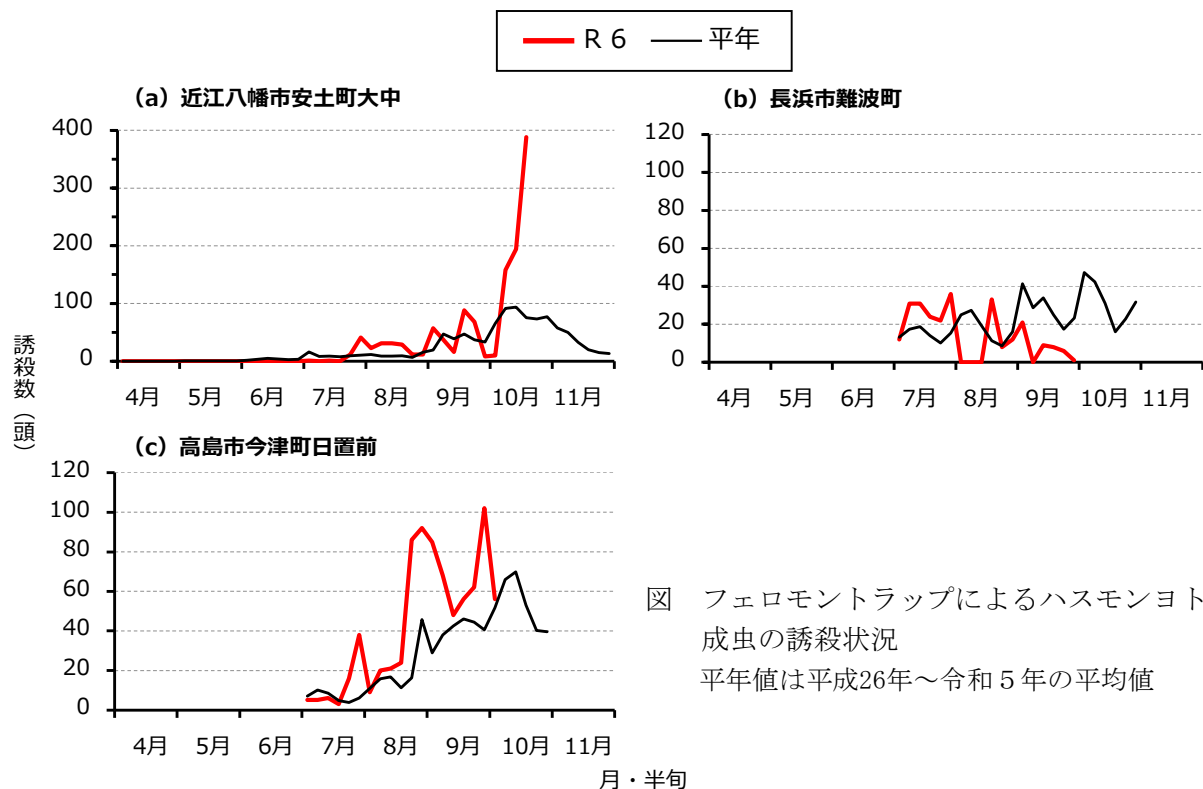
(3) 向こう1か月の気象予報(大阪管区気象台10月17日発表)では、気温は高いと予想されている。今後も発生に好適な状況が続くため、被害の増加が懸念される。

6. 防除対策

(1) 早期発見に努め、若齢幼虫が葉裏に群生しているうちに捕殺する。

(2) 中齢～老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期に薬剤を散布する。また、成虫は次々に飛来して産卵するので、薬剤散布後も発生状況に十分注意する。

(3) 施設栽培では、開口部を防虫ネットで覆い、成虫の侵入を防ぐ。



3 特殊報

本年度は、3回発表した。

令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和6年(2024年)7月23日
滋賀県

1. 病害虫名 メロン退緑黄化病
2. 病原ウイルス名 ウリ類退緑黄化ウイルス(Cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV)
3. 対象作物 メロン
4. 発生地域 滋賀県南部
5. 発生経過
 - (1) 令和6年7月、滋賀県南部の施設メロンほ場において、葉に退緑および黄化症状を示す株が認められた(写真1～3)。
 - (2) 滋賀県病害虫防除所において、RT-PCR法による検定を実施したところ、県内では未発生のウリ類退緑黄化ウイルス(Cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV)による「メロン退緑黄化病」であることが判明した。
 - (3) 本ウイルスによる病害は平成20年に佐賀県、大分県、宮崎県および熊本県で初めて特殊報が発表され、現在では26府県で発生が確認されている。
5. 本病の特徴
 - (1) 病徴

発生初期は葉に退緑小斑点を生じる。症状が進むと次第に斑点が拡大しながら癒合し、徐々に黄化する。さらに進展すると、葉脈部分を残して黄化する。特に、感染時期が早いほど、発病の割合が高くなる。発病株では果実の肥大が不良となり、糖度の低下や収量の減少といった被害が発生する。
 - (2) 伝染経路
 - ①本ウイルスはタバココナジラミ(写真4)により半永続伝搬(ウイルス媒介能力が数時間から数日間保持)される。経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしないと報告されている。
 - ②国内ではメロン、キュウリおよびスイカにおいて、自然感染が確認されている。接種試験ではウリ科、ナス科、アカザ科など広範な植物に感染することが確認されている。
6. 防除対策
 - (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
 - ①施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを張り、施設内へのタバココナジラミの侵入を防ぐ。
 - ②黄色粘着ロールや粘着板を活用し、タバココナジラミの早期発見や密度低下に努める。本虫の誘殺が確認された場合は、速やかに薬剤防除を実施する。
 - ③施設内および周辺の雑草はタバココナジラミの発生源となるので、徹底して除去する。
 - ④施設栽培では、タバココナジラミを周辺に分散させないため、栽培終了後にすべての株を地際から切断または抜根し、施設を密閉して死滅させる。
 - ⑤薬剤感受性低下を防ぐため、同一グループの薬剤の連用を避ける。
 - (2) 発病株は直ちに抜き取り、ポリ袋等に密閉してほ場外に持ち出して処分するか、土中深くに埋め込むなど適切に処分する。



写真1 葉の症状



写真2 葉の症状（症状が進行したもの）



写真3 発病株の症状



写真4 タバココナジラミ（成虫）

1. 病原ウイルス Cucurbit aphid-borne yellows virus : CABYV

2. 対象作物 メロン、キュウリ

3. 発生地域 滋賀県南部

4. 発生経過

- (1) 令和6年6月、滋賀県南部の施設メロンほ場において、葉の葉脈間の黄化や白化症状を示す株が認められた(写真1～4)。
- (2) 滋賀県病害虫防除所および神戸植物防疫所において、RT-PCR法による検定およびその増幅産物の塩基配列の系統解析を行ったところ、CABYVの感染を確認した。
- (3) 発生ほ場から採取したワタアブラムシ(写真5)を健全なメロンに放飼し、ウイルスを接種した結果、メロン葉の黄化が認められ、CABYVが再検出された(写真6)。
- (4) CABYV発生ほ場の周辺調査の結果、近隣の施設キュウリほ場においてもCABYVが検出された。
- (5) 本ウイルスは、1988年にフランスにおいて、メロンやキュウリ等で初めて発生が確認され、それ以降、海外40か国以上で主にウリ科野菜に被害を及ぼしている。国内では、令和6年に京都府のキュウリにおける国内初の特殊報が発表されているが、メロンにおける発生報告はない。

5. 本病の特徴

(1) 病徴

葉全体もしくは一部に葉脈間の黄化や白化症状を示す(写真1、3、4)。症状が進むと、株全体の葉が黄化するが、新葉や脇芽等の若い葉には症状が見られないか、時間が経ってから黄化する(写真2)。

(2) 伝染経路

- ①本ウイルスは、海外ではワタアブラムシやモモアカアブラムシ等のアブラムシ類により媒介されると報告されている。なお、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染は確認されていない。再現試験の結果から、国内においてもアブラムシ類により媒介されると考えられる。
- ②媒介虫は、罹病植物を吸汁することで本ウイルスを保毒し、一度ウイルスを獲得すると永続伝搬(長期間あるいは生きている限り媒介できる)するが、経卵伝染はしない。
- ③感染すると落花が多くなり、1株当たりの果実数が減少することで、メロンでは40%、キュウリでは51%減収した事例が海外で報告されている(Lecoq et al., 1992)。

6. 防除対策

(1) ウイルスを媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。

- ①苗からアブラムシ類を持ち込まないよう注意する。
- ②施設開口部に目合い0.8mm以下の防虫ネットを張り、施設内へのアブラムシ類の侵入を防ぐ。
- ③施設内およびほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので、除草を徹底する。
- ④アブラムシ類の発生が確認された場合は薬剤防除を実施する。
- ⑤アブラムシ類の薬剤感受性の低下を防ぐため、同一グループの薬剤の連用を避ける。
- ⑥施設栽培では、アブラムシ類を周辺に分散させないため、栽培終了後にすべての株

を地際から切断または抜根し、施設を密閉して死滅させる。
(2) 発病株は直ちに抜き取り、ポリ袋等に密閉してほ場外に持ち出して処分するか、土中深くに埋め込む等適切に処分する。

7. 引用文献

Lecoq et al. (1992), A new yellowing disease of cucurbits caused by a luteovirus, cucurbit aphid-borne yellows virus. Plant Pathology, 41: 749-761.



写真1 ほ場での株全体の黄化症状



写真2 脇芽の症状



写真3 葉の一部の黄化症状



写真4 葉脈間の白化症状



写真5 ワタアブラムシ



写真6 メロンでの再現試験結果

1. 病害虫名 オリーブ立枯病

2. 病原体名 *Ralstonia solanacearum*

3. 対象作物 オリーブ

4. 発生地域 滋賀県北部

5. 発生経過

- (1) 令和6年8月、滋賀県北部のオリーブほ場において、葉が褐変し、萎凋・枯死する株が認められた(写真1)。症状の見られた樹では幹の内部が変色しており(写真2)、変色部からは菌泥(細菌の集合体が粘液状になったもの)の漏出が認められた(写真3)。
- (2) 滋賀県病害虫防除所において、マルチプレックスPCR法による検定を実施したところ、*Ralstonia solanacearum* (phylo type I) と同定されたため、本病はオリーブ立枯病であることが判明した。
- (3) 国内での本病の発生は、平成30年に香川県で初めて確認され、その後、鹿児島県、宮崎県、広島県、静岡県、三重県で報告されている。

5. 本病の特徴

(1) 病徴

葉枯れや落葉、果実の萎凋(写真1)を生じ、その後、樹全体が枯死する。症状の出ている幹の断面はにじむように褐変している(写真2)。

(2) 病原菌の特性

*Ralstonia solanacearum*は、トマトやナスなどのナス科植物やイチゴ、ダイコン、ショウガなど多数の植物に青枯病を引き起こす土壌伝染性細菌である。

(3) 伝染経路

オリーブにおける感染経路は明らかにされていないが、一般的に青枯病菌は土壌中に生息し、植物の根の傷口から侵入する。その後、維管束部で増殖し、地上部を萎凋させる。また、収穫や剪定などの管理作業でも発病株から健全株へ伝染する。

6. 防除対策

- (1) オリーブ立枯病に対する登録農薬はなく、汚染された土壌から本病原菌を完全に除去することは困難であるため、耕種的防除が基本となる。
- (2) 管理作業による伝染を防止するため、剪定バサミやノコギリなどの用具の消毒(70%エタノールや200ppm(0.02%)以上の次亜塩素酸ナトリウム水溶液の噴霧)を行う。
- (3) 発病や感染が疑われる樹の剪定作業などは最後に行う。
- (4) ほ場へ出入りする際は、衣服や帽子、手袋から土を払い落とし、靴や手袋の消毒を行う。
- (5) ナス科作物の青枯病など、本菌を原因とする病気の発生が過去にあったほ場の利用を避ける。
- (6) 発病樹は伝染源となることから、速やかに抜根・除去し、残渣をほ場外に持ち出して焼却するなどして適切に処分する。

4. 参考文献

伊達 寛敬(2003), 青枯病菌による病害. 植物防疫, 57: 380-383.

堀田 光生・土屋 健一(2012), 青枯病菌 *Ralstonia solanacearum*. 微生物遺伝資源利用マニュアル(12)改訂第2版



写真1 発病樹の葉枯れ（上）および枯死（下）



写真2 幹内部の変色

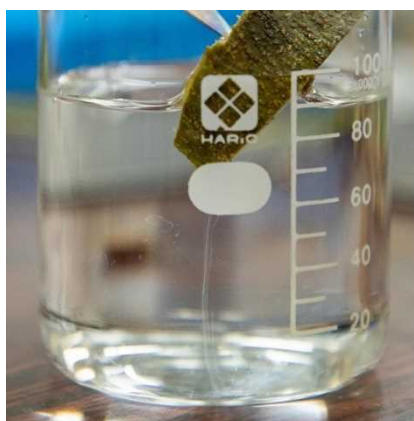


写真3 変色部からの菌泥の漏出（矢印部）

4 防除情報

本年度は、5回発表した。

令和6年度防除情報第1号

令和6年(2024年)5月1日
滋賀県病虫害防除所

麦類赤かび病の発生状況と防除対策の徹底

対象作物：麦類（小麦、大麦）

病虫害名：赤かび病

麦類赤かび病については、これまでに[令和6年度病虫害発生予察注意報第2号](#)（令和6年4月23日付け）を発表し、注意喚起を行ってきたところです。

その後、麦類赤かび病の発生が県内各地域で確認され、その初発見日は4/26と、平年（5/9）と比較して10日以上早い状況です。また、4月中旬以降、赤かび病の発生に好適な気象条件が断続的に出現しています（表）。

つきましては、以下を参考に、防除対策を徹底してください。

防除上注意すべき事項（詳細は[注意報第2号](#)を参照）

- （1）小麦「びわほなみ」では、散布2回目の7～10日後頃に3回目の農薬散布を実施する。
- （2）「びわほなみ」以外の小麦品種では、散布1回目の7～10日後頃に2回目、六条大麦では、散布2回目の7～10日後頃に3回目の農薬散布を実施する。

表 赤かび病の主要な一次伝染源である子のう胞子の飛散好適日

月/日	子のう胞子 ¹⁾ 飛散好適日	日降水量 ²⁾ (mm)
4/16	○	15.5
4/17	○	0
4/18	-	0
4/19	-	0
4/20	-	0
4/21	○	16.5
4/22	○	0
4/23	○	5.5
4/24	○	13.5
4/25	○	0
4/26	-	0
4/27	-	0
4/28	-	0
4/29	○	2.5
4/30	○	16.0

気象データとして彦根アメダスの実測値を用いた。

¹⁾ 日最高気温が15℃以上、日最低気温が10℃以上で、前日もしくは当日に降雨があった日を○で示した。

²⁾ 0.5mm以上の値を示した。

令和6年(2024年)6月12日
滋賀県病虫害防除所

タバコガ類の多発に注意しましょう

対象作物：野菜類、花き類

病虫害名：タバコガ類（オオタバコガ、タバコガ）

タバコガ類の発生量が多くなっています。近江八幡市安土町大中に設置したフェロモントラップでは、6月第1半旬までのオオタバコガ成虫の累積誘殺数は平年の約3.9倍、タバコガは約3.6倍であり（図）、過去10年で最も多くなっています。また、露地ほ場のナスで幼虫の発生を確認しました。

本種はナス科野菜や花き類を加害します（写真）。今後、幼虫による葉や果実表皮の食害、果実への食入などの被害の発生が懸念されますので、注意してください。

中齢以降の幼虫は作物に潜って食害するため、薬剤がかかりにくくなります。また、中齢以降は薬剤が効きにくくなります。ほ場をよく見まわり、幼虫の捕殺や薬剤散布などの防除を早めに実施しましょう。施設栽培では、開口部を防虫ネットで覆い、成虫の侵入を防ぎましょう。

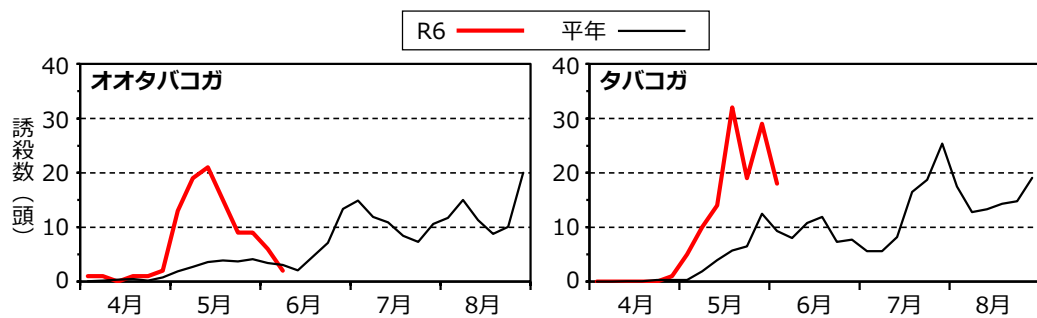


図 フェロモントラップによる（左）オオタバコガおよび（右）タバコガ成虫の誘殺状況（近江八幡市安土町大中）



写真 ミニトマトの果実を加害するタバコガ類幼虫

令和 6 年(2024 年) 7 月 23 日
滋賀県病虫害防除所

トビイロウンカ等の海外飛来性害虫による被害の発生に注意

対象作物：水稻（主に中生・晩生品種）

病虫害名：海外飛来性害虫（トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ）

トビイロウンカをはじめとした海外飛来性害虫 3 種による被害の発生が懸念される。向こう 1 か月の気象予報（大阪管区气象台 7 月 18 日発表）では、気温は高いと見込まれており、海外飛来性害虫の増殖に好適な条件が続くと予想される。いずれも、極早生品種および早生品種では、今後の防除の必要性は低いと考えられるが、ほ場をよく観察し、発生に注意する。収穫期が近いほ場で薬剤散布をする場合、ラベルをよく確認し、収穫前日数を遵守して防除する。

トビイロウンカ

本県では、7 月 10 日頃までに予察灯への飛来が認められた場合、多発する危険性が高い。7 月 10 日までに予察灯への飛来は確認されておらず、また、本田での発生も確認されていない。本虫はセジロウンカと同時に飛来している可能性が高い。後述するように、セジロウンカは広域に飛来していることから、今後、ほ場での発生に十分注意する。

近隣府県では、兵庫県と愛知県で平年より早期に予察灯への飛来が認められている。九州地方では、予察灯への多数の飛来とともに、本田での発生も確認されている。防除の目安は、「8 月中旬以降の払い落とし調査において、1 株あたり 1 頭以上捕獲される場合」である。トビイロウンカは株元に特に多いので、株元を注意して観察する。

セジロウンカ

7 月 8 日に県内 36 地点の水田で実施したすくい取り調査において、セジロウンカの平均生息数は 2.6 頭（平年 1.0 頭）、発生地点率は 61.1%（平年 28.2%）と、いずれも平年よりも多い。また、一部のほ場では幼虫の発生が確認されている。防除の目安は、「7 月下旬の見取り調査で株当たり 10 頭以上、もしくはすくい取り調査で 10 回当たり 50 頭以上が捕獲される場合」である。

コブノメイガ

本田での発生は 7 月 15 日であり、平年（7 月 27 日）よりも発生が早い。また、7 月 16～18 日に県内 36 地点の水田で実施した調査において、コブノメイガの発生地点率は 22.2%であり、広域で発生が確認されている。

防除の目安は「8 月上旬の被害株率が 20%以上、もしくは 8 月中旬に上位 2 葉の被害株率が 20%以上」である。



写真1 トビイロウンカ
 (左) 成虫、(中) 2020年に発生した被害(坪枯れ症状)、
 (右) 株元に寄生する多数のトビイロウンカ



写真2 セジロウンカ成虫



写真3 コブノメイガ被害多発ほ場

トビイロウンカの生態や防除法については、病虫害防除所ホームページに掲載されている資料も参照ください。

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/315695/>



令和6年(2024年)10月8日
滋賀県病虫害防除所刈り株再生芽でイネ縞葉枯病が多発しています
刈り株の早期すき込みを行いましょう

対象作物：水稲

病虫害名：イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

刈り株再生芽（ひこばえ）でのイネ縞葉枯病（写真1）の発生量が多くなっています。イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。イネの生育初期にウイルスに感染すると、生育不良や出穂の異常（穂の奇形や不稔）が起こります（写真2）。

9月30日～10月3日に県内36地点180ほ場で行った調査において、刈り株再生芽での発病株率は7.3%（平年：3.3%）、発生ほ場率は82.2%（平年：67.2%）であり（図）、令和4年以降、平年値よりも高い水準で推移しています。また、刈り株再生芽での本病の発生は、県南部から中部で多く認められています（表）。

刈り株再生芽は、イネ縞葉枯病の病原ウイルスを保毒したヒメトビウンカの越冬場所になり、次作での病原ウイルスの伝染源になります。ヒメトビウンカの越冬数を減らし、翌年の本病のまん延を防止するため、刈り株再生芽で本病の発生が目立つほ場では、速やかに刈り株のすき込みを実施しましょう。また、イネ科雑草もヒメトビウンカの越冬場所になるため、ほ場周辺のイネ科雑草を除草しましょう。

加えて、刈り株再生芽で本病の発生が目立つほ場がある地域では、次作でのヒメトビウンカの防除を検討しましょう。

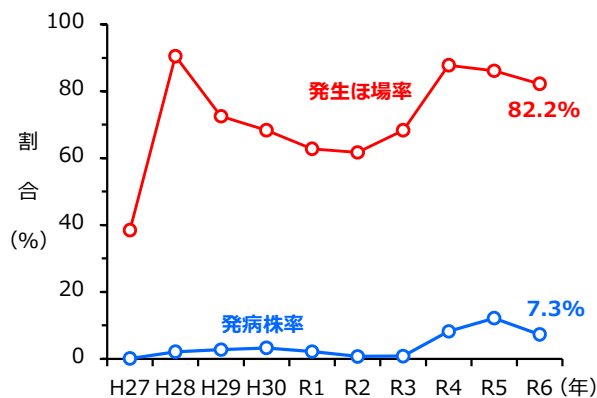
写真1 イネ縞葉枯病が発病した
刈り株再生芽写真2 立毛中のイネ縞葉枯病の発病株
（左）分けつ期の病徴 （右）穂の出すくみ

図 刈り株再生芽でのイネ縞葉枯病の発生状況（全県）

表 刈り株再生芽でのイネ縞葉枯病の
発生状況（地域別）

地域	割合 (%)	
	発病株率	発生ほ場率
大津・南部	5.5	93.3
甲 賀	16.8	95.0
東近江	9.6	88.0
湖 東	15.3	100
湖 北	0.4	60.0
高 島	0.6	65.0

令和 6 年(2024 年)10 月 8 日
滋賀県病虫害防除所

タバコガ類・ハスモンヨトウの被害に注意しましょう！

対象作物：野菜類、花き類

病虫害名：タバコガ類（オオタバコガ、タバコガ）、ハスモンヨトウ

タバコガ類とハスモンヨトウの発生量が多くなっています。近江八幡市安土町大中に設置したフェロモントラップにおいて、累積誘殺数（9 月第 6 半旬まで）はオオタバコガで平年の約 2.5 倍（図 1 a）、タバコガで平年の約 1.9 倍（図 1 b）と多くなっています。また、県内 3 カ所に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップのうち、近江八幡市安土町大中の累積誘殺数（9 月第 6 半旬まで）は平年の約 1.3 倍、高島市今津町日置前での累積誘殺数（9 月第 5 半旬まで）は平年の 1.8 倍とやや多くなっています（図 2 a および c）。

露地ほ場では、タバコガ類やハスモンヨトウの幼虫による葉の食害、ならびにキャベツ等の茎や結球部への潜りこみによる被害の発生が多く確認されています。今後、被害がより増加することが懸念されますので、注意してください。潜りこんで加害する中齢以降の幼虫は、薬剤がかかりにくく、防除効果も著しく低下します。ほ場をよく見回り、早期に幼虫の捕殺や薬剤散布等の防除を実施しましょう。

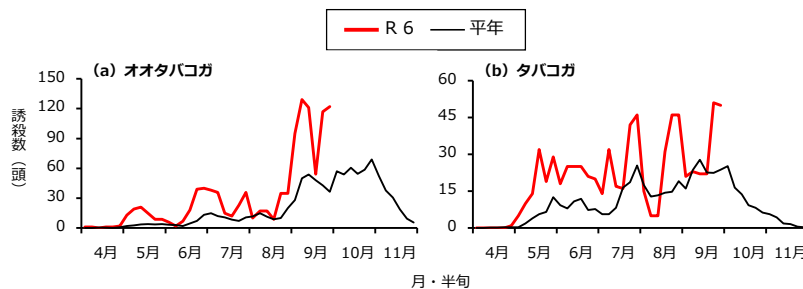


図 1 フェロモントラップによるタバコガ類成虫の誘殺状況（近江八幡市安土町大中）
平年値は平成26年～令和 5 年の平均値

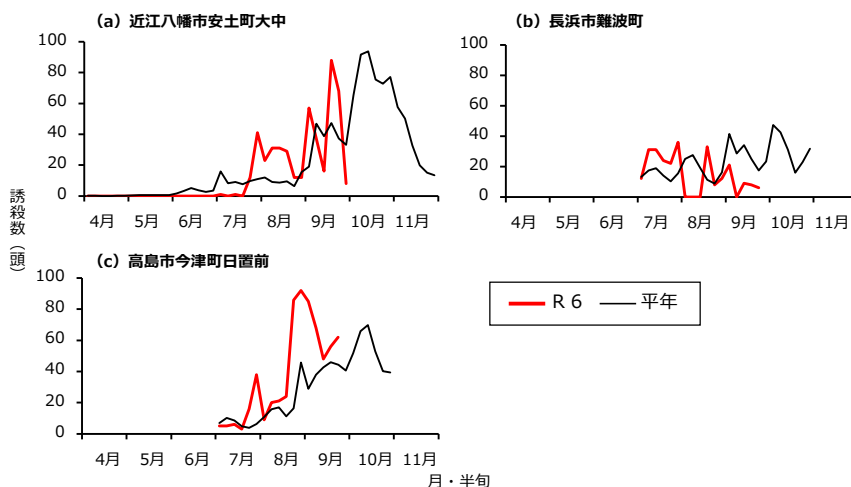


図 2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ成虫の誘殺状況
平年値は平成26年～令和 5 年の平均値

5 事務連絡

本年度は、1回発表した。

トビイロウンカの発生状況と今後の対応について

令和6年(2024年)7月17日

滋賀県病虫害防除所

本県へのトビイロウンカの飛来について、7月10日時点で県内5地点に設置した予察灯での誘殺を確認していません。また、近隣府県での誘殺も確認されていません。

しかしながら、今年度は、九州を中心に13県で飛来を確認しており、一部の県では、ほ場内での増殖も確認され、注意報が発表されています。さらに、国からのトビイロウンカに関する情報によれば、ベトナムでの発生面積、中国での発生量ともに平年を大きく上回り、日本で多発生した令和2年(2020年)よりも両国ともに多い状況になっています。

ついでには、現状の誘殺状況から、早生品種の「みずかがみ」「コシヒカリ」などでは、被害(坪枯れ)が発生する可能性は低いと考えられますが、中生・晩生品種では、7月下旬までにトビイロウンカが飛来した場合、被害(坪枯れ)が発生する可能性があります。引き続き病虫害防除所の発信する情報に留意してください。

6 その他情報・発表・広報・研修会等

本年度、学会や広報、研修会などで発表した事例は10件あった。

- (1) 滋賀県農薬安全指導者協議会「農薬の安全使用」研修会
令和6年7月17日(水) 滋賀県男女共同参画センター
令和5年度に滋賀県で発生が目立った病害虫について
・・・・・・・・金子誠

- (2) 令和6年度日本植物病理学会関西部会
令和6年9月19日(木)～20日(金) 愛媛県松山市
黄化症状を示すメロンから検出された cucurbit aphid-borne yellows virus
(CABYV) について
・・・・・・・・小幡善也

- (3) 令和6年度普及指導員専門養成研修における集合研修
令和6年10月18日(金) 農業技術振興センター
農薬の適正使用と危被害防止、主要農作物病害虫について
・・・・・・・・金子誠、近藤篤、角大樹、小幡善也、北野大輔

- (4) 第36回日本環境動物昆虫学会年次大会
令和6年11月16日(土) 大阪府吹田市
作期分散した水田地帯におけるイネカメムシの発消長と不稔被害の品種間差異
・・・・・・・・北野大輔

- (5) 令和6年度近畿中国四国試験研究推進部会問題別研究会(病害虫)
令和7年1月21日(火) 広島県福山市
トマト黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミの効果的な防除体系の確立
・・・・・・・・角大樹

- (6) 令和6年度近畿中国四国試験研究推進部会問題別研究会(病害虫)
令和7年1月22日(水) 広島県福山市
滋賀県におけるイネカメムシの発生の拡大と防除体系
・・・・・・・・北野大輔

- (7) 令和6年度水田農業振興フォーラム
令和7年1月25日(土) 滋賀県東近江市
近年発生が目立つ病害虫の生態と防除
・・・・・・・・北野大輔

- (8) 令和6年度カメムシ類等難防除害虫の発生状況と防除対策に関する検討会
滋賀県における2024年のカメムシ類の発生状況とイネカメムシ防除薬剤の選
定
令和7年3月13日(木) 東京都北区
・・・・・・・・北野大輔
- (9) 第69回日本応用動物昆虫学会大会
イネカメムシは出穂前のイネへの産卵を好む
・・・・・・・・北野大輔
- (10) 出穂期が異なる3品種のイネにおけるイネカメムシの発生パターンと不稔被害
量
環動昆 第35巻第4号:67-74(2024)
・・・・・・・・北野大輔、増田倫士郎

第 6 試験成績

1 効率的な防除の推進

(1) QoI 剤耐性イネいもち病の県内分布調査

ア 目的

2012 年に西日本の数県において、QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生が認められた。また、2014 年には、県内 95 ほ場のうち 9 ほ場において、QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生を認めた。耐性菌の発生を受け、2015 年に滋賀県病害虫雑草防除基準より、QoI 剤（水稻）を削除した。

その後、2020 年～2021 年度に実施した耐性菌検定では、2014 年の耐性菌発生地域（大津市関津、甲賀市信楽町黄瀬、湖南市岩根、東近江市川合町、長浜市余呉町坂口）を含めて、耐性菌は確認されなかった。そのため 2022 年度の県病害虫防除基準から QoI 剤が再登載された。

本試験では、現在の県内の QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生状況を経時的に確認するため、2024 年に県内分布調査を実施した。

イ 方法

2024 年に県内全域の 23 地点から、1 地点につき 1～5 菌株、計 68 菌株のいもち病菌を抗生物質添加 PDA 培地または WA 培地で単孢子分離した（図 1）。従来の培地検定法と同様に、分離したいもち病菌を 100ppm のアゾキシストロビン添加培地で検定した。

また液体培地による簡易耐性菌診断法（殺菌剤耐性イネいもち病菌対策マニュアル＜QoI 剤＞、2019 年 12 月、農研機構）を用いた検定手法を検証した。

ウ 結果の概要

県内 23 地点から得られた 68 サンプルを検定した結果、100ppm アゾキシストロビン添加培地での生育はみられなかった（図 2、表）。

県内 23 地点より 1 サンプルずつ、合計 23 サンプルを検定した結果、100ppm オリサストロビン添加液体培地での生育はみられなかった（図 3、表）。また、コントロールに用いた耐性菌では、菌糸の伸長がみられた。

以上の結果から、過去に耐性菌がみられた地点も含めて、県内 23 地点では、耐性菌の発生はみられず、すべて感受性菌であった。



図1 いもち病菌サンプル採取地

表 検定結果

No.	ほ場所在地		アゾキシストロビン 個体培地		オリサストロビン 液体培地	
	市町名	地点名	検定 菌株数	耐性菌 検出数	検定 菌株数	耐性菌 検出数
1	大津市	関津	1	0	1	0
2	大津市	和邇南浜	4	0	1	0
3	草津市	下笠町	5	0	1	0
4	守山市	赤野井町	1	0	1	0
5	栗東市	上砥山	4	0	1	0
6	野洲市	上屋	3	0	1	0
7	野洲市	菖蒲	2	0	1	0
8	甲賀市	甲賀町滝	2	0	1	0
9	甲賀市	信楽町黄瀬	2	0	1	0
10	近江八幡市	野村町	1	0	1	0
11	近江八幡市	安土町大中	5	0	1	0
12	竜王町	小口	2	0	1	0
13	東近江市	川合町	4	0	1	0
14	東近江市	栗見新田町	3	0	1	0
15	東近江市	鯉江町	4	0	1	0
16	東近江市	きぬがさ町	4	0	1	0
17	愛荘町	東円堂	2	0	1	0
18	甲良町	金屋	5	0	1	0
19	長浜市	早崎町	1	0	1	0
20	長浜市	余呉町坂口	2	0	1	0
21	高島市	今津町上弘部	4	0	1	0
22	高島市	新旭町北畑	4	0	1	0
23	高島市	安曇川町北船木	3	0	1	0
合計			68	0	23	0



図2 アゾキシストロビン添加培地上での感受性検定
注) 罹病葉または穂からいもち病菌を単孢子分離した後、100 ppmアゾキシストロビン、1 mM SHAM添加PDA培地にて、25℃で3日間培養した。耐性菌株は、滋賀県農業技術振興センター保存株を使用した。県内から採取した菌株には、気中菌糸の発生がみられるものの、培地内への菌糸の伸長はみられなかった。コントロールとした耐性菌株には、培地内への菌糸の伸長がみられた。

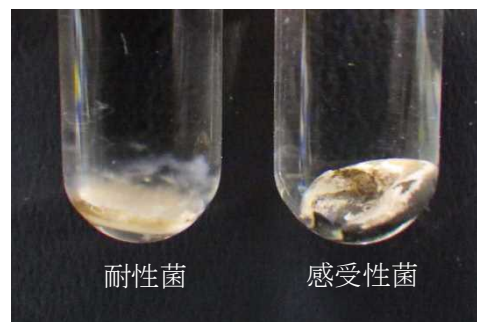


図3 オリサストロビン添加
液体培地上での感受性検定
注) いもち病菌を単孢子分離した後、100 ppmオリサストロビン、100 ppm SHAM添加 0.1×PDB培地にて、25℃で3日間培養した。

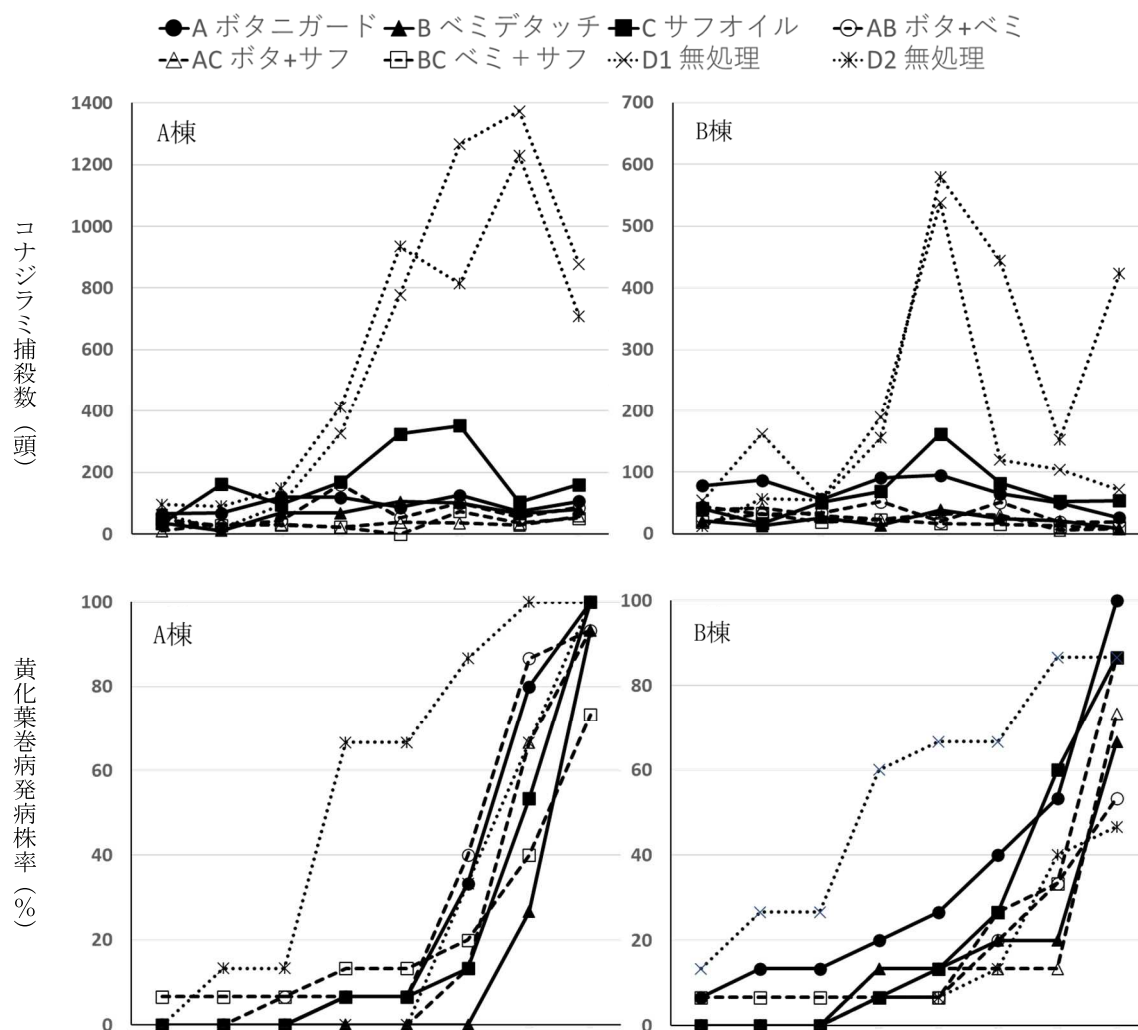


図2 結果概要
 上段：黄色粘着版によるコナジラミ捕殺数 1枚/1区
 下段：黄化葉巻病発病株率 15株/区

(3) イネカメムシの防除体系および発生予察手法の検証

ア 目的

1970 年代には本県の斑点米カメムシの主要種であったイネカメムシ（小島・内田 1974）は、1980 年代から発生が減少し、水田での発生は 2000 年頃まで確認されていなかった（田中 2000）。2007 年以降、局所的ではあるが県内で毎年発生が確認されており、特に山間地に近いほ場での発生が目立っている（北野・増田 2022）。本種は籾の基部を吸汁加害し、斑点米を生じさせるだけでなく、不稔を引き起こし減収させる（平江 2022）ため、その発生の予測と防除方法の検討が必要となる。そこで、本種の防除に効果的な殺虫剤を選定するため、越冬世代成虫に対する化学合成殺虫剤の効果の検定を実施した。また、作期の早い水田に多く集まる（北野・増田 2024）という本種の生態を応用した、極早生品種のポットイネを用いた予察手法の確立を試みた。

イ 防除に効果的な殺虫剤の選定

(ア) 方法

- 1) 供試虫の採集：7/15 に大津市関津で、7/19 に甲賀市信楽町黄瀬と湖南市正福寺でイネカメムシ越冬世代成虫を採集した。採集した成虫を雌雄別に分けて餌（イネの穂）と水を設置した飼育ケージに入れ、25℃、16L8D の恒温室で 3 日飼育し、生存していた個体を殺虫効果の検定に供試した。
- 2) 殺虫剤の効果の検定：殺虫効果の検定は虫体浸漬法で実施した。薬剤は水稻のカメムシ類に登録のある 5 剤（表）とし、常用濃度（100 ppm）に希釈した。対照薬液は水道水とした。薬剤あたりの供試数は大津市個体群で雌雄 20 個体ずつ、甲賀市個体群ではオス 18 個体とメス 20 個体、湖南市個体群ではオス 20 個体とメス 17 個体であった。薬液処理後、餌と水を設置した飼育ケージに雌雄別に入れ、処理 24、72 時間後に結果を観察した。苦悶虫は死虫数に含めた。その結果から、Abbott (1925) の補正死虫率を推定した。

表 殺虫効果の検定の供試薬剤

IRACコード	成分系統	薬剤名	希釈倍率
2B	フェニルピラゾール系	エチプロール10.0%水和剤	1,000
3A	ピレスロイド系	エトフェンプロックス20.0%乳剤	2,000
4A	ネオニコチノイド系	ジノテフラン10.0%液剤	1,000
4C	スルホキシイミン系	スルホキサフロル20.0%水和剤	2,000
4F	ピリジリデン系	フルピリミン10.0%水和剤	1,000
—	—	水（対照）	—

(イ) 結果の概要

対照薬液（水道水）の死虫率は 0～15%であった。エチプロール、エトフェンプロックス、ジノテフランおよびスルホキサフロルは処理 24 時間後から 90%以上の個体が死亡しており、効果は即効的であった。これら 4 種類の薬剤では処理 72 時間後の補正死虫率が 90%以上、誤差範囲を含んでも 80%以上あり、どの個体群にも高い殺虫効果を示した（図 1 a～d）。

フルピリミンは他の剤と比較して殺虫効果が低かった（図 1 e）。処理 24 時間後には苦悶虫が多かったが、時間の経過とともに復活したことで補正死虫率は低くなり、甲賀市と湖南市個体群では処理 72 時間後の補正死虫率が 70%に満たなかった。

以上の結果から、効果を検定した殺虫剤のうち、エチプロール、エトフェンプロックス、ジノテフランおよびスルホキサフロルは殺虫効果が即効的で高く、出穂期防除による不稔被害の抑制に効果的と考えられた。

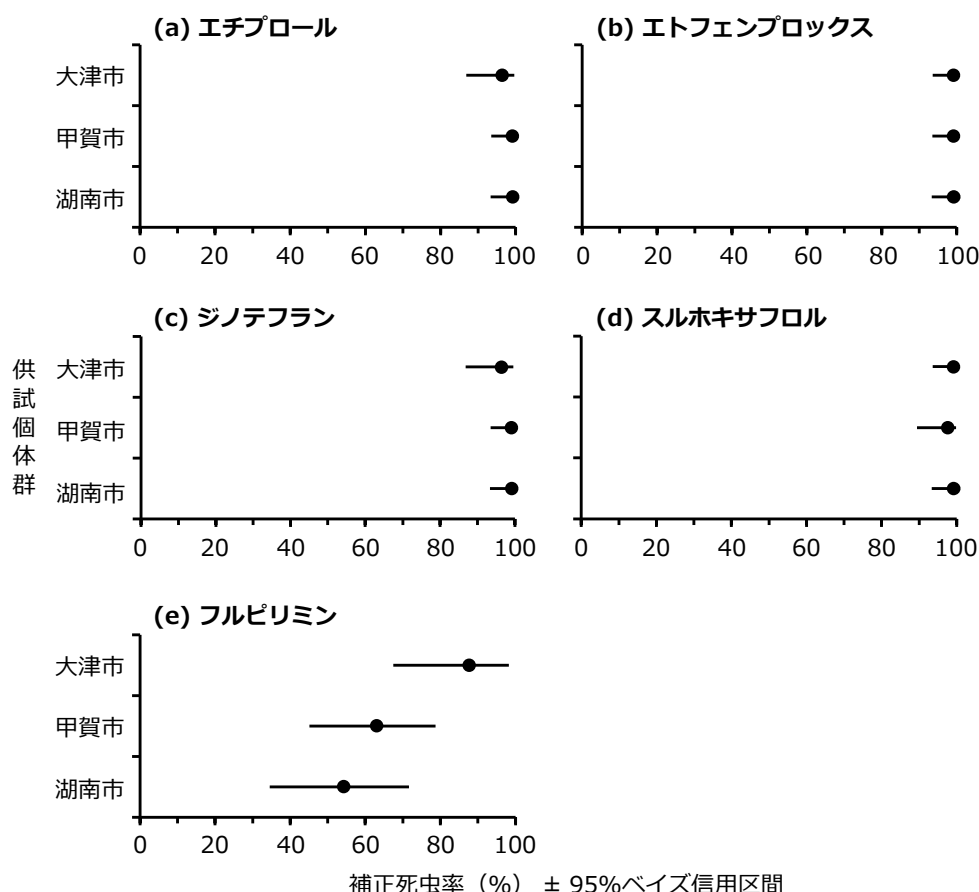


図1 イネカメムシ越冬世代成虫に対する各種薬剤の処理72時間後の殺虫効果（補正死虫率）
北野 (2024) のモデルに性別を固定効果として組み込み、パラメータの推定に sum-to-zero (STZ) 制約 (Ntzoufras, 2009) を適用して補正死虫率 (Abbott, 1925) とその誤差範囲 (Takakura, 2012) をベイズ推定した。

ウ 極早生品種のポットイネを用いた予察手法の有効性

(ア) 方法

- 1) 調査地：調査地は大津市関津、甲賀市信楽町黄瀬および湖南市岩根の‘みずかがみ’ほ場それぞれ2筆とした。各ほ場の出穂期＋7日まで、週1～2回の頻度で調査した。
- 2) ポットイネを用いた予察手法：4/23に極早生品種‘ハナエチゼン’を移植したワグネルポット (1/5000 a) を、7/3に現地ほ場の畦畔際から3 m内側に3基／筆設置した。ポットは水を入れたバケツ内に置いた。また、ジノテフラン 1.0%粒剤を施用し、穂の下部に受け（粘着スプレーをかけたプラスチックシート）を取り付けた（図2）。穂についていた、もしくは受けに落ちたイネカメの発生量を記録した。



図2 ポットイネを用いたトラップ
ポットイネのみ出穂している。

- 3) トラップを用いた予察手法：ポットイネ設置ほ場に、石島ら (2020) の白色粘着板を用いたトラップを設置した。トラップは6/26に、畦畔際から5 m内側に2基／筆設置した。高

さは石島ら（2020）に合わせ、イネの草丈が低い期間は地上 40 cm、草丈が 40 cm を超えてからはイネ群落の直上とした。

- 4) すくい取りによる予察手法：2 種トラップを設置したほ場において、口径 36 cm の捕虫網を用いて、1 か所あたり 20 回振りのすくい取り調査を 4 か所／ほ場で行った。
- 5) ポットイネの加害状況：7/25 に回収したポットイネを病虫害防除所の網室内で成熟まで保管した。10 穂／ポットの下部 5 小穂を収穫し、0.5%酸性フクシン溶液で靱を染色して口針鞘（加害痕）の有無を調べた。

（イ）結果の概要

ポットイネではイネカメムシの発生はみられず、取り付けた受けにも落下していなかった（図 3）。7/19 以降は他種（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ）による吸汁が多数観察されたことから、ポットイネは餌として十分な質を有することが示唆された。粘着板トラップでも、出穂期までにイネカメムシは捕獲できなかった。出穂期以降では、大津市と甲賀市で 7/25 に 1 頭もしくは 2 頭のみが捕獲された。

すくい取り調査では、大津市と甲賀市で出穂期に、湖南市では 2 割程度が出穂した時期以降にイネカメムシを捕獲した。調査ほ場周辺にある出穂が 2 日程度早かったほ場では、より多くのイネカメムシが発生していたことを目視で観察した。

イネカメムシに特徴的な靱基部の口針鞘は、甲賀市では 7.2%、他の地点では 0.7～1.4%の靱で観察された（図 4）。加害の様子を観察できなかったが、甲賀市では本虫が多く集まり加害していた可能性がある。

以上の結果から、ほ場よりも早いタイミングで出穂するポットイネをイネカメムシが加害することが示されたが、加害の様子を観察することができなかったため、そのタイミングは不明である。加害タイミングが‘みづかがみ’出穂期よりも早ければ、極早生品種を用いた予察手法が可能となるかもしれない。加害の様子を観察や個体数の記録のため、今回の調査よりも予察用イネの面積を増やす、カメラを設置して経時的に観察するといった改善が必要だろう。

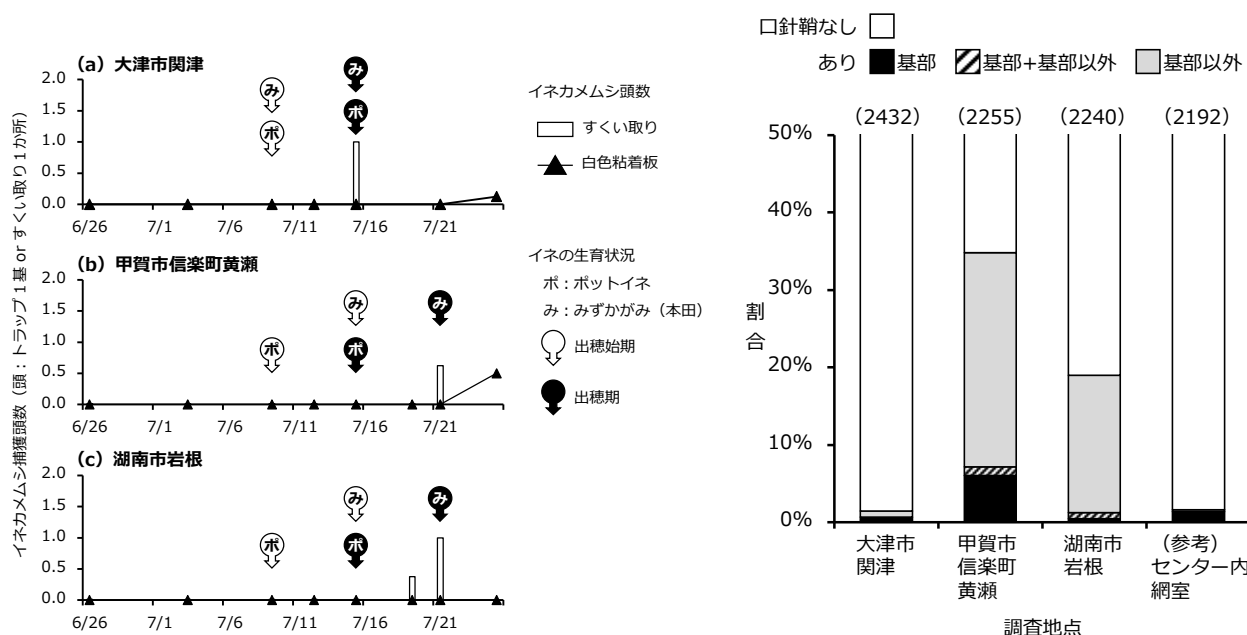


図 3 調査で捕獲したイネカメムシの頭数とほ場の水稻の生育状況

図 4 カメムシ類による口針鞘の位置と加害割合 図上の数字は調査靱数を示す。

引用文献

- Abbott W. S. (1925) A method of computing the effectiveness of an insecticide. *Journal of Economic Entomology* 18: 265-267.
- 平江雅宏 (2021) イネカメムシの加害による水稻不稔の発生について. 関東東山病害虫研究会報 68: 24-26.
- 石島 力・石崎摩美・平江雅宏 (2020) 茨城県南部の水田内におけるイネカメムシの発生消長. 関東東山病害虫研究会報 67: 39-45.
- 北野大輔 (2024) 滋賀県のネギ属野菜で発生するネギアザミウマ 2 生殖系統の地理的分布とベイズモデルによる殺虫剤の効果の推定. *日本応用動物昆虫学会誌* 68: 39-49.
- 北野大輔・増田倫士郎 (2022) 滋賀県における水稻害虫イネカメムシ (カメムシ目: カメムシ科) の局所的な発生. *環動昆* 33: 109-116.
- 北野大輔・増田倫士郎 (2024) 出穂期が異なる 3 品種のイネにおけるイネカメムシの発生パターンと不稔被害量. *環動昆* 35: 67-74.
- 小島秀治郎・内田康雄 (1974) 滋賀県西部における斑点米の発生と防除について. 滋賀県農業試験場研究報告 16: 34-41.
- Ntzoufras I. (2009) Bayesian modeling using WinBUGS. Wiley, New Jersey.
- Takakura K. I. (2012) Bayesian estimation for the effectiveness of pesticides and repellents. *Journal of Economic Entomology* 105: 1856-1862.
- 田中千晴・佐々木彩乃・西野 実 (2022) イネのしいなを発生させるイネカメムシの加害時期. 関西病虫害研究報告 64: 134-136.

(4) 野菜幼苗を用いたハイマダラノメイガトラップの検証

ア 目的

発生予察事業において、ハイマダラノメイガの発生量を調査するために近江八幡市安土町大中でクレオメを用いたトラップ調査を実施しているが、滋賀県で一般的に播種される秋冬期のアブラナ科野菜の防除に十分に活用できないと言われている。そこで、野菜幼苗での調査方法を検討しており、今年度は引き続き、誘引データを蓄積する。

イ 方法および結果

(ア) 栽培用の底面給水装置

調査用の栽培装置は、3.6 リットルタッパー底部にラプシート®を敷き詰め、底部にあけた 5 個の穴から給水用のラプシートを垂らした。下部に蓋に 5 個の穴をあけた 3.6 リットルタッパーに給水用ラプシートを入れ、下のタッパーには水を満たした。上部タッパーには土（野菜育苗培土：水稻育苗培土＝1:1）を厚さ約 3cm 程度充填した。そこに、ハクサイもしくはダイコン種子を 120 粒/装置は種し、出芽後ほ場へ設置した。

(イ) 誘引状況

1 回目：栽培装置 2 台を準備し、6 月 26 日に 120 粒ずつハクサイ（品種：無双）を播種し、出芽後、予察畑横に設置した。7 月 19 日（播種 23 日後）にハイマダラノメイガの発生株率を調査したところ、発生が見られなかった。（0/90 株、0/107 株）

2 回目：栽培装置 2 台を準備し、7 月 9 日に 120 粒ずつダイコン（品種：耐病総太り）を播種し、出芽後、予察畑横に設置した。7 月 31 日（播種 22 日後）にハイマダラノメイガの発生株率を調査したところ、発生は見られなかった。（0/51 株、0/57 株）この後、引き続き栽培を続けて、8 月 7 日（播種 29 日後）に再度発生株率を調査したところ 13/83 株、21/76 株でハイマダラノメイガの被害が確認できた。

3 回目：栽培装置 2 台を準備し、7 月 17 日に 81 粒ずつダイコンを播種し、出芽後、予察畑横に設置した。8 月 16 日（播種 30 日後）にハイマダラノメイガの発生株率を調査したところ、55/55 株、58/59 株でハイマダラノメイガの被害が確認された。

同じほ場で行っているクレオメでの調査では、8 月第 2 半旬から発生を確認できた。ダイコンを用いた 2 回目の調査でも 8 月 7 日に初発生を確認しており、初発生の確認時期はほぼ同程度であると思われた。今年度は、8 月第 3 半旬でハイマダラノメイガが急増したため注意報を発表した。ダイコンを用いた 3 回目の調査でも 8 月 16 日にはほぼ 100%に近い被害株率となっており、発生量も評価できる可能性が高いと考えられた。

これらのことから、ダイコンを用いた調査方法はクレオメを用いた調査方法と同じように利用できる可能性があり、ハイマダラノメイガの

発生株率調査は播種 30 日前後が良いと考えられた。また、調査が播種後 30 日になると、植物体がかなり大きく成長するため、播種量は 1 装置当たり 50 粒程度とする方が良いと思われた。

表 予察畑でのクレオメでの発生状況

		(頭)			
月	半旬	R6		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
7	1	0	0	0	0
	2	0	0	0	0
	3	0	0	0	0
	4	0	0	0	0
	5	0	0	0	0
	6	0	0	0	0
8	1	0	0	0.0	0.0
	2	2.0	2.0	0.1	0.1
	3	2.0	4.0	0.0	0.1
	4	3.0	7.0	0.1	0.1
	5	1.0	8.0	0.1	0.3
	6	8.0	16.0	0.3	0.6
9	1	8.0	24.0	0.3	0.9
	2	10.0	34.0	0.3	1.2
	3	4.0	38.0	0.2	1.4
	4	1.0	39.0	0.2	1.7
	5	2.0	41.0	0.0	1.7
	6	1.0	42.0	0.0	1.7

2 気候変動に伴う病害虫の防除技術の開発

(1) 「びわほなみ」赤かび病の DON 濃度軽減対策の検証

1) 防除薬剤および回数、防除体系の検証

令和3年産コムギ「びわほなみ」で赤かび病が多発生し、本病に起因するかび毒、デオキシニバレノール（以下 DON とする）が高い濃度で検出された。赤かび病に適した気象になると、「びわほなみ」は他品種よりもかび毒によるリスクが著しく増大するため、「びわほなみ」のかび毒濃度低減に向けた防除体系の検証を行う。

ア かび毒濃度低減に有効な防除体系の検討

(ア) 方法

a) 耕種概要および散布体系

供試ほ場：145 号ほ場（野菜ほ場）の一部

供試品種：「びわほなみ」、栽培管理は県栽培指針に準じるが実肥は施用せず。

散布薬剤：メトコナゾール水和剤 2000 倍、150 L/10 a 散布、散布時期と回数：表 1 のとおり
（ホリアルキレングリコールアルキルエーテル展着剤 10,000 倍を加用）

出穂期：4 月 10 日、開花始め：4 月 16 日、開花期：4 月 19 日、成熟期：5 月 26 日

表 1. 各処理区における薬剤散布時期および散布回数

試験区名	散布回数	散布時期				
		出穂期(4/10)	出穂期+7(4/17)	出穂期+14日(4/25)	出穂期+21日(5/2)	出穂期+28日
3回防除①区	3	○	○	○		
3回防除②区	3		○	○	○	
3回防除③区	3			○	○	○
2回防除①区	2	○	○			
2回防除②区	2		○	○		
2回防除③区	2			○	○	
無処理	0	-	-	-		
出穂開花状況		(出穂20~40%)	(開花はじめ)	(開花100%)		

注) 散布間隔は原則7日とし、降雨等の状況により前後した。

注) 散布薬剤はメコナゾール水和剤150L/10a

b) 調査方法

- 発病調査：2024 年 5 月 14 日に 1 区当たり 200 穂程度を任意に抽出し、発病程度別穂数を調査し、発病穂率および発病度を算出した。発病度の算出方法と調査基準は以下の通り。

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / 4N \times 100$$

A：1 穂当たりの発病小穂が 3/4 以上の穂数、B：1/2～3/4 未満の穂数

C：1/4～1/2 未満の穂数、D：1/4 未満の穂数、N：調査穂数

- かび毒（DON）濃度調査：各試験区約 1 m²を収穫、乾燥、脱穀後、2.0mm の篩で調製し、任意に 200 g 抽出し、全粒数および赤かび粒数を調査した。調査後、全粒を粉碎し、ELISA 法（r-Biopharm 社製 RIDA スクリーン・FAST DON）によりかび毒濃度（DON）を分析した。なお、このキットの DON 検出感度は 0.2ppm から 6.0ppm である。
- 赤かび病発病促進：市販の雑穀種子（鳩用餌、トウモロコシ等が主成分）で約 2～3 週間培養したコムギ赤かび病菌を 2024 年 3 月 15 日及び 19 日に試験区全区に均一に散布した（30

kg/10 a、コムギ赤かび病菌は滋賀農技セ保存菌株)。併せて、4月19日、25日、26日、5月20日に、穂が濡れる程度に頭上散水した。

注) 2024年4月16日に降雹による被害(穂の一部の損壊～穂軸の折れ等)が一部の区で発生したことから、穂の損壊の著しい穂は可能な限り除去するとともに、調査時に1穂中、2/3以上小穂が損壊している穂は発病調査対象から除外した。

(イ) 結果の概要

- 無処理区の平均発病株率は71.8%、発病度は36.5となり、多発生条件下での試験となった(表2)。
- 発病抑制効果は、3回防除では出穂期から開花始めより防除を開始した3回防除①、②区で効果が高く、2回防除区では開花始めより防除を開始した2回防除②区で効果が高かった。防除回数にかかわらず、開花100%(開花盛期)から防除を開始すると、発病抑制効果が劣る結果となった(表2)。
- 赤かび粒およびDON濃度軽減効果は、発病抑制効果と同様の傾向がみられた(表2)。
- 発病抑制効果およびDON濃度軽減効果を考慮すると、3回防除であれば、出穂期から開花始めの間に防除を開始すると防除効果が高いが、2回防除の場合、開花始めから防除できなければ防除効果が劣る結果となった。

以上のことから、「びわほなみ」では3回防除を前提とする場合、防除を出穂期から開花始めの間から開始し、1週間から10日間隔で散布するとより高い防除効果が期待できるが、2回防除の場合、開花始めから防除を開始する必要性がより高いと考えられた。

表2. 防除時期と散布回数の違いによる発病およびDON濃度に与える影響

試験区名	散布回数	調査穂数	発病穂率 (%)	発病度	防除価 (発病度)	赤かび粒率 (%)	DON濃度 (ppm)	防除価 (DON濃度)
3回防除 ①区	3	221	12.9	3.5	90.4	0.8	0.10	95.7
3回防除 ②区	3	221	15.8	4.2	88.5	1.2	0.06	97.3
3回防除 ③区	3	220	41.1	14.6	60.0	3.4	0.56	76.3
2回防除 ①区	2	207	28.7	8.4	77.0	2.1	0.30	87.0
2回防除 ②区	2	206	25.2	6.4	82.5	1.7	0.11	95.5
2回防除 ③区	2	214	38.9	13.8	62.2	2.7	0.36	84.8
無処理	0	215	71.8	36.5	-	10.2	2.35	-

注) 防除価は無処理区における発病(発病度、DON濃度)を100とした場合の処理区の効果を示す指数

注) DON濃度はELISA法で分析した。なお、使用したキットのDON検出感度は0.2ppm～6.0ppmであり、検出値は検量線上の数値から算出した。

イ 感染時期の違いによるかび毒(DON)産生量の変動

(ア) 方法

a) 耕種概要

プランター(長75cm×幅25cm×高14cm)で栽培した「びわほなみ」を用いた(播種日:2023年11月15日)。栽培管理は県栽培指針に準じるが実肥なし。プランターごとに穂数を調整し、生育に大きな差が無いように管理し、穂ばらみ期より株元給水し、雨水が穂にかからないよう隔離して栽培した。1区あたり3プランター使用した。

b) 試験区

感染時期の違いによる差を確認するため、表 1 により赤かび病胞子懸濁液を散布した。散布は各区 1 回のみとし、コムギ赤かび病菌胞子懸濁液（ 1×10^4 個/ml）を 1 プランターあたり約 100ml、止葉から穂に噴霧した（表 1）。発病促進のため、接種直後から 24 時間ビニル袋で穂を被覆し、ビニル除去後 1 週間、1 日 2 回の間隔で立毛上から灌水した。なお、対照として、無散布・無灌水の無処理区を設けた。

表 1. 接種時期と生育ステージ

試験区名	接種日時	灌水期間	備考
未出穂	4月4日	4月5日 ～ 4月11日	出穂始め 4月8日
出穂期	4月11日	4月12日 ～ 4月18日	出穂期 4月11日
出穂7日後	4月18日	4月19日 ～ 4月25日	開花確認 4月18日
出穂14日後	4月25日	4月26日 ～ 5月2日	開花期 4月20日
出穂21日後	5月1日	5月2日 ～ 5月8日	
出穂28日後	5月9日	5月10日 ～ 5月16日	
出穂35日後	5月15日	5月16日 ～ 5月22日	
出穂42日後	5月22日	5月23日 ～ 5月29日	
無処理	-	-	成熟期 6月1日

注) 生育状況を合わせるために適宜遅れ穂等を切除した

注) 無処理区は出穂後一度も穂に灌水しなかった

c) 調査方法

- ・気温測定：栽培管理したハウス内に、データロガー（T&D 社製 TR-72U）を設置し、1 時間ごとに測定した。
- ・発病調査：発病程度別に穂数を調査し、以下により発病穂率および発病度を算出した。

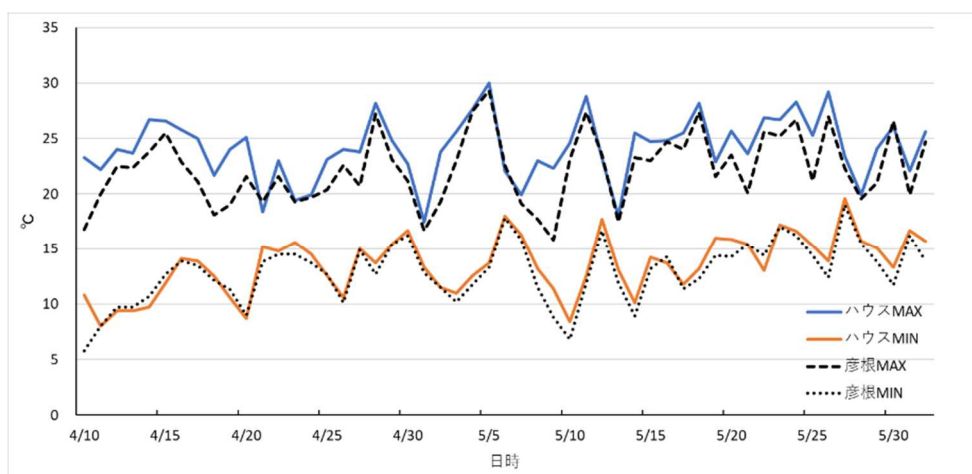
$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / 4N \text{ (調査穂数)} \times 100$$

A：1 穂当たりの発病小穂が 3/4 以上の穂数、B：1/2 ～ 3/4 未満の穂数
C：1/4 ～ 1/2 未満の穂数、D：1/4 未満の穂数
- ・DON 濃度調査：区ごとに収穫、乾燥、脱穀後、2.0mm の篩で調製し、全粒数および赤かび粒数を調査した。調査後、全粒を粉碎し、ELISA 法(r-Biopharm 社製 RIDA スクリーン FAST DON)により DON 濃度を分析した。このキットの DON 検出感度は 0.2ppm から 6.0ppm であり、キットの標準液の検出可能な範囲で分析後、検量線に基づいて値を算出した。

(イ) 結果の概要

- 試験期間中、栽培管理したハウス内気温は外気温よりも高く、彦根アメダスと比較すると、平均で最高気温は 1.9 度、最低気温は 0.6 度高く推移した（図 1）。
- 赤かび病の発病は、未出穂期区から出穂 28 日後区まで認められ、出穂 7 日後区から出穂 21 日後区で発病穂率および発病度が高い傾向となった（表 2）。
- 赤かび粒は無処理区をのぞく全ての区で確認され、出穂 7 日後区が最も高かった。DON 濃度は分析キットの検出限界である 0.2ppm 以上となったのは出穂区から出穂 28 日後区まで検出され、出穂 7 日後が最も高くなった（表 2）。
- 未出穂区から DON 産生が確認されたことから、比較的早い時期に赤かび病菌が存在すると DON 汚染リスクがあることが示唆された（表 2）。
- 「農林 61 号」と「ふくさやか」で同様の試験を実施したが（2006 年）、出穂始めでの接種で DON 産生は確認されなかったことから、「びわほなみ」は多品種よりも赤かび病に感染する期間が他品種よりも早く、かつ長期に DON 汚染リスクがあると考えられた（表 2、一部データ略）。

以上のことから、「びわほなみ」は、開花期の赤かび病菌の感染により赤かび粒率と DON 濃度が高まるとともに、他の品種と比較して、出穂直前の早い段階から赤かび病に好適な状況になると DON 汚染リスクが高いことが示唆された。



注) 図中の「彦根」は彦根アメダスのデータを用いた

図 試験期間中の気温変化

表2. 接種時期別の発病程度と赤かび粒率およびDON濃度

試験区名	調査穂数	発病穂率 (%)	発病度	調査粒数	赤かび粒率 (%)	DON濃度 (ppm)
未出穂	52	1.3	0.3	1715	0.2	0.18
出穂期	53	2.5	0.6	1685	0.6	0.44
出穂7日後	44	12.6	6.7	1372	3.2	1.41
出穂14日後	48	11.1	4.9	1454	1.4	0.49
出穂21日後	43	20.3	8.2	1473	0.8	0.42
出穂28日後	49	10.3	4.5	1622	0.7	0.26
出穂35日後	45	0.0	0.0	1458	0.1	0.07
出穂42日後	49	0.0	0.0	1605	0.2	0.17
無処理	53	0.0	0.0	1885	0.0	0.08

注) 出穂始めは4月8日、出穂期は4月11日、開花期は4月20日、成熟期は6/1

注) 調査穂数および調査粒数は1プランター当たり。

注) DON濃度はELISA法で分析した。なお、使用したキットのDON検出感度は0.2ppm～6.0ppmであり、検出値は検量線上の数値から算出した。

(2) 粒厚別のかび毒 (DON) 濃度の状況把握

ア 目的

令和3年産コムギ「びわほなみ」で赤かび病が多発生し、本病に起因するかび毒、デオキシニバレノール（以下 DON とする）が高い濃度で検出された。気候変動により赤かび病の発生に適した気候になると、「びわほなみ」は他品種よりもかび毒によるリスクが著しく増大するため、「びわほなみ」のかび毒濃度低減に向けた収穫調整の有効性について検証を行う。

イ 方法

- ・供試品種：「びわほなみ」
- ・供試サンプル：県内の複数地点から採取した「びわほなみ」を用いた。採取試料（全 23 サンプル）からサンプルごとに 200g 抽出し、2.0mm 調製・粉碎後、DON 濃度を測定し、最終的に 0.9ppm～1.7ppm の 4 サンプルを供試サンプルとした。この 4 サンプルごとに、再度未調製の状態から任意に 200 g 抽出し、2.0mm から 2.8mm まで 0.2mm 単位に 5 段階、6 区分に篩い分けし、段階ごとに総粒数、赤かび粒率、DON 濃度を調査した。
- ・調査方法：赤かび粒率調査：全粒数および赤かび粒数を調査した。その際、“脱色して白くなるか、表面にしわがある粒”（中島ら, 2004 に準拠）を赤かび粒とした。
- ・DON 濃度調査：区分ごとに全粒を粉碎後、ELISA 法 (r-Biopharm 社製 RIDA スクリーン・FAST DON) により DON 濃度を分析した。このキットの DON 検出感度は 0.2ppm から 6.0ppm であり、キットの標準液の検出可能な範囲で分析後、検量線に基づいて値を算出した。

ウ 結果の概要

- (ア) 粒厚別の赤かび粒率は、粒厚が薄くなるほど高くなる傾向となった。粒厚ごとの重量は、サンプルごとに一律ではなく DON 濃度の違いによる影響はみられなかった（表 1）。
- (イ) 粒厚別の重量と DON 濃度は、1.17ppm 区および 1.49ppm 区では 2.4mm 以上の粒厚で DON 濃度が 1.0ppm 以下となり、1.71ppm 区では、2.6mm 以上の粒厚で DON 濃度が 1.0ppm 以下となった。0.86ppm 区はすべての粒厚で 1.0ppm 以下となった（表 2）。
- (ウ) 分析値の変動を考慮し、0.8ppm 程度を目標に調製する場合、調製前と後の重量比は 0.86ppm 区で 97%、1.17ppm 区および 1.49ppm 区では概ね 80%、1.71 ppm 区では 67%程度となり、DON 濃度が高まると調製による歩留まりが低くなる傾向となった（表 2）。
- (エ) 2.0mm で調製した東近江地域サンプルの DON 濃度と赤かび粒率には強い正の相関が認められた。このことから、赤かび粒の混入程度が、DON 汚染の目安の一つとして活用可能であると考えられた（図 1）。

以上のことから、2.0mm 調製で DON 濃度が 1.7ppm 程度以下であれば、調製時に粒厚を広げることで、基準値 (1.0mg/kg) 以下に調製することが可能であると考えられた。また、赤かび粒の混入程度が高い場合は DON 汚染リスクが高くなることから、調製時の目安として活用可能であると考えられた。

表 1. 粒厚別の赤かび粒率

2.0mm調整後の DON濃度 注1)	調査項目	粒厚(mm) 注2)					
		<2.0	2.0～2.2	2.2～2.4	2.4～2.6	2.6～2.8	2.8<
0.86ppm	調査粒数	55	211	462	910	1964	1638
	赤かび粒率(%)	27.3	27.5	19.0	11.6	3.1	0.5
	重量 (g)	1.1	4.3	12.1	30.0	77.6	72.6
1.17ppm	調査粒数	86	394	559	1173	1903	1332
	赤かび粒率(%)	33.7	36.0	24.9	13.5	3.0	0.6
	重量 (g)	1.7	7.8	14.3	38.5	75.9	59.5
1.49ppm	調査粒数	150	739	898	1186	1826	922
	赤かび粒率(%)	44.7	34.8	24.1	10.2	1.4	0.2
	重量 (g)	4.6	15.4	24.1	39.5	72.5	40.6
1.71ppm	調査粒数	116	399	670	1098	1661	1381
	赤かび粒率(%)	28.4	33.1	29.9	14.6	4.5	0.9
	重量 (g)	2.4	8.1	17.3	36.7	67.8	63.7

注1)表左の数値は2.0mmで調製後に分析したDON濃度を示す

注2)粒厚の”<2.0”は2.0mm以下、”2.8<”は2.8mm以上を示す

表 2. 粒厚別の重量とDON濃度

2.0mm調整後の DON濃度 注1)	調査項目	粒厚選別時の篩目 (mm) 注2					
		全サンプル	2.0≦	2.2≦	2.4≦	2.6≦	2.8≦
0.86ppm	推定DON濃度 (mg/kg)	0.83	0.81	0.76	0.63	0.42	0.17
	重量比率 (%)	100.0	99.4	97.2	91.1	75.9	36.7
1.17ppm	推定DON濃度 (mg/kg)	1.32	1.32	1.19	0.90	0.58	0.29
	重量比率 (%)	100.0	99.1	95.2	88.0	68.5	30.1
1.49ppm	推定DON濃度 (mg/kg)	1.63	1.58	1.33	0.97	0.60	0.46
	重量比率 (%)	100.0	97.7	89.8	77.6	57.5	20.6
1.71ppm	推定DON濃度 (mg/kg)	1.69	1.65	1.56	1.23	0.85	0.49
	重量比率 (%)	100.0	98.8	94.6	85.8	67.1	32.5

注1)表左の数値は2.0mmで調製後に分析したDON濃度を示す

注2)粒厚の”2.0≦”は2.0mm以上のサンプル合計を示す、他の粒厚も同様にそれぞれの合計を示す

注3)推定DON濃度は、各粒厚ごとのDON濃度を重量で割り戻し、DONの量を算出し、各粒厚ごとに再度算出したもの
推定値であるため、あらかじめ2.0mmで調整したDON濃度（試験区名）とは一致しない

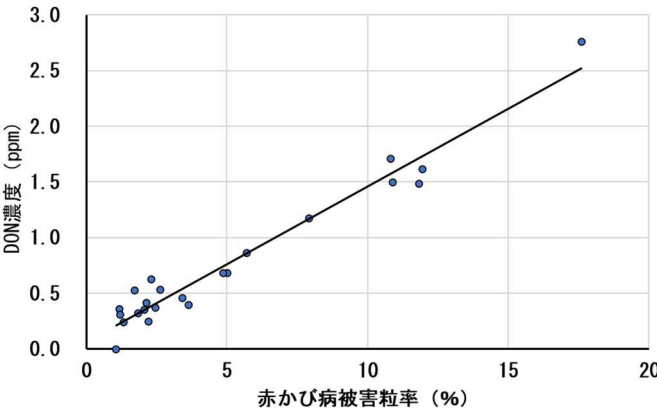


図 1 赤かび病被害粒率と DON 濃度の関係

($n=23$ 、相関係数 0.906、 p 値 < 0.001 (Spearman の順位相関係数)) 2024 年産サンプル分 (H 地域、17 ほ場分)

3 発生予察データの分析

(1) 予察調査データの解析（縞葉枯病などの発生量の検証）

ア 目的

発生予察事業において縞葉枯病や保毒虫率を調査しており、このデータを解析することで、縞葉枯病の発生生態に関係する要因を解明できる可能性がある。これらの要因が明らかになれば、より詳細な発生予察に寄与すると考えられる。

イ 方法

縞葉枯病の発生（発病株率および発病ほ場率）、再生芽の発病については、発生予察事業で設置している精密調査ほ場、県内 36 地点の 2016～2024 年（平成 28 年～令和 6 年）の 9 年間のデータを用いた。重要な伝染源となりうる、前年の再生芽の発病状況 2015～2023 年（平成 27 年～令和 5 年）を分析項目に加えた。

調査は農林水産省が通知している「病害虫発生予察事業の実施について」平成 27 年 3 月 31 日 26 消安第 6626 号最終改定に基づいて実施した。立毛中の発生の調査時期は 6 月 16 日基準、8 月 16 日基準、再生芽の発生は 10 月 1 日基準のデータを用いた。それぞれの発生などの相関を計算ソフト（エクセル）にて算出し、相関係数 0.7 以上、-0.7 以下を相関が高いと評価した。

また、越冬したヒメトビウンカの活動に大きな影響があるのではないかと考えられる 3、4、5、6 月の気温を彦根アメダスのデータを用いて平年値との差を評価項目に加えた。加えて、農業技術振興センターで栽培されているコシヒカリの幼穂形成期（7 月 1 日を基準とした差の日数）と出穂期（7 月 25 日を基準とした差の日数）のデータも評価項目に加えた。

さらに、前年との増減との関係を調査するために、縞葉枯病発生株率や発生地点率の前年との差も評価項目へ加えた。

ウ 結果および考察

【評価の結果】

6 月 16 日基準の発病株率と発生ほ場率には 0.820 と高い相関関係が見られたが、8 月 16 日基準、刈り株再生芽、前年の刈り株再生芽の発病株率、発生ほ場率などとの間では相関関係は低かった。気象要因である 5 月の平均気温との差異では発病株率で -0.504 の相関関係、発生ほ場率で -0.784 と高い相関関係が見られ、一定の関係があると推測された。また、6 月の発病株率、発生ほ場率の増加量との間には高い相関関係が見られたが、これは算出に 6 月の発病株率、発生ほ場率の数値を用いている影響があると考えられた。また、発病株率、発生ほ場率とコシヒカリの幼穂形成期の差異では 0.661 の相関関係、0.706 の高い相関関係が見られ、一定の関係があると推測された。

8 月 16 日基準の発病株率と発生ほ場率には 0.984 と高い相関関係が見られたが、このほかの項目では高い相関関係は見られなかった。

10 月 1 日基準の刈り株再生芽の発病株率と発生ほ場率では前年の再生芽の発病株率、発生ほ場率などでは高い相関関係は見られなかったが、その年の 4 月に行っている縞葉枯病の保毒虫検定の供試した虫数と保毒虫率の積との間で 0.851 の高い相関関係が見られた。

前年の 10 月 1 日基準の刈り株再生芽の発病株率と発生ほ場率では 4 月に行っている縞葉枯病の保毒虫率および保毒虫検定に供試した虫数と保毒虫率の積との間で 0.916、0.749 と高い相関関係

表. 2016～2024 年の縞葉枯病の発病状況と気温、保毒虫率などとの相関関係

	6月 発病株 率	6月 発病は 場率	8月 発病株 率	8月 発病は 場率	再生芽 発病 株率	再生芽 発病 は場率	前年 再生芽 発病株率	前年 再生芽 発病は場率
6月 発病株率	1.000							
6月 発病は場率	0.820	1.000						
8月 発病株率	-0.433	-0.173	1.000					
8月 発病は場率	-0.451	-0.202	0.984	1.000				
再生芽 発病株率	-0.244	0.332	0.489	0.435	1.000			
再生芽 発病は場率	-0.192	0.205	-0.042	-0.103	0.660	1.000		
前年 再生芽 発病株率	-0.211	0.191	0.539	0.600	0.617	0.209	1.000	
前年 再生芽 発病は場 率	-0.159	0.136	0.626	0.617	0.535	-0.065	0.648	1.000
3月気温差	0.464	0.365	-0.185	-0.269	0.107	0.173	-0.181	0.010
4月気温差	-0.080	0.263	0.465	0.432	0.566	0.675	0.437	0.274
5月気温差	-0.504	-0.784	-0.283	-0.295	-0.417	-0.114	-0.468	-0.217
6月気温差	-0.074	0.049	-0.030	0.019	0.018	-0.067	-0.026	-0.338
検定 供試虫数	-0.384	-0.329	-0.040	-0.008	0.115	0.079	-0.176	0.057
検定 保毒虫率	-0.237	0.197	0.337	0.414	0.578	0.331	0.916	0.495
検定 虫数×保毒	-0.324	0.236	0.382	0.412	0.851	0.428	0.749	0.535
6月発病株率の増加量	0.754	0.434	-0.345	-0.339	-0.392	-0.226	-0.032	-0.071
6月ほ場率の増加量	0.862	0.570	-0.398	-0.417	-0.311	-0.156	-0.121	-0.060
8月発病株率の増加量	-0.264	-0.084	0.529	0.407	0.388	0.295	0.033	0.303
8月ほ場率の増加量	-0.342	-0.127	0.618	0.523	0.430	0.325	0.162	0.361
再生芽発病株率の増加量	-0.033	0.156	-0.067	-0.199	0.424	0.361	-0.381	-0.022
再生芽ほ場率の増加量	0.022	0.004	-0.524	-0.551	-0.031	0.377	-0.353	-0.545
コシヒカリ出穂期の差異	0.153	0.000	-0.215	-0.217	-0.384	-0.592	-0.382	-0.395
コシヒカリ幼穂形成期の 差異	0.661	0.706	-0.145	-0.229	-0.081	-0.446	-0.131	-0.305

	4月気温差	5月気温差	6月気温差	検定 供試虫 数	検定 保毒虫 率
6月 発病株率					
6月 発病は場率					
8月 発病株率					
8月 発病は場率					
再生芽 発病株率					
再生芽 発病は場率					
前年 再生芽 発病株率					
前年 再生芽 発病は場 率					
3月気温差					
4月気温差	1.000				
5月気温差	-0.460	1.000			
6月気温差	-0.128	-0.410	1.000		
検定 供試虫数	-0.190	0.494	-0.220	1.000	
検定 保毒虫率	0.458	-0.488	0.223	-0.201	1.000
検定 虫数×保毒	0.402	-0.372	0.133	0.339	0.763
6月発病株率の増加量	-0.300	-0.127	-0.314	-0.440	-0.207
6月ほ場率の増加量	-0.292	-0.193	-0.273	-0.388	-0.304
8月発病株率の増加量	0.643	-0.057	-0.192	-0.156	-0.029
8月ほ場率の増加量	0.736	-0.080	-0.218	-0.083	0.091
再生芽発病株率の増加量	0.143	0.018	0.045	0.348	-0.396
再生芽ほ場率の増加量	0.164	0.093	0.185	0.017	-0.216
コシヒカリ出穂期の差異	-0.669	0.232	0.317	-0.226	-0.266
コシヒカリ幼穂形成期の 差異	-0.163	-0.152	0.011	-0.632	-0.030

※重複する場合空欄とした。

が見られた。また、この前年の刈り株再生芽の発病株率と4月の平均気温との差異との積と前年の刈り株再生芽の発病株率との間で0.898、前年の刈り株再生芽の発病株率と4月の平均気温との差異との積と保毒虫率との間に0.883と高い相関関係が見られたが、これは算出に同じ前年の刈り株再生芽の発病株率の数値を用いている影響と考えられた。

4月の平均気温との差異では8月16日基準の発病株率、発生ほ場率の増加量との間で0.643の相関関係、0.736の高い相関関係が見られ、一定の関係があると推測された。

【考察】

縞葉枯病については、関東などの他県では越冬したヒメトビウンカが麦などで増殖し、第1世代が6月に本田へ侵入し、水稻に媒介し、6月下旬に発病し、再びヒメトビウンカが本田内で媒介するため、6月にヒメトビウンカの防除を行うと8月の発病を抑制できるとされており、6月の発病が8月の発病に関係しているとされている。しかし、今回の結果では6月の縞葉枯病の発生、8月の発生、刈り株再生芽での発生との間には高い相関関係は認められず、縞葉枯病の発生生態が他県とは異なっている可能性が考えられた。

6月の発生ほ場率については5月の平均気温との差異やコシヒカリ幼穂形成期の早晚との間に相関関係が見られたことから、ヒメトビウンカの活動や植物体の感受性などが関係している可能性が考えられた。

重要な伝染源と考えられる前年の刈り株再生芽の発病状況は、その次の年の保毒虫率との間に0.916と高い相関関係が認められ、改めて伝染源として重要であることが確認できたが、保毒虫率とその年の6月の発病、8月の発病とはあまり相関関係が高くなかったことから、気温やその他の要因が強く関係しているものと推測された。

特に、8月の発生ほ場率の増加量と4月の平均気温との差異に高い相関関係が見られたことや6月の発生ほ場率と5月の平均気温との差異に高い相関関係が見られたことなどから、引き続き調査を継続する必要があると思われた。

さらに、刈り株再生芽の発病株率が保毒虫検定に供試した虫数と保毒虫率との積との間で強い相関関係が見られたことから縞葉枯病の発生予測に利用できる可能性があると考えられた。

(2) 縞葉枯病の発生量の予測

ア 目的

発生予察事業から得られたデータを活用し、イネ縞葉枯病の発生予測モデルを検討し、発生予察に活用する。先の解析で縞葉枯病の発生が例年から大きく乖離した年次を除き再度解析を行うこととした。

イ 方法

先の発生予察データ解析で、過去の縞葉枯病の発生やヒメトビウンカの発生量、気象条件などを検討した結果、8月の立毛中の発病程度が平成30年度のみ、特異的に高い値であった。このことから、文献調査を実施したところ、前年の平成29年(2017年)に中国大陆より日本へ多数のヒメトビウンカの飛来があり、平成30年に滋賀県でも縞葉枯病が多発したと推測されたことから、平成30年を除く平成28～29年、平成31～令和6年の各種データを用いて各要素間での相関関係を再度調査した。

先の解析データに加えて、冬季の降水量や気温のデータ(東近江アメダスデータ)、予察灯誘殺数(近江八幡市安土町大中)データなどを加えて網羅的に検討した。なお、6月立毛中の発生量などのデータは発生が多くなった令和3～6年の4か年、8月立毛中の発生量などのデータは発生が多くなった平成28～29年、平成31～令和6年の8か年を分析に用いた。その他データは平成25～29年、平成31～令和6年の11か年のデータを用いた。

また、3月末に実施している縞葉枯病ウイルスの保毒虫検定では、越冬後ヒメトビウンカのすくい取りを行い、ほぼ全数を簡易エライザにより評価した。この検定に用いた供試虫数(頭)と検定で得られた保毒虫率(保毒虫率は%)の積を「感染リスクの高さ」(供試虫数×保毒虫率)として評価に加えた。

それぞれの発生などの相関係数を計算ソフト(エクセル)にて算出し、相関係数0.7以上、-0.7以下を相関が高いと評価した。

ウ 結果

【結果の概要】

平成30年のデータを除き、縞葉枯病と各種データの関係を解析すると、6月と8月の立毛中の発病株率には負の相関関係が認められた。また、8月の立毛中の発病株率は前年の刈り株再生芽の発病や感染リスクの高さとの間に高い相関関係が認められた。

【結果 6月立毛中の発病株率】

平成30年のデータを含めた場合は、6月立毛中の発病株率と8月立毛中の発病株率、刈り株再生芽の発病株率、前年の刈り株再生芽の発病株率との間では相関係数が-0.433、-0.244、-0.211で相関関係が低かったが、除いた場合は、相関係数は8月立毛中の発病株率-0.940、刈り株再生芽の発病株率-0.845で高い負の相関関係が見られ、前年の刈り株再生芽の発病株率-0.543と負の相関関係が見られた。感染リスクの高さでは、平成30年のデータを加えた場合、相関係数-0.324～0.236と相関関係は低かったが、除いた場合は、相関係数が-0.966～-0.892と高い負の相関関係が見られた(表1)。

表1 平成30年データを除いた縞葉枯病の発生などのデータ間の関係

	6月 発病株 率(R3 ～R6)	6月 発病ほ 場率 (R3～ R6)	8月 発病株 率	8月 発病ほ 場率	再生芽 発病株 率	再生芽 発病ほ 場率	前年 再生芽 発病株 率	前年 再生芽 発病ほ 場率	3月気 温差	4月気 温差	5月気 温差	6月気 温差	1月最 低気温 日平均	2月最 低気温 日平均	1月最 低気温	2月最 低気温
6月 発病株率(R3～R6)	1.000															
6月 発病ほ場率(R3～R6)	0.971	1.000														
8月 発病株率	-0.940	-0.872	1.000													
8月 発病ほ場率	-0.899	-0.871	0.978	1.000												
再生芽 発病株率	-0.845	-0.695	0.751	0.627	1.000											
再生芽 発病ほ場率	-0.954	-0.890	0.163	0.055	0.658	1.000										
前年 再生芽 発病株率	-0.543	-0.480	0.791	0.812	0.614	0.196	1.000									
前年 再生芽 発病ほ場率	-0.694	-0.566	0.799	0.741	0.543	-0.057	0.653	1.000								
3月気温差	0.571	0.720	-0.378	-0.449	-0.022	-0.175			1.000							
4月気温差	-0.761	-0.871	0.403	0.355	0.620	0.790				1.000						
5月気温差	-0.533	-0.408	-0.315	-0.315	-0.429	-0.136					1.000					
6月気温差	-0.423	-0.589	0.016	0.071	0.011	-0.085						1.000				
1月最低気温日平均	-0.110	-0.160	-0.165	-0.051	-0.469	-0.542							1.000			
2月最低気温日平均	0.071	0.043	0.171	0.314	-0.133	-0.254								1.000		
1月最低気温	-0.115	-0.345	-0.142	0.025	-0.613	-0.420									1.000	
2月最低気温	0.356	0.228	-0.005	0.130	-0.505	-0.650										1.000
1月平均気温	0.148	0.126	-0.252	-0.143	-0.451	-0.450										
2月平均気温	0.426	0.393	-0.100	0.040	-0.272	-0.309										
3月平均気温	0.510	0.665	-0.242	-0.319	0.173	0.000										
2月降水量	0.282	0.310	-0.303	-0.283	-0.315	-0.069										
3月降水量	-0.135	-0.274	0.328	0.432	0.074	0.035										
検定 供試虫数	-0.633	-0.618	0.282	0.277	0.082	-0.009	-0.219	0.077	-0.262	-0.107	0.502	-0.260	-0.365	-0.471	0.105	-0.421
検定 保毒虫率	-0.658	-0.662	0.725	0.758	0.574	0.283	0.934	0.528	-0.425	0.574	-0.531	0.214	0.153	0.625	0.026	0.296
検定 虫数×保毒	-0.966	-0.892	0.938	0.887	0.905	0.455	0.777	0.640	-0.282	0.591	-0.437	0.118	-0.281	0.104	-0.278	-0.238
コシヒカリ出穂期の差異	0.536	0.667	-0.224	-0.218	-0.278	-0.621			0.735	-0.818	-0.009	0.530	0.597	-0.055	0.034	0.061
コシヒカリ幼穂形成期の差異	0.655	0.816	-0.174	-0.269	0.181	-0.063			0.783	-0.145	-0.500	0.049	-0.026	0.043	-0.687	-0.044
予察灯安土4～7月誘殺数	-0.786	-0.747	-0.243	-0.247	0.060	0.596			-0.058	0.206	0.366	-0.085	-0.258	-0.198	-0.038	-0.672
予察灯安土4～6月誘殺数	-0.790	-0.903	0.043	0.007	0.096	0.555			-0.730	0.493	0.511	-0.365	-0.349	-0.386	0.202	-0.228
予察灯安土8～9月誘殺数	0.733	0.784	-0.469	-0.415	-0.260	0.160			0.199	0.013	0.047	-0.308	-0.109	0.372	-0.179	-0.126
予察灯安土7～8月誘殺数	0.928	0.962	-0.450	-0.390	-0.290	0.048			0.279	-0.093	0.042	-0.238	-0.200	0.224	-0.137	-0.227
前年の8～9月の予察灯	-0.484	-0.663	0.047	0.114	-0.389	-0.291	-0.318	0.044								
越冬後すくい取り成虫	-0.625	-0.585	0.231	0.244	0.192	0.128	-0.151	-0.226	0.037	-0.078			-0.266	-0.300	0.040	-0.615
越冬後すくい取り幼虫	-0.867	-0.900	0.134	0.093	-0.111	-0.123	-0.130	0.484	-0.544	-0.017			-0.269	-0.376	0.064	0.157
越冬後すくい取り虫数	-0.662	-0.629	0.277	0.270	0.126	0.061	-0.201	0.018	-0.221	-0.080			-0.372	-0.454	0.067	-0.496
越冬後すくい取り成虫率	0.048	0.176	-0.110	-0.081	0.131	0.127	-0.026	-0.562	0.593	-0.111			0.193	0.156	-0.071	-0.404

	1月平 均気温	2月平 均気温	3月平 均気温	2月降 水量	3月降 水量	検定 供試虫 数	検定 保毒虫 率	検定 虫数× 保毒	予察灯 安土4 ～7月 誘殺数	予察灯 安土4 ～6月 誘殺数	予察灯 安土8 ～9月 誘殺数	予察灯 安土7 ～8月 誘殺数	前年の 8～9月 の予察 灯	越冬後 すくい 取り成 虫	越冬後 すくい 取り幼 虫	越冬後 すくい 取り虫 数	越冬後 すくい 取り成 虫率
1月平均気温	1.000																
2月平均気温		1.000															
3月平均気温			1.000														
2月降水量				1.000													
3月降水量					1.000												
検定 供試虫数	-0.547	-0.552	-0.295	-0.628	-0.505	1.000											
検定 保毒虫率	0.198	0.383	-0.256	0.180	0.789	-0.336	1.000										
検定 虫数×保毒	-0.316	-0.117	-0.085	-0.357	0.314	0.185	0.759	1.000									
予察灯安土4～7月誘殺数	-0.225	-0.139	-0.014	-0.211	-0.346	0.398	-0.228	-0.039	1.000								
予察灯安土4～6月誘殺数	-0.410	-0.584	-0.720	0.101	0.002	0.391	-0.012	0.092	0.467	1.000							
予察灯安土8～9月誘殺数	0.054	0.546	0.193	0.217	-0.054	-0.118	-0.188	-0.356	0.586	-0.112	1.000						
予察灯安土7～8月誘殺数	-0.085	0.449	0.275	-0.086	-0.209	0.112	-0.352	-0.360	0.605	-0.184	0.942	1.000					
前年の8～9月の予察灯						0.642	-0.249	-0.153	0.056	0.578	-0.396	-0.292	1.000				
越冬後すくい取り成虫	-0.381	-0.266	0.085	-0.805	-0.470	0.833	-0.227	0.268	0.608	0.107	0.121	0.369	0.281	1.000			
越冬後すくい取り幼虫	-0.398	-0.585	-0.676	0.201	-0.181	0.470	-0.226	-0.074	-0.166	0.598	-0.343	-0.348	0.674	-0.091	1.000		
越冬後すくい取り虫数	-0.540	-0.521	-0.239	-0.652	-0.520	0.993	-0.317	0.213	0.485	0.380	-0.049	0.178	0.577	0.884	0.386	1.000	
越冬後すくい取り成虫率	0.262	0.375	0.705	-0.452	-0.112	-0.134	0.033	0.090	0.364	-0.523	0.328	0.423	-0.506	0.427	-0.928	-0.041	1.000

※重複する項目や関係性がない項目は空欄とした。

また、気象関係では6月立毛中の発病株率と4月の平均気温との差では、相関係数-0.761と高い相関が見られた。予察灯関係では6月立毛中の発病株率と4～7、4～6月の予察灯誘殺数との間では相関係数-0.786、-0.790と高い負の相関関係が見られた。さらに、6月立毛中の発病株率と8～9、7～8月の予察灯誘殺数との間では相関係数0.733、0.928と高い相関関係が見られた(表1)。

【結果 8月立毛中の発病株率】

8月立毛中の発病株率と刈り株再生芽、前年の刈り株再生芽の発病株率では、平成30年のデータを含めた場合、相関係数は0.489、0.539であったが、除いた場合は、相関係数が0.751、0.791と高い相関関係が見られた。感染リスクの高さでは、相関係数が0.382と低かったが、除いた場合は、相関係数が0.938と高い相関関係が見られた(表1)。

なお、8月立毛中の発病株率と気温などの気象関係や予察灯誘殺数などとの間では高い相関関係は見られなかった(表1)。

【結果 刈り株再生芽の発病株率】

刈り株再生芽の発病株率と前年の刈り株再生芽の発病株率では、平成30年のデータを含めた場合、相関係数は0.617で、除いた場合は0.614となり、ほぼ変化は見られなかった。一方で感染リスクの高さでは、平成30年のデータを含めた場合、相関係数は0.851で高い相関関係が見られたが、除いた場合は0.905とさらに高い相関関係が見られた(表1)。

なお、刈り株再生芽の発病株率と気温などの気象関係や予察灯誘殺数などとの間では高い相関関係は見られなかった(表1)。

【結果 前年の刈り株再生芽の発病株率】

前年の刈り株再生芽の発病株率と保毒虫率、感染リスクの高さでは、平成30年のデータを含めた場合、相関係数が0.916、0.749と高い相関関係が見られたが、除いた場合は、相関係数が0.934、0.777とさらに高い相関関係が見られた(表1)。

エ 考察

【考察の概要】

得られた解析結果から、平成30年の縞葉枯病の発生が例年の発生傾向から外れた値となった可能性を検討した。また、平成30年を除いた上で、減収に最も関係する8月の立毛中の発病株率の予測について検討し、前年の刈り株再生芽からの予測式、3月末の縞葉枯病ウイルスの保毒虫率検定の数値からの予測式を得た。

【考察 平成30年の縞葉枯病の発生】

感染リスクの高さと8月立毛中の発病株率では、平成30年を加えた場合、相関係数は0.382であったが(前述、「(1) 予察調査データの解析」より引用)、平成30年を除くと相関係数は0.938と高くなった(表1)。分散状況をグラフで確認すると、平成30年のプロットは感染リスクの高さ(保毒虫率×供試虫数)が「0」と低いにも関わらず、8月の発病株率は2.7%と高く、決定係数も $R^2=0.1459$ と低く(図1)だった。

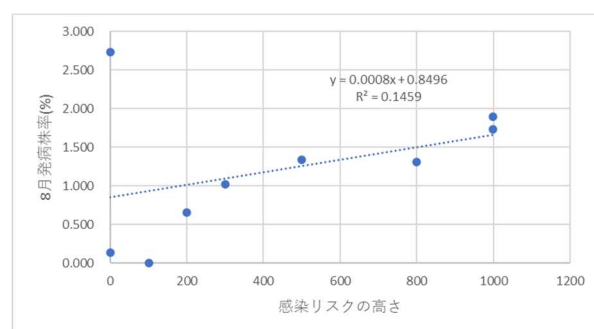


図1 平成30年を加えた場合の感染リスクの高さと8月の発病株率の関係

一方で、平成 30 年を除いた場合、相関が高く、決定係数も $R^2=0.9165$ と高かった（図 2）。

平成 30 年の保毒虫率検定の結果を確認したところ、供試虫数は 27 頭であったが、保毒虫が確認できず「0」であったため、その積である感染リスクの高さは「0」となった。前年の平成 29 年に中国から飛来があり、保毒虫が増加したとすると保毒虫率が高いはずであったが、それが評価できなかったと考えられる。しかしながら、8 月の発病株率が高くなったのは中国から飛来した個体群が農薬の抵抗性（特にネオニコチノイド系）を有し、県内でネオニコチノイド系の箱施薬剤が広く普及しているため防除が有効でなかった可能性が考えられた。

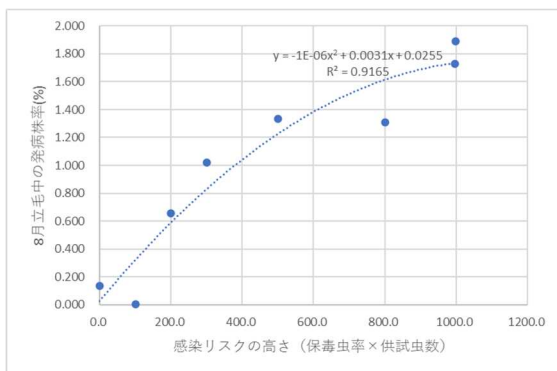


図 2 平成 30 年を除いた場合の感染リスクの高さと 8 月の発病株率の関係

【考察 6 月、8 月立毛中の発病株率の関係】

他府県の調査などでは、縞葉枯病は 6 月ごろから、本田へ侵入したヒメトビウンカが稲を吸汁することで感染し、6 月末に発病する。この発病した株を再びヒメトビウンカが吸汁することで保毒虫が増加するとともに、再び稲に感染させ、7 月末頃には再び発病し、8 月立毛中の発病につながると考えられている。

このため、6 月の発病が多い場合、8 月の発病が増加するとされていたが、今回の結果では 6 月の発病と 8 月の発病は強い負の相関関係が見られた。

そこで、8 月の発病株率と前年の再生芽の発病株率との関係（図 3）と 6 月と 8 月の発病株率を加算した値と前年の再生芽の発病株率の関係（図 4）を比べて見ると、6 月と 8 月を加算した方がより決定係数が上がっていた。

このようなことから、本県では 6 月に発病した発病株が 8 月の発病株の伝染源にほとんど寄与していないか、4 月の保毒虫による伝染が 6 月よりも遅い時期に発病している可能性も考えられた。

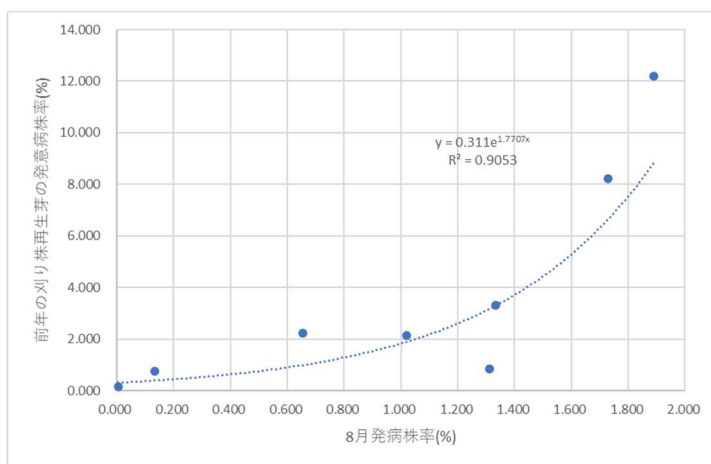


図 3 8 月の発病株率と前年の再生芽の発病株率との関係

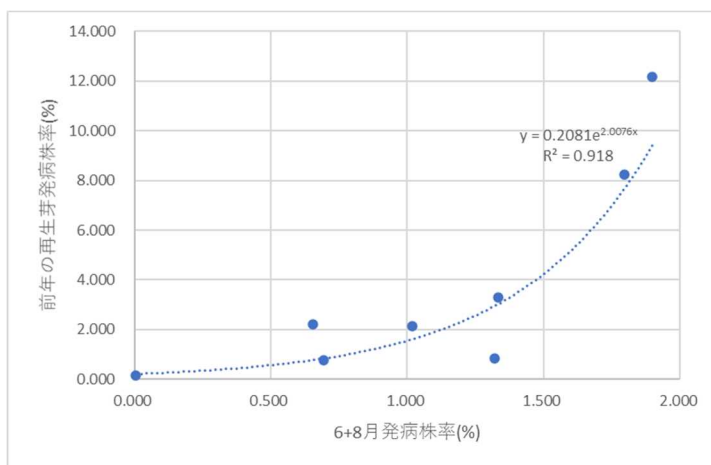


図 4 6 月と 8 月の発病株率を合わせた値と前年の再生芽の発病株率との関係

【考察 8月立毛中の発病株率と刈り株再生芽の発病株率との関係】

8月立毛中の発病株率と感染リスクの高さでは相関係数 0.938 と相関関係が高かった（表 1）。分散図でも $R^2=0.9249$ と決定係数が高いことが確認できた（図 5）。一方で、再生芽の発病株率と感染リスクの高さも相関係数 0.905 と相関関係が高かった（表 1）。分散図でも $R^2=0.828$ と決定係数が高かった（図 6）。ところが 8月立毛中の発病株率と再生芽の発病株率との相関係数は 0.751 でこれら 2 つの関係よりは相関係数は低かった（表 1）。分散図でもばらつきが見られ $R^2=0.6262$ となり、先の関係よりは低くなった（図 7）。

このことから、刈り株再生芽での発病は 8月立毛中の発病株のみが伝染源となっていない可能性があると考えられた。

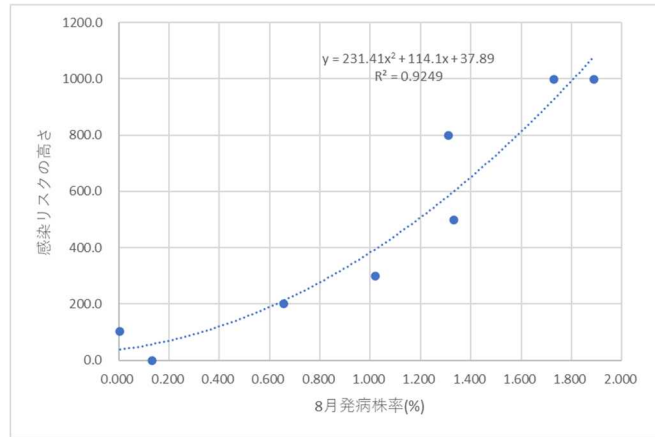


図 5 感染リスクの高さと 8月の発病株率との関係

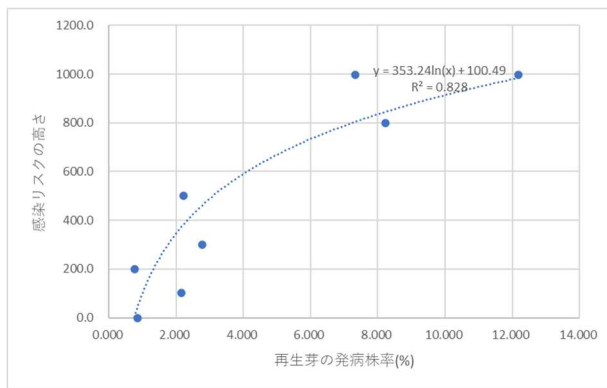


図 6 感染リスクの高さと刈り株再生芽の発病株率との関係

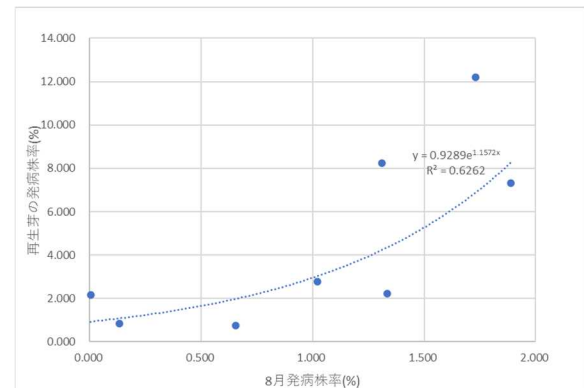


図 7 8月立毛中の発病株率と刈り株再生芽の発病株率との関係

【考察 8月立毛中の発病株率の推測】

栽培上、減収につながるのは 8月の立毛中の発病であることから、なるべく早い段階で発病を予測できると防除対策が可能となる。

8月立毛中の発病株率と相関が高かった前年の刈り株再生芽の発病株率との関係は $y=0.311e^{1.7707x}$ ($R^2=0.9053$) で示されることから（図 8）、8月立毛中の発病株率を y 、前年の刈り株再生芽の発病株率を x とすると、エクセルの関数では $y=LN(x/0.311)/1.7707$ で予測できると考えられた。この場合、前年の刈り株再生芽の発病株率は前年の 10月頃には判明するため、防除対策に考慮しやすいと考えられた。

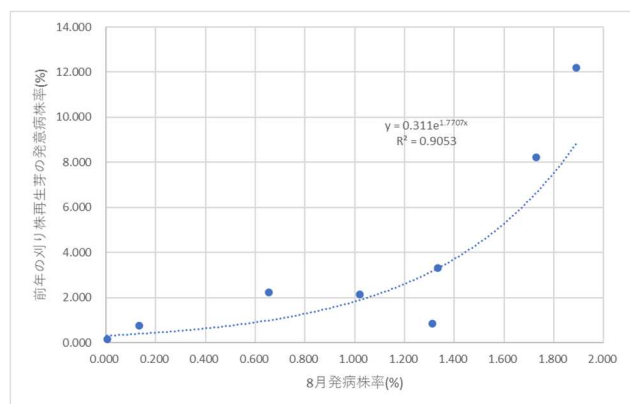


図 8 前年の刈り株再生芽の発病株率と 8月の発病株率との関係

さらに、8 月立毛中の発病株率と相関が高かったのは感染リスクの高さで $y=231.41x^2+114.1x+37.89$ ($R^2=0.9249$) で示されることから (図 5)、8 月立毛中の発病株率を y 、感染リスクの高さを x とした場合、 $y=(-114.1)+\text{SQRT}(\text{ABS}((114.1^2-4*231.41*(37.89-x))))/2/231.41$ で予測できると考えられた。

前年の刈り株再生芽の発病株率と翌年の保毒虫率の相関係数は 0.934 と高く (表 1)、感染リスクの高さでは保毒虫率に加え、供試虫数を加え算出することで、媒介虫の量も考慮することができているのではないかと考えられ、評価に適していると考えられるが、中国大陸などからの飛来があったと考えられる平成 30 年ではその増加を予測できていなかった。このことから、利用に当たっては中国大陸からの飛来の有無を考慮する必要があると考えられる。

(3) 新型害虫モニタリングシステムによる害虫誘殺数の調査

ア 目的

本県の発生予察事業では、60 w 白熱球もしくは 100 w 高圧水銀灯を光源とした乾式予察灯（MT-7-N、株式会社池田理科。以下、従来予察灯とする）を使用して害虫の発生量を調査している。近年、LED を光源とし、記録写真を撮影して AI による害虫の診断と計数を自動で行う機能を備えた害虫モニタリングシステム（M30A2SA、RYNAN TECHNOLOGIES。以下、新型予察灯とする）が開発された。そこで本試験では、新型予察灯による害虫発生量調査の基礎的な知見を得るために、新型予察灯と、近隣に設置している従来予察灯の害虫誘殺数を比較した。加えて、新型予察灯の自動計数機能の精度について調査し、新型予察灯の利用方法を検討した。

イ 方法

(ア) 新型予察灯による害虫誘殺数の調査

新型予察灯の設置場所は滋賀県農業技術振興センター内のほ場であり、同センター内に設置されている従来予察灯からおおよそ 350 m 離れた位置であった。害虫発生量の調査は 2024 年 4 月 1 日から 10 月 30 日まで実施し、18 時～翌日 6 時まで LED ライト（青色、緑色、UV）を点灯した。この間、誘引された昆虫の記録写真の撮影と AI による自動計数が適宜行われ、撮影後、撮影装置内の昆虫は排出される。記録写真を目視で確認して害虫の個体数を計数し（以下、写真計数とする）、AI による自動計数の結果と比較した。写真計数において、複数の写真に全く同じ角度・位置で写っている個体は、同一と考え 1 個体として記録した。

なお、新型予察灯には殺虫剤を設置しておらず生体の写真を撮影しているが、便宜上、記録された害虫の個体数は「誘殺数」と表記した。調査対象種は、写真での種判別と計数が可能なカメムシ類（果樹カメムシ類および斑点米カメムシ類）とした。

(イ) 従来予察灯との誘殺数の比較

新型予察灯と従来予察灯の害虫誘殺傾向の差異を評価するため、同センター内に設置している従来予察灯での害虫誘殺数の調査結果を、新型予察灯の結果と比較した。従来予察灯の光源には 60 w 白熱球を使用し、点灯時間は新型予察灯と同じ 18 時～翌日 6 時までとした。なお、サーバーへの接続不良により新型予察灯の 6 月第 6 半旬から 7 月第 2 半旬までの誘殺数が欠測となったため、同期間の誘殺数を除いたデータを比較対象とし、図 1～4 にも示さなかった。両予察灯で誘殺数が多かった種に関しては、スピアマンの順位相関係数を算出して誘殺数の多寡を比較した。

ウ 結果の概要

(ア) 果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの従来予察灯での誘殺数は計 17 頭であった。新型予察灯での誘殺数は自動計数で計 1057 頭、写真計数で計 1158 頭であり、写真計数による誘殺数が 1.1 倍と多かったが、誘殺数の多寡はほぼ一致していた（図 1 a）。写真計数で誘殺数が多くなった要因として、写真撮影用装置の壁に止まった個体を計数できなかったことや、裏返って腹面が撮影された個体を本種と判別できなかったことが挙げられた。誘殺数が少ない 6 月までは新型予察灯の両計数方法での誘殺数はほぼ一致していたが、誘殺数が増えた 7 月以降は前述した要因によって写真計数による誘殺数が自動計数を上回った（図 5 a）。

ツヤアオカメムシの従来予察灯での誘殺数は計 12 頭であった。新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 1704 頭であり、自動計数では本種をミナミアオカメムシと判別していたために誘殺

数が記録されなかった（図1b）。チャバネアオカメムシと同様に、写真撮影用装置の壁にとまった個体はミナミアオカメムシとしても計数されなかった一方で、壁にとまり計数されるが外に排出されずに複数回記録された個体もみられた。

クサギカメムシの従来予察灯での誘殺数は計5個体であった。新型予察灯での誘殺数は自動計数で計125頭、写真計数で計201頭であり、写真計数による誘殺数が1.6倍と多かったが、誘殺数の多寡はほぼ一致していた（図1c）。写真計数で誘殺数が多くなった要因として、本種は背面が撮影されないため種を判別できず、他種が多く誘殺される時期に他種と重なって背面以外が映る割合が増えると計数できない例が増加した。そのため、新型予察灯の両計数方法での誘殺数は一致、もしくは写真計数による誘殺数が自動計数を上回るかのいずれかであった（図5b）。

これら果樹カメムシ類3種については、従来予察灯での誘殺数が少なかったため、誘殺のピーク（誘殺数が最も多かった時期）などを比較することができなかった。設置場所は異なるが、

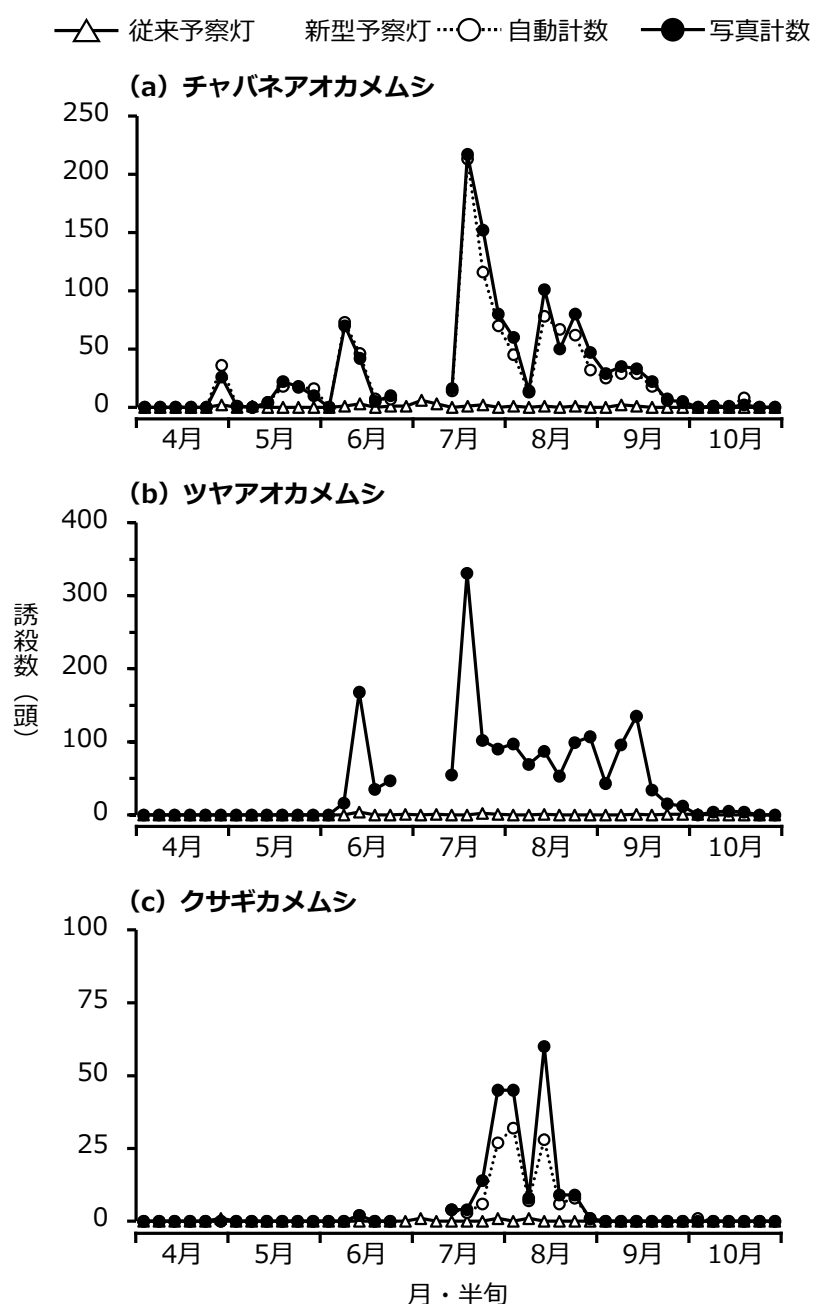


図1. 従来予察灯と新型予察灯での果樹カメムシ類3種の誘殺数

栗東市荒張に設置している従来予察灯（100 w 水銀灯を光源とする）では、チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの合計誘殺数は7月第3半旬から急激に増加し、7月第6半旬にピークとなった（データ略）。新型予察灯での誘殺ピークは7月第4半旬であり、栗東市の予察灯よりもピークがやや早かった。

（イ）斑点米カメムシ類小型種

アカスジカスミカメの従来予察灯での誘殺数は計 171 個体であった。新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 239 頭であり、自動計数では本種を判別しなかったために誘殺数が記録されなかった。両予察灯での誘殺パターンは異なっており、従来予察灯での誘殺のピークは6月第5半旬であったが、新型予察灯では7月第6半旬と遅かった（図 2 a）。また、両予察灯の誘殺数には相関関係がみられなかった（図 6 a）。

アカヒゲホソミドリカスミカメの従来予察灯での誘殺数は計 16 個体であった。新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 145 頭であり、アカスジカスミカメと同様に自動計数では本種を判別しなかった。従来予察灯での誘殺数が少ないものの、従来予察灯での誘殺のピークは6月第5半旬にみられたが、新型予察灯では7月第6半旬と遅かった（図 2 b）。

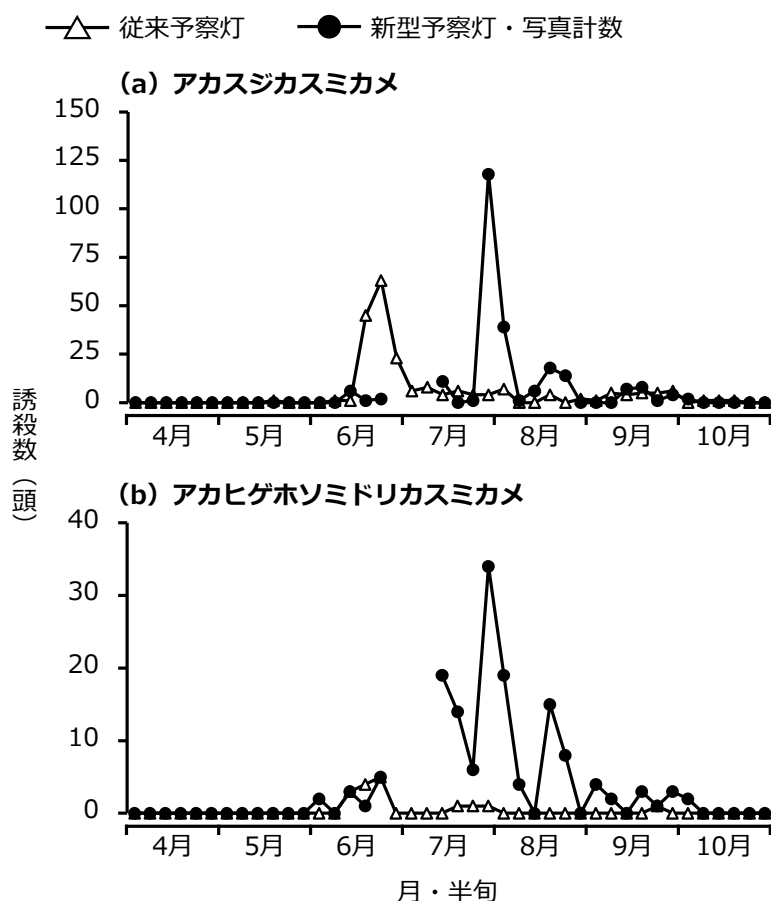


図 2. 従来予察灯と新型予察灯での斑点米カメムシ類小型 2 種の誘殺数

（ウ）斑点米カメムシ類大型種

ホソハリカメムシの従来予察灯での誘殺数は計 2 頭のみであった。新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 62 頭であり、自動計数では本種を判別しなかったために誘殺数が記録されなかった。従来予察灯では7月第4半旬と第5半旬にそれぞれ 1 頭ずつが誘殺されたが、新型予察灯

での誘殺ピークは7月第3半旬とやや早かった（図3a）。

クモヘリカメムシの従来予察灯での誘殺数は計2頭のみであった。新型予察灯での誘殺数は写真計数で計73頭であり、自動計数でも誘殺数が記録されたが、種判別が8月第6半旬から適用されたため、誘殺数は計35頭にとどまった。写真撮影用装置の壁に止まった個体を計数できない場合もあったが、8月第6半旬以降の写真計数での誘殺数は計38頭であり、誘殺数の多寡はおおむね一致していた（図3b）。

イネカメムシの従来予察灯での誘殺数は計21個体であった。新型予察灯での誘殺数は写真計数で計31頭であり、自動計数では本種を判別しなかった。両予察灯での誘殺パターンは異なっており、従来予察灯での誘殺のピークは9月第3半旬であったが、新型予察灯では8月第3半旬もしくは第5半旬と早く、9月第5半旬にも誘殺数が増加した（図3c）。また、両予察灯の誘殺数には相関関係がみられなかった（図6b）。

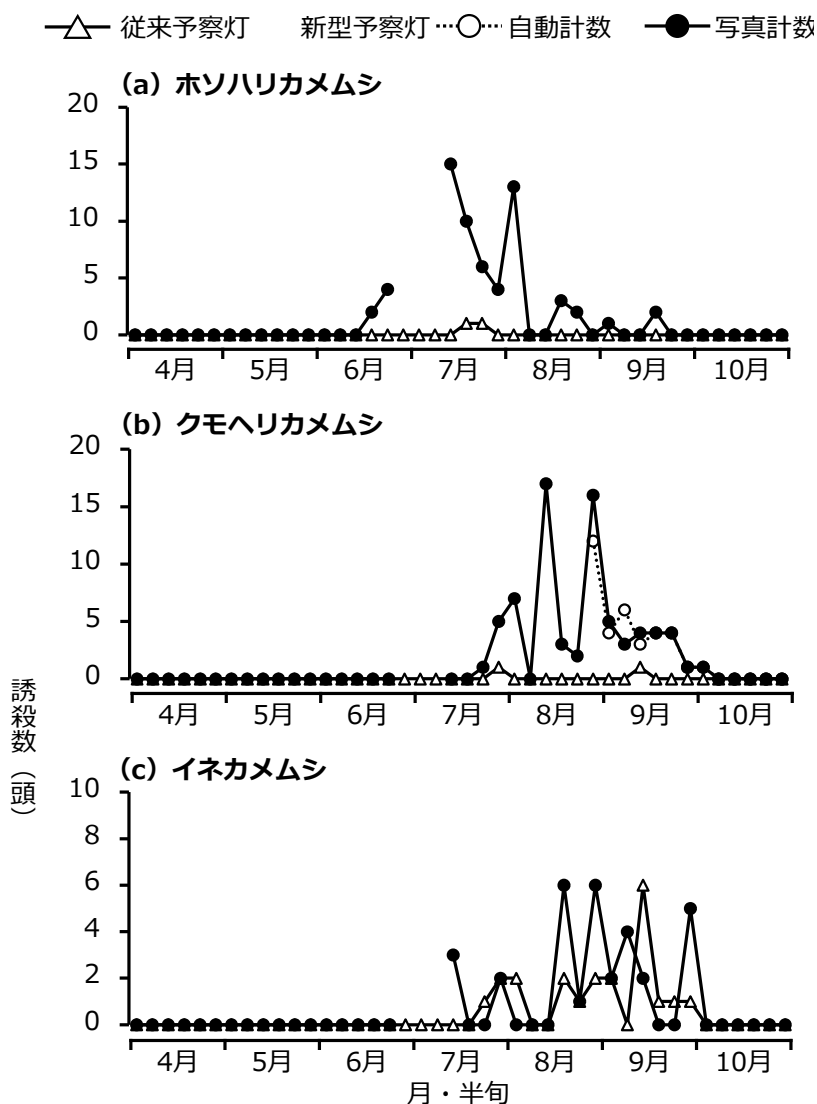


図3. 従来予察灯と新型予察灯での斑点米カメムシ類大型3種の誘殺数

(エ) ミナミアオカメムシおよびアオクサカメムシ

ミナミアオカメムシとアオクサカメムシは写真での判別が困難であり、新型予察灯の自動計数でも2種を判別していないため、2種をまとめてアオカメムシ類として誘殺数を比較した。

従来予察灯での誘殺数は計 304 頭であった。新型予察灯での誘殺数は自動計数で計 3801 頭であったが、前述したとおり、この誘殺数にはツヤアオカメムシの誤同定が含まれており、自動計数の誘殺数からツヤアオカメムシの誘殺数（写真計数）を引いた値は 2113 頭であった。写真計数では計 1611 頭であり、写真計数による誘殺数が 0.75 倍と少なかったが、誘殺数の多寡やピークはほぼ一致していた（図 4）。自動計数で誘殺数が多くなった要因として、写真撮影用装置の壁にとまり計数されるが、外に排出されずに複数回記録される個体が多種と比較して多く、同一個体が複数回計数されたことが挙げられた。その結果、全期間を通して自動計数による誘殺数が写真計数を上回ることが多かった（図 5 d）。また、両予察灯での誘殺数には有意な相関関係がみられた（図 6 c）が、新型予察灯では 8 月第 6 半月から誘殺数が増加した一方で、従来予察灯での増加は 9 月第 3 半月からと遅く、誘殺のピークも一致しなかった。

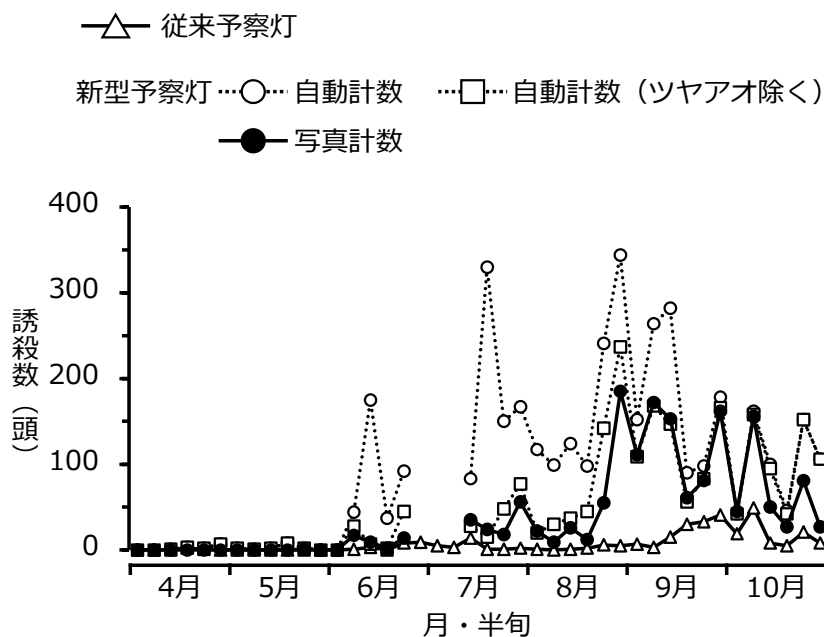


図 4. 従来予察灯と新型予察灯でのアオカメムシ類（2 種合計）の誘殺数

（オ）まとめ

調査対象とした全ての種で従来予察灯よりも新型予察灯の誘殺数が多く、新型予察灯の LED 光源はカメムシ類の調査に有効であると考えられた。ただし、アカスジカスミカメでは誘殺ピークが両予察灯で大きく異なったため、大型のカメムシ類を対象とした調査に利用することが望ましい。一方で、誘殺数の多寡や誘殺ピークは従来予察灯と新型予察灯で異なっており、両予察灯の誘殺数を比較することは適切ではないだろう。

また、新型予察灯の自動計数と写真計数のピークはほぼ一致したことから、現在自動で認識されている種については、自動計数で記録した誘殺数を発生予察に用いることが可能と考えられた。新型予察灯では自動計数、写真計数ともにウンカ類を正確に計数できないため、本機器を水稻害虫の発生量調査に用いることは困難であり、果樹カメムシ類の発生量調査に用いることが望ましい。しかし、滋賀県における果樹カメムシ類の主要な 1 種であるツヤアオカメムシを現在は自動判別できず、また、誤判定したミナミアオカメムシとツヤアオカメムシの誘殺パターンは異なっていた。今後、本種を正確に判別できるようになれば、果樹カメムシ類の発生量調査に利用でき、予察における省力化の実現につながる可能性がある。現在、メーカーによって自動計数の対象となる種の追加や種判別の精度の向上が進められている。

大型のカメムシ類では、壁にとまる個体の存在によって自動計数と写真計数による誘殺数に

差が生じることがあった。誘殺数の差は種によって異なり、アオカメムシ類では壁にとり複数回計数されることで自動計数の方が多くなり、他の種では壁の上部にとまるなどによって自動で計数されず自動計数の方が少なくなった。より正確な発生量データを得るためには、滑りやすい素材のシートを写真撮影装置の内部に設置する、虫排出時の風圧を上げるなどの改善が必要である。

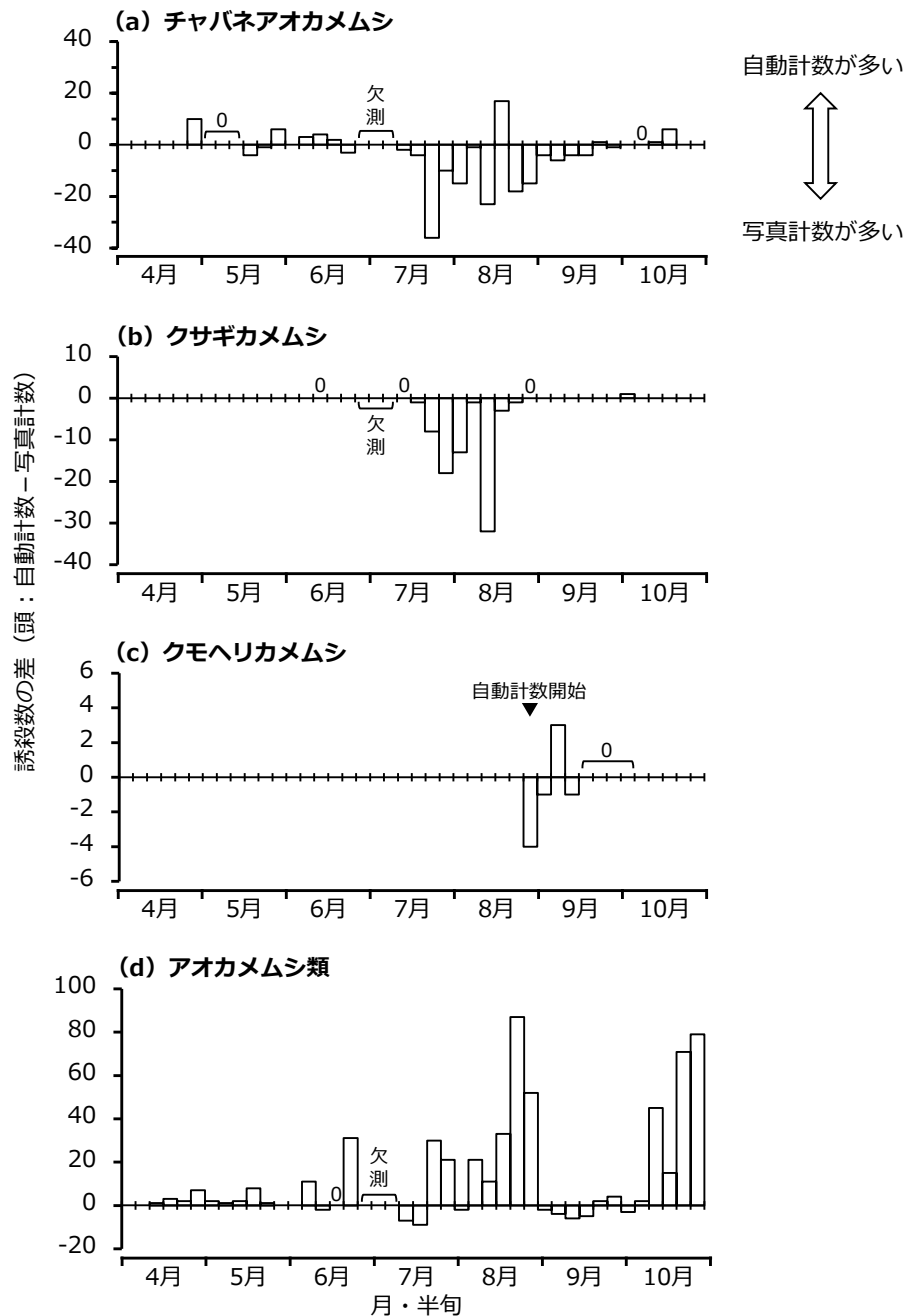


図5. 新型予察灯の自動計数と写真計数での誘殺数の差。図中の「0」は量計数法での誘殺数に差が無かったことを、空欄は誘殺が無かったことを表す。
(d) アオカメムシ類の自動計数の誘殺数は、ツヤアオカメムシの写真計数での誘殺数を除いてある。

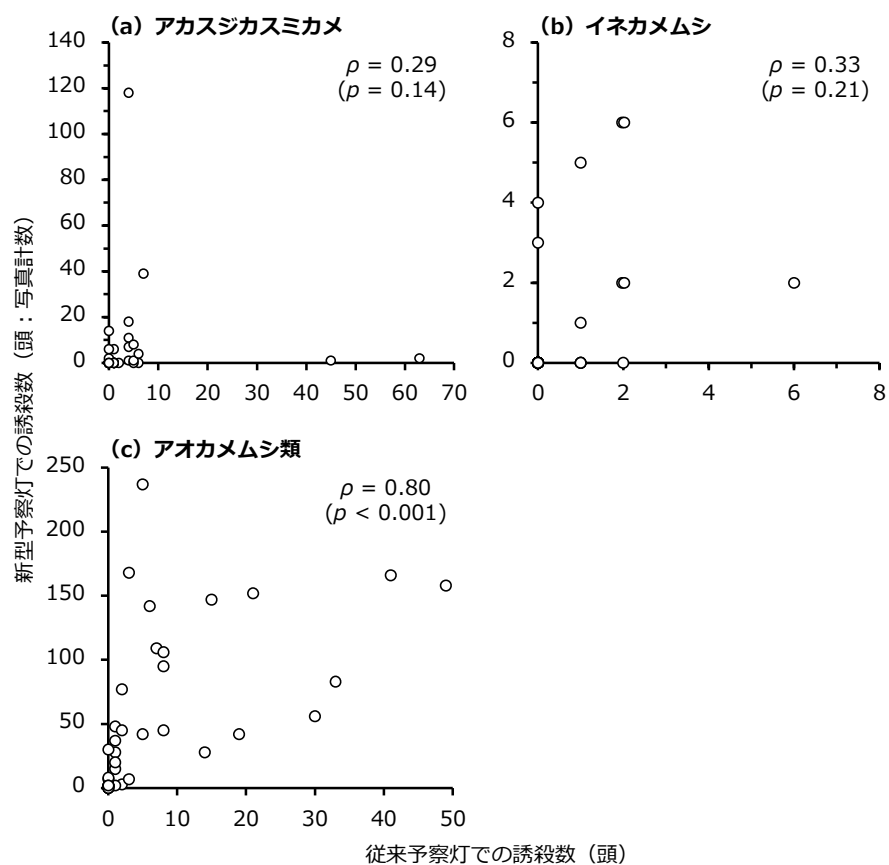


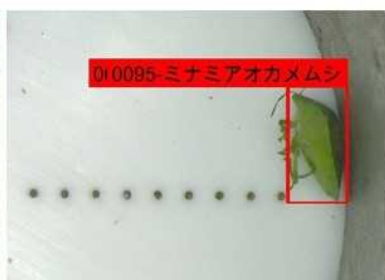
図6. 従来予察灯と新型予察灯（写真計数）での誘殺数の関係。図中の ρ および p 値は、スピアマンの順位相関係数およびその有意性の検定結果を表す。相関係数の算出においては、いずれかの予察灯で最初に誘殺された半旬から最後に誘殺された半旬までのデータを用いた。

付録：自動判別における誤判別もしくは計数にエラーが生じるパターン

①別種の誤判別および腹面の撮影や体色変異などによる誤判別



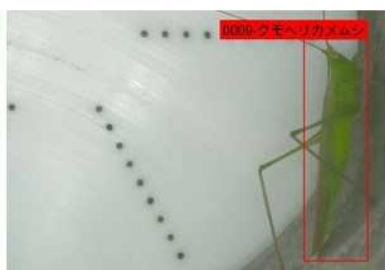
【正】イチモンジアオカメムシ



【正】主に腹部が写ったチャバネアオカメムシ

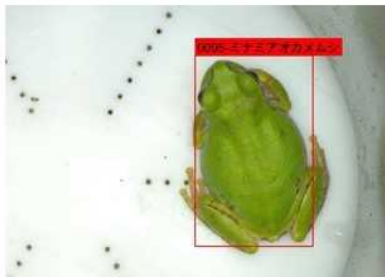


【正】暗色傾向のミナミアオカメムシ



【正】ササキリ類

②虫以外を害虫と誤同定する（アマガエルの誤同定は、調査期間後半から改善された）



【正】アマガエル



【正】水滴

③他の虫と重なり自動で判別されない



画像中央のチャバネアオカメムシ（赤字のアオドウガネの下）が、他の虫と重なっているため判別されていない。

④チョウ目昆虫がカメラに重なり撮影装置内が写らない



カメラレンズにチョウ目昆虫の翅が重なると、重なった部分が影になり正しく撮影されない。チョウ目昆虫が撮影装置外に排出されず、この状態が数十分～数時間続くこともある。

⑤同一個体を連続で計数する



右側の個体は、複数枚の写真に連続して写り、位置がほぼ動かなかったことから同一個体と判断した。写真左は 10 月 28 日の 18:30、右は翌日の 5:00 に撮影。

令和6年度植物防疫事業年報
発行 令和7年(2025年)3月
滋賀県病害虫防除所

〒521-1301 近江八幡市安土町大中516
TEL : 0748-46-4926、6160
FAX : 0748-46-5559
Email : gc70@pref.shiga.lg.jp
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>